

審査意見への対応を記載した書類（3月）

（目次） 電気自動車システム工学部 電気自動車システム工学科

【教育課程等】

- 1 本学科の教育課程では、履修する過程で電動車両システムの構成要素である 4 つの分野(電池、モーター・インバータ、車体、自動運転。以下、「構成 4 分野」という。)から 1 つを選択して学修することになるが、当該選択は「臨地実務実習Ⅲ」における実習先の決定や卒業研究のテーマ設定等と連動するため、本学科の教育課程を履修する上で重要な選択となる。その選択時期については、教育課程の履修設定に鑑みれば、専門基礎科目における構成 4 分野に係る選択必修科目の配当年次である 2 年次 3 期となるが、申請書では、その選択時期が専門発展科目における構成 4 分野に係る選択必修科目の配当年次である 3 年次 4 期であるとの誤った説明が見受けられるため適切に改めること。(改善事項)5
- 2 「電気自動車構造解析実習」の実施体制について、小グループにおける 3 つの役割分担(分解組付、記録、保管及びデータ整理)の内容をシラバスに具体的に示すことにより学生等が理解しやすいよう工夫するとともに、役割分担にかかわらず、各学生が本実習を通じて同水準の教育効果が得られる適切な実施体制を構築すること。(改善事項)8
- 3 「金属材料工学」のシラバスについて、学生に対してあらかじめ具体的な授業計画を明示し、担当教員の学生に対する指導等をより円滑なものとするはもとより、学生のより充実した事前・事後学修に資するよう、授業計画の内容をより具体的に記載すること。(改善事項)9
- 4 例えば、テストコースを用いた車両のテスト走行に伴う事故リスクや高電圧のバッテリーを取り扱う際の火災リスクなど、本学の教育研究上想定されるリスクについて、示された安全上の措置を適切に講じることはもとより、不断の点検と速やかな改善を図り、学生や教職員に十分な情報共有と周知を都度行うなどして、教育研究上で伴うリスクに対する安全性の維持・向上に資する体制を適切に整備すること。(改善事項)10
- 5 カリキュラム・ポリシーの CP3-2②に対応する展開科目として、「労使関係論」を必修科目として配置しているが、養成する人材像やディプロマ・ポリシーDP3-2②にある「製造業という業態の特性」を学修するために「労使関係論」が必修となる理由が不明確であることから、明確に説明すること。また、当該授業科目を選択科目として配置することは差し支えないものの、養成する人材像やディプロマ・ポリシーDP3-2②に照らして「製造業という業態の特性」に関する、よりふさわしい内容の授業科目を必修科目として配置すること。(是正事項)12
- 6 ディプロマ・ポリシーの DP2-2 において、「電気自動車システム全体の基礎的・俯瞰的な理解」を掲げているが、当該ポリシーに鑑みれば、例えば、電気自動車システムの基礎的な理解に資する充電規格をはじめとした充電インフラ等に係る知識等を修得することは必要不可欠と考えられ、当該知識等をどのように

- 学修するかが不明確である。このため、当該ポリシーを達成するために必要な教育内容を網羅する教育課程が適切に編成されていることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。(是正事項) ……16
- 7 ディプロマ・ポリシーの DP2-4 に基づきカリキュラム・ポリシーの CP2-4 が設定されているが、CP2-4 に対応した授業科目がいずれも選択科目であり、それらの授業科目を履修しなかった学生が DP2-4 に掲げる能力をどのように修得するのかについて、教育課程の妥当性の観点から具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。(是正事項) ……17
- 8 展開科目に配置された「プレゼンテーション基礎」と「英語プレゼンテーション基礎」について、シラバスに示された内容がほぼ同一であることから、各授業科目の配置の趣旨等を踏まえた適切な内容に改めること。(改善事項) ……20
- 9 臨地実務実習施設の選定基準について、養成する人材像やディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、実習の目的等に照らして、より客観的な評価を可能とするよう、各基準の記載を具体化すること。(改善事項) ……21
- 10 臨地実務実習Ⅱ及びⅢの実習施設として、遠隔地の企業等が多数含まれているが、学生の実習先の具体的な決定方法や、当該企業等で実習を行う学生が負担する交通費や滞在費等の経費負担の程度、経済的支援の内容等について判然としない。実習内容や経済的負担の面で希望に合わない実習先となった学生への負担が懸念されることから、学生の実習先の具体的な決定方法や学生に対する実習中の経済的な支援の有無や内容等について明らかにした上で、学生に対する過度な負担や学生間の不公平が生じないことを明確に説明すること。(改善事項) ……25
- 11 本学の教育課程の履修について、以下の点について不明確であることから、明確に説明するとともに、適切な学修相談体制の構築を含め、学生への支援体制の整備や教育課程の改善などについて適切に改めること。(是正事項)
- (1)1 年次及び 2 年次において選択科目及び選択必修科目が多数配置されており、一般的な教育課程における場合と比べて学生の学修量が多いように見受けられるものの、充実した履修指導など学修支援についての説明が不明確である。 ……29
- (2)2 年次 3 期及び 4 期で構成要素(電池システム、モーター・インバーター、車体システム、自動運転システム)にかかる基礎的な実習科目を選択必修科目として設置しているが、それぞれの実習科目によって履修する学生数の偏りが生じた際に、学生数の偏りにかかわらず学生が十分な履修指導を受けられる体制となっているかが不明確である。 ……31
- (3)研究室や卒業研究のテーマの変更を希望した学生が、それらを変更した後に十分な履修指導及び研究指導を受けられる体制となっているかが不明確である。 ……34

【教員組織】

- 12 教員組織について、完成年度には 60 歳以上となる教員が全体の 4 分の 3 以上を占める計画となっているなど、教員組織の年齢構成に著しい偏りがあることから、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図る観点から、完成年度以前から教員組織の年齢構成の適正化を図ることが望まれる。このため、教員組織編制の将来構想について、開設後からどのような取組を実行し、教員組織の年齢構成の適正化を図るのか、より具体的に説明すること。(改善事項) ……………40

【施設・設備等】

- 13 自動車テストコースについて、当該コースを走行するテスト車両の最高速度を 30km/h に制限し、これを踏まえた安全措置(タイヤバリヤ及び固定式ガードレール)を講じる計画となっているが、テスト車両が構造的に 30km/h 以上の速度が出ない仕様・性能でない限り、人為的なミスや車両故障等により、制限速度以上の速度でコースアウトする可能性も想定される。このため、テスト車両の仕様・性能等を踏まえた十分な安全上の措置を適切に講じる計画であることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。(改善事項) ……………43
- 14 本学科の教育研究分野は、昨今世界的にニーズが高まっており、係る研究や技術革新等が今後急速に進展することも想定されることから、将来にわたって絶えず社会の動向等を注視し、本学科の教育研究上必要となる図書等について、紙又は電子媒体の別によらず、適切に整備するための体制を構築すること。(改善事項) ……………46

【人材需要の社会的動向・学生確保の見通し】

- 15 中長期的な 18 歳人口の動向分析に関し、東北地方全体の 18 歳人口の減少割合が全国平均値よりも高くなっていることから、中長期的な学生確保の観点から、受験生や高等学校関係者等に対する継続的な周知や、受験生や社会のニーズに応じた教育課程の不断の見直し等に取り組むことが必要と考えられるため、それらに対する開設後の具体的な取組について明確に説明すること。(改善事項) ……………48

<審査意見対応以外の修正事項>

【教育課程等】

- 16 設置審査において、「人間工学入門」の授業内容に関して、「『人間の知覚特性に即したメーターの設計』が中心になっているが、ステアリング（ハンドル）やペダルなどの操作系に関連した授業内容も必要ではないか。」というご意見があり、適切に改める。……………52

【教員組織等】

- 17 自動運転関連の科目を担当する専任教員について、新規採用により交代することとしたため、これに伴い該当箇所の修正を行う。……………53

【管理運営】

- 18 本学の経営と教育を監査することを専門的に行う監事について、体調不良に伴い交代することとなったため、これに伴い該当箇所の修正を行う。……………57

【人材需要の社会的動向・学生確保の見通し】

- 19 高校生アンケートについて、追加調査を行ったため、その結果を設置の趣旨等を記載した書類及び学生の確保等の見通し等を記載した書類に反映する。……………58
- 20 企業アンケートについて、追加調査を行ったため、その結果を設置の趣旨等を記載した書類及び学生の確保等の見通し等を記載した書類に反映する。……………65
- 21 2022年1月に提出した「令和5年度開設予定の大学等の設置に係る学校法人の寄附行為（変更）の認可申請に関する学校法人分科会の意見に対する回答について（学生の確保の見通し）」での修正した内容を反映する。……………69

【その他】

- 22 資料の差し替え、申請書類を点検したうえでの誤字脱字・軽微な変更修正を実施した。……………73

1. 【教育課程等】

本学科の教育課程では、履修する過程で電動車両システムの構成要素である 4 つの分野(電池、モーター・インバータ、車体、自動運転。以下、「構成 4 分野」という。)から 1 つを選択して学修することになるが、当該選択は「臨地実務実習Ⅲ」における実習先の決定や卒業研究のテーマ設定等と連動するため、本学科の教育課程を履修する上で重要な選択となる。その選択時期については、教育課程の履修設定に鑑みれば、専門基礎科目における構成 4 分野に係る選択必修科目の配当年次である 2 年次 3 期となるが、申請書では、その選択時期が専門発展科目における構成 4 分野に係る選択必修科目の配当年次である 3 年次 4 期であるとの誤った説明が見受けられるため適切に改めること。

(対応)

本審査意見を受け、電気自動車システムの構成 4 分野の選択時期について改めて説明するとともに、趣旨をより正確に伝えられるよう説明を追加する。

◆「その選択時期については、教育課程の履修設定に鑑みれば、専門基礎科目における構成 4 分野に係る選択必修科目の配当年次である 2 年次 3 期となるが、申請書では、その選択時期が専門発展科目における構成 4 分野に係る選択必修科目の配当年次である 3 年次 4 期であるとの誤った説明が見受けられる」について

当初申請において、2 年次 3 期・4 期に配置した専門基礎科目の構成 4 分野に係る実習科目(以下、「実習 I 等」という。)について、以下の下線部の通り説明している。

4. 2. 3. 職業専門科目

(中略)

CP2-2

(中略)

<履修設定の考え方>

(中略)

また、3 年次以降の分野選択を見据え、構成要素にかかる基礎的な実習科目を選択必修科目として設置している。学生は、当該実習科目で履修した構成要素の技術分野について、3 年次 4 期に専門発展科目での選択必修科目群の選択及び卒業研究を行う研究室や卒業研究のテーマを決定する設定とする。そのため、この時点で選択すべき構成要素の技術分野の方向性を迷う学生、あるいは幅広い可能性を確保したい学生に対しては、複数分野の当該実習科目の履修を推奨する。

(後略)

2 年次 3 期・4 期の実習 I 等に関しては、上記 CP2-2 の<履修設定の考え方>における「そのため、この時点で選択すべき構成要素の技術分野の方向性を迷う学生、あるいは幅広い可能性を確保したい学生に対しては、複数分野の当該実習科目の履修を推奨する。」との説明の通り、**時間割を工夫し複数分野の実習科目を履修することを可能としている。**そのため、構成 4 分野の選択時期については、専門基礎科目における構成 4 分野に係る選択必修科目の配当年次である **2 年次 3 期とはならない。**

次に、同じ箇所において「学生は、当該実習科目で履修した構成要素の技術分野について、3 年次 4 期に専門発展科目での選択必修科目群の選択及び卒業研究を行う研究室や卒業研究のテーマを決定する設定とする。」と説明している。別の箇所においても、電気自動車システムの構成 4 分野の選択時期、選択の考え方については、以下の下線部の通り説明している。

4. 2. 1. 体系的教育課程(カリキュラム)の編成の考え方

(1)教育課程全体を見通した体系性

(中略)

②教育課程の編成における卒業研究までの一貫性

(中略)

その後、3年次4期には、各構成要素にかかる職業専門科目の選択必修科目群、及び総合科目の「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」を配置する。学生は、2年次3期・4期に履修した実習Ⅰ等、3年次2期・3期に配置する「臨地実務実習Ⅲ」を踏まえ、自らの専門分野、並びに卒業研究を行う研究室や卒業研究のテーマを決定する。

(後略)

4. 2. 3. 職業専門科目

(中略)

CP2-3

(中略)

<履修設定の考え方>

本CPに基づく科目については、電気自動車システムの構成要素(電池、モーター・インバータ、車体、自動運転)いずれかに深化した専門的な理解を深めるため、電気自動車システムの構成要素にかかる2科目の科目群(講義1科目、実習1科目)を設定し、選択必修科目とする。当該選択必修科目群の選択においては、CP2-2に基づいて設けられた構成要素にかかる実習Ⅰ等で履修した技術分野を選択することとする。

(後略)

すなわち、CP2-2に基づいて設けられた2年次3期・4期に履修する構成4分野にかかる実習Ⅰ等、3年次2期・3期に配置する「臨地実務実習Ⅲ」を踏まえ、3年次4期に電気自動車システムの構成4分野のうち一つを自らの専門分野として決定することとしている。

以上の通り、本学の教育課程の編成において、学生が構成4分野から自らの専門分野として一つを選択・決定する時期は、専門発展科目における構成4分野に係る選択必修科目の配当年次である**3年次4期である。**

上記の趣旨をより正確に伝えられるようにするため、カリキュラムポリシーの「(2)教育方法の方針」において、新たな④として以下の説明を追加する(既存の④以降の項目番号は、1つずつ繰り下げる)。

1. 4. 3. および4. 1. 2. カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

(2)教育方法の方針

④ 2年次3期・4期に、学生は電気自動車システムの構成要素(電池、モーター・インバータ、車体、自動運転)の技術分野にかかる実習科目を1科目以上履修する。学生は、当該実習科目で履修した構成要素の技術分野について、後述する⑤の通り3年次4期に専門発展科目での選択必修科目群の選択及び卒業研究を行う研究室や卒業研究のテーマを決定する設定とする。そのため、この時点で選択すべき構成要素の技術分野の方向性を迷う学生、あるいは幅広い可能性を確保したい学生に対しては、複数分野の当該実習科目の履修を推奨する。

(新旧対照表)

新	旧
1. 4. 3. カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)	1. 4. 3. カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

<p>(中略)</p> <p>(2)教育方法の方針</p> <p>(中略)</p> <p>④ 2年次3期・4期に、学生は電気自動車システムの構成要素(電池、モーター・インバータ、車体、自動運転)の技術分野にかかる実習科目を1科目以上履修する。学生は、当該実習科目で履修した構成要素の技術分野について、後述する⑤の通り3年次4期に専門発展科目での選択必修科目群の選択及び卒業研究を行う研究室や卒業研究のテーマを決定する設定とする。そのため、この時点で選択すべき構成要素の技術分野の方向性を迷う学生、あるいは幅広い可能性を確保したい学生に対しては、複数分野の当該実習科目の履修を推奨する。</p> <p>⑤ (略)</p> <p>⑥ (略)</p> <p>⑦ (略)</p>	<p>(中略)</p> <p>(2)教育方法の方針</p> <p>(中略)</p> <p>(追加)</p> <p>④ (略)</p> <p>⑤ (略)</p> <p>⑥ (略)</p>
<p>4. 1. 2. 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)</p> <p>(中略)</p> <p>(2)教育方法の方針</p> <p>(中略)</p> <p>④ 2年次3期・4期に、学生は電気自動車システムの構成要素(電池、モーター・インバータ、車体、自動運転)の技術分野にかかる実習科目を1科目以上履修する。学生は、当該実習科目で履修した構成要素の技術分野について、後述する⑤の通り3年次4期に専門発展科目での選択必修科目群の選択及び卒業研究を行う研究室や卒業研究のテーマを決定する設定とする。そのため、この時点で選択すべき構成要素の技術分野の方向性を迷う学生、あるいは幅広い可能性を確保したい学生に対しては、複数分野の当該実習科目の履修を推奨する。</p> <p>⑤ (略)</p> <p>⑥ (略)</p> <p>⑦ (略)</p>	<p>4. 1. 2. 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)</p> <p>(中略)</p> <p>(2)教育方法の方針</p> <p>(中略)</p> <p>(追加)</p> <p>④ (略)</p> <p>⑤ (略)</p> <p>⑥ (略)</p>

2. 【教育課程等】

「電気自動車構造解析実習」の実施体制について、小グループにおける 3 つの役割分担（分解組付、記録、保管及びデータ整理）の内容をシラバスに具体的に示すことにより学生等が理解しやすいよう工夫するとともに、役割分担にかかわらず、各学生が本実習を通じて同水準の教育効果が得られる適切な実施体制を構築すること。

(対応)

本審査意見を受け、実習内容を学生等が理解しやすいよう具体的にわかりやすくシラバスに記述し、各学生が本実習を通じて同水準の教育効果が得られる適切な実習内容・実施体制であることを明確に示す。

① 『『電気自動車構造解析実習』の実施体制について、小グループにおける 3 つの役割分担（分解組付、記録、保管及びデータ整理）の内容をシラバスに具体的に示す』に関する対応について。

「小グループにおける 3 つの役割分担（分解組付、記録、保管及びデータ整理）」という表記について、過年度の申請においては用いたが、**2021 年 10 月の今年度当初申請においては用いていない。**

小グループに別れて実施する実習内容は、「サスペンション」、「モータとインバータ」、「バッテリーユニット」の調査である。これらの実習を小グループ A、小グループ B、小グループ C が**順番に実施すること**で、学生全員が**同一の実習を実施する(同一の実習を実施するため、学習効果も同一である)**。各学生は各実習内容において、実習内容、作業内容、調査結果等を記録する。

本審査意見を受け、学生が実習内容をより理解しやすくするために、授業計画の最初に記載している全体的な授業計画の説明の中に、小グループが実習を実施する時期や内容を詳細に記述した。

② 「役割分担にかかわらず、各学生が本実習を通じて同水準の教育効果が得られる適切な実施体制を構築すること」に対する対応について

本実習においては、学生はすべての実験項目を実施電気自動車に関するさまざまな知識を得られるように工夫し実施する。実習は 3 グループに別れて、それぞれ同一の実習を行い、さらに詳細な学習が必要な要素技術については 1 グループの中をさらに 3 つの小グループに分かれて実習を行う計画になっている。

実習は 2 名の担当教員で実施するが、全学生への指導を十分に行うために、助手、技術職員が補助に加わることとしている。この指導体制で実習を実施することによって、各学生が本実習を通じて同水準の教育効果が得られる適切な体制となっている。シラバスの授業計画の全体的な説明の中にも、助手、技術職員が補助に加わることを記述した。

3. 【教育課程等】

「金属材料工学」のシラバスについて、学生に対してあらかじめ具体的な授業計画を明示し、担当教員の学生に対する指導等をより円滑なものとするはもとより、学生のより充実した事前・事後学修に資するよう、授業計画の内容をより具体的に記載すること。

(対応)

本審査意見を受け、学生に対してあらかじめ具体的な授業計画を明示されているか確認し、学生の学生のより充実した事前・事後学修が実施できるように、授業計画に記載されているキーワードを見直すとともに、学生が事前準備・事後学修として実施すべきことを示した。

① 「学生に対してあらかじめ具体的な授業計画を明示」することについて

シラバスに記述されている「科目の目的」、「授業計画」の見直しを行った。「科目の目的」と「授業計画」に示す実施内容、および授業計画に示されている各授業の授業タイトルと解説内容について確認を行った。今回申請に使用しているシラバスにおいては、「科目の目的」と「授業計画」に示す実施内容、および各授業の授業タイトルと解説内容についても齟齬は見つからず、学生に適切な授業計画が示されていた。

しかし、本審査意見を受け、学生が事前準備や事後学修を実施するためのキーワードが多く記載され、学生の負担が大きくなることの懸念があると考えられることから、キーワードの整理を行い、学生が理解しておくべき内容に絞った最低限のキーワードを記載することとした。

② 「担当教員の学生に対する指導等をより円滑なものとするはもとより、学生のより充実した事前・事後学修に資するよう、授業計画の内容をより具体的に記載すること」について

学生に授業の目的や内容を理解させるために、授業ごとに示されるキーワードの整理を行い、事前準備や事後学修においてキーワードを活用しながら理解が進むように、事前準備や事後学修の記載事項を書き改めた。

4. 【教育課程等】

例えば、テストコースを用いた車両のテスト走行に伴う事故リスクや高電圧のバッテリーを取り扱う際の火災リスクなど、本学の教育研究上想定されるリスクについて、示された安全上の措置を適切に講じることはもとより、不断の点検と速やかな改善を図り、学生や教職員に十分な情報共有と周知を都度行うなどして、教育研究上で伴うリスクに対する安全性の維持・向上に資する体制を適切に整備すること。

(対応)

本審査意見を受け、不断の点検と速やかな改善を図り、学生や教職員に十分な情報共有と周知を都度行うなどして、教育研究上で伴うリスクに対する安全性の維持・向上に資する体制を適切に整備する。

当初申請「4. 5. 教育内容に照らして想定されるリスク、リスク対応のため講じる安全上の措置」等において説明している通り、本学では、例えば、テストコースを用いた車両のテスト走行に伴う事故リスクや高電圧のバッテリーを取り扱う際の火災リスクなど、様々な本学の教育研究上想定されるリスクを想定し、そのリスク対応のため講じる安全上の措置を計画している。そして、同節の最後に示した通り、「以上を随時実践し PDCA サイクルを細かく回すことで蓄積されたノウハウを、共有・文書化して継続的改善を実施していく。」こととしている。本ご指摘は、この継続的改善を本学全体の組織的取組として、教育研究上で伴うリスクに対する安全性の維持・向上に資する組織としての知見を着実に蓄積するため、実行主体を明確に整備することを求められたものと理解している。

本学では、教育研究上で伴うリスクに対する安全性の維持・向上に資する体制として、学内委員会の一つである「教務委員会」の中に「リスク対応部会」を設けることとする。本部会は、演習科目や実験・実習科目のうち安全上のリスクの低い「設計製図実習」「プログラミング実習」「3DCAD 演習」「電気自動車システム開発演習」を除く各科目について、構成要素の4分野(電池、モーター・インバータ、車体、自動運転)から選出された担当教員一名ずつ(うち一名について、リスク対応を主担当とする教務委員会委員とする)、及び技術職員より選出された者一名で構成する。本部会では、

- 計画(P)：各科目における適切な安全上の措置の計画
- 実行(D)：安全上の措置が適切に講じられるよう各科目担当教員への実行支援
- 点検(C)：安全上の措置が十分であったか、想定通りに機能したか等の不断の点検
- 改善(A)：得られた知見の文書化、得られた知見を基にした安全上の措置の継続的改善、適宜適切な学生や教職員に対する十分な情報共有と周知

の各取組について中心的役割を担い、本学の教育研究におけるリスクマネジメントサイクルを機能させる。また、万が一、事故等が発生した場合においては本部会が中心となって対応策を講じるとともに、その検証を担い、検証結果・再発防止策案を教務委員会並びに教授会へ報告する。教務委員会並びに教授会においては、当該検証結果・再発防止策案を審議し、各施策に反映することで本学の教育研究上で伴うリスクに対する安全性の維持・向上を図る

また、本学では、FD・SD 研修において、施設・設備に対する理解ならびに安全かつ適切な取り扱い方法、学生に対する安全配慮の方法論など安全に学生を指導するために求められる知識・技能の習得、能力及び資質を向上させる学内研修を実施することとしている。本部会は FD・SD 研修を担う FD・SD 委員会と連携し、当該学内研修の充実に寄与する。

(新旧対照表)

新	旧
4. 5. 5. 教育研究上で伴うリスクに対する安全	(追加)

性の維持・向上に資する体制の整備

本学では、教育研究上で伴うリスクに対する安全性の維持・向上に資する体制として、学内委員会の一つである「教務委員会」の中に「リスク対応部会」を設けることとする。本部会は、演習科目や実験・実習科目のうち安全上のリスクの低い「設計製図実習」「プログラミング実習」「3DCAD 演習」「電気自動車システム開発演習」を除く各科目について、構成要素の4分野(電池、モーター・インバータ、車体、自動運転)から選出された担当教員一名ずつ(うち一名について、リスク対応を主担当とする教務委員会委員とする)、技術職員より選出された者一名で構成する。本部会では、

- 計画(P)：各科目における適切な安全上の措置の計画
- 実行(D)：安全上の措置が適切に講じられるよう各科目担当教員への実行支援
- 点検(C)：安全上の措置が十分であったか、想定通りに機能したか等の不断の点検
- 改善(A)：得られた知見の文書化、得られた知見を基にした安全上の措置の継続的改善、適宜適切な学生や教職員に対する十分な情報共有と周知

の各取組について中心的役割を担い、本学の教育研究におけるリスクマネジメントサイクルを機能させる。また、万が一、事故等が発生した場合には本部会が中心となって対応策を講じるとともに、その検証を担い、検証結果・再発防止策案を教務委員会並びに教授会へ報告する。教務委員会並びに教授会においては、当該検証結果・再発防止策案を審議し、各施策に反映することで本学の教育研究上で伴うリスクに対する安全性の維持・向上を図る

また、本学では、FD・SD 研修において、施設・設備に対する理解ならびに安全かつ適切な取り扱い方法、学生に対する安全配慮の方法論など安全に学生を指導するために求められる知識・技能の習得、能力及び資質を向上させる学内研修を実施することとしている。本部会は FD・SD 研修を担う FD・SD 委員会と連携し、当該学内研修の充実に寄与する。

5. 【教育課程等】

カリキュラム・ポリシーの CP3-2②に対応する展開科目として、「労使関係論」を必修科目として配置しているが、養成する人材像やディプロマ・ポリシーDP3-2②にある「製造業という業態の特性」を学修するために「労使関係論」が必修となる理由が不明確であることから、明確に説明すること。また、当該授業科目を選択科目として配置することは差し支えないものの、養成する人材像やディプロマ・ポリシーDP3-2②に照らして「製造業という業態の特性」に関する、よりふさわしい内容の授業科目を必修科目として配置すること。

(対応)

本審査意見を受け、養成する人材像やディプロマ・ポリシーDP3-2②にある「製造業という業態の特性」を学修するために「労使関係論」が必修となる理由を明確に説明する。また、養成する人材像やディプロマ・ポリシーDP3-2②に照らして「製造業という業態の特性」に関する、よりふさわしい内容の授業科目を必修科目として配置するよう改める。

◆養成する人材像やディプロマ・ポリシーDP3-2②にある「製造業という業態の特性」を学修するために「労使関係論」が必修となる理由

当初申請において、養成する人材像やディプロマ・ポリシーDP3-2②にある「製造業という業態の特性」を学修するために「労使関係論」を必修科目として設定した理由については、「4. 2. 4. 展開科目」の CP3-2 関連科目における<履修設定の考え方>において、以下の通り説明した。

「労使関係論」に関しては、学生が卒業後に企業等で労働者として就業する、あるいは自身が経営者・起業家となって労働者をマネジメントするために必要な知識を身につける科目であり、当該 DP 達成に不可欠な科目であるため必修科目とした。

本審査意見を受け、当該科目について、養成する人材像や DP3-2②との整合性、シラバスを点検した。その結果、学生が卒業後に企業等で労働者として就業する、あるいは自身が経営者・起業家となって労働者をマネジメントするために必要な知識を身につけるには有用であるものの、DP3-2②にある「製造業という業態の特性」を学修するには必ずしも十分な授業内容ではないと判断した。よって、当該科目は必修科目としては適切でないと判断し、必修科目から選択科目へ変更することとする。

◆養成する人材像やディプロマ・ポリシーDP3-2②に照らして「製造業という業態の特性」に関する、よりふさわしい内容の必修科目の配置

養成する人材像やディプロマ・ポリシーDP3-2②に照らして「製造業という業態の特性」に関する、よりふさわしい内容の必修科目として、CP3-2②に基づいて選択科目として配置していた「製造業経営論」を必修科目として配置することとする。「製造業経営論」に関しては、製造業のマネジメントの基礎知識である各機能(開発設計、製造、販売、サービス etc)の連携と、その重要性を学ぶと同時に、これをベースに特に企業価値を最大化する品質管理の概要について学修することを目的とした科目であり、「製造業という業態の特性」を理解できるようになるという当該 DP 達成にふさわしい科目であるため必修科目とすることとした。

当初申請においては、前述の通り、働くこと自体に関するより基礎的な考え方を学ぶ「労使関係論」を必修科目としていたため、「製造業経営論」については選択科目としていた。しかし、本審査意見を受け、CP3-2②に基づいて配置した科目を点検した結果、上記趣旨の通り当該 DP 達成には「製造業経営論」を必修科目とすることが適切であると本学では考える。

なお、本対応に関連して、審査意見対応(3月)資料 1~6 を修正した。

(新旧対照表)

新	旧
<p>1. 4. 3. カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針) (中略) (1)教育内容の方針 (中略) CP3-2 専門職業人としてキャリアの中で、これまでに無い新たな製品や新たなサービスを開発するためのビジネス関連の知識・スキルとして、以下それぞれの内容を学ぶ科目を設置する。 (中略) ②製造業という業態の特性や密接に関連する科学技術政策を理解できるようになるための<u>製造業経営論(必修科目)</u>、<u>労使関係論</u>、<u>マネジメント論</u>、<u>科学技術政策(以上、選択科目)</u></p>	<p>1. 4. 3. カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針) (中略) (1)教育内容の方針 (中略) CP3-2 専門職業人としてキャリアの中で、これまでに無い新たな製品や新たなサービスを開発するためのビジネス関連の知識・スキルとして、以下それぞれの内容を学ぶ科目を設置する。 (中略) ②製造業という業態の特性や密接に関連する科学技術政策を理解できるようになるための<u>労使関係論(必修科目)</u>、<u>製造業経営論</u>、<u>マネジメント論</u>、<u>科学技術政策(以上、選択科目)</u></p>
<p>4. 1. 2. 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー) (中略) (1)教育内容の方針 (中略) CP3-2 専門職業人としてキャリアの中で、これまでに無い新たな製品や新たなサービスを開発するためのビジネス関連の知識・スキルとして、以下それぞれの内容を学ぶ科目を設置する。 (中略) ②製造業という業態の特性や密接に関連する科学技術政策を理解できるようになるための<u>製造業経営論(必修科目)</u>、<u>労使関係論</u>、<u>マネジメント論</u>、<u>科学技術政策(以上、選択科目)</u></p>	<p>4. 1. 2. 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー) (中略) (1)教育内容の方針 (中略) CP3-2 専門職業人としてキャリアの中で、これまでに無い新たな製品や新たなサービスを開発するためのビジネス関連の知識・スキルとして、以下それぞれの内容を学ぶ科目を設置する。 (中略) ②製造業という業態の特性や密接に関連する科学技術政策を理解できるようになるための<u>労使関係論(必修科目)</u>、<u>製造業経営論</u>、<u>マネジメント論</u>、<u>科学技術政策(以上、選択科目)</u></p>
<p>4. 2. 4. 展開科目 (前略) CP3-2 に関する科目については、専門職業人としてキャリアの中で、これまでに無い新たな製品や新たなサービスを開発するためのビジネス関連の知識・スキルを身につけるため、「システム思考論」「<u>製造業経営論</u>」「<u>製造とデザインのためのビジネス論 I</u>」の計 3 科目(6 単位相当)を必修科目とする。その他の科目については、学生が自らの課題認識・キャリアプランに基づいて柔軟に履修できるようにするため、選択科目とする。 (中略) CP3-2 専門職業人としてキャリアの中で、これまでに</p>	<p>4. 2. 4. 展開科目 (前略) CP3-2 に関する科目については、専門職業人としてキャリアの中で、これまでに無い新たな製品や新たなサービスを開発するためのビジネス関連の知識・スキルを身につけるため、「システム思考論」「<u>労使関係論</u>」「<u>製造とデザインのためのビジネス論 I</u>」の計 3 科目(6 単位相当)を必修科目とする。その他の科目については、学生が自らの課題認識・キャリアプランに基づいて柔軟に履修できるようにするため、選択科目とする。 (中略) CP3-2 専門職業人としてキャリアの中で、これまでに</p>

無い新たな製品や新たなサービスを開発するためのビジネス関連の知識・スキルとして、以下それぞれの内容を学ぶ科目を設置する。

(中略)

②製造業という業態の特性や密接に関連する科学技術政策を理解できるようになるための製造業経営論(必修科目)、労使関係論、マネジメント論、科学技術政策(以上、選択科目)

(中略)

■必修科目(以下の番号は上記 CP の番号①～③に対応)

- ① システム思考論
- ② 製造業経営論
- ③ 製造とデザインのためのビジネス論 I

■選択科目群(以下の番号は上記 CP の番号①～③に対応)

- ① アイデア思考法
- ② 労使関係論、科学技術政策、マネジメント論
- ③ 広報活動論、製品とその利用に関する起業化論、製造とデザインのためのビジネス論 II

<履修設定の考え方>

本 CP に基づく科目については、その他の応用的な能力、創造的な役割を果たすために必要な能力を育成するべく設置した科目である。応用的・創造的思考力を身につける①の科目群、企業や産学連携等のマネジメント力を身につける②の科目群、新しい製品・サービスを創造し、世の中に広めていく力を身につける③の科目群を設置している。専門職業人としてキャリアの中で、これまでに無い新たな製品や新たなサービスを開発するためのビジネス関連の知識・スキルをバランスよく身につけるため、①の科目群から「システム思考論」、②の科目群から「製造業経営論」、③の科目群から「製造とデザインのためのビジネス論 I」の計 3 科目(6 単位相当)をそれぞれ必修科目とする。

(中略)

「製造業経営論」に関しては、製造業のマネジメントの基礎知識である各機能(開発設計、製造、販売、サービス etc)の連携と、その重要性を学ぶと同時に、これをベースに特に企業価値を最大化する品質管理の概要について学修することを目的とした科目であり、「製造業という業態の特性」を理解できるようになる

無い新たな製品や新たなサービスを開発するためのビジネス関連の知識・スキルとして、以下それぞれの内容を学ぶ科目を設置する。

(中略)

②製造業という業態の特性や密接に関連する科学技術政策を理解できるようになるための労使関係論(必修科目)、製造業経営論、マネジメント論、科学技術政策(以上、選択科目)

(中略)

■必修科目(以下の番号は上記 CP の番号①～③に対応)

- ① システム思考論
- ② 労使関係論
- ③ 製造とデザインのためのビジネス論 I

■選択科目群(以下の番号は上記 CP の番号①～③に対応)

- ① アイデア思考法
- ② 製造業経営論、科学技術政策、マネジメント論
- ③ 広報活動論、製品とその利用に関する起業化論、製造とデザインのためのビジネス論 II

<履修設定の考え方>

本 CP に基づく科目については、その他の応用的な能力、創造的な役割を果たすために必要な能力を育成するべく設置した科目である。応用的・創造的思考力を身につける①の科目群、企業や産学連携等のマネジメント力を身につける②の科目群、新しい製品・サービスを創造し、世の中に広めていく力を身につける③の科目群を設置している。専門職業人としてキャリアの中で、これまでに無い新たな製品や新たなサービスを開発するためのビジネス関連の知識・スキルをバランスよく身につけるため、①の科目群から「システム思考論」、②の科目群から「労使関係論」、③の科目群から「製造とデザインのためのビジネス論 I」の計 3 科目(6 単位相当)をそれぞれ必修科目とする。

(中略)

「労使関係論」に関しては、学生が卒業後に企業等で労働者として就業する、あるいは自身が経営者・起業家となって労働者をマネジメントするために必要な知識を身につける科目であり、当該 DP 達成に不可欠な科目であるため必修科目とした。

という当該 DP 達成に不可欠な科目であるため必修科目とした。

6. 【教育課程等】

ディプロマ・ポリシーの DP2-2 において、「電気自動車システム全体の基礎的・俯瞰的な理解」を掲げているが、当該ポリシーに鑑みれば、例えば、電気自動車システムの基礎的な理解に資する充電規格をはじめとした充電インフラ等に係る知識等を修得することは必要不可欠と考えられ、当該知識等をどのように学修するかが不明確である。このため、当該ポリシーを達成するために必要な教育内容を網羅する教育課程が適切に編成されていることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

本審査意見を受け、ディプロマ・ポリシーの DP2-2 を達成するために必要な教育内容を網羅する教育課程に関する点検結果を説明するとともに、適切に改める。

① 「充電規格をはじめとした充電インフラ等に係る知識を修得させる教育」について

ディプロマ・ポリシーの DP2-2 において、「電気自動車システム全体の基礎的・俯瞰的な理解」を掲げていたが、教育課程編成を点検したところ、電気自動車システムの基礎的な理解に資する充電規格をはじめとした充電インフラ等に係る知識等を修得させる授業計画が明確に示されてなかった。

教育課程編成を改めて検討した結果、職業専門科目である「次世代モビリティ論」の授業科目において学修させることが適切であると判断した。これを受け、当該授業科目のシラバスの授業計画において、電気自動車システムの基礎的な理解に資する充電規格をはじめとした充電インフラ等に係る知識等を修得させる明記した。

② 審査意見外の設置審査における意見「自動車におけるアメニティに関する知識を修得させる教育」について

設置審査において、当該審査意見外の意見として、電気自動車システム全体の基礎的・俯瞰的な理解に関する知識として「電気自動車におけるヒータなどのアメニティ等に関する知識」を修得させることが望ましいとのご意見をいただいた(文部科学省高等教育局高等教育企画課大学設置室との当該設置申請にかかる事務相談において受領)。

これを受け、この電気自動車におけるアメニティに関する知識を修得させる教育について見直しを行った。その結果、上記①同様に職業専門科目である「次世代モビリティ論」の授業科目において、アメニティに関する知識を学修させることが適切であると判断し、当該授業内容をシラバスの授業計画に明記した。

7. 【教育課程等】

ディプロマ・ポリシーの DP2-4 に基づきカリキュラム・ポリシーの CP2-4 が設定されているが、CP2-4 に対応した授業科目がいずれも選択科目であり、それらの授業科目を履修しなかった学生が DP2-4 に掲げる能力をどのように修得するのかについて、教育課程の妥当性の観点から具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

本審査意見を受け、CP2-4 に対応した選択科目を履修しなかった学生が DP2-4 に掲げる能力をどのように修得するのかについて、教育課程の妥当性の観点から具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改める。

◆「CP2-4 に対応した選択科目を履修しなかった学生が DP2-4 に掲げる能力をどのように修得するのか」に関する教育課程の妥当性の観点からの具体的説明

当該 CP 及び対応した授業科目に関しては、履修設定の考え方において示した通り、学生が自らの課題認識・キャリアプランに基づいて柔軟に履修できることを意図し、学生が自らのキャリアプランに応じて電気自動車システムの周辺分野の理解を深めるため選択科目として設置したものである。選択科目である一方、履修モデル等に明記することで学生の履修意欲を喚起し、DP に定める能力を身につけてもらう考え方としていた。しかし、本ご指摘の通り、選択科目である以上、学生が当該選択科目を履修しない可能性を排除しきれない。その意味では、DP に定める能力を必ず身につけることのできる教育課程の編成とはなっていなかったものとする。

◆CP2-4 に対応した授業科目にかかる履修設定の変更

上記を踏まえ、CP2-4 に対応した授業科目にかかる履修設定を改める。具体的には、当該 CP 及び対応した授業科目を選択必修科目とし、これらの科目群から 1 科目以上履修することを求めることとする。これにより、DP2-4「自らのキャリアプランに応じて、以下のいずれかについて知識を身につけている。」を達成することが可能な妥当な教育課程の編成となる。

なお、これに伴い、卒業要件の一つである取得単位数について、「126 単位以上」から「128 単位以上を取得」と改めることとなる。学生の負担は当初申請(2021 年 10 月)の計画より増加することにはなるが、他の既設専門職大学の卒業要件単位数に比して同等かやや少ない単位数であり、大きな影響はないと考える。

なお、本対応に関連して、審査意見対応(3 月)資料 1~6 を修正した。

(新旧対照表)

設置の趣旨等を記載した書類	
新	旧
1. 4. 2. ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針) (1)ディプロマ・ポリシー ディプロマ・ポリシーに関しては、前述の社会・地域ニーズ、本学の建学の精神、養成する人材像を踏まえ、本学の所定の規則に基づき、定められた期間の在籍、所定の 128 単位以上を取得して以下に挙げる	1. 4. 2. ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針) (1)ディプロマ・ポリシー ディプロマ・ポリシーに関しては、前述の社会・地域ニーズ、本学の建学の精神、養成する人材像を踏まえ、本学の所定の規則に基づき、定められた期間の在籍、所定の 126 単位以上を取得して以下に挙げる

<p>知識・スキルを備えること、その他必修等の諸条件を満たしたうえで、卒業論文審査に合格することを卒業要件として設定した。設定に当たっては、文部科学省中央教育審議会「各専攻分野を通じて培う「学士力」－学士課程共通の「学習成果」に関する参考指針－」、専門職大学設置基準第 10 条第 2 項等を十分に参照した。</p>	<p>知識・スキルを備えること、その他必修等の諸条件を満たしたうえで、卒業論文審査に合格することを卒業要件として設定した。設定に当たっては、文部科学省中央教育審議会「各専攻分野を通じて培う「学士力」－学士課程共通の「学習成果」に関する参考指針－」、専門職大学設置基準第 10 条第 2 項等を十分に参照した。</p>
<p>1. 4. 3. カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針) (前略) (1)教育内容の方針 (中略) CP2-4 自らのキャリアプランに応じて、以下の内容から選択して学ぶ科目を設置する(以下、全て<u>選択必修科目</u>)。 (後略)</p>	<p>1. 4. 3. カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針) (前略) (1)教育内容の方針 (中略) CP2-4 自らのキャリアプランに応じて、以下の内容から選択して学ぶ科目を設置する(以下、全て<u>選択科目</u>)。 (後略)</p>
<p>4. 2. 3. 職業専門科目 (前略) CP2-4 自らのキャリアプランに応じて、以下の内容から選択して学ぶ科目を設置する(以下、全て<u>選択必修科目</u>)。 (中略) ■<u>選択必修科目群</u>(以下の番号は上記 CP の番号①～⑤に対応) (中略) <履修設定の考え方> 本 CP に基づく科目については、材料に関する知識を強めたい者に向け①の科目群を、カーデザイナーなどを志向する者に向け②の科目群を、社会システムとのつながりを意識した製品・サービス企画に携わりたいとする者に向け③の科目群を、知的財産権や品質管理に関する知識を強めたい者に向け④の科目群を、電動モビリティシステムにかかる新たなサービスの開発を実現する知識を強めたい者に向け⑤の科目群を設置し、学生が自らの課題認識・キャリアプランに基づいて柔軟に履修できる<u>選択必修科目</u>とする。学生が自らのキャリアプランに応じて、電気自動車システムの周辺分野の理解を深めるための科目を網羅的に設置している。学生は本 CP に基づく科目について <u>1 科目以上</u>を履修する。</p>	<p>4. 2. 3. 職業専門科目 (前略) CP2-4 自らのキャリアプランに応じて、以下の内容から選択して学ぶ科目を設置する(以下、全て<u>選択科目</u>)。 (中略) ■<u>選択科目群</u>(以下の番号は上記 CP の番号①～⑤に対応) (中略) <履修設定の考え方> 本 CP に基づく科目については、材料に関する知識を強めたい者に向け①の科目群を、カーデザイナーなどを志向する者に向け②の科目群を、社会システムとのつながりを意識した製品・サービス企画に携わりたいとする者に向け③の科目群を、知的財産権や品質管理に関する知識を強めたい者に向け④の科目群を、電動モビリティシステムにかかる新たなサービスの開発を実現する知識を強めたい者に向け⑤の科目群を設置し、学生が自らの課題認識・キャリアプランに基づいて柔軟に履修できる<u>選択科目</u>とする。学生が自らのキャリアプランに応じて、電気自動車システムの周辺分野の理解を深めるための科目を網羅的に設置している。<u>(追加)</u></p>
<p>6. 3. 卒業要件 設置基準第 29 条各号に基づき、以下の通り、卒</p>	<p>6. 3. 卒業要件 設置基準第 29 条各号に基づき、以下の通り、卒</p>

<p>業要件を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本学に4年以上在学すること。 ● 128単位以上（基礎科目20単位以上、職業専門科目に係る80単位以上、展開科目20単位以上、総合科目に係る8単位以上を含む。）を修得すること。 <p>(後略)</p>	<p>業要件を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本学に4年以上在学すること。 ● 126単位以上（基礎科目20単位以上、職業専門科目に係る78単位以上、展開科目20単位以上、総合科目に係る8単位以上を含む。）を修得すること。 <p>(後略)</p>
--	--

8. 【教育課程等】

展開科目に配置された「プレゼンテーション基礎」と「英語プレゼンテーション基礎」について、シラバスに示された内容がほぼ同一であることから、各授業科目の配置の趣旨等を踏まえた適切な内容に改めること。

(対応)

本審査意見を受け、「プレゼンテーション基礎」と「英語プレゼンテーション基礎」の授業計画、各授業科目の配置の趣旨等を踏まえ見直しを行い、授業内容が一致している部分と異なっている部分があることによって、より高い教育効果が得られるという結論に達し、シラバスの授業計画の見直しを実施した。

「プレゼンテーション基礎」と「英語プレゼンテーション基礎」について、シラバスに示された内容がほぼ同一であることから、各授業科目の配置の趣旨等を踏まえた適切な内容に改めることに対する対応

「プレゼンテーション基礎」と「英語プレゼンテーション基礎」の授業計画内容を同じにすることで、日本語で学修したものと英語で考えることを一致させることで、学生がより理解が深まるものとの考え方に基づいてシラバスを作成・記述していた。

しかし、審査意見を受け、各授業科目の配置の趣旨等を踏まえて見直しを行った結果、各科目の目的がより明確に学生にわかるように書き改めた。また、「プレゼンテーション基礎」と「英語プレゼンテーション基礎」の授業計画の内容を一部重複させることで、日本語で理解したプレゼンテーション技術を英語のプレゼンテーションでも応用できるようにすることにより、より深く学修ができるように工夫した。また、「英語プレゼンテーション基礎」では、学生が最初に経験する可能性の高い学会での発表を想定したプレゼン手法を題材として学修ができる構成としている。

本授業科目の開設時期は、日本語で行う「プレゼンテーション基礎」で学修したことを応用として、英語でのプレゼンテーションの手法を体験的に学ぶことで、より深い学修ができるように配置している。

9. 【教育課程等】

臨地実務実習施設の選定基準について、養成する人材像やディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、実習の目的等に照らして、より客観的な評価を可能とするよう、各基準の記載を具体化すること。

(対応)

本審査意見を受け、臨地実務実習施設の選定基準について、養成する人材像やディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、実習の目的等に照らして、より客観的な評価を可能とするよう、各基準の記載を具体化する。

◆当初申請における臨地実務実習施設の選定基準

当初申請における臨地実務実習施設の選定基準については、すべての臨地実務実習科目で共通する項目と、Ⅰ～Ⅲの各臨地実務実習科目の目的や到達目標に応じてそれぞれに設定した項目で構成した。具体的には以下の通りである。

＜すべての臨地実務実習科目で共通する項目＞

- 当該施設が、本学の人材育成への取組に理解があり、本学の養成する人材像に共感を抱いていること。
- 当該施設の事業内容が、本学 DP 及び CP に基づき定めた教育内容と共通性があること。

＜科目の目的や到達目標に応じてそれぞれに設定した項目＞

当該施設における業務内容が、以下の各臨地実務実習科目の目的や到達目標に応じた実習が可能であること。

- 臨地実務実習Ⅰ：企業の現場での実務的な実習を通して、社会ニーズ・利用者ニーズの理解を深め、自らが将来開発する製品への責任を意識できること。
- 臨地実務実習Ⅱ：本学で学んだ専門的知識・スキルを応用し実践する能力を育成し作業工程における問題発見と解決までの論理的道筋を創造する能力を獲得すること。
- 臨地実務実習Ⅲ：本学で学んだ専門的知識を応用・発展し、学生が選択した専門分野において、技術開発や製品開発ができる能力を高め、また、生産現場における生産機器の開発や生産設備の構築ができる能力を高めること。

本審査意見は、これらの項目に関して、具体性が十分でなく、臨地実務実習施設選定のための客観的な評価が困難であると見受けられたことから、いただいたご指摘と認識している。

◆各基準の記載を具体化

本審査意見を踏まえ、以下の通り、養成する人材像やディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、実習の目的等に照らして、より客観的な評価を可能とするよう、各基準の記載を具体化する。また、他の審査意見等でいただいている通り、実習中の学生にかかる安全管理への配慮等も追加することが必要であると考えたため、項目を追加する。変更点は下線部の通りである。

＜すべての臨地実務実習科目で共通する項目＞

- 当該施設が、本学の人材育成への取組に理解があり、本学の養成する人材像に共感を抱いていること。
- 当該施設の事業内容が、自動車関連産業あるいはその他電動モビリティ関連産業向けの製品・サービスを扱う事業内容となっており、本学 DP 及び CP に基づき定めた教育内容と共通性があること。
- 当該施設において、実習中の学生にかかる安全管理への配慮や、学生の個人情報管理等を適切に実施すること、及び費用負担について了承できること。

<科目の目的や到達目標に応じてそれぞれに設定した項目>

当該施設における業務内容が、以下の各臨地実務実習科目の目的や到達目標に応じた実習が可能であること。

- 臨地実務実習Ⅰ：自動車販売・自動車整備業等の現場での実務的な実習を通して、社会ニーズ・利用者ニーズの理解を深め、自らが将来開発する製品への責任を意識できること。
- 臨地実務実習Ⅱ：
 - 本学で学んだ専門的知識・スキルを応用し実践する能力を育成し作業工程における問題発見と解決までの論理的道筋を創造する能力を獲得すること。
 - 「1. 7. 卒業後の想定進路等」にて挙げた自動車製造業、自動車部品サプライヤー、自動車関連産業の資材部門、自動運動や ICT/IoT を切り口とした新たな電気自動車関連ビジネスを創出しようとする企業を中心とした電動モビリティにかかる製品・サービスを扱う産業分類に属する企業であること。
- 臨地実務実習Ⅲ：
 - 本学で学んだ専門的知識を応用・発展し、学生が選択した専門分野において、技術開発や製品開発ができる能力を高め、また、生産現場における生産機器の開発や生産設備の構築ができる能力を高めること。
 - 「1. 7. 卒業後の想定進路等」にて挙げた自動車製造業、自動車部品サプライヤー、自動車関連産業の資材部門、自動運動や ICT/IoT を切り口とした新たな電気自動車関連ビジネスを創出しようとする企業を中心とした電動モビリティにかかる製品・サービスを扱う産業分類に属する企業であること。

以上の通り、各基準の記載を具体化することにより、臨地実務実習施設選定のための客観的な評価を実現する。

(新旧対照表)

新	旧
10. 2. 1. 実施内容等 (前略) (1)臨地実務実習Ⅰ (中略) ⑤実習予定先 ア. 実習予定先の選定基準 養成する人材像や DP、CP、実習の目的等に基づき設定した、実習予定先の選定基準は以下の通りである。 <ul style="list-style-type: none"> ● 当該施設が、本学の人材育成への取組に理解があり、本学の養成する人材像に共感を抱いていること。 ● 当該施設の事業内容が、<u>自動車関連産業あるいはその他電動モビリティ関連産業向けの製品・サービスを扱う事業内容となっており、本学 DP 及び CP に基づき定めた教育内容と共通性があること。</u> ● <u>当該施設において、実習中の学生にかかる安全管理への配慮や、学生の個人情報管理等を適切に実施すること、及び費用負担について了承</u> 	10. 2. 1. 実施内容等 (前略) (1)臨地実務実習Ⅰ (中略) ⑤実習予定先 ア. 実習予定先の選定基準 養成する人材像や DP、CP、実習の目的等に基づき設定した、実習予定先の選定基準は以下の通りである。 <ul style="list-style-type: none"> ● 当該施設が、本学の人材育成への取組に理解があり、本学の養成する人材像に共感を抱いていること。 ● 当該施設の事業内容が、<u>(追加)本学 DP 及び CP に基づき定めた教育内容と共通性があること。</u> ● <u>(追加)</u>

<p>できること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 当該施設における業務内容が、以下の各臨地実務実習科目の目的や到達目標に応じた実習が可能であること。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ <u>臨地実務実習 I：自動車販売・自動車整備業等の現場での実務的な実習を通して、社会ニーズ・利用者ニーズの理解を深め、自らが将来開発する製品への責任を意識できること。</u> <p>(後略)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 当該施設における業務内容が、以下の各臨地実務実習科目の目的や到達目標に応じた実習が可能であること。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ <u>臨地実務実習 I：企業の現場での実務的な実習を通して、社会ニーズ・利用者ニーズの理解を深め、自らが将来開発する製品への責任を意識できること。</u> <p>(後略)</p>
<p>(2)臨地実務実習 II (中略)</p> <p>⑤実習予定先</p> <p>ア. 実習予定先の選定基準</p> <p>養成する人材像や DP、CP、実習の目的等に基づき設定した、実習予定先の選定基準は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 当該施設が、本学の人材育成への取組に理解があり、本学の養成する人材像に共感を抱いていること。 ● 当該施設の事業内容が、<u>自動車関連産業あるいはその他電動モビリティ関連産業向けの製品・サービスを扱う事業内容となっており、本学 DP 及び CP に基づき定めた教育内容と共通性があること。</u> ● <u>当該施設において、実習中の学生にかかる安全管理への配慮や、学生の個人情報管理等を適切に実施すること、及び費用負担について了承できること。</u> ● 当該施設における業務内容が、以下の各臨地実務実習科目の目的や到達目標に応じた実習が可能であること。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ <u>臨地実務実習 II：本学で学んだ専門的知識・スキルを応用し実践する能力を育成し作業工程における問題発見と解決までの論理的道筋を創造する能力を獲得すること。</u> ➢ <u>「1. 7. 卒業後の想定進路等」にて挙げた自動車製造業、自動車部品サプライヤー、自動車関連産業の資材部門、自動運動や ICT/IoT を切り口とした新たな電気自動車関連ビジネスを創出しようとする企</u> 	<p>(2)臨地実務実習 II (中略)</p> <p>⑤実習予定先</p> <p>ア. 実習予定先の選定基準</p> <p>養成する人材像や DP、CP、実習の目的等に基づき設定した、実習予定先の選定基準は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 当該施設が、本学の人材育成への取組に理解があり、本学の養成する人材像に共感を抱いていること。 ● 当該施設の事業内容が、<u>(追加)本学 DP 及び CP に基づき定めた教育内容と共通性があること。</u> ● <u>(追加)</u> ● 当該施設における業務内容が、以下の各臨地実務実習科目の目的や到達目標に応じた実習が可能であること。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ <u>臨地実務実習 II：本学で学んだ専門的知識・スキルを応用し実践する能力を育成し作業工程における問題発見と解決までの論理的道筋を創造する能力を獲得すること。</u> ➢ <u>(追加)</u>

<p><u>業を中心とした電動モビリティにかかる製品・サービスを扱う産業分類に属する企業であること。</u></p> <p>(後略)</p>	<p>(後略)</p>
<p>(3) 臨地実務実習Ⅲ (中略)</p> <p>⑤実習予定先 ア. 実習予定先の選定基準</p> <p>養成する人材像や DP、CP、実習の目的等に基づき設定した、実習予定先の選定基準は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 当該施設が、本学の人材育成への取組に理解があり、本学の養成する人材像に共感を抱いていること。 ● 当該施設の事業内容が、<u>自動車関連産業あるいはその他電動モビリティ関連産業向けの製品・サービスを扱う事業内容となっており、本学 DP 及び CP に基づき定めた教育内容と共通性があること。</u> ● <u>当該施設において、実習中の学生にかかる安全管理への配慮や、学生の個人情報管理等を適切に実施すること、及び費用負担について了承できること。</u> ● 当該施設における業務内容が、以下の各臨地実務実習科目の目的や到達目標に応じた実習が可能であること。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 臨地実務実習Ⅲ：本学で学んだ専門的知識を応用・発展し、学生が選択した専門分野において、技術開発や製品開発ができる能力を高め、また、生産現場における生産機器の開発や生産設備の構築ができる能力を高めること。 ➢ 「1. 7. 卒業後の想定進路等」にて挙げた<u>自動車製造業、自動車部品サプライヤー、自動車関連産業の資材部門、自動運動や ICT/IoT を切り口とした新たな電気自動車関連ビジネスを創出しようとする企業を中心とした電動モビリティにかかる製品・サービスを扱う産業分類に属する企業であること。</u> <p>(後略)</p>	<p>(3) 臨地実務実習Ⅲ (中略)</p> <p>⑤実習予定先 ア. 実習予定先の選定基準</p> <p>養成する人材像や DP、CP、実習の目的等に基づき設定した、実習予定先の選定基準は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 当該施設が、本学の人材育成への取組に理解があり、本学の養成する人材像に共感を抱いていること。 ● 当該施設の事業内容が、(追加)本学 DP 及び CP に基づき定めた教育内容と共通性があること。 ● (追加) ● 当該施設における業務内容が、以下の各臨地実務実習科目の目的や到達目標に応じた実習が可能であること。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 臨地実務実習Ⅲ：本学で学んだ専門的知識を応用・発展し、学生が選択した専門分野において、技術開発や製品開発ができる能力を高め、また、生産現場における生産機器の開発や生産設備の構築ができる能力を高めること。 ➢ (追加) <p>(後略)</p>

10.【教育課程等】

臨地実務実習Ⅱ及びⅢの実習施設として、遠隔地の企業等が多数含まれているが、学生の実習先の具体的な決定方法や、当該企業等で実習を行う学生が負担する交通費や滞在費等の経費負担の程度、経済的支援の内容等について判然としない。実習内容や経済的負担の面で希望に合わない実習先となった学生への負担が懸念されることから、学生の実習先の具体的な決定方法や学生に対する実習中の経済的な支援の有無や内容等について明らかにした上で、学生に対する過度な負担や学生間の不公平等が生じないことを明確に説明すること。

(対応)

本審査意見を受け、学生の実習先の具体的な決定方法や学生に対する実習中の経済的な支援内容等について明らかにしたうえで、学生に対する過度な負担や学生間の不公平等が生じないことを明確に説明する。

◆「学生の実習先の具体的な決定方法」について

各臨地実務実習科目における学生の実習先の具体的な決定方法を以下の通りとする。

＜臨地実務実習Ⅰ＞

- 当該年度で学生受入れを承諾していただいた企業リストを基に、臨地実務実習の指導担当教員において学生の割当案を作成する。
- 当該割当案を1年次1期末に開催する事前指導時に学生へ提示し、交通手段等の理由による変更の申し出があった学生の割当先を調整し決定する。

＜臨地実務実習Ⅱ＞

- 当該年度で学生受入れを承諾していただいた企業リストを2年次3期始めのオリエンテーション時に学生に提示し、希望を聴取する。
- 学生の希望状況を表10.1：臨地実務実習の指導体制にて示した臨地実務実習の指導を担当する各教員グループにおいて共有する。各教員グループでは、学生の希望と企業の受入可能人数を踏まえて割当案を作成する。
 - 一次案において学生の希望に添えない場合、実習先企業へ受入人数の増加が可能かを打診する。また、学生と面談し、希望外企業で実習することによる本科目の学修到達目標達成に与える影響等を確認する。
 - 学生が希望する実習先企業において受入人数の増加が困難な場合、あるいは本科目の学修到達目標達成に与える影響が深刻でなかった場合、最終的には本学に入学した後のGPA順位によって各学生の実習先企業を決定するよう調整を行う。
- 割当案を2年次3期末に開催する事前指導時に学生へ提示し、学生の確認をとった上で決定する。

＜臨地実務実習Ⅲ＞

- 当該年度で学生受入れを承諾していただいた企業リストを3年次1期始めのオリエンテーション時に学生に提示し、希望を聴取する。
- 学生の希望状況を表10.1：臨地実務実習の指導体制にて示した臨地実務実習の指導を担当する各教員グループにおいて共有する。各教員グループでは、学生の希望と企業の受入可能人数を踏まえて割当案を作成する。
 - 一次案において学生の希望に添えない場合、実習先企業へ受入人数の増加が可能かを打診する。また、

学生と面談し、希望外企業で実習することによる本科目の学修到達目標達成に与える影響等を確認する。

- 学生が希望する実習先企業において受入人数の増加が困難な場合、あるいは本科目の学修到達目標達成に与える影響が深刻でなかった場合、最終的には本学に入学した後の GPA 順位によって各学生の実習先企業を決定するよう調整を行う。

- 割当案を3年次1期末に開催する事前指導時に学生へ提示し、学生の確認をとった上で決定する。

◆「学生に対する実習中の経済的な支援内容等」について

臨地実務実習先への移動及び実習中の滞在費については、以下の経済的な支援を行うことで学生間の不公平が生じないよう対応する。

- ① 臨地実務実習は必修科目であることから、学生の自宅又は帰省先の何れかの場所から実習施設までの往復交通費の実費を支援する。なお、支援額の算定は、学校法人赤門学院の出張に関する規程に準拠することとする。
- ② 実習期間中の滞在費は、一泊 5,000 円を上限に実費を支援する。
- ③ 臨地実務実習先の企業から学生に対する経費支援がある場合は、その額に応じて上記①、②の額から控除して支援額を算出する。

以上の措置により、公平に実習先企業を調整するとともに、実習内容や経済的負担の面で希望に合わない実習先となった学生への負担を極小化することで、学生に対する過度な負担や学生間の不公平が生じない臨地実務実習科目とする。

(新旧対照表)

新	旧
10. 2. 1. 実施内容等 (前略) (1) 臨地実務実習 I (中略) ⑤実習予定先 (中略) <u>ウ. 実習予定先の決定方法</u> <ul style="list-style-type: none"> ● <u>当該年度で学生受入れを承諾していただいた企業リストを基に、臨地実務実習の指導担当教員において学生の割当案を作成する。</u> ● <u>当該割当案を1年次1期末に開催する事前指導時に学生へ提示し、交通手段等の理由による変更の申し出があった学生の割当先を調整し決定する。</u> (後略)	10. 2. 1. 実施内容等 (前略) (1) 臨地実務実習 I (中略) ⑤実習予定先 (中略) <u>(追加)</u> (後略)
(2) 臨地実務実習 II (中略) ⑤実習予定先 (中略) <u>ウ. 実習予定先の決定方法</u>	(2) 臨地実務実習 II (中略) ⑤実習予定先 (中略) <u>(追加)</u>

<ul style="list-style-type: none"> ● <u>当該年度で学生受入れを承諾していただいた企業リストを2年次3期始めのオリエンテーション時に学生に提示し、希望を聴取する。</u> ● <u>学生の希望状況を表 10.1：臨地実務実習の指導体制にて示した臨地実務実習の指導を担当する各教員グループにおいて共有する。各教員グループでは、学生の希望と企業の受入可能人数を踏まえて割当案を作成する。</u> <ul style="list-style-type: none"> ➢ <u>一次案において学生の希望に添えない場合、実習先企業へ受入人数の増加が可能性を打診する。また、学生と面談し、希望外企業で実習することによる本科目の学修到達目標達成に与える影響等を確認する。</u> ➢ <u>学生が希望する実習先企業において受入人数の増加が困難な場合、あるいは本科目の学修到達目標達成に与える影響が深刻でなかった場合、最終的には本学に入学した後の GPA 順位によって各学生の実習先企業を決定するよう調整を行う。</u> ● <u>割当案を2年次3期末に開催する事前指導時に学生へ提示し、学生の確認をとった上で決定する。</u> <p>(後略)</p>	<p>(後略)</p>
<p>(3)臨地実務実習Ⅲ (中略) ⑤実習予定先 (中略) ウ. 実習予定先の決定方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ● <u>当該年度で学生受入れを承諾していただいた企業リストを3年次1期始めのオリエンテーション時に学生に提示し、希望を聴取する。</u> ● <u>学生の希望状況を表 10.1：臨地実務実習の指導体制にて示した臨地実務実習の指導を担当する各教員グループにおいて共有する。各教員グループでは、学生の希望と企業の受入可能人数を踏まえて割当案を作成する。</u> <ul style="list-style-type: none"> ➢ <u>一次案において学生の希望に添えない場合、実習先企業へ受入人数の増加が可能性を打診する。また、学生と面談し、希望外企業で実習することによる本科目の学修到達目標達成に与える影響等を確認する。</u> ➢ <u>学生が希望する実習先企業において受入</u> 	<p>(3)臨地実務実習Ⅲ (中略) ⑤実習予定先 (中略) (追加) (後略)</p>

<p><u>人数の増加が困難な場合、あるいは本科目の学修到達目標達成に与える影響が深刻でなかった場合、最終的には本学に入学した後の GPA 順位によって各学生の実習先企業を決定するよう調整を行う。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● <u>割当案を3年次1期末に開催する事前指導時に学生へ提示し、学生の確認をとった上で決定する。</u> <p>(後略)</p>	
<p>10. 4. その他 (前略)</p> <p><u>10. 4. 3. 学生に対する臨地実務実習中の経済的な支援内容等</u></p> <p><u>臨地実務実習先への移動及び実習中の滞在費については、以下の経済的な支援を行うことで学生間の不公平等が生じないよう対応する。</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ① <u>臨地実務実習は必修科目であることから、学生の自宅又は帰省先の何れかの場所から実習施設までの往復交通費の実費を支援する。なお、支援額の算定は、学校法人赤門学院の出張に関する規程に準じることとする。</u> ② <u>実習期間中の滞在費は、一泊 5,000 円を上限に実費を支援する。</u> ③ <u>臨地実務実習先の企業から学生に対する経費支援がある場合は、その額に応じて上記①、②の額から控除して支援額を算出する。</u> 	<p>10. 4. その他 (前略) (追加)</p>

1 1. 【教育課程等】

本学の教育課程の履修について、以下の点について不明確であることから、明確に説明するとともに、適切な学修相談体制の構築を含め、学生への支援体制の整備や教育課程の改善などについて適切に改めること。

(1)1 年次及び 2 年次において選択科目及び選択必修科目が多数配置されており、一般的な教育課程における場合と比べて学生の学修量が多いように見受けられるものの、充実した履修指導など学修支援についての説明が不明確である。

(対応)

本審査意見を受け、1 年次及び 2 年次の学生に対する充実した履修指導など学修支援について、学修相談体制を構築することとしたため、明確に説明するとともに適切に改める。

当初申請において、本学の履修指導方法・体制に関しては、「6. 2. 履修指導方法」において説明している。本ご指摘は、当該項目において、特に学修量が多いように見受けられる 1 年次及び 2 年次の学生に対する充実した履修指導など学修支援についての説明が不明確であったため、いただいたご指摘と認識している。

本学では、充実した履修指導など学修支援を行うため、**各学年に対して「学年担任」「学年副担任」を設置する。**学年担任・学年副担任については、教務委員会が専任教員のなかから候補者案を立案し(候補者案の立案に当たっては他業務を含めた教員の負担を考慮する)、当該候補者案を教授会にて議論し、最終的に学部長が選任する。学年担任・学年副担任は、担当する学年の学生に対して、所属研究室の指導教員や事務職員等と連携しながら、学修上の助言や履修登録等に関する指導、身体面・心理面の課題への対応その他の学生生活に適應するための相談、学生が行う教務上の手続き等の支援を担う。

また、特に大学生生活に慣れておらず、他の学年に比して学修量が多い 1 年次及び 2 年次の学生に対する支援を充実させるため、学年担任・学年副担任の負担を軽減するため、学年担任・学年副担任に加えて「**学生アドバイザー**」を設置する。学生アドバイザーは、3 年次・4 年次の学生から当該学年の学年担任・学年副担任より 2 名程度の推薦を受け、学部長が選任し、アルバイトとして雇用する。学生アドバイザーは、上級生の観点から、履修登録での細かな留意点や学生が抱く疑問点、自学自習のポイント、学習方法、研究室や実習科目、臨地実務実習先の選定、進路選択等に関する悩みなどの学習上の種々の相談に応じる。学生アドバイザーが下級生からの相談に適切に応じられるようマニュアルを整備するとともに、共に 1 年次及び 2 年次に対して助言を行う当該学年の学年担任・学年副担任から学生アドバイザーに対して指導を行う。

以上の学修相談体制の構築により、1 年次及び 2 年次の学生に対する充実した履修指導など学修支援を提供する。

(新旧対照表)

新	旧
6. 2. 履修指導方法 6. 2. 1. 履修指導方法、指導体制 全学生を対象として、本学部学科の DP、CP、卒業要件、教育課程の全体像、単位の考え方、学習方法、科目一覧、担当教員一覧、履修モデル、履修登録の注意点等を掲載した手引きを作成・配布す	6. 2. 履修指導方法 6. 2. 1. 履修指導方法、指導体制 全学生を対象として、本学部学科の DP、CP、卒業要件、教育課程の全体像、単位の考え方、学習方法、科目一覧、担当教員一覧、履修モデル、履修登録の注意点等を掲載した手引きを作成・配布す

る。当該手引き等を用いて、1年に一度、教職員による履修オリエンテーションを行う。オリエンテーション当日は、終了後に個別相談にも応じる。また、履修登録期間中には、希望者を対象とした個別相談期間を設ける。履修登録のミスがないよう教務委員会の中で指導体制を整備する。

本学では、充実した履修指導など学修支援を行うため、各学年に対して「学年担任」「学年副担任」を設置する。学年担任・学年副担任については、教務委員会が専任教員のなかから候補者案を立案し(候補者案の立案に当たっては他業務を含めた教員の負担を考慮する)、当該候補者案を教授会にて議論し、最終的に学部長が選任する。学年担任・学年副担任は、担当する学年の学生に対して、所属研究室の指導教員や事務職員等と連携しながら、学修上の助言や履修登録等に関する指導、身体面・心理面の課題への対応その他の学生生活に適應するための相談、学生が行う教務上の手続き等の支援を担う。

また、特に大学生生活に慣れておらず、他の学年に比して学修量が多い1年次及び2年次の学生に対する支援を充実させるため、学年担任・学年副担任の負担を軽減するため、学年担任・学年副担任に加えて「学生アドバイザー」を設置する。学生アドバイザーは、3年次・4年次の学生から当該学年の学年担任・学年副担任より2名程度の推薦を受け、学部長が選任し、アルバイトとして雇用する。学生アドバイザーは、上級生の観点から、履修登録での細かな留意点や学生が抱く疑問点、自学自習のポイント、学習方法、研究室や実習科目、臨地実務実習先の選定、進路選択等に関する悩みなどの学習上の種々の相談に応じる。学生アドバイザーが下級生からの相談に適切に応じられるようマニュアルを整備するとともに、ともに1年次及び2年次に対して助言を行う当該学年の学年担任・学年副担任から指導を行う。

る。当該手引き等を用いて、1年に一度、教職員による履修オリエンテーションを行う。オリエンテーション当日は、終了後に個別相談にも応じる。また、履修登録期間中には、希望者を対象とした個別相談期間を設ける。履修登録のミスがないよう教務委員会の中で指導体制を整備する。

(追加)

1 1. 【教育課程等】

本学の教育課程の履修について、以下の点について不明確であることから、明確に説明するとともに、適切な学修相談体制の構築を含め、学生への支援体制の整備や教育課程の改善などについて適切に改めること。

(2)2 年次 3 期及び 4 期で構成要素(電池システム、モーター・インバーター、車体システム、自動運転システム)にかかる基礎的な実習科目を選択必修科目として設置しているが、それぞれの実習科目によって履修する学生数の偏りが生じた際に、学生数の偏りにかかわらず学生が十分な履修指導を受けられる体制となっているかが不明確である。

(対応)

本審査意見を受け、2 年次 3 期及び 4 期で設置する構成要素(電池システム、モーター・インバーター、車体システム、自動運転システム)にかかる基礎的な実習科目に関して、それぞれの実習科目によって履修する学生数の偏りが生じた際に、学生数の偏りにかかわらず学生が十分な履修指導を受けられる体制となっていることを明確に説明する。

当初申請「4. 5. 3. 各演習科目・実験科目・実習科目における安全上のリスクと対応」他に記載している通り、本学では、教育効果の向上と安全を担保するために実習科目を 1 科目 20 名で実施する。そのため、

- ① 特定の技術分野にかかる実習科目の履修を 20 名以上の学生が希望する
- ② 特定の技術分野にかかる実習科目の履修を希望する学生数が極めて少ない

というように、実習科目によって履修する学生数に偏りが生じる可能性も十分に考えられる。こうした場合において、学生が十分な履修指導を受けられる体制となっているかが不明確であることについて、ご指摘いただいたと理解している。以下では、それぞれの場合について、学生が十分な履修指導を受けられる体制となっていることを説明する。

①「特定の技術分野にかかる実習科目の履修を 20 名以上の学生が希望する場合」に学生が十分な履修指導を受けられる体制となっていること

当初申請添付資料 8-1 の時間割において示した通り、2 年次 3 期及び 4 期で設置する構成要素(電池システム、モーター・インバーター、車体システム、自動運転システム)にかかる基礎的な実習科目に関しては、このような場合に備えて各実習科目に A 班・B 班を設けている(例えば、「モーター・インバータシステム実習 I」については、A 班が月曜、B 班が水曜となっている)。そのため、仮に 20 名以上の履修登録があった場合であっても、いずれかの班に割り当ててことで学生は十分な履修指導を受けることができる体制となっている。

②「特定の技術分野にかかる実習科目の履修を希望する学生数が極めて少ない場合」に学生が十分な履修指導を受けられる体制となっていること

このような場合における課題は、特に複数名で対応することを想定した作業やグループディスカッション(以下、「GD」という。)に関して、学びの質を下げないよう適切な履修指導を行うことである。特に、GD については、「モーター・インバータシステム実習 I」「自動運転システム実習 I」の授業計画において複数回の GD が設定され、評価基準においても GD にかかる配点が設定されている。履修を希望する学生数が極めて少ないことを原因とする学びの質低下を防ぐための履修指導体制とする必要がある。

各実習科目においては、助手や技術職員を配置する体制としている。そのため、複数名で対応することを想定した作業に関しては、助手や技術職員と作業することを通じて学生は十分な履修指導を受けられる体制となっている。GD に関しても、助手や技術職員と議論することを通じて学生は十分な履修指導を受けられる体制となっている。

以上の通り、それぞれの実習科目によって履修する学生数の偏りが生じた際においても、学生数の偏りにかかわらず

学生が十分な履修指導を受けられる体制となっている。上記説明を学生が理解しやすくするため、「6. 2. 1. 履修指導方法、指導体制」において示した履修の手引きに明記するとともに、履修オリエンテーションにおいても十分に説明する。

(新旧対照表)

新	旧
<p>4. 2. 3. 職業専門科目 (前略) CP2-2 (略) ＜履修設定の考え方＞ (略) ＜実習 I 等において履修する学生数の偏りが生じた際に、学生数の偏りにかかわらず学生が十分な履修指導を受けられる体制＞ 後述する通り、本学では、教育効果の向上と安全を担保するために実習科目を 1 科目 20 名で実施する。そのため、 ① 特定の技術分野にかかる実習科目の履修を 20 名以上の学生が希望する ② 特定の技術分野にかかる実習科目の履修を希望する学生数が極めて少ない というように、実習科目によって履修する学生数に偏りが生じる可能性も十分に考えられる。以下の通り、①②いずれの場合においても、学生は十分な履修指導を受けられる体制となっている。 ①「特定の技術分野にかかる実習科目の履修を 20 名以上の学生が希望する場合」に学生が十分な履修指導を受けられる体制となっていること 後述の資料 8-1「時間割」において示す通り、2 年次 3 期及び 4 期で設置する構成要素(電池システム、モーター・インバーター、車体システム、自動運転システム)にかかる基礎的な実習科目に関しては、このような場合に備えて各実習科目に A 班・B 班を設けている。そのため、仮に 20 名以上の履修登録があった場合であっても、いずれかの班に割り当てることで学生は十分な履修指導を受けることができる体制となっている。 ②「特定の技術分野にかかる実習科目の履修を希望する学生数が極めて少ない場合」に学生が十分な履修指導を受けられる体制となっていること このような場合における課題は、特に複数名で対応</p>	<p>4. 2. 3. 職業専門科目 (前略) CP2-2 (略) ＜履修設定の考え方＞ (略) (追加)</p>

することを想定した作業やグループディスカッション(以下、「GD」という。)に関して、学びの質を下げないよう適切な履修指導を行うことである。特に、GD については、「モータ・インバータシステム実習Ⅰ」「自動運転システム実習Ⅰ」の授業計画において複数回の GD が設定され、評価基準においても GD にかかる配点が設定されている。履修を希望する学生数が極めて少ないことを原因とする学びの質低下を防ぐための履修指導体制とする必要がある。

各実習科目においては、助手や技術職員を配置する体制としている。そのため、複数名で対応することを想定した作業に関しては、助手や技術職員と作業することを通じて学生は十分な履修指導を受けられる体制となっている。GD に関しても、助手や技術職員と議論することを通じて学生は十分な履修指導を受けられる体制となっている。

1 1. 【教育課程等】

本学の教育課程の履修について、以下の点について不明確であることから、明確に説明するとともに、適切な学修相談体制の構築を含め、学生への支援体制の整備や教育課程の改善などについて適切に改めること。

(3)研究室や卒業研究のテーマの変更を希望した学生が、それらを変更した後に十分な履修指導及び研究指導を受けられる体制となっているかが不明確である。

(対応)

本審査意見を受け、研究室や卒業研究のテーマの変更を希望した学生が、それらを変更した後に十分な履修指導及び研究指導を受けられる体制となっていることを明確に説明する。

◆本学における研究室や卒業研究のテーマの設定の考え方と変更の考え方

審査意見 1 への回答で説明した通り、本学では、学生は 2 年次 3 期・4 期に、電気自動車システムの構成要素(電池、モーター・インバータ、車体、自動運転)の技術分野にかかる実習科目を 1 科目以上履修する。学生は、当該実習科目で履修した構成要素の技術分野について、3 年次 4 期に専門発展科目での選択必修科目群の選択及び卒業研究を行う研究室や卒業研究のテーマを決定する設定とすることとしている。従って、学生が研究室や卒業研究のテーマの変更を希望する場合については、以下のように分類できる。

- ① 2 年次 3 期・4 期に設定された技術分野にかかる実習科目を 1 科目以上履修している場合において、所属研究室は変更せずに、卒業研究のテーマの変更を希望する
- ② 2 年次 3 期・4 期に設定された技術分野にかかる実習科目を 1 科目以上履修している場合において、従来所属している研究室の扱う技術分野と同一の技術分野の範囲内で、研究室や卒業研究のテーマ変更を希望する
- ③ 2 年次 3 期・4 期に設定された技術分野にかかる実習科目を複数科目履修している場合において、従来所属している研究室の扱う技術分野と異なる技術分野を扱う研究室や卒業研究のテーマに変更を希望する
- ④ 2 年次 3 期・4 期に設定された技術分野にかかる実習科目として履修していない技術分野を扱う研究室や卒業研究のテーマに変更を希望する

以下では、それぞれの場合に関して、研究室や卒業研究のテーマを変更した後に十分な履修指導及び研究指導を受けられる体制となっていることを明確に説明する。

①「2 年次 3 期・4 期に設定された技術分野にかかる実習科目を 1 科目以上履修している場合において、所属研究室は変更せずに、卒業研究のテーマの変更を希望する場合」における変更後に十分な履修指導及び研究指導を受けられる体制

本場合においては、学生は、所属研究室の指導教員から引き続き十分な研究指導を受けることができる。学生は、指導教員との相談により卒業研究のテーマを変更し、引き続き卒業研究に取り組む。指導教員は、当該学生の卒業研究のテーマ変更について、教務委員会に報告する。

②「2 年次 3 期・4 期に設定された技術分野にかかる実習科目を 1 科目以上履修している場合において、既に所属している研究室の扱う技術分野と同一の技術分野の範囲内で、研究室や卒業研究のテーマ変更を希望する場合」における変更後に十分な履修指導及び研究指導を受けられる体制

本場合においては、学生は、学年担任に研究室や卒業研究のテーマ変更を希望すること、変更希望先研究室や

変更後の卒業研究のテーマ・研究計画案について相談する。

学年担任は、当該学生からの相談内容を基に、従来所属している研究室の指導教員並びに変更希望先研究室の指導教員と、当該学生の所属研究室や卒業研究のテーマを変更することが適切であるかを協議し(この過程で必要があれば、当該学生と変更希望先研究室の指導教員との相談の場を調整する)、その結果をもって当該学生の所属研究室や卒業研究のテーマ変更について教務委員会に諮る。

教務委員会は検討結果を教授会に諮り、教授会での議論を経て、学部長が可否を決定して、当該学生へ最終的な変更可否の結果を通知する。

この過程を経て所属研究室や卒業研究のテーマ変更が認められた場合、当該学生は変更後の研究室の指導教員から卒業研究等に関して十分な指導を受けることが可能となる。

③「2 年次 3 期・4 期に設定された技術分野にかかる実習科目を複数科目履修している場合において、従来所属している研究室の扱う技術分野と異なる技術分野を扱う研究室や卒業研究のテーマに変更を希望する場合」における変更後に十分な履修指導及び研究指導を受けられる体制

本場合においては、学生は、学年担任に研究室や卒業研究のテーマ変更を希望すること、変更希望先研究室や変更後の卒業研究のテーマ・研究計画案について相談する。

学年担任は、当該学生からの相談内容を基に、従来所属している研究室の指導教員並びに変更希望先研究室の指導教員と、当該学生の所属研究室や卒業研究のテーマを変更することが適切であるかを協議し(この過程で必要があれば、当該学生と変更希望先研究室の指導教員との相談の場を調整する)、その結果をもって当該学生の所属研究室や卒業研究のテーマ変更について教務委員会に諮る。この際、技術分野の変更を伴うことから、当該学生における変更後の技術分野に関する習熟の状況、変更後の技術分野に関する専門発展科目での選択必修科目群その他科目の卒業までの履修計画等について、当該学生と十分に確認をする。

教務委員会は検討結果を教授会に諮り、教授会での議論を経て、学部長が可否を決定して、当該学生へ最終的な変更可否の結果を通知する。

この過程を経て所属研究室や卒業研究のテーマ変更が認められた場合、当該学生は変更後の研究室の指導教員から卒業研究等に関して十分な指導を受けることが可能となる。

④「2 年次 3 期・4 期に設定された技術分野にかかる実習科目として履修していない技術分野を扱う研究室や卒業研究のテーマに変更を希望する場合」における変更後に十分な履修指導及び研究指導を受けられる体制

本場合においては、学生は、変更を希望する技術分野について、2 年次 3 期・4 期に設定された当該技術分野にかかる実習科目を改めて履修することが必要となる。そのため、学年担任に研究室や卒業研究のテーマ変更を希望すること、変更希望先研究室や変更後の卒業研究のテーマ・研究計画案について相談するとともに、当該実習科目を履修する。

学年担任は、当該学生からの相談内容を基に、従来所属している研究室の指導教員並びに変更希望先研究室の指導教員と、当該学生の所属研究室や卒業研究のテーマを変更することが適切であるかを協議し(この過程で必要があれば、当該学生と変更希望先研究室の指導教員との相談の場を調整する)、その結果をもって当該学生の所属研究室や卒業研究のテーマ変更について教務委員会に諮る。この際、技術分野の変更を伴うことから、当該学生における変更後の技術分野に関する習熟の状況、変更後の技術分野に関する専門発展科目での選択必修科目群その他科目の卒業までの履修計画等について、当該学生と十分に確認をする。特に、教育課程の編成上、4 年間以上の学びを必要とすることとなるため、追加的な学費等の経済面の負担も含め、当該学生・学年担任・両指導教員間で十分な協議を経ることとする。

教務委員会は検討結果を教授会に諮り、教授会での議論を経て、学部長が可否を決定して、当該学生へ最終的な変更可否の結果を通知する。

この過程を経て所属研究室や卒業研究のテーマ変更が認められた場合、当該学生は変更後の研究室の指導教員から卒業研究等に関して十分な指導を受けることが可能となる。

いずれの場合においても、研究室や卒業研究のテーマ変更については、学生の学習面や場合によっては経済面での負担等が大きくなる。そのため、研究室や卒業研究のテーマ選択・変更に関し大きな影響を与える技術分野にかかる実習科目が設定された2年次の履修指導において、研究室や卒業研究のテーマの選択・変更の考え方について十分に学生に対して指導する。

(新旧対照表)

新	旧
<p>4. 2. 5. 総合科目 (前略) CP4-2 (略) ＜履修設定の考え方＞ (略) ＜学生が研究室や卒業研究のテーマの変更を希望した場合において、それらを変更した後に十分な履修指導及び研究指導を受けられる体制＞ 前述の通り、本学では、学生は2年次3期・4期に実習I等を1科目以上履修する。学生は、当該実習科目で履修した構成要素の技術分野について、3年次4期に専門発展科目での選択必修科目群の選択及び卒業研究を行う研究室や卒業研究のテーマを決定する設定とすることとしている。従って、学生が研究室や卒業研究のテーマの変更を希望する場合については、以下のように分類できる。</p> <p>① 2年次3期・4期に設定された技術分野にかかる実習科目を1科目以上履修している場合において、所属研究室は変更せずに、卒業研究のテーマの変更を希望する</p> <p>② 2年次3期・4期に設定された技術分野にかかる実習科目を1科目以上履修している場合において、従来所属している研究室の扱う技術分野と同一の技術分野の範囲内で、研究室や卒業研究のテーマ変更を希望する</p> <p>③ 2年次3期・4期に設定された技術分野にかかる実習科目を複数科目履修している場合において、従来所属している研究室の扱う技術分野と異なる技術分野を扱う研究室や卒業研究のテーマに変更を希望する</p> <p>④ 2年次3期・4期に設定された技術分野にか</p>	<p>4. 2. 5. 総合科目 (前略) CP4-2 (略) ＜履修設定の考え方＞ (略) (追加)</p>

かかる実習科目として履修していない技術分野を扱う研究室や卒業研究のテーマに変更を希望する

以下では、それぞれの場合に関して、研究室や卒業研究のテーマを変更した後に十分な履修指導及び研究指導を受けられる体制となっていることを明確に説明する。

①「2年次3期・4期に設定された技術分野にかかる実習科目を1科目以上履修している場合において、所属研究室は変更せずに、卒業研究のテーマの変更を希望する場合」における変更後に十分な履修指導及び研究指導を受けられる体制

本場合においては、学生は、所属研究室の指導教員から引き続き十分な研究指導を受けることができる。学生は、指導教員との相談により卒業研究のテーマを変更し、引き続き卒業研究に取り組む。指導教員は、当該学生の卒業研究のテーマ変更について、教務委員会に報告する。

②「2年次3期・4期に設定された技術分野にかかる実習科目を1科目以上履修している場合において、既に所属している研究室の扱う技術分野と同一の技術分野の範囲内で、研究室や卒業研究のテーマ変更を希望する場合」における変更後に十分な履修指導及び研究指導を受けられる体制

本場合においては、学生は、学年担任に研究室や卒業研究のテーマ変更を希望すること、変更希望先研究室や変更後の卒業研究のテーマ・研究計画案について相談する。

学年担任は、当該学生からの相談内容を基に、従来所属している研究室の指導教員並びに変更希望先研究室の指導教員と、当該学生の所属研究室や卒業研究のテーマを変更することが適切であるかを協議し(この過程で必要があれば、当該学生と変更希望先研究室の指導教員との相談の場を調整する)、その結果をもって当該学生の所属研究室や卒業研究のテーマ変更について教務委員会に諮る。

教務委員会は検討結果を教授会に諮り、教授会での議論を経て、学部長が可否を決定して、当該学生へ最終的な変更可否の結果を通知する。

この過程を経て所属研究室や卒業研究のテーマ変

更が認められた場合、当該学生は変更後の研究室の指導教員から卒業研究等に関して十分な指導を受けることが可能となる。

③「2年次3期・4期に設定された技術分野にかかる実習科目を複数科目履修している場合において、従来所属している研究室の扱う技術分野と異なる技術分野を扱う研究室や卒業研究のテーマに変更を希望する場合」における変更後に十分な履修指導及び研究指導を受けられる体制

本場合においては、学生は、学年担任に研究室や卒業研究のテーマ変更を希望すること、変更希望先研究室や変更後の卒業研究のテーマ・研究計画案について相談する。

学年担任は、当該学生からの相談内容を基に、従来所属している研究室の指導教員並びに変更希望先研究室の指導教員と、当該学生の所属研究室や卒業研究のテーマを変更することが適切であるかを協議し(この過程で必要があれば、当該学生と変更希望先研究室の指導教員との相談の場を調整する)、その結果をもって当該学生の所属研究室や卒業研究のテーマ変更について教務委員会に諮る。この際、技術分野の変更を伴うことから、当該学生における変更後の技術分野に関する習熟の状況、変更後の技術分野に関する専門発展科目での選択必修科目群その他科目の卒業までの履修計画等について、当該学生と十分に確認をする。

教務委員会は検討結果を教授会に諮り、教授会での議論を経て、学部長が可否を決定して、当該学生へ最終的な変更可否の結果を通知する。

この過程を経て所属研究室や卒業研究のテーマ変更が認められた場合、当該学生は変更後の研究室の指導教員から卒業研究等に関して十分な指導を受けることが可能となる。

④「2年次3期・4期に設定された技術分野にかかる実習科目として履修していない技術分野を扱う研究室や卒業研究のテーマに変更を希望する場合」における変更後に十分な履修指導及び研究指導を受けられる体制

本場合においては、学生は、変更を希望する技術分野について、2年次3期・4期に設定された当該

技術分野にかかる実習科目を改めて履修することが必要となる。そのため、学年担任に研究室や卒業研究のテーマ変更を希望すること、変更希望先研究室や変更後の卒業研究のテーマ・研究計画案について相談するとともに、当該実習科目を履修する。

学年担任は、当該学生からの相談内容を基に、従来所属している研究室の指導教員並びに変更希望先研究室の指導教員と、当該学生の所属研究室や卒業研究のテーマを変更することが適切であるかを協議(この過程で必要があれば、当該学生と変更希望先研究室の指導教員との相談の場を調整する)、その結果をもって当該学生の所属研究室や卒業研究のテーマ変更について教務委員会に諮る。この際、技術分野の変更を伴うことから、当該学生における変更後の技術分野に関する習熟の状況、変更後の技術分野に関する専門発展科目での選択必修科目群その他科目の卒業までの履修計画等について、当該学生と十分に確認をする。特に、教育課程の編成上、4年間以上の学びを必要とすることとなるため、追加的な学費等の経済面の負担も含め、当該学生・学年担任・両指導教員間で十分な協議を経ることとする。

教務委員会は検討結果を教授会に諮り、教授会での議論を経て、学部長が可否を決定して、当該学生へ最終的な変更可否の結果を通知する。

この過程を経て所属研究室や卒業研究のテーマ変更が認められた場合、当該学生は変更後の研究室の指導教員から卒業研究等に関して十分な指導を受けることが可能となる。

—
いずれの場合においても、研究室や卒業研究のテーマ変更については、学生の学習面や場合によっては経済面での負担等が大きくなる。そのため、研究室や卒業研究のテーマ選択・変更に特に大きな影響を与える技術分野にかかる実習科目が設定された2年次の履修指導において、研究室や卒業研究のテーマの選択・変更の考え方について十分に学生に対して指導する。

1 2. 【教員組織】

教員組織について、完成年度には 60 歳以上となる教員が全体の 4 分の 3 以上を占める計画となっているなど、教員組織の年齢構成に著しい偏りがあることから、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図る観点から、完成年度以前から教員組織の年齢構成の適正化を図ることが望まれる。このため、教員組織編製の将来構想について、開設後からどのような取組を実行し、教員組織の年齢構成の適正化を図るのか、より具体的に説明すること。

(対応)

◆「教員組織について、完成年度には 60 歳以上となる教員が全体の 4 分の 3 以上を占める計画となっているなど、教員組織の年齢構成に著しい偏りがある」について

本学の設置は、本法人においてこれまで設置した実績のない、新たな形態の教育組織を設置しようとする取り組みである。そのため、開学から完成年度までの期間を専門職大学としての基礎を固める期間と設定し、安定した大学運営・教学マネジメントを着実に実現する計画である。そのため、豊かな教育研究の実績・経験や知見を持つ教員を中心とした教員組織を構築することとした。

その結果として、教員候補者の年齢層がやや高齢に偏っており、完成年度における専任教員の年齢構成について、60 歳以上となる教員が全体の 4 分の 3 以上を占める見通しとなっている。この点について、設置基準第三十一条第 3 項「専門職大学は、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に著しく偏ることのないよう配慮するものとする。」の趣旨を踏まえていないように見受けられたため、本ご指摘をいただいたと理解している。

◆「教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図る観点から、完成年度以前から教員組織の年齢構成の適正化を図ることが望まれる。このため、教員組織編製の将来構想について、開設後からどのような取組を実行し、教員組織の年齢構成の適正化を図るのか、より具体的に説明すること。」について

ご指摘のとおり、設置基準第三十一条第 3 項の趣旨を踏まえ、多様性確保、教育研究の継続性、中長期的な教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化等の観点から、今後の教員採用については高齢のベテラン教員のみならず、若手教員・中堅教員を中心に採用を進めていく必要を認識している。

若手教員・中堅教員の採用計画を含めた具体的な教員組織の将来構想を以下に示す。専任教員の年齢構成については、完成年度末までに、**60 歳未満の若手教員・中堅教員と 60 歳以上の高齢のベテラン教員の割合が 3:7 となるよう計画する。**また、その次の 4 年度末までに、**60 歳未満の若手教員・中堅教員と 60 歳以上の高齢のベテラン教員の割合が 4:6 となるよう計画する。**

<教員組織の将来構想>

2023 年度末まで (開学年度)	年齢層	60 歳未満	60 歳以上	計
	新規採用予定	—	—	—
在籍者	6	17	23	
構成比	26%	74%	100%	
2024 年度末まで (2 年度目)	年齢層	60 歳未満	60 歳以上	計
	新規採用予定	1	—	1
	在籍者	6	18	24
	構成比	25%	75%	100%
2025 年度末まで	年齢層	60 歳未満	60 歳以上	計

(3年度目)	新規採用予定	1	-	1
	在籍者	7	18	25
	構成比	28%	72%	100%
2026年度末まで (完成年度)	年齢層	60歳未満	60歳以上	計
	新規採用予定	1	-	1
	在籍者	8	18	26
	構成比	31%	69%	100%
次の4年度末まで (8年度目)	年齢層	60歳未満	60歳以上	計
	新規採用予定	5	-	5
	定年退職者	-	4	4
	在籍者	11	16	27
	構成比	41%	59%	100%

(新旧対照表)

新	旧															
<p>5. 5. 完成年度以降の教員の採用計画 (前略)</p> <p>また、設置基準第三十一条第3項の趣旨を踏まえ、多様性確保、教育研究の継続性、中長期的な教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化等の観点から、今後の教員採用については、教員の構成が特定の範囲の年齢に著しく偏ることのないよう配慮する。前項で示した通り、特に30歳代、40歳代、50歳代の教員数が少ないため、今後の教員採用については、これらの年齢層の教員数を増やしていく。</p> <p><u>具体的な教員組織の将来構想を以下に示す。専任教員の年齢構成については、完成年度末までに、60歳未満の若手教員・中堅教員と60歳以上の高齢のベテラン教員の割合が3:7となるよう計画する。また、その次の4年度末までに、60歳未満の若手教員・中堅教員と60歳以上の高齢のベテラン教員の割合が4:6となるよう計画する。</u></p> <p style="text-align: center;"><u>表 5.2 : 教員組織の将来構想</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>2023年度末まで (開学年度)</th> <th>年齢層</th> <th>60歳未満</th> <th>60歳以上</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>新規採用予定</td> <td>二</td> <td>二</td> <td>二</td> </tr> <tr> <td></td> <td>在籍者</td> <td>6</td> <td>17</td> <td>23</td> </tr> </tbody> </table>	2023年度末まで (開学年度)	年齢層	60歳未満	60歳以上	計		新規採用予定	二	二	二		在籍者	6	17	23	<p>5. 5. 完成年度以降の教員の採用計画 (前略)</p> <p>また、設置基準第三十一条第3項の趣旨を踏まえ、多様性確保、教育研究の継続性、中長期的な教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化等の観点から、今後の教員採用については、教員の構成が特定の範囲の年齢に著しく偏ることのないよう配慮する。前項で示した通り、特に30歳代、40歳代、50歳代の教員数が少ないため、今後の教員採用については、これらの年齢層の教員数を増やしていく。</p> <p><u>(追加)</u></p>
2023年度末まで (開学年度)	年齢層	60歳未満	60歳以上	計												
	新規採用予定	二	二	二												
	在籍者	6	17	23												

	構成比	26%	74%	100%
2024年度末まで (2年度目)	年齢層	60歳未満	60歳以上	計
	新規採用予定	1	二	1
	在籍者	6	18	24
	構成比	25%	75%	100%
2025年度末まで (3年度目)	年齢層	60歳未満	60歳以上	計
	新規採用予定	1	二	1
	在籍者	7	18	25
	構成比	28%	72%	100%
2026年度末まで (完成年度)	年齢層	60歳未満	60歳以上	計
	新規採用予定	1	二	1
	在籍者	8	18	26
	構成比	31%	69%	100%
次の4年度末まで (8年度目)	年齢層	60歳未満	60歳以上	計
	新規採用予定	5	二	5
	定年退職者	二	4	4
	在籍者	11	16	27
	構成比	41%	59%	100%

13. 【施設・設備等】

自動車テストコースについて、当該コースを走行するテスト車両の最高速度を 30km/h に制限し、これを踏まえた安全措置(タイヤバリヤ及び固定式ガードレール)を講じる計画となっているが、テスト車両が構造的に 30km/h 以上の速度が出ない仕様・性能でない限り、人為的なミスや車両故障等により、制限速度以上の速度でコースアウトする可能性も想定される。このため、テスト車両の仕様・性能等を踏まえた十分な安全上の措置を適切に講じる計画であることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

本審査意見を受け、テスト車両の仕様・性能等を踏まえた十分な安全上の措置を適切に講じる計画であることについて、①テスト車両の電子制御システム等に関する方策、②人為的なミスの発生を減じる方策、③車両の不具合の有無を確認する方策を明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改める。

①テスト車両の電子制御システム等に関する対策

実験で車両を走行するテストコースの路面は、平地であり高低差による自然加速はない。試作するテスト車両は、マイクロコンピュータなどを用いた電子制御システムによって構成され駆動される。

当該テスト車両の制御システムについて、最高速度が 30km/h を超えないようプログラムするとともに、電子回路を設計する。また、車速が 25km/h を超えた場合にはアラーム音と光を発報し、実験者や周辺の者に知らせる機能を持たせる。車速が 30km/h に到達した場合には、強制的にすべての制御を停止モードにするシステム構造にする。

この措置に加え、当該制御システムが人為的なミスや車両故障により、30km/h を超えて走行しないように、車両に搭載される制御システムから独立した車速検出装置を別途設置する。当該装置には、車速が 25km/h を超えた場合にはアラーム音と光を発報し、実験者や周辺の者に知らせる機能を持たせる。また、車速が 30km/h に到達した場合には、モータ駆動回路への電源供給を機械的に遮断し、テスト車両を停止する機能を持たせる。これらの二重の安全機能を付加することによって、安全を確保して実験を実施する。

一方、市販の電気自動車を使用した走行実験では、車両の電子制御システムに変更を加えることができない。そのため、車両制御システムから独立した車速検出装置を設置する。当該装置には、車速が 25km/h を超えた場合にはアラーム音と光を発報し、実験者や周辺の者に知らせる機能を持たせる。また、車速が 30km/h に到達した場合には、モータ駆動回路への電源供給を機械的に遮断し、テスト車両を停止する機能を持たせる。

②人為的なミスの発生を減じる対策

搭乗者(車両の運転者含む)の安全を確保するために、テスト車両の制御システムについて、全員のシートベルト着用が確認できたときのみ走行できるシステムとする。また、運転者の勘違いによる操作や運転ミスを低減するために、実験を開始する前に十分な教育を行う。さらに、万が一、テスト車両が故障したり、制御不能な状況になったときでも、落ち着いて正しい手順で当該車両を安全に停止させることができるように、危険回避のための教育を行う。

③車両の不具合の有無を確認する対策

テスト車両に不具合がないかどうかを確認するために、確実にハンドル操作ができ、停止することが確認できる通路を用意する。実験を始める前に、この通路をテスト車両が正しく通過・停止できることを確認した後、実験を実施する。

コースアウトの可能性を極小化するため、以上のテスト車両の仕様・性能等を踏まえハード・ソフト両面から十分な安全上の措置を適切に講じることを計画する。

(新旧対照表)

新	旧
<p>8. 3. 2. 実習科目の目的や特性、履修する学生数と教材教具の整合性 (中略) ■テスト車両に講じる安全措置 (1) <u>テスト車両の電子制御システム等に関する対策</u> 実験で車両を走行するテストコースの路面は、平地であり高低差による自然加速はない。試作するテスト車両は、マイクロコンピュータなどを用いた電子制御システムによって構成され駆動される。 当該テスト車両の制御システムについて、最高速度が 30km/h を超えないようプログラムするとともに、電子回路を設計する。また、車速が 25km/h を超えた場合にはアラーム音と光を発報し、実験者や周辺の者に知らせる機能を持たせる。車速が 30km/h に到達した場合には、強制的にすべての制御を停止モードにするシステム構造にする。 この措置に加え、当該制御システムが人為的なミスや車両故障により、30km/h を超えて走行しないように、車両に搭載される制御システムから独立した車速検出装置を別途設置する。当該装置には、車速が 25km/h を超えた場合にはアラーム音と光を発報し、実験者や周辺の者に知らせる機能を持たせる。また、車速が 30km/h に到達した場合には、モータ駆動回路への電源供給を機械的に遮断し、テスト車両を停止する機能を持たせる。これらの二重の安全機能を付加することによって、安全を確保して実験を実施する。 一方、市販の電気自動車を使用した走行実験では、車両の電子制御システムに変更を加えることができない。そのため、車両制御システムから独立した車速検出装置を設置する。当該装置には、車速が 25km/h を超えた場合にはアラーム音と光を発報し、実験者や周辺の者に知らせる機能を持たせる。また、車速が 30km/h に到達した場合には、モータ駆動回路への電源供給を機械的に遮断し、テスト車両を停止する機能を持たせる。 (2) <u>人為的ミスの発生を減じる対策</u> 搭乗者(車両の運転者含む)の安全を確保するために、テスト車両の制御システムについて、全員のシー</p>	<p>8. 3. 2. 実習科目の目的や特性、履修する学生数と教材教具の整合性 (中略) (追加)</p>

トベルト着用が確認できたときのみ走行できるシステムとする。また、運転者の勘違いによる操作や運転ミス
低減するために、実験を開始する前に十分な教育を
行う。さらに、万が一、テスト車両が故障したり、制御
不能な状況になったときでも、落ち着いて正しい手順
で当該車両を安全に停止させることができるように、危
険回避のための教育を行う。

(3)車両の不具合の有無を確認する対策

テスト車両に不具合がないかどうかを確認するた
めに、確実にハンドル操作ができ、停止することが確認
できる通路を用意する。実験を始める前に、この通路を
テスト車両が正しく通過・停止できることを確認した
後、実験を実施する。

コースアウトの可能性を極小化するため、以上のテ
スト車両の仕様・性能等を踏まえ十分な物的・人的
両面から安全上の措置を適切に講じることを計画す
る。

14. 【施設・設備等】

本学科の教育研究分野は、昨今世界的にニーズが高まっており、係る研究や技術革新等が今後急速に進展することも想定されることから、将来にわたって絶えず社会の動向等を注視し、本学科の教育研究上必要となる図書等について、紙又は電子媒体の別によらず、適切に整備するための体制を構築すること。

(対応)

本審査意見を受け、本学科の教育研究上必要となる図書等について、紙又は電子媒体の別によらず、適切に整備するための体制を構築する。

本学学部学科の教育研究分野は、昨今世界的にニーズが高まっており、係る研究や技術革新等が今後急速に進展することも想定される。そのため、社会ニーズ等に対応して教育研究内容について不断の見直し等を行い、研究動向や技術革新等の進展を踏まえた教育研究を行うためには、将来にわたって絶えず社会の動向等を注視し、本学学部学科の教育研究上必要となる図書等について、紙又は電子媒体の別によらず、適切に整備することが必要である。

こうした課題に対応するための体制として、学内委員会の一つである「教務委員会」の中に「図書部会」を設けることとする。本部会は、電気自動車の構成要素である「電池」「モーター・インバータ」「車体」「自動運転」の各技術分野から選出された教務委員会委員、図書館長、図書館専門職員（司書）で構成する。本部会では、絶えず本学科の教育研究分野の研究動向や技術革新等の進展を調査し、教育研究を行ううえで必要となる図書等を紙又は電子媒体の別によらず選出し、整備すべき図書等一覧の案を作成する。教務委員会は、本部会の作成した整備すべき図書等一覧の案を精査・審議し、議を経て図書等の購入手続きを行うとともに、その結果を教授会に報告する。

本部会を整備することを明記した教務委員会規程案を資料○として添付する。

(新旧対照表)

新	旧
<p>8. 4. 5. <u>将来にわたって、教育研究上必要となる図書等を適切に整備するための体制</u></p> <p><u>本学学部学科の教育研究分野は、昨今世界的にニーズが高まっており、係る研究や技術革新等が今後急速に進展することも想定される。そのため、社会ニーズ等に対応して教育研究内容について不断の見直し等を行い、研究動向や技術革新等の進展を踏まえた教育研究を行うためには、将来にわたって絶えず社会の動向等を注視し、本学学部学科の教育研究上必要となる図書等について、紙又は電子媒体の別によらず、適切に整備することが必要である。</u></p> <p><u>こうした課題に対応するための体制として、学内委員会の一つである「教務委員会」の中に「図書部会」を設けることとする。本部会は、電気自動車の構成要素である「電池」「モーター・インバータ」「車体」「自動運転」の各技術分野から選出された教務委員会委</u></p>	(追加)

員、図書館長、図書館専門職員（司書）で構成する。本部会では、絶えず本学科の教育研究分野の研究動向や技術革新等の進展を調査し、教育研究を行ううえで必要となる図書等を紙又は電子媒体の別によらず選出し、整備すべき図書等一覧の案を作成する。教務委員会は、本部会の作成した整備すべき図書等一覧の案を精査・審議し、議を経て図書等の購入手続き行うとともに、その結果を教授会に報告する。

本部会を整備することを明記した教務委員会規程案を資料○として添付する。

15. 【人材需要の社会的動向・学生確保の見直し】

中長期的な18歳人口の動向分析に関し、東北地方全体の18歳人口の減少割合が全国平均値よりも高くなっていることから、中長期的な学生確保の観点から、受験生や高等学校関係者等に対する継続的な周知や、受験生や社会のニーズに応じた教育課程の不断の見直し等に取り組むことが必要と考えられるため、それらに対する開設後の具体的な取組について明確に説明すること。

(対応)

本審査意見を受け、中長期的な学生確保の観点から、①受験生や高等学校関係者等に対する継続的な周知や、②受験生や社会のニーズに応じた教育課程の不断の見直し等に取り組むことが必要と考えられるため、それらに対する開設後の具体的な取組について明確に説明する。

①開設後における受験生や高等学校関係者等に対する継続的な周知に関する具体的な取組

当初申請「学生の確保等の見直し等を記載した書類」では、学生確保に向けた体制・活動を「1. 2. 学生確保に向けた具体的な取組状況」において説明している。具体的には、教職員で構成する広報委員会（学生募集・広報）を中心とする実施体制によって、受験生や高等学校関係者等に向けたダイレクトメール送付・パンフレット配布・ホームページやSNS等インターネット媒体での情報発信、オープンキャンパス・学校見学会、高校の先生からの情報やアドバイスを促したり、高校生に直接本学での教育研究分野の重要性を出前講義等で訴えかけるための高校訪問等を実施することとしている。また、中長期的な学生確保の観点から将来の潜在的な受験生を育て確保するために、小中高生を対象としたEV教室を開催し(一期生の入学後は、本学の在学生在が当該EV教室を企画・運営)、本学についても紹介するなどの情報発信を行うこととしている。

開設後においても、受験生や高等学校関係者等に対する継続的な周知については、当該取組を継続する。発信する情報に関しては、在学生在が実際に学んでいる様子(講義風景・実習風景等)や在学生在やその親の声など、受験生や高等学校関係者等が本学での学びを具体的に想像できるようになるための情報を追加していく。

なお、当初申請「学生の確保等の見直し等を記載した書類」を改めて点検したところ、「1. 2. 学生確保に向けた具体的な取組状況」において、本来「広報委員会（学生募集・広報）」と記載するところを「入試委員会（学生募集・広報）」と記載していた箇所が確認された。上記説明の追記に合わせて適切に改める。

②開設後における受験生や社会のニーズに応じた教育課程の不断の見直し等に関する具体的な取組

当初申請では、受験生や社会のニーズに応じた教育課程の不断の見直し等に関する具体的な取組の考え方を「4. 4. 教育課程改善の考え方」において説明している。具体的には、教育課程の編成や授業科目の設置に関しては、社会情勢や産業界のニーズ(社会ニーズ)および受験生ニーズを踏まえ、課程の再編成、授業科目の改善・新規科目開発を検討していく。そのために、教育課程連携協議会では、臨地実務実習先であったり、卒業後の進路となる産業界及び地域社会(学生の出口側)、本学に学生を送り込む中等教育機関(学生の入り口側)、その他有識者と、受入側の本学教員が連携し、授業科目、教育課程の実施状況の評価に関する事項について審議し、改善提案を行う。それを受け、教授会にて教育課程の再編成、教材や授業科目等の改善に関する議論を行うこととしている。

開設後の具体的な取組としては、この考え方に基づき、教務委員会が中心となって社会ニーズおよび受験生ニーズを把握するための取組を継続して行う。社会ニーズ把握の取組として、自動車メーカー・部品メーカー等の現役社員で

もある実務家教員から現場ニーズを聴取するほか、臨地実務実習や就職委員会の諸活動で接する企業を中心にヒアリング調査を行う。また、自動車技術会、電気自動車普及協会、日本機械学会等の関連学協会の学術大会や研究会等において、本学教員が当該学協会の会員との意見交換を行う。意見交換を行った各教員は、教務委員会にその内容を共有する。教務委員会は、これらの取組により把握した社会ニーズを教育課程連携協議会や教授会に対して報告する。受験生ニーズの把握の取組として、高校訪問時に高校の進路担当教員へのヒアリング調査を実施したり、定期的に高校生アンケート調査を実施する。教務委員会は、これらの取組により把握した受験生ニーズを教育課程連携協議会や教授会に対して報告する。

把握した社会ニーズ、受験生ニーズや教育課程連携協議会での議論を踏まえ、教務委員会は教育課程の再編成、授業科目の改善・新規科目開発教育課程の見直しの原案を作成し、教育課程連携協議会へ諮る。教育課程連携協議会では本原案を審議し、教授会へ改善提案を行う。それを受け、教授会にて教育課程の再編成、教材や授業科目等の改善に関する議論を行う。

以上、中長期的な学生確保の観点から実施する①受験生や高等学校関係者等に対する継続的な周知や、②受験生や社会のニーズに応じた教育課程の不断の見直し等の開設後の具体的な取組に関する説明を学生の確保等の見直し等を記載した書類、設置の趣旨等を記載した書類において明示する。

(新旧対照表)

新	旧
学生の確保等の見直し等を記載した書類	
<p>1. 2. 1. 学生確保に向けた体制</p> <p>学生確保に向けた学内体制としては、「<u>広報委員会</u>（学生募集・広報）」を設置する。認可・開学を待たずに、本法人準備室を中心に先行設置して、学生募集に向けた各種広報・宣伝活動(削除)関連事務を遂行する。人員体制としては、教員候補（専任教員候補を中心として学長候補と学部長・学科長候補を含む5名程度）及び事務職員（3名）で構成する。同委員会は年間計画と予算案を作成し、理事会の承認を受けたうえで活動を行い、募集定員を満たす学生数を確保する。</p>	<p>1. 2. 1. 学生確保に向けた体制</p> <p>学生確保に向けた学内体制としては、「<u>入試委員会</u>（学生募集・広報）」を設置する。認可・開学を待たずに、本法人準備室を中心に先行設置して、学生募集に向けた各種広報・宣伝活動、<u>入試</u>関連事務を遂行する。人員体制としては、教員候補（専任教員候補を中心として学長候補と学部長・学科長候補を含む5名程度）及び事務職員（3名）で構成する。同委員会は年間計画と予算案を作成し、理事会の承認を受けたうえで活動を行い、募集定員を満たす学生数を確保する。</p>
<p>1. 2. 2. 学生確保に向けた活動 (中略)</p> <p>(3) 受験生が受動的・双方向的に情報を入手する経路に関する施策</p> <p>①オープンキャンパス・学校見学会、高校の先生からの情報やアドバイス (前略)</p> <p>「高校の先生からの情報やアドバイス」を促すには、本学教職員が高校などを直接訪問する、あるいは本学への来訪を促して進路担当や各教職員へ適切に情報を提供して、受験生への進路指導の際に助言してもらうことが重要となる。そのために、本学<u>広報委員</u></p>	<p>1. 2. 2. 学生確保に向けた活動 (中略)</p> <p>(3) 受験生が受動的・双方向的に情報を入手する経路に関する施策</p> <p>①オープンキャンパス・学校見学会、高校の先生からの情報やアドバイス (前略)</p> <p>「高校の先生からの情報やアドバイス」を促すには、本学教職員が高校などを直接訪問する、あるいは本学への来訪を促して進路担当や各教職員へ適切に情報を提供して、受験生への進路指導の際に助言してもらうことが重要となる。そのために、本学<u>入試委員</u></p>

<p>会の教職員が、山形県および東北地域を普通高校・専門高校等、全国の電気自動車工学関連を教育課程に含んでいる工業高校、モビリティに関する活動が盛んな高校（部活動・クラブ・サークルがある、エコ1チャレンジカップなど、関連する大会等に参加している等）を訪問し、パンフレット等を用いて情報提供したり、本学への来訪(オープンキャンパス等への参加含む)を促すとともに、人的ネットワークを構築する。また、受験生に手に取ってもらうために、パンフレットの設置・配布を依頼する。高校訪問・アプローチの目標として、山形県内の高校訪問目標を公立 42 校・私立 14 校、その他高校への訪問・アプローチの目標を 50 校(東北他地域の高校、エコランやエコパワー全国大会参加校を中心)と設定する。</p>	<p>会の教職員が、山形県および東北地域を普通高校・専門高校等、全国の電気自動車工学関連を教育課程に含んでいる工業高校、モビリティに関する活動が盛んな高校（部活動・クラブ・サークルがある、エコ1チャレンジカップなど、関連する大会等に参加している等）を訪問し、パンフレット等を用いて情報提供したり、本学への来訪(オープンキャンパス等への参加含む)を促すとともに、人的ネットワークを構築する。また、受験生に手に取ってもらうために、パンフレットの設置・配布を依頼する。高校訪問・アプローチの目標として、山形県内の高校訪問目標を公立 42 校・私立 14 校、その他高校への訪問・アプローチの目標を 50 校(東北他地域の高校、エコランやエコパワー全国大会参加校を中心)と設定する。</p>
<p><u>1. 2. 3. 開設後における受験生や高等学校関係者等に対する継続的な周知に関する具体的な取組</u></p> <p>開設後においても、<u>受験生や高等学校関係者等に対する継続的な周知については、当該体制・取組を継続する。発信する情報に関しては、在学生在が実際に学んでいる様子(講義風景・実習風景等)や在学生やその親の声など、受験生や高等学校関係者等が本学での学びを具体的に想像できるようになるための情報を追加していく。</u></p>	<p>(追加)</p>
<p>設置の趣旨等を記載した書類</p>	
<p>4. 4. <u>教育課程改善の考え方</u></p> <p>教育課程の編成や授業科目の設置<u>に関して</u>は、<u>社会情勢や産業界のニーズ(社会ニーズ)および受験生のニーズ</u>を踏まえ、課程の再編成、授業科目の改善・新規科目開発を検討していく。そのために、教育課程連携協議会では、臨地実務実習先であったり、卒業後の進路となる産業界及び地域社会(学生の出口側)、本学に学生を送り込む中等教育機関(学生の入り口側)、<u>その他有識者と、受入側の本学教員が連携し、授業科目、教育課程の実施状況の評価に関する事項について審議し、改善提案を行う。それを受け、教授会にて教育課程の再編成、教材や授業科目等の改善に関する議論を行う。</u></p> <p><u>開設後の具体的な取組としては、この考え方に基</u>づき、<u>教務委員会が中心となって社会ニーズおよび受験生ニーズを把握するための取組を継続して行う。社会ニーズ把握の取組として、自動車メーカー・部品メー</u></p>	<p>4. 4. <u>教育課程改善の考え方</u></p> <p>教育課程の編成や授業科目の設置(追加)は、<u>社会情勢や産業界のニーズ(追加)および学生のニーズ</u>を踏まえ、課程の再編成、授業科目の改善・新規科目開発を検討していく。そのために、教育課程連携協議会では、臨地実務実習先であったり、卒業後の進路となる産業界及び地域社会(学生の出口側)、本学に学生を送り込む中等教育機関(学生の入り口側)、<u>その他有識者と、受入側の本学教員が連携し、授業科目、教育課程の実施状況の評価に関する事項について審議し、改善提案を行う。それを受け、教授会にて教育課程の再編成、教材や授業科目等の改善に関する議論を行う。</u></p> <p>(追加)</p>

カー等の現役社員でもある実務家教員から現場ニーズを聴取するほか、臨地実務実習や就職委員会の諸活動で接する企業を中心にヒアリング調査を行う。また、自動車技術会、電気自動車普及協会、日本機械学会等の関連学協会の学術大会や研究会等において、本学教員が当該学協会の会員との意見交換を行う。意見交換を行った各教員は、教務委員会にその内容を共有する。教務委員会は、これらの取組により把握した社会ニーズを教育課程連携協議会や教授会に対して報告する。受験生ニーズの把握の取組として、高校訪問時に高校の進路担当教員へのヒアリング調査を実施したり、定期的に高校生アンケート調査を実施する。教務委員会は、これらの取組により把握した受験生ニーズを教育課程連携協議会や教授会に対して報告する。

把握した社会ニーズ、受験生ニーズや教育課程連携協議会での議論を踏まえ、教務委員会は教育課程の再編成、授業科目の改善・新規科目開発教育課程の見直しの原案を作成し、教育課程連携協議会へ諮る。教育課程連携協議会では本原案を審議し、教授会へ改善提案を行う。それを受け、教授会にて教育課程の再編成、教材や授業科目等の改善に関する議論を行う。

【教育課程等】

設置審査において、「人間工学入門」の授業内容に関して、「『人間の知覚特性に即したメーターの設計』が中心になっているが、ステアリング（ハンドル）やペダルなどの操作系に関連した授業内容も必要ではないか。」というご意見があり、適切に改める。

(対応)

本審査意見を受け、「人間工学入門」の授業計画を見直し、適切に改める。

「人間工学入門」では、ヒトとプロダクトとの関係性を考えるための人間工学的視点、および、安全性とヒューマンエラーを解説し、実際に実験を通して、メーターの読み取りやすさを評価する方法を体験学習する授業計画になっていた。

しかし、設置審査において、「メーターのみでなく、ステアリング（ハンドル）やペダルなどの操作系も必要ではないか。」というご意見があったことを受け(文部科学省高等教育局高等教育企画課大学設置室との設置申請にかかる事務相談において受領)、当該授業計画を点検した。その結果、操作系に関する授業内容も必要であると判断し、当該科目の授業計画を改めることとした。

具体的には、人間工学的アプローチを学び、新たな操作系・室内空間に求められる高い快適性と安全性の実現に必要な、ヒトに対する基礎的知識、及び、デザイン評価手法を学ぶ計画とした。授業計画の前半は、ヒトとプロダクトとの関係性を考えるための人間工学的視点、安全性とヒューマンエラー、および、主観評価法を学修し、後半では、新たな操作系・室内空間を持った車両の提案および評価をグループワークで実施するように授業計画を変更した。

【教員組織等】

自動運転関連の科目を担当する専任教員について、新規採用により交代することとしたため、これに伴い該当箇所の修正を行う。

(対応)

自動運転関連の以下の科目を担当する専任教員について、高橋久教授/学部長兼学科長候補者の負担軽減を考慮し、新たに採用することとなった古川修氏(芝浦工業大学名誉教授、交通安全環境研究所客員研究員、明治大学自動運転社会総合研究所客員研究員)に変更することとした。これに伴い、設置の趣旨等を記載した書類他、添付資料等(審査意見対応(3月)資料 5,6,7)を修正する。

<高橋教授から古川教授への移行対象科目>

- 講義科目：自動運転システム基礎、自動運転におけるセンシング技術、自動運転のための制御技術
- 実習科目：自動運転システム実習Ⅰ、自動運転システム実習Ⅱ、自動運転システム実習Ⅲ

(新旧対照表)

設置の趣旨等を記載した書類	
新	旧
5. 1. 1. 学長候補をはじめとする人材の集結 (前略) (2)代表的な教員候補 (中略) 自動運転：古川修氏は、長年にわたり芝浦工業大学で自動運転関連の講義・演習等で教鞭をとってきた経験豊かな教員である。 (後略)	5. 1. 1. 学長候補をはじめとする人材の集結 (前略) (2)代表的な教員候補 (中略) 自動運転：高橋久氏は、長年にわたり静岡理科大学で自動運転関連の講義・演習等で教鞭をとってきた経験豊かな教員である。 (後略)
5. 1. 2. 教員の構成等 開設年度における専任教員数は <u>23</u> 人である。開設年度における専任教員 <u>23</u> 人 (みなし専任 3 人含む) の内訳は、教授 <u>14</u> 人 (うち博士 <u>8</u> 人、修士 6 人)、准教授 6 人 (うち修士 3 人、学士 3 人)、講師 2 人 (うち学士 2 人)、助教 1 人 (うち学士 1 人) である。 専任教員 <u>23</u> 人のうち、 <u>12</u> 人が職業経験のある実務家教員である。実務家教員は、企業にて各専門分野の開発等を行ってきた各分野のエンジニアやプロダクトデザイナーであり、企業における 5 年以上の実務経験がある者である。また、実務経験のみならず、特許取得状況やアワードの受賞経験も考慮している。また、実務家教員の <u>12</u> 人のうち、 <u>5</u> 人が博士号を、 <u>5</u> 人が修士号を取得している。また、 <u>3</u> 人が大学等での教育歴や一般向けのセミナーの講師歴、または教材等の開発歴	5. 1. 2. 教員の構成等 開設年度における専任教員数は <u>22</u> 人である。開設年度における専任教員 <u>22</u> 人 (みなし専任 3 人含む) の内訳は、教授 <u>13</u> 人 (うち博士 <u>7</u> 人、修士 6 人)、准教授 6 人 (うち修士 3 人、学士 3 人)、講師 2 人 (うち学士 2 人)、助教 1 人 (うち学士 1 人) である。 専任教員 <u>22</u> 人のうち、 <u>11</u> 人が職業経験のある実務家教員である。実務家教員は、企業にて各専門分野の開発等を行ってきた各分野のエンジニアやプロダクトデザイナーであり、企業における 5 年以上の実務経験がある者である。また、実務経験のみならず、特許取得状況やアワードの受賞経験も考慮している。また、実務家教員の <u>11</u> 人のうち、 <u>4</u> 人が博士号を、 <u>5</u> 人が修士号を取得している。また、 <u>2</u> 人が大学等での教育歴や一般向けのセミナーの講師歴、または教材等の開発歴

がある。このように、本学の実務家教員は実務経験・能力等に加えて、研究教育能力を併せ持っている。実務家教員の教授、准教授等の職位の区分は、当該教員の教育歴、実務の実績、研究や特許等の業績、学位を総合的に勘案し、配置している。

(後略)

5. 2. 1. 主要授業科目の考え方、専任教員配置の考え方
(前略)
(2)主要授業科目への専任教員配置の考え方
(中略)
表 5.1：主要授業科目への専任教員配置状況

■職業専門科目(工学基礎科目) (略)
■職業専門科目(専門基礎科目)

科目名	教員名	職位
(中略)		
自動運転システム基礎	古川	教授
(中略)		
自動運転システム実習 I	古川	教授
(後略)		

■職業専門科目(専門発展科目)

科目名	教員名	職位
(中略)		
自動運転におけるセンシング技術	古川	教授
自動運転システム実習 II	古川	教授
(後略)		

5. 4. 教員の年齢構成
本学の完成時における専任教員 23 名の年齢構成は、別記様式 3 号 (その 3 の 1) に記載のとおり、30 歳代が 1 名、40 歳代が 2 名、50 歳代が 2 名、60 歳代が 10 名、70 歳代以上が 8 名である。60 歳代以上の教員は、大学等や民間企業での研究開発実績が豊富な実力者である。

本学の定年は本学の就業規則 20 条に定められた定年規定に則り 81 歳とする。70 歳以上の専任教員 8 名が在職する件については、いずれも特に電気自動車業界に関する知見や人脈が豊富な人物であり、それぞれの豊富な経験や知見を本学の科目開発に取り入れ、より質の高い教育研究カリキュラムを編成するためである。該当教員のノウハウを教育研究活動に取り入れて教材開発を行い、次世代の教員へと受け継ぐことを計画している。

がある。このように、本学の実務家教員は実務経験・能力等に加えて、研究教育能力を併せ持っている。実務家教員の教授、准教授等の職位の区分は、当該教員の教育歴、実務の実績、研究や特許等の業績、学位を総合的に勘案し、配置している。

(後略)

5. 2. 1. 主要授業科目の考え方、専任教員配置の考え方
(前略)
(2)主要授業科目への専任教員配置の考え方
(中略)
表 5.1：主要授業科目への専任教員配置状況

■職業専門科目(工学基礎科目) (略)
■職業専門科目(専門基礎科目)

科目名	教員名	職位
(中略)		
自動運転システム基礎	高橋久	教授
(中略)		
自動運転システム実習 I	高橋久	教授
(後略)		

■職業専門科目(専門発展科目)

科目名	教員名	職位
(中略)		
自動運転におけるセンシング技術	高橋久	教授
自動運転システム実習 II	高橋久	教授
(後略)		

5. 4. 教員の年齢構成
本学の完成時における専任教員 22 名の年齢構成は、別記様式 3 号 (その 3 の 1) に記載のとおり、30 歳代が 1 名、40 歳代が 2 名、50 歳代が 2 名、60 歳代が 10 名、70 歳代以上が 7 名である。60 歳代以上の教員は、大学等や民間企業での研究開発実績が豊富な実力者である。

本学の定年は本学の就業規則 20 条に定められた定年規定に則り 81 歳とする。70 歳以上の専任教員 7 名が在職する件については、いずれも特に電気自動車業界に関する知見や人脈が豊富な人物であり、それぞれの豊富な経験や知見を本学の科目開発に取り入れ、より質の高い教育研究カリキュラムを編成するためである。該当教員のノウハウを教育研究活動に取り入れて教材開発を行い、次世代の教員へと受け継ぐことを計画している。

10. 2. 5. 学内における指導体制

本学における臨地実務実習は、2名の臨地実務実習主担当教員を中心に複数の教員による指導体制とする。主担当教員は、令和5年4月就任予定の2名の専任教員、高橋 久教授／学部長兼学科長（現職：学校法人 静岡理工科大学 客員教授）と、金子郁枝教授（現職：有限会社芳尾電気化学研究所・代表取締役）が務める。技術分野ごとにグループ化した複数教員による指導体制により、学内における事前・事後の学生指導、実施中の相談、臨地実務実習先に赴く巡回指導、臨地実務実習先との調整などに対応する。巡回指導計画を資料 10-4 に示す。

なお、各グループにおける主担当教員とグループを構成する教員については下表のとおりである。

表 10.1：臨地実務実習の指導体制

グループ名	主担当教員	構成する教員	担当企業等
(中略)			
自動運転	古川	城ヶ崎、大崎、澤瀬	・臨地実務実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの全企業

10. 2. 5. 学内における指導体制

本学における臨地実務実習は、2名の臨地実務実習主担当教員を中心に複数の教員による指導体制とする。主担当教員は、令和4年4月就任予定の2名の専任教員、高橋 久教授／学部長兼学科長（現職：学校法人 静岡理工科大学 客員教授）と、金子郁枝教授（現職：有限会社芳尾電気化学研究所・代表取締役）が務める。技術分野ごとにグループ化した複数教員による指導体制により、学内における事前・事後の学生指導、実施中の相談、臨地実務実習先に赴く巡回指導、臨地実務実習先との調整などに対応する。巡回指導計画を資料 10-4 に示す。

なお、各グループにおける主担当教員とグループを構成する教員については下表のとおりである。

表 10.1：臨地実務実習の指導体制

グループ名	主担当教員	構成する教員	担当企業等
(中略)			
自動運転	高橋 久	城ヶ崎、大崎、澤瀬	・臨地実務実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの全企業

別記様式第3号（その2の1）教員の氏名等

新										旧				
新規	2	実(研)	教授	フルカワ 古川 ヨシキ 修 ＜令和5年4月＞	75	博士(工学)	500	自動運転システム基礎 自動運転システム実習Ⅰ 自動運転に向けたセンシング技術 ※ 自動運転のための制御技術 ※ 自動運転システム実習Ⅱ 自動運転システム実習Ⅲ 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2② 2③④ 3④ 3④ 3④ 4① 1② 2④ 3②③ 1③④ 2①② 2③④～3① 3④ 4通	2 2 0.9 1.1 2 2 1 9 10 1 1 1 1 4	1 2 1 1 2 2 1 1 2 1 1 1 1 1	明治大学自動運転社 学会研究員 客員研究員 (平成14.12)	5日	(追加)

別記様式第3号（その4）実務の経験等を有する専任教員一覧

新										旧
9	2	実(研)	実(研)	教授	フルカワ 古川 ヨシキ 修 ＜令和5年4月＞	24年6月	1977.10～ 2002.3	本田技術研究所において4輪操舵システム、自動運転、人間型ロボット、先進安全運転支援システムなどの開発に従事し、開発責任者、主任研究員等の役職を歴任	保有学位：博士(工学) 2002.4～2013.3芝浦工業大学教授 衝突回避支援システム等に関する教育、研究に従事 2013.4～2018.3芝浦工業大学大学院 特任教授 産学連携担当	(追加)

別記様式第3号(その3の1) 専任教員の年齢構成・学位保有状況

新											旧														
職位	学位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合	計	備	考	職位	学位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合	計	備	考
教授	博士	人	人	人	人	3人	1人	4人	8人				博士	人	人	人	人	3人	1人	3人	7人	7人			
	修士	人	人	人	人	1人	3人	2人	6人				修士	人	人	人	人	1人	3人	2人	6人	6人			
	学士	人	人	人	人	人	人	人	人				学士	人	人	人	人	人	人	人	人	人			
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人				短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	人			
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人				その他	人	人	人	人	人	人	人	人	人			
(中略)											(中略)														
合計	博士	人	人	人	人	3人	1人	4人	8人				博士	人	人	人	人	3人	1人	3人	7人	7人			
	修士	人	人	1人	2人	1人	3人	2人	9人				修士	人	人	1人	2人	1人	3人	2人	9人	9人			
	学士	人	1人	1人	人	人	2人	2人	6人				学士	人	1人	1人	人	人	2人	2人	6人	6人			
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人				短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	人			
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人				その他	人	人	人	人	人	人	人	人	人			

別記様式第3号(その3の2) 専任教員の年齢構成・学位保有状況

(専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の実務の経験等を有する専任教員)

新											旧														
職位	学位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合	計	備	考	職位	学位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合	計	備	考
教授	博士	人	人	人	人	2人	1人	2人	5人				博士	人	人	人	人	2人	1人	1人	4人	4人			
	修士	人	人	人	人	1人	2人	1人	4人				修士	人	人	人	人	1人	2人	1人	4人	4人			
	学士	人	人	人	人	人	人	人	人				学士	人	人	人	人	人	人	人	人	人			
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人				短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	人			
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人				その他	人	人	人	人	人	人	人	人	人			
(中略)											(中略)														
合計	博士	人	人	人	人	2人	1人	2人	5人				博士	人	人	人	人	2人	1人	1人	4人	4人			
	修士	人	人	人	人	1人	2人	1人	5人				修士	人	人	人	人	1人	2人	1人	5人	5人			
	学士	人	人	人	人	人	人	人	人				学士	人	人	人	人	人	人	人	人	人			
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人				短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	人			
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人				その他	人	人	人	人	人	人	人	人	人			

【管理運営】

本学の経営と教育を監査することを専門的に行う監事について、体調不良に伴い交代することとなったため、これに伴い該当箇所の修正を行う。

(対応)

本学の経営と教育を監査することを専門的に行う小田公彦監事について、体調不良に伴い令和4年2月3日理事会決定をもって交代することとなった。これに伴い、同理事会決定に基づき、新たに元鶴岡工業高等専門学校学校長・元独立行政法人国立高等専門学校機構参与を歴任してきた加藤靖氏を監事とすることとした。

加藤監事においても、豊富な教員経験および学校・法人運営に対して高度な知見を有することから、本学の経営と教育を監査することを専門的に行う監事としてふさわしい人材である。

また、監事について記した設置の趣旨等を記載した書類「11.3.2. 監事監査の充実に向けた方策、監事の支援体制の整備計画等」において、本来「監査室」と記載すべきところを誤って「監事室」と記載していた。この点についても併せて修正する。

なお、本対応に関連して、審査意見対応(3月)資料8を新たに設置の趣旨等を記載した書類の添付資料として追加する。

(新旧対照表)

新	旧
<p>11.3.2. 監事監査の充実に向けた方策、監事の支援体制の整備計画等</p> <p>法人本部から遠隔地に本学を設置することを踏まえ、また改正私立学校法(令和2年4月1日施行、資料11-4)の趣旨の一つであるガバナンス強化、特に監事機能の充実の要請に対して、教学監査を含む監事監査の充実を図るため、監事機能の充実のため事務室職員が本学監事を支援するための体制として、法人本部事務室内に「監査室」を設置している。</p> <p>また、豊富な教員経験および学校・法人運営に高度な知見を有し、本学の経営と教育を監査することを専門的に行う新たな監事を任用した。具体的には、元鶴岡工業高等専門学校学校長・元独立行政法人国立高等専門学校機構参与を歴任してきた加藤靖氏を学校法人の監事とした(令和4年2月3日理事会決定、(削除)資料11-5)。</p> <p>加えて、本学においても、事務体制の一部として新たに監査室を設置する。ここには常勤職員として監事室長(兼務)を配置し、且つ事務員(兼務)も配置して、前項において示した加藤監事を中心とした監査が滞りなく行える体制とする。</p>	<p>11.3.2. 監事監査の充実に向けた方策、監事の支援体制の整備計画等</p> <p>法人本部から遠隔地に本学を設置することを踏まえ、また改正私立学校法(令和2年4月1日施行、資料11-4)の趣旨の一つであるガバナンス強化、特に監事機能の充実の要請に対して、教学監査を含む監事監査の充実を図るため、監事機能の充実のため事務室職員が本学監事を支援するための体制として、法人本部事務室内に「監事室」を設置している。</p> <p>また、大学運営に高度な知見を有し、本学の経営と教育を監査することを専門的に行う新たな監事を任用した。具体的には、元文部科学省科学技術・学術政策局長、元国立高等専門学校機構理事、国立大学法人山形大学において研究プロジェクト戦略室教授を歴任してきた小田公彦氏を学校法人の監事とした(令和2年5月26日理事会決定、再掲：資料11-2)。</p> <p>加えて、本学においても、事務体制の一部として新たに監事室を設置する。ここには常勤職員として監事室長(兼務)を配置し、且つ事務員(兼務)も配置して、前項において示した小田監事を中心とした監査が滞りなく行える体制とする。</p>

【人材需要の社会的動向・学生確保の見通し】

高校生アンケートについて、追加調査を行ったため、その結果を設置の趣旨等を記載した書類及び学生の確保等の見通し等を記載した書類に反映する。

(対応)

高校生アンケートについて、追加調査を行ったため、その結果を「設置の趣旨等を記載した書類」及び「学生の確保等の見通し等を記載した書類」に反映するとともに、学生の確保等の見通し等を記載した書類添付資料 14,15 を差し替える(他の資料番号変更に伴い、資料番号は資料 15,16 となる)。

なお、本対応に関連して、審査意見対応(3月)資料 9 を修正した。

(新旧対照表)

設置の趣旨等を記載した書類	
新	旧
1. 2. 4. 専門職大学設置の必要性 (中略) (3)ニーズの裏付け ①高校生を対象とした受験・入学意向調査(入口調査) 詳細は、「学生確保の見通し等を記載した書類」において示す通り、当該年度受験・入学予定学年の <u>9,060</u> 名の高校 2 年生から回答を得た受験・入学意向調査では、「4 年制大学 (専門職大学を含む) に進学」と回答した <u>5,851</u> 名のうち、受験意向を示す回答(「受験したい」「検討したい」の合計)の数は <u>675</u> 名であった。この回答者のうち、本学に合格した場合「入学したい」との回答数は <u>77</u> 名、「併願先の結果によっては入学したい」との回答数は <u>527</u> 名の計 <u>604</u> 名であり、入学定員 <u>40</u> 名の <u>15</u> 倍を超える入学意向を確認できた。 (後略)	1. 2. 4. 専門職大学設置の必要性 (中略) (3)ニーズの裏付け ①高校生を対象とした受験・入学意向調査(入口調査) 詳細は、「学生確保の見通し等を記載した書類」において示す通り、当該年度受験・入学予定学年の <u>3,760</u> 名の高校 2 年生から回答を得た受験・入学意向調査では、「4 年制大学 (専門職大学を含む) に進学」と回答した <u>2,216</u> 名のうち、受験意向を示す回答(「受験したい」「検討したい」の合計)の数は <u>258</u> 名であった。この回答者のうち、本学に合格した場合「入学したい」との回答数は <u>25</u> 名、「併願先の結果によっては入学したい」との回答数は <u>204</u> 名の計 <u>229</u> 名であり、入学定員 <u>40</u> 名の <u>5</u> 倍を超える入学意向を確認できた。 (後略)

学生の確保等の見通し等を記載した書類	
新	旧
<p>1. 1. 3. 高校生を対象としたアンケート調査</p> <p>(1)調査概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 調査時期 <p><u>1回目</u>：令和3年8月2日～令和3年9月21日</p> <p><u>2回目</u>：令和3年12月9日～令和4年1月14日</p> <p><u>3回目</u>：令和4年1月27日～令和4年2月14日</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 調査対象 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 青森、岩手、秋田、山形、宮城、福島、新潟、栃木、群馬、茨城、埼玉、東京、千葉、神奈川の各都県に所在する各高校へ事前依頼を行い、調査の承諾を得た高校へ調査用紙を送付し実施した。 ➢ 依頼校： <ul style="list-style-type: none"> <u>1回目</u>：502校（回収校数47校） <u>2回目</u>：54校（回収校数40校） <u>3回目</u>：31校（回収校数19校） ➢ 回答総数：<u>17,489</u>件(うち高校2年生<u>9,060</u>件、高校1年生<u>8,429</u>件) <p>(中略)</p> <p>(2)高校2年生に対するアンケート結果(資料15)</p> <p>①高校卒業後の進路希望</p> <p>「あなたの高等学校卒業後の進路について、現時点の考えを教えてください。(いくつか)」という問いに対して、本学を含めた「4年制大学(専門職大学を含むに進学)」と回答をした者は計 <u>5,851</u> 人であった。</p> <p>(表略)</p> <p>②本学への受験意向</p> <p>高校卒業後の進路希望と受験意向とのクロス集計を行い、調査時に回答者が想定する進路と本学への受験意向との関係を調べた。</p> <p>「4年制大学(専門職大学を含むに進学)」と回答をした者 <u>5,851</u> 人のうち、「電動モビリティシステム専門職大学(仮称)を受験したいですか。」という問いに対して、本学への受験意欲を示した者は「受験したい(<u>55</u>人)」「検討したい(<u>620</u>人)」の計 <u>675</u> 人であった。この回答者 <u>675</u> 人が直接的に受験に対する期待度が比較的高いと考えられる母数となる。</p>	<p>1. 1. 3. 高校生を対象としたアンケート調査</p> <p>(1)調査概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 調査時期 <p><u>(追加)</u>令和3年8月2日～令和3年9月21日</p> <p><u>(追加)</u></p> <p><u>(追加)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 調査対象 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 青森、岩手、秋田、山形、宮城、福島、新潟、栃木、群馬、茨城、埼玉、東京、千葉、神奈川の各都県に所在する各高校へ事前依頼を行い、調査の承諾を得た高校へ調査用紙を送付し実施した。 ➢ 依頼校：<u>(追加)</u>502校（回収校数47校） <u>(追加)</u> <u>(追加)</u> ➢ 回答総数：<u>7,345</u>件(うち高校2年生<u>3,760</u>件、高校1年生<u>3,585</u>件) <p>(中略)</p> <p>(2)高校2年生に対するアンケート結果(資料14)</p> <p>①高校卒業後の進路希望</p> <p>「あなたの高等学校卒業後の進路について、現時点の考えを教えてください。(いくつか)」という問いに対して、本学を含めた「4年制大学(専門職大学を含むに進学)」と回答をした者は計 <u>2,216</u> 人であった。</p> <p>(表略)</p> <p>②本学への受験意向</p> <p>高校卒業後の進路希望と受験意向とのクロス集計を行い、調査時に回答者が想定する進路と本学への受験意向との関係を調べた。</p> <p>「4年制大学(専門職大学を含むに進学)」と回答をした者 <u>2,216</u> 人のうち、「電動モビリティシステム専門職大学(仮称)を受験したいですか。」という問いに対して、本学への受験意欲を示した者は「受験したい(<u>17</u>人)」「検討したい(<u>241</u>人)」の計 <u>258</u> 人であった。この回答者 <u>258</u> 人が直接的に受験に対する期待度が比較的高いと考えられる母数となる。</p>

一方で、専門学校進学希望者 1,566 人のうち、7 人が「受験したい」、191 人が「検討したい」と回答した(計 198 人)。また、就職希望者 2,137 人のうち、9 人が「受験したい」、315 人が「検討したい」と回答した(計 324 人)。このように、4 年制大学への進学を想定していなかった者で、「受験したい」「検討したい」と回答する者が一定程度存在した。

(表略)

③本学への入学意向

高校卒業後の進路希望と入学意向とのクロス集計を行い、調査時に回答者が想定する進路と本学への受験意向との関係調べた。

「4 年制大学(専門職大学を含むに進学)」と回答をした者 5,851 人のうち、「電動モビリティシステム専門職大学(仮称)に合格した場合、入学したいですか。」という問いに対して、本学への入学意欲を示した者は「入学したい(109 人)」「併願先の結果によっては入学したい(1,179 人)」の計 1,288 人であった。この回答者 1,288 人が直接的に入学に対する期待度が比較的高いと考えられる母数となる。

一方で、専門学校進学希望者 1,566 人のうち、32 人が「入学したい」、314 人が「検討したい」と回答した(計 346 人)。また、就職希望者 2,137 人のうち、122 人が「入学したい」、485 人が「検討したい」と回答した(計 607 人)。このように、4 年制大学への進学を想定していなかった者で、「受験したい」「検討したい」と回答する者が一定程度存在した。

(表略)

④本学への受験・入学意向

高校卒業後の進路希望と受験意向、入学意向とのクロス集計を行い、調査時に回答者が想定する進路と本学への受験意向、入学意向との関係調べた。

前述の通り、「4 年制大学(専門職大学を含むに進学)」と回答をした者のうち、本学への受験意欲を示した者は「受験したい(55 人)」「検討したい(620 人)」の計 675 人であった。このうち、「電動モビリティシステム専門職大学(仮称)に合格した場合、入学したいですか。」という問いに対して、本学への入学意欲を示した者は「入学したい(77 人)」「併願先の結果によっては入学したい(527 人)」の計 604 人であった。

(表略)

この回答者 604 人が直接的に入学に対する期待

一方で、専門学校進学希望者 717 人のうち、4 人が「受験したい」、116 人が「検討したい」と回答した(計 120 人)。また、就職希望者 1,116 人のうち、3 人が「受験したい」、172 人が「検討したい」と回答した(計 175 人)。このように、4 年制大学への進学を想定していなかった者で、「受験したい」「検討したい」と回答する者が一定程度存在した。

(表略)

③本学への入学意向

高校卒業後の進路希望と入学意向とのクロス集計を行い、調査時に回答者が想定する進路と本学への受験意向との関係調べた。

「4 年制大学(専門職大学を含むに進学)」と回答をした者 2,216 人のうち、「電動モビリティシステム専門職大学(仮称)に合格した場合、入学したいですか。」という問いに対して、本学への入学意欲を示した者は「入学したい(34 人)」「併願先の結果によっては入学したい(472 人)」の計 506 人であった。この回答者 506 人が直接的に入学に対する期待度が比較的高いと考えられる母数となる。

一方で、専門学校進学希望者 717 人のうち、20 人が「入学したい」、180 人が「検討したい」と回答した(計 200 人)。また、就職希望者 1,116 人のうち、62 人が「入学したい」、268 人が「検討したい」と回答した(計 330 人)。このように、4 年制大学への進学を想定していなかった者で、「受験したい」「検討したい」と回答する者が一定程度存在した。

(表略)

④本学への受験・入学意向

高校卒業後の進路希望と受験意向、入学意向とのクロス集計を行い、調査時に回答者が想定する進路と本学への受験意向、入学意向との関係調べた。

前述の通り、「4 年制大学(専門職大学を含むに進学)」と回答をした者のうち、本学への受験意欲を示した者は「受験したい(17 人)」「検討したい(241 人)」の計 258 人であった。このうち、「電動モビリティシステム専門職大学(仮称)に合格した場合、入学したいですか。」という問いに対して、本学への入学意欲を示した者は「入学したい(25 人)」「併願先の結果によっては入学したい(204 人)」の計 229 人であった。

(表略)

この回答者 229 人が直接的に入学に対する期待度

度が最も高いと考えられる母数となる。入学定員 40 名の 15 倍以上の入学意向が確認できており、十分に学生確保の見通しがあると考えられる。

(3) 高校 1 年生に対するアンケート結果(資料 16)

① 高校卒業後の進路希望

「あなたの高等学校卒業後の進路について、現時点の考えを教えてください。(いくつでも)」という問いに対して、本学を含めた「4 年制大学(専門職大学を含むに進学)」と回答をした者は計 5,697 人であった。

(表略)

② 本学への受験意向

高校卒業後の進路希望と受験意向とのクロス集計を行い、調査時に回答者が想定する進路と本学への受験意向との関係を調べた。

「4 年制大学(専門職大学を含むに進学)」と回答をした者 5,697 人のうち、「電動モビリティシステム専門職大学(仮称)を受験したいですか。」という問いに対して、本学への受験意欲を示した者は「受験したい(45人)」「検討したい(829人)」の計 874 人であった。この回答者 874 人が直接的に受験に対する期待度が比較的高いと考えられる母数となる。

一方で、専門学校進学希望者 1,535 人のうち、13 人が「受験したい」、280 人が「検討したい」と回答した(計 293 人)。また、就職希望者 1,985 人のうち、12 人が「受験したい」、393 人が「検討したい」と回答した(計 405 人)。このように、4 年制大学への進学を想定していなかった者で、「受験したい」「検討したい」と回答する者が一定程度存在した。

(表略)

③ 本学への入学意向

高校卒業後の進路希望と入学意向とのクロス集計を行い、調査時に回答者が想定する進路と本学への受験意向との関係を調べた。

「4 年制大学(専門職大学を含むに進学)」と回答をした者 5,697 人のうち、「電動モビリティシステム専門職大学(仮称)に合格した場合、入学したいですか。」という問いに対して、本学への入学意欲を示した者は「入学したい(120人)」「併願先の結果によっては入学したい(1,539人)」の計 1,659 人であった。この回答者 1,659 人が直接的に入学に対する期待度が比較的高いと考えられる母数となる。

一方で、専門学校進学希望者 1,535 人のうち、56

が最も高いと考えられる母数となる。入学定員 40 名の 5 倍以上の入学意向が確認できており、十分に学生確保の見通しがあると考えられる。

(3) 高校 1 年生に対するアンケート結果(資料 15)

① 高校卒業後の進路希望

「あなたの高等学校卒業後の進路について、現時点の考えを教えてください。(いくつでも)」という問いに対して、本学を含めた「4 年制大学(専門職大学を含むに進学)」と回答をした者は計 2,079 人であった。

(表略)

② 本学への受験意向

高校卒業後の進路希望と受験意向とのクロス集計を行い、調査時に回答者が想定する進路と本学への受験意向との関係を調べた。

「4 年制大学(専門職大学を含むに進学)」と回答をした者 2,079 人のうち、「電動モビリティシステム専門職大学(仮称)を受験したいですか。」という問いに対して、本学への受験意欲を示した者は「受験したい(10人)」「検討したい(330人)」の計 340 人であった。この回答者 340 人が直接的に受験に対する期待度が比較的高いと考えられる母数となる。

一方で、専門学校進学希望者 878 人のうち、7 人が「受験したい」、159 人が「検討したい」と回答した(計 166 人)。また、就職希望者 1,144 人のうち、7 人が「受験したい」、242 人が「検討したい」と回答した(計 249 人)。このように、4 年制大学への進学を想定していなかった者で、「受験したい」「検討したい」と回答する者が一定程度存在した。

(表略)

③ 本学への入学意向

高校卒業後の進路希望と入学意向とのクロス集計を行い、調査時に回答者が想定する進路と本学への受験意向との関係を調べた。

「4 年制大学(専門職大学を含むに進学)」と回答をした者 2,079 人のうち、「電動モビリティシステム専門職大学(仮称)に合格した場合、入学したいですか。」という問いに対して、本学への入学意欲を示した者は「入学したい(49人)」「併願先の結果によっては入学したい(564人)」の計 613 人であった。この回答者 613 人が直接的に入学に対する期待度が比較的高いと考えられる母数となる。

一方で、専門学校進学希望者 878 人のうち、30

人が「入学したい」、387人が「検討したい」と回答した(計 443人)。また、就職希望者 1,985人のうち、119人が「入学したい」、571人が「検討したい」と回答した(計 690人)。このように、4年制大学への進学を想定していなかった者で、「受験したい」「検討したい」と回答する者が一定程度存在した。

(表略)

④本学への受験・入学意向

高校卒業後の進路希望と受験意向、入学意向とのクロス集計を行い、調査時に回答者が想定する進路と本学への受験意向、入学意向との関係を調べた。

前述の通り、「4年制大学(専門職大学を含むに進学)」と回答をした者のうち、本学への受験意欲を示した者は「受験したい(45人)」「検討したい(829人)」の計 874人であった。このうち、「電動モビリティシステム専門職大学(仮称)に合格した場合、入学したいですか。」という問いに対して、本学への入学意欲を示した者は「入学したい(88人)」「併願先の結果によっては入学したい(707人)」の計 795人であった。

(表略)

この回答者 795人が直接的に入学に対する期待度が最も高いと考えられる母数となる。入学定員 40名の 20倍近くの入学意向が確認できており、開学2年度目においても十分に学生確保の見通しがあると考えられる。

(3) 学生確保の見通し

①4年制大学への進学を想定している層の状況

調査結果をまとめると、前述した高校2年生アンケートおよび高校1年生のアンケート結果から、調査時点で4年制大学への進学を想定している層においては、高校2年生において本学への受験意欲を示した者は「受験したい(55人)」「検討したい(620人)」の計 675人であった(入学定員40人の 17倍以上)。また、高校1年生において本学への受験意欲を示した者は「受験したい(45人)」「検討したい(829人)」の計 874人であった(入学定員40人の 21倍以上)。

また、4年制大学への進学を想定している層において本学への受験意欲を示した者であって、本学に合格した場合の入学意向を示した者は、高校2年生において本学への受験意欲を示した者は「入学したい(77人)」「併願先の結果によっては入学したい(527人)」の計 604人であった(入学定員40人の 15倍以上)。また、

人が「入学したい」、231人が「検討したい」と回答した(計 261人)。また、就職希望者 1,144人のうち、75人が「入学したい」、353人が「検討したい」と回答した(計 428人)。このように、4年制大学への進学を想定していなかった者で、「受験したい」「検討したい」と回答する者が一定程度存在した。

(表略)

④本学への受験・入学意向

高校卒業後の進路希望と受験意向、入学意向とのクロス集計を行い、調査時に回答者が想定する進路と本学への受験意向、入学意向との関係を調べた。

前述の通り、「4年制大学(専門職大学を含むに進学)」と回答をした者のうち、本学への受験意欲を示した者は「受験したい(10人)」「検討したい(330人)」の計 340人であった。このうち、「電動モビリティシステム専門職大学(仮称)に合格した場合、入学したいですか。」という問いに対して、本学への入学意欲を示した者は「入学したい(35人)」「併願先の結果によっては入学したい(277人)」の計 312人であった。

(表略)

この回答者 312人が直接的に入学に対する期待度が最も高いと考えられる母数となる。入学定員40名の 8倍近くの入学意向が確認できており、開学2年度目においても十分に学生確保の見通しがあると考えられる。

(3) 学生確保の見通し

①4年制大学への進学を想定している層の状況

調査結果をまとめると、前述した高校2年生アンケートおよび高校1年生のアンケート結果から、調査時点で4年制大学への進学を想定している層においては、高校2年生において本学への受験意欲を示した者は「受験したい(17人)」「検討したい(241人)」の計 258人であった(入学定員40人の 6倍以上)。また、高校1年生において本学への受験意欲を示した者は「受験したい(10人)」「検討したい(330人)」の計 340人であった(入学定員40人の 8倍以上)。

また、4年制大学への進学を想定している層において本学への受験意欲を示した者であって、本学に合格した場合の入学意向を示した者は、高校2年生において本学への受験意欲を示した者は「入学したい(25人)」「併願先の結果によっては入学したい(204人)」の計 229人であった(入学定員40人の 5倍以上)。また、

高校 1 年生において「入学したい(88 人)」「併願先の結果によっては入学したい(707 人)」の計 795 人であった(入学定員 40 人の 20 倍弱)。

このように、高校 2 年生・高校 1 年生いずれにおいても、受験意向・入学意向の回答者数は入学定員 40 人を大きく上回っており、十分に学生を確保できるものと考えられる。

②4 年制大学への進学を想定していなかった層の状況
他方、前述の通り、調査時点で 4 年制大学への進学を想定していなかった層にも、受験意向を持つものが多いことが分かった。

専門学校進学希望者でも本学への受験意向を示した者は多く、高校 2 年生では専門学校進学希望者 1,566 人のうち、7 人が「受験したい」、191 人が「検討したい」と回答した(計 198 人)。また、就職希望者 2,137 人のうち、9 人が「受験したい」、315 人が「検討したい」と回答した(計 324 人)。高校 1 年生では専門学校進学希望者 1,535 人のうち、13 人が「受験したい」、280 人が「検討したい」と回答した(計 293 人)。また、就職希望者 1,985 人のうち、12 人が「受験したい」、393 人が「検討したい」と回答した(計 405 人)。この結果は、調査時点では他の進路を検討していたが、4 年制大学である本学への受験について「検討したい」と回答した者が多かったことと見受けられる。

(中略)

③「志願者－入学者変動率」を用いた検討
(中略)

ア. 高校 2 年生調査への適用

4 年制大学への進学を想定している層のうち、受験意向の質問で「受験したい」及び「検討したい」の回答者は 675 人である。この進路希望を「4 年制大学への進学」に限定にしたときの「受験したい」「検討したい」の回答者は、本学への受験に対する期待度の高い回答者であると考えられることから、この全員が本学を受験したとき、専門職大学開学時の「平均志願者－入学者変動率」46%を乗ずると 311 人となり、本学の入学定員 40 名を上回る結果となる。

イ. 高校 1 年生調査への適用

4 年制大学への進学を想定している層のうち、受験意向の質問で「受験したい」及び「検討したい」の回答者は 874 人である。この進路希望を「4 年生大学への

高校 1 年生において「入学したい(35 人)」「併願先の結果によっては入学したい(277 人)」の計 312 人であった(入学定員 40 人の 8 倍弱)。

このように、高校 2 年生・高校 1 年生いずれにおいても、受験意向・入学意向の回答者数は入学定員 40 人を大きく上回っており、十分に学生を確保できるものと考えられる。

②4 年制大学への進学を想定していなかった層の状況
他方、前述の通り、調査時点で 4 年制大学への進学を想定していなかった層にも、受験意向を持つものが多いことが分かった。

専門学校進学希望者でも本学への受験意向を示した者は多く、高校 2 年生では専門学校進学希望者 717 人のうち、4 人が「受験したい」、116 人が「検討したい」と回答した(計 120 人)。また、就職希望者 1,116 人のうち、3 人が「受験したい」、172 人が「検討したい」と回答した(計 175 人)。高校 1 年生では専門学校進学希望者 878 人のうち、7 人が「受験したい」、159 人が「検討したい」と回答した(計 166 人)。また、就職希望者 1,144 人のうち、7 人が「受験したい」、242 人が「検討したい」と回答した(計 249 人)。この結果は、調査時点では他の進路を検討していたが、4 年制大学である本学への受験について「検討したい」と回答した者が多かったことと見受けられる。

(中略)

③「志願者－入学者変動率」を用いた検討
(中略)

ア. 高校 2 年生調査への適用

4 年制大学への進学を想定している層のうち、受験意向の質問で「受験したい」及び「検討したい」の回答者は 258 人である。この進路希望を「4 年制大学への進学」に限定にしたときの「受験したい」「検討したい」の回答者は、本学への受験に対する期待度の高い回答者であると考えられることから、この全員が本学を受験したとき、専門職大学開学時の「平均志願者－入学者変動率」46%を乗ずると 119 人となり、本学の入学定員 40 名を上回る結果となる。

イ. 高校 1 年生調査への適用

4 年制大学への進学を想定している層のうち、受験意向の質問で「受験したい」及び「検討したい」の回答者は 340 人である。この進路希望を「4 年生大学への

進学」に限定にしたときの「受験したい」「検討したい」の回答者は、本学への受験に対する期待度の高い回答者であると考えられることから、この全員が本学を受験したとき、専門職大学開学時の「平均志願者－入学者変動率」46%を乗ずると 402 人となり、本学の入学定員 40 名を上回る結果となる。

(中略)

⑤山形県内高校生の受験意向、入学意向

(中略)

本学が所在する山形県内高校生からは、高校 2 年生 2,253 件(後述する令和 3 年 10 月時点の高校 2 学年相当者数 9,372 人の 24%)、高校 1 年生 2,172 件(後述する令和 3 年 10 月時点の高校 1 学年相当者数 9,064 人の 24%)の回答を得た。4 年制大学進学希望者であって、かつ受験意向を示した者のうち入学意向を示した者の数は高校 2 年生で 159 人、高校 1 年生で 176 人である。

(後略)

進学」に限定にしたときの「受験したい」「検討したい」の回答者は、本学への受験に対する期待度の高い回答者であると考えられることから、この全員が本学を受験したとき、専門職大学開学時の「平均志願者－入学者変動率」46%を乗ずると 156 人となり、本学の入学定員 40 名を上回る結果となる。

(中略)

⑤山形県内高校生の受験意向、入学意向

(中略)

本学が所在する山形県内高校生からは、高校 2 年生 1,353 件(後述する令和 3 年 10 月時点の高校 2 学年相当者数 9,372 人の 14%)、高校 1 年生 601 件(後述する令和 3 年 10 月時点の高校 1 学年相当者数 9,064 人の 7%)の回答を得た。4 年制大学進学希望者であって、かつ受験意向を示した者のうち入学意向を示した者の数は高校 2 年生で 96 人、高校 1 年生で 52 人である。

(後略)

【人材需要の社会的動向・学生確保の見通し】

企業アンケートについて、追加調査を行ったため、その結果を設置の趣旨等を記載した書類及び学生の確保等の見通し等を記載した書類に反映する。

(対応)

企業アンケートについて、追加調査を行ったため、その結果を「設置の趣旨等を記載した書類」及び「学生の確保等の見通し等を記載した書類」に反映するとともに、学生の確保等の見通し等を記載した書類添付資料 40 を差し替える。

なお、本対応に関連して、審査意見対応(3月)資料 10 を修正した。

(新旧対照表)

設置の趣旨等を記載した書類	
新	旧
1. 2. 4. 専門職大学設置の必要性 (中略) (3)ニーズの裏付け ②採用需要調査(出口調査) 本学の卒業生の就職先として想定される <u>161</u> 社からの回答を得た本学卒業生の採用需要調査結果は、「採用したい」と回答した社数は <u>52</u> 社(回答社全体に対する構成比 <u>48.6%</u>)であった。また、各社の例年の採用枠と当該採用枠のうち本学卒業生を採用する余地があるかの割合から、本学卒業生の採用可能性を概算したところ、選択肢の範囲内の最小値を取った集計で <u>86</u> 名(1社平均 <u>1.7</u> 名)、選択肢の範囲内の最大値を取った集計で <u>160</u> 名(1社平均 <u>3.1</u> 名)といずれも一学年当たりの卒業生数 40 名を上回り、本学卒業生への採用ニーズを十分に確認できた。 (後略)	1. 2. 4. 専門職大学設置の必要性 (中略) (3)ニーズの裏付け ②採用需要調査(出口調査) 本学の卒業生の就職先として想定される <u>107</u> 社からの回答を得た本学卒業生の採用需要調査結果は、「採用したい」と回答した社数は <u>39</u> 社(回答社全体に対する構成比 <u>36.4%</u>)であった。また、各社の例年の採用枠と当該採用枠のうち本学卒業生を採用する余地があるかの割合から、本学卒業生の採用可能性を概算したところ、選択肢の範囲内の最小値を取った集計で <u>83</u> 名(1社平均 <u>2.1</u> 名)、選択肢の範囲内の最大値を取った集計で <u>153</u> 名(1社平均 <u>3.9</u> 名)といずれも一学年当たりの卒業生数 40 名を上回り、本学卒業生への採用ニーズを十分に確認できた。 (後略)

学生の確保等の見通し等を記載した書類	
新	旧
<p>2. 2. 4. 企業等への人材需要に関する採用意向調査 (中略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 調査時期 <p>1 回目：令和 2 年 9 月 9 日から令和 2 年 9 月 25 日</p> <p>2 回目：令和 3 年 1 月 18 日から令和 3 年 2 月 17 日</p> <p>3 回目：令和 3 年 12 月 1 日から令和 4 年 1 月 17 日</p> ● 調査対象 <p>全国の自動車関連産業の企業 1,000 社 (回収社数：1 回目 58 社・2 回目 56 社・3 回目 54 社 計 168 社 *ただし、以下の検討は本学の卒業後の進路として想定されない企業と見なす自動車ディーラー3 社、および「電子部品」「クルマのアフターパーツの製造販売」「自動車整備業」「業務用機械器具製造業（歯科・外科・一般産業用）」を扱う 7 社を除外した 161 社からの回答に基づいて実施した。)</p> ● 調査方法 <p>配布：各社に調査票を送付 回収：各社担当者から Web 等にて回答 *第 1 回目は企業等へアンケート協力依頼を郵送し、Web 回答による調査を実施した。第 2 回目・第 3 回目は第 1 回目実施で回答を得られなかった企業等へ再度アンケート協力依頼を電話で行い、承諾を得た企業等へメールで調査票を送付し、メール回答による調査を実施した。</p> ● 調査結果 <p>主な調査結果は、以下の通りとなった。まず、「直近 3 年間の 4 年生大学出身者の新卒採用者の、おおよその年平均人数」に関する問い（ただし「研究開発・製造部門に限る。総務、事務は含まない」との注釈付き）に対して、回答のあった各企業（無回答を除いた 155 社）の研究開発・製造部門での採用人数の合計は 2,047 人、平均で 13.21 人であった。 (表略)</p> <p>次に、「本学卒業生に対する採用意向」に関する問</p> 	<p>2. 2. 4. 企業等への人材需要に関する採用意向調査 (中略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 調査時期 <p>1 回目：令和 2 年 9 月 9 日から令和 2 年 9 月 25 日</p> <p>2 回目：令和 3 年 1 月 18 日から令和 3 年 2 月 17 日</p> <p>(追加)</p> ● 調査対象 <p>全国の自動車関連産業の企業 1,000 社 (回収社数：1 回目 58 社・2 回目 56 社(追加) 計 114 社 *ただし、以下の検討は本学の卒業後の進路として想定されない企業と見なす自動車ディーラー3 社、および「電子部品」「クルマのアフターパーツの製造販売」「自動車整備業」「業務用機械器具製造業（歯科・外科・一般産業用）」を扱う 4 社を除外した 107 社からの回答に基づいて実施した。)</p> ● 調査方法 <p>配布：各社に調査票を送付 回収：各社担当者から Web 等にて回答 *第 1 回目は企業等へアンケート協力依頼を郵送し、Web 回答による調査を実施した。第 2 回目(追加)は第 1 回目実施で回答を得られなかった企業等へ再度アンケート協力依頼を電話で行い、承諾を得た企業等へメールで調査票を送付し、メール回答による調査を実施した。</p> ● 調査結果 <p>主な調査結果は、以下の通りとなった。まず、「直近 3 年間の 4 年生大学出身者の新卒採用者の、おおよその年平均人数」に関する問い（ただし「研究開発・製造部門に限る。総務、事務は含まない」との注釈付き）に対して、回答のあった各企業（無回答を除いた 102 社）の研究開発・製造部門での採用人数の合計は 1,993 人、平均で 19.5 人であった。 (表略)</p> <p>次に、「本学卒業生に対する採用意向」に関する問</p>

いに対して回答のあった 150 社において、「採用したい(52 社)」、「検討したい(79 社)」という結果であり、本学卒業生への採用意欲を示した企業は計 131 社であった。なお、例年は採用枠 0 名である 62 社のうち 47 社が、「採用したい(14 社)」「採用を検討したい(33 社)」と回答している。このことは、本学の構想が企業から高く評価され、採用ニーズに合致したためといえる。

(表略)

上記の問いで「採用したい」と回答した 52 社における、「採用枠の何割程度、本学卒業生を採用（検討）する余地があるか」に関する問いへの回答状況は、「20%以下(12 社)」「21～50%(22 社)」「51～80%(4 社)」「81～100%(6 社)」「その他(8 社)」という結果であった。なお参考として、「検討したい」と回答した 79 社においては、「20%以下(46 社)」「21～50%(12 社)」「51～80%(7 社)」「81～100%(1 社)」「その他(13 社)」という結果であった。

(表略)

本調査結果を用いて、本学卒業生の採用見込数について以下の通り概算した。

<計算条件>

- 「採用したい」と回答した 52 社における各企業の研究開発・製造部門での採用実績（年平均）実数（A） ※各企業の実数を用いるため、上記の総回答数の平均値とは一致しない。
- 「採用したい」と回答した 52 社における採用枠での本学卒業生の採用（検討）余地について、選択肢の範囲内の最小値（B）、選択肢の範囲内の最大値（C）と設定する。

(表略)

<採用見込数の計算>

「採用したい」と回答した 52 社について、採用したい 52 社の採用実績（年平均）実数（A）の総和は 566 人、平均 10.9 人、最大値 150 人、最小値 0 人、中央値 3 人となっている。

各企業ごとに下記の計算を行い、その総和を計算する。

- 各企業の採用実績（年平均）実数（A）* 選択肢の範囲内の最小値（B）…①
 - 各企業の採用実績（年平均）実数（A）* 選択肢の範囲内の最大値（C）…②
- ① 最小値の総和=85.9 人

いに対して回答のあった 100 社において、「採用したい(39 社)」、「検討したい(52 社)」という結果であり、本学卒業生への採用意欲を示した企業は計 91 社であった。なお、例年は採用枠 0 名である 26 社のうち 20 社が、「採用したい(8 社)」「採用を検討したい(12 社)」と回答している。このことは、本学の構想が企業から高く評価され、採用ニーズに合致したためといえる。

(表略)

上記の問いで「採用したい」と回答した 39 社における、「採用枠の何割程度、本学卒業生を採用（検討）する余地があるか」に関する問いへの回答状況は、「20%以下(10 社)」「21～50%(15 社)」「51～80%(3 社)」「81～100%(4 社)」「その他(7 社)」という結果であった。なお参考として、「検討したい」と回答した 55 社においては、「20%以下(33 社)」「21～50%(6 社)」「51～80%(4 社)」「81～100%(2 社)」「その他(10 社)」という結果であった。

(表略)

本調査結果を用いて、本学卒業生の採用見込数について以下の通り概算した。

<計算条件>

- 「採用したい」と回答した 39 社における各企業の研究開発・製造部門での採用実績（年平均）実数（A） ※各企業の実数を用いるため、上記の総回答数の平均値とは一致しない。
- 「採用したい」と回答した 39 社における採用枠での本学卒業生の採用（検討）余地について、選択肢の範囲内の最小値（B）、選択肢の範囲内の最大値（C）と設定する。

(表略)

<採用見込数の計算>

「採用したい」と回答した 39 社について、採用したい 39 社の採用実績（年平均）実数（A）の総和は 543 人、平均 13.9 人、最大値 150 人、最小値 0 人、中央値 3 人となっている。

各企業ごとに下記の計算を行い、その総和を計算する。

- 各企業の採用実績（年平均）実数（A）* 選択肢の範囲内の最小値（B）…①
 - 各企業の採用実績（年平均）実数（A）* 選択肢の範囲内の最大値（C）…②
- ③ 最小値の総和=82.8 人

② 最大値の総和=160.3人

選択肢の範囲内の最小値を取った集計で 85.9 人、
選択肢の範囲内の最大値を取った集計で 160.3 人と
いずれも一学年当たりの卒業生数 40 名を上回った。こ
の結果が示す通り、本学卒業生に対する採用ニーズは
高く、卒業後の進路の確保も十分に対応可能であると
考える。

採用意向を問う設問に回答のあった 150 社につい
て、業種区分別の回答状況を下表に示す。なお、業種
に関する設問は 9 区分から「あてはまるものすべて」を選
択する形式であったため、各業種区分への該当社数は
延べ数となる。ここで「9. 上記以外」を選択した 79 社
からは、電子部品製造業、電子デバイス製造業、精密
機器製造業、電気機器製造業、自動車検査機器製
造業、電池評価、情報通信エンジニアリングサービス、
光学機器関連製造業、生産設備設計製作、工業用
試作モデル製造、車載ソフトウェア開発、合成樹脂原
料・加工販売業等の具体的な記述回答を得ている。こ
のように、電気自動車システムを含む自動車産業・部
品産業分野及び周辺分野から幅広く「採用したい」「検
討したい」との回答が得られていることから、本学が養成
する人材に対する業界からの関心の高さがうかがえる。

(表略)

④ 最大値の総和=152.9人

選択肢の範囲内の最小値を取った集計で 82.8 人、
選択肢の範囲内の最大値を取った集計で 152.9 人と
いずれも一学年当たりの卒業生数 40 名を上回った。こ
の結果が示す通り、本学卒業生に対する採用ニーズは
高く、卒業後の進路の確保も十分に対応可能であると
考える。

採用意向を問う設問に回答のあった 104 社につい
て、業種区分別の回答状況を下表に示す。なお、業種
に関する設問は 9 区分から「あてはまるものすべて」を選
択する形式であったため、各業種区分への該当社数は
延べ数となる。ここで「9. 上記以外」を選択した 56 社
からは、電子部品製造業、電子デバイス製造業、精密
機器製造業、電気機器製造業、自動車検査機器製
造業、電池評価、情報通信エンジニアリングサービス、
光学機器関連製造業、生産設備設計製作、工業用
試作モデル製造、(追加)等の具体的な記述回答を得
ている。このように、電気自動車システムを含む自動車
産業・部品産業分野及び周辺分野から幅広く「採用し
たい」「検討したい」との回答が得られていることから、本
学が養成する人材に対する業界からの関心の高さがう
かがえる。

(表略)

【人材需要の社会的動向・学生確保の見通し】

2022年1月に提出した「令和5年度開設予定の大学等の設置に係る学校法人の寄附行為(変更)の認可申請に関する学校法人分科会の意見に対する回答について(学生の確保の見通し)」での修正した内容を反映する。

(1)高校生アンケートの調査対象者の居住エリアと、新設校における競合校の所在地域が整合していない部分があるため、これらの設定の考え方を説明するとともに、一部整合性を確保する。

(対応)

学校法人分科会の意見として、「高校生アンケートの調査対象者の居住エリアと、新設校における競合校の所在地域が整合していない」とのご指摘をいただいたため、これらの設定の考え方を説明するとともに、一部整合性を確保する。

◆整合していない点の整理

まず、高校生アンケートの調査対象者の居住エリアと、新設校における競合校の所在地域の整合していない点を整理する。以下の下線部の都県(青森、岩手、秋田、福島、新潟、栃木、群馬、茨城、東京、石川)について、両者が整合していないとご指摘いただいたと認識した。

- 高校生アンケートの調査対象：青森、岩手、秋田、山形、宮城、福島、新潟(以上、東北地域)、栃木、群馬、茨城、埼玉、東京、千葉、神奈川
- 新設校における競合校の所在地域：山形、宮城、神奈川、石川、千葉、埼玉

◆設定の考え方・整合性の確保

高校生アンケートの調査対象に含まれていたものの、競合校を設定しなかった地域のうち「青森、岩手、秋田、福島、新潟、栃木、群馬、茨城」に関しては、競合校の設定理由(本学の教育研究分野に比較的近い領域を扱う学部や学科を設置していること。山形県の高卒生進学の進学先として、各高等学校のWebサイトやパンフレットに一定程度の頻度で登場すること。ただし、定員未充足校及び国立大学は除く。)に該当する大学が存在せず、また、電動モビリティシステム工学・電気自動車システム工学に関する学部学科を有する大学は現時点で存在しない。一部、自動車工学を扱う学部や教育研究センターを設置している大学が存在したが、前者は自動車整備士を養成するための課程であったり、後者は内燃機関自動車を中心とした教育研究内容となっている。そのため、本学とは競合しないと考え、同地域においては競合校を設定しなかった。一方、学生の確保等の見通し等を記載した書類添付資料11にもある通り、同地域の高校生の本学への受験・入学は十分に想定しうることから、高校生アンケートの調査対象として引き続き設定することとした。

また、高校生アンケートの調査対象に含まれていたものの、競合校を設定しなかった地域のうち「東京」に関しては、一都三県が一つの通学圏であり、教育研究分野等が類似する直接的な競合校として既に設定している神奈川工科大学、埼玉工業大学が同圏内に所在する。そのため、一都三県を同一通学圏とみなすことで、高校生アンケートの調査対象者の居住エリアと、新設校における競合校の所在地域との整合性については、特段問題がないと考える。

新設校における競合校の一つとして挙げたものの、その所在地域が高校生アンケートの調査対象に含まれていなかった大学としては、「金沢工業大学」が挙げられる。同大学を新設校における競合校の一つとして挙げた理由は、上記で説明した競合校の設定理由に該当していたためである。

本ご指摘を受け、申請内容全体の整合性を確保する観点から金沢工業大学を競合校から除外し、高校生アンケートの調査対象地域と新設校における競合校の所在地域について、石川県に関して整合していない状況は解消した。

(新旧対照表)

学生の確保等の見通し等を記載した書類	
新	旧
<p>1. 1. 2. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要</p> <p>(1) 本学と同類学部学科の動向</p> <p>① 比較・参考とする既存の他大学・学部・学科の抽出 (中略)</p> <p>【山形県外】 東北学院大学 (宮城県) ・東北工業大学 (宮城県) ・神奈川工科大学 (神奈川県) ・埼玉工業大学 (埼玉県) ・<u>(削除)</u>・千葉工業大学 (千葉県) ・日本工業大学 (埼玉県)</p>	<p>1. 1. 2. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要</p> <p>(1) 本学と同類学部学科の動向</p> <p>① 比較・参考とする既存の他大学・学部・学科の抽出 (中略)</p> <p>【山形県外】 東北学院大学 (宮城県) ・東北工業大学 (宮城県) ・神奈川工科大学 (神奈川県) ・埼玉工業大学 (埼玉県) ・<u>金沢工業大学 (石川県)</u>・千葉工業大学 (千葉県) ・日本工業大学 (埼玉県)</p>
<p>1. 1. 4. 学生納付金の設定の考え方 (前略)</p> <p>上記の資料 1 付表に着目すると、山形大学 (国立大学法人) と機械や電気電子系の学科がない東北芸術工科大学以外の大学の学費は、いずれも本学の設定額を上回る。なお、他の私立大学との 4 年間での差額に関しては、例えば代表的な競合校である神奈川工科大学創造工学部の授業料 (実験実習費含む) は初年度 137 万円から 2 年次 139 万円、3 年次 141 万円、4 年次 143 万円となるため 4 年間では本学の学費を 50 万円上回り (同様に年次を追うごとに増額される学部は複数存在する)、山形県内高等学校からの進学先に頻出の<u>(削除)</u>千葉工業大学では 100 万円弱にも及び、自動運転に関する研究開発に注力する埼玉工業大学工学部でも 17 万円上回ることから、他校と比較して本学は学費に係る経済的な負担を十数万～百万円弱軽減することになる。</p>	<p>1. 1. 4. 学生納付金の設定の考え方 (前略)</p> <p>上記の資料 1 付表に着目すると、山形大学 (国立大学法人) と機械や電気電子系の学科がない東北芸術工科大学以外の大学の学費は、いずれも本学の設定額を上回る。なお、他の私立大学との 4 年間での差額に関しては、例えば代表的な競合校である神奈川工科大学創造工学部の授業料 (実験実習費含む) は初年度 137 万円から 2 年次 139 万円、3 年次 141 万円、4 年次 143 万円となるため 4 年間では本学の学費を 50 万円上回り (同様に年次を追うごとに増額される学部は複数存在する)、山形県内高等学校からの進学先に頻出の<u>金沢工業大学</u>や千葉工業大学では 100 万円弱にも及び、自動運転に関する研究開発に注力する埼玉工業大学工学部でも 17 万円上回ることから、他校と比較して本学は学費に係る経済的な負担を十数万～百万円弱軽減することになる。</p>

【人材需要の社会的動向・学生確保の見通し】

2022 年 1 月に提出した「令和 5 年度開設予定の大学等の設置に係る学校法人の寄附行為（変更）の認可申請に関する学校法人分科会の意見に対する回答について（学生の確保の見通し）」での修正した内容を反映する。

(2)中長期的な 18 歳人口の動向分析に関し、「東北地方全体の 18 歳人口の減少割合が全国平均値よりも高くなっている中、その減少分を山形県内の大学進学率の上昇で補う」と誤解を招く表現を修正する。

(対応)

「1. 1. 2. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要」のうち、「(4) 18 歳人口の将来推計及び進学に伴う流出・流入状況①山形県及び東北地域の 18 歳人口の将来推計」において、「山形県や東北 6 県における 18 歳人口の将来推計は減少が予測される一方ものの、現在想定されている推移であれば「(3)山形県における大学進学動向①山形県高校出身者における大学進学率」にて示した大学進学率の高まりを勘案すれば、中長期的にも十分に学生を確保することが可能であると考える。」に関して、誤解を招く可能性のある表現となっていた。

当該説明の趣旨は、「全国平均値よりも高い東北地方全体の 18 歳人口の減少分を、山形県一県の大学進学率の上昇で補うことができる」ことを意図したのではない。別箇所でも説明している通り、もともと本学の入学定員は 40 名と極めて小規模であることから、18 歳人口の減少に伴う学生確保への影響は、他の中小規模の大学に比べると軽微であると考えている。そのため、山形県や東北 6 県における 18 歳人口の減少が想定以上の急な減少でなく想定内の減少であって、かつ山形県における大学進学率の上昇傾向を勘案すれば、中長期的にも十分に学生を確保することが可能であると考えた次第である。

上記趣旨について誤解を招かないような表現とするため、山形県内の大学進学率の高まりに関する説明だけでは不十分であると認識し、東北他県の推移に関する説明と添付資料を加えることで、当該説明を改めることとした。

なお、本対応に関連して、審査意見対応(3月)資料 11 を修正した。

(新旧対照表)

学生の確保等の見通し等を記載した書類	
新	旧
1. 1. 2. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要 (中略) (4) 18 歳人口の将来推計及び進学に伴う流出・流入状況 ①山形県及び東北地域の 18 歳人口の将来推計 (中略) 山形県や東北 6 県における 18 歳人口の将来推計は減少が予測される(削除)ものの、現在想定されている推移であれば「(3)山形県における大学進学動向①山形県高校出身者における大学進学率」にて示した大学進学率の高まりや文部科学省による東北地域の大学進学率の推計(資料 13)を勘案すれば、中長期的にも十分に学生を確保することが可能であると考える。	1. 1. 2. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要 (中略) (4) 18 歳人口の将来推計及び進学に伴う流出・流入状況 ①山形県及び東北地域の 18 歳人口の将来推計 (中略) 山形県や東北 6 県における 18 歳人口の将来推計は減少が予測される一方ものの、現在想定されている推移であれば「(3)山形県における大学進学動向①山形県高校出身者における大学進学率」にて示した大学進学率の高まり(追加)を勘案すれば、中長期的にも十分に学生を確保することが可能であると考える。

【人材需要の社会的動向・学生確保の見通し】

2022 年 1 月に提出した「令和 5 年度開設予定の大学等の設置に係る学校法人の寄附行為（変更）の認可申請に関する学校法人分科会の意見に対する回答について（学生の確保の見通し）」での修正した内容を反映する。

(3)中長期的な 18 歳人口の動向分析に関し、18 歳人口が減少傾向であることや、県内の高校進学率が 99.5%と極めて高い状況であるにも関わらず、「今後、山形県内の大学受験対象者が大きく減少することはない」とする見通しについて修正する。

(対応)

「山形県内の大学受験対象者(≒高校進学者)」が、「県内 18 歳人口」「県内の高校進学率」によって算出されることに関して、前者は減少傾向・後者は高止まりという今後の成長が期待できない状況にあって、「今後、山形県内の大学受験対象者が大きく減少することはない」とする見通しについて、妥当性が十分でないため該当箇所を改める。

「1. 1. 2. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要」のうち、「(4) 18 歳人口の将来推計及び進学に伴う流出・流入状況②山形県内の高等学校及び中学校の在籍者数による中長期的な見通し」において、「今後、山形県内の大学受験対象者が大きく減少することはない」と本学が見通した趣旨としては、開設年度から開設 5 年目までに表 4 に示す「開学年度対象人数に対する割合」が 4.6pt しか減少しないことを指して「大きく減少することはない」と判断したものであった。

改めて該当箇所を精査した結果、18 歳人口が減少傾向であることや、県内の高校進学率が 99.5%と極めて高い状況である状況下で「今後、山形県内の大学受験対象者が大きく減少することはない」とする説明には十分な妥当性がないとの結論に至った。当該説明を改め、当該見通しに関しては、「小規模大学である本学の学生確保を困難とする大きな影響を与えるほど、山形県内の大学受験対象者が急激に減少することは見通されず、中長期的な確保の見通しがあるものと思われる。」と改める。

(新旧対照表)

学生の確保等の見通し等を記載した書類	
新	旧
1. 1. 2. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要 (中略) (4) 18 歳人口の将来推計及び進学に伴う流出・流入状況 (中略) ②山形県内の高等学校及び中学校の在籍者数による中長期的な見通し (中略) 山形県の中学校卒業者の高等学校等進学率は過去 4 年度にわたって 99.5%と高い。これを勘案した場合でも、(削除)小規模大学である本学の学生確保を困難とする大きな影響を与えるほど、山形県内の大学受験対象者が大きく減少することは見通されず、中長期的な確保の見通しがあるものと思われる。(後略)	1. 1. 2. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要 (中略) (4) 18 歳人口の将来推計及び進学に伴う流出・流入状況 (中略) ②山形県内の高等学校及び中学校の在籍者数による中長期的な見通し (中略) 山形県の中学校卒業者の高等学校等進学率は過去 4 年度にわたって 99.5%と高く、これを勘案した場合でも、今後、(追加)山形県内の大学受験対象者が大きく減少することはない、中長期的な確保の見通しがあるものと思われる。 (後略)

【その他】

資料の差し替え、申請書類を点検したうえでの誤字脱字・軽微な変更修正を実施した。

(対応)

◆「地域経済牽引事業計画」の差し替え

地域経済牽引事業の促進による地域の成長発展の基盤強化に関する法律に基づく「地域経済牽引事業計画」(資料 1-2-5)について、令和 3 年 3 月 5 日付で変更承認が得られたため、同資料を変更承認後の版に差し替えるとともに、該当箇所の記述を修正する。

◆用語の統一

添付資料 8-6「電動モビリティシステム専門職大学自動車テストコース使用における安全管理要綱 (案)」について、「テストコース使用における安全規則」と表記した箇所が複数あり、用語を統一できていなかった。これを「電動モビリティシステム専門職大学自動車テストコース使用における安全管理要綱 (案)」に統一する。

◆教育課程連携協議会委員に関する書類間の整合性確保、肩書変更

設置の趣旨等を記載した書類において、教育課程連携協議会委員の一人として記載していた「阿部稔氏(山形県立山形工業高校校長)」について、当初申請(2021 年 10 月)においては委員としない方針であり当該書類以外の他の申請書類においては記載していなかった。書類間の整合性を確保するため、当該書類から削除するとともに、委員数を 8 人から 7 人に変更する。

また、山形県庁における部署名等変更に伴い、佐藤譲氏の肩書における部署名等を変更する。

(新旧対照表)

新	旧
<p>1. 2. 2. 設置主体・学校法人赤門学院 (中略) (2)専門学校赤門自動車整備大学校の実績等 (中略)</p> <p>このうち 1 級自動車整備士科(4 年課程を修了すると文部科学省から「高度専門士」が付与される)においては、電気自動車やハイブリッド車など「次世代自動車」の整備に対応できる人材育成にも取り組んでいる。また、本法人は、2016 年から「飯豊町起業支援施設(飯豊町所有)」での電気自動車システムに関する研究開発の一部に参加し、専ら電気自動車のリバースエンジニアリング 6F による解析に係る解体分野に協力している。このように次世代自動車の整備士育成に加えて、電気自動車システムに関する研究開発で最新の技術に間近に触れることで、本法人の國分理事長は電動モビリティシステム・電気自動車システムの時代を迎えることへの実感を持ち、それを支えるための新しい人材養成の必要性を強く感じることとなった。その後、飯豊町起</p>	<p>1. 2. 2. 設置主体・学校法人赤門学院 (中略) (2)専門学校赤門自動車整備大学校の実績等 (中略)</p> <p>このうち 1 級自動車整備士科(4 年課程を修了すると文部科学省から「高度専門士」が付与される)においては、電気自動車やハイブリッド車など「次世代自動車」の整備に対応できる人材育成にも取り組んでいる。また、本法人は、2016 年から「飯豊町起業支援施設(飯豊町所有)」での電気自動車システムに関する研究開発の一部に参加し、専ら電気自動車のリバースエンジニアリング 6F による解析に係る解体分野に協力している。このように次世代自動車の整備士育成に加えて、電気自動車システムに関する研究開発で最新の技術に間近に触れることで、本法人の國分理事長は電動モビリティシステム・電気自動車システムの時代を迎えることへの実感を持ち、それを支えるための新しい人材養成の必要性を強く感じることとなった。その後、飯豊町起</p>

<p>業支援施設の所有者である飯豊町との協議を経て、本学を設置することを構想した。本構想を推進するために、地域経済牽引事業の促進による地域の成長発展の基盤強化に関する法律に基づく「地域経済牽引事業計画」を立案し、山形県知事の承認を受けている(資料 1-2-5)。</p>	<p>業支援施設の所有者である飯豊町との協議を経て、本学を設置することを構想した。本構想を推進するために、地域経済牽引事業の促進による地域の成長発展の基盤強化に関する法律に基づく「地域経済牽引事業計画」を立案し、山形県知事の承認を受けている(現在、最新の本学設置構想に合わせて変更申請中である。変更前の計画(令和 2 年 4 月 22 日時点)を資料 1-2-5 として提出する)。</p>
<p>4. 5. 3. 各演習科目・実験科目・実習科目における安全上のリスクと対応 (中略) (3)「自動車工学基礎実習」について (中略) また、本実習では、部品の違いによる性能の違いをテストコースでの車両走行実験によって確かめる。テストコースを用いた車両のテスト走行に伴う事故リスクとそれに対する安全上の措置については、「<u>電動モビリティシステム専門職大学自動車テストコース使用における安全管理要綱(案)</u>」にまとめているため、学生・教職員において周知徹底する。 (中略) ● テストコースを用いた車両のテスト走行に伴う事故リスクとそれに対する安全上の措置については、<u>「電動モビリティシステム専門職大学自動車テストコース使用における安全管理要綱(案)」</u>を学生・教職員において周知徹底する。</p>	<p>4. 5. 3. 各演習科目・実験科目・実習科目における安全上のリスクと対応 (中略) (3)「自動車工学基礎実習」について (中略) また、本実習では、部品の違いによる性能の違いをテストコースでの車両走行実験によって確かめる。テストコースを用いた車両のテスト走行に伴う事故リスクとそれに対する安全上の措置については、「<u>テストコース使用における安全規則</u>」にまとめているため、学生・教職員において周知徹底する。 (中略) ● テストコースを用いた車両のテスト走行に伴う事故リスクとそれに対する安全上の措置については、「<u>テストコース使用における安全規則</u>」を学生・教職員において周知徹底する。</p>
<p>(5)「電気自動車構造解析実習」について (中略) ● テストコースを用いた車両のテスト走行に伴う事故リスクとそれに対する安全上の措置については、<u>「電動モビリティシステム専門職大学自動車テストコース使用における安全管理要綱(案)」</u>を学生・教職員において周知徹底する。</p>	<p>(5)「電気自動車構造解析実習」について (中略) ● テストコースを用いた車両のテスト走行に伴う事故リスクとそれに対する安全上の措置については、「<u>テストコース使用における安全規則</u>」を学生・教職員において周知徹底する。</p>
<p>(9)「電池システム実習Ⅲ」について (中略) ● テストコースを用いた車両のテスト走行に伴う事故リスクとそれに対する安全上の措置については、「<u>電動モビリティシステム専門職大学自動車テストコース使用における安全管理要綱(案)</u>」を学生・教職員において周知徹底する。</p>	<p>(9)「電池システム実習Ⅲ」について (中略) ● テストコースを用いた車両のテスト走行に伴う事故リスクとそれに対する安全上の措置については、「<u>テストコース使用における安全規則</u>」を学生・教職員において周知徹底する。</p>
<p>(10)「モーター・インバータシステム実習Ⅰ」について (中略)</p>	<p>(10)「モーター・インバータシステム実習Ⅰ」について (中略)</p>

<ul style="list-style-type: none"> ● テストコースを用いた車両のテスト走行に伴う事故リスクとそれに対する安全上の措置については、「<u>電動モビリティシステム専門職大学自動車テストコース使用における安全管理要綱（案）</u>」を学生・教職員において周知徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● テストコースを用いた車両のテスト走行に伴う事故リスクとそれに対する安全上の措置については、「<u>テストコース使用における安全規則</u>」を学生・教職員において周知徹底する。
<p>(14)「自動運転システム実習Ⅰ」について (中略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● テストコースを用いた車両のテスト走行に伴う事故リスクとそれに対する安全上の措置については、「<u>電動モビリティシステム専門職大学自動車テストコース使用における安全管理要綱（案）</u>」を学生・教職員において周知徹底する。 	<p>(14)「自動運転システム実習Ⅰ」について (中略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● テストコースを用いた車両のテスト走行に伴う事故リスクとそれに対する安全上の措置については、「<u>テストコース使用における安全規則</u>」を学生・教職員において周知徹底する。
<p>7. 教育課程連携協議会 (中略) 表 7.1：本学の教育課程連携協議会の構成 (表略) 地域(7人) 佐藤 譲 山形県産業労働部工業戦略技術振興課長 (削除)</p>	<p>7. 教育課程連携協議会 (中略) 表 7.1：本学の教育課程連携協議会の構成 (表略) 地域(8人) 佐藤 譲 山形県商工観光労働部工業戦略振興課長 阿部 稔 山形県立山形工業高校 校長</p>

審査意見対応（3月）

添付資料目次

資料番号	資料名
意見対応(3月) 資料1	養成する人材像、DP、CP、授業科目の対応表
意見対応(3月) 資料2	内閣府エビデンスシステム(e-CSTI)分析結果と本学教育課程の各科目との対応
意見対応(3月) 資料3	カリキュラムマップ
意見対応(3月) 資料4	カリキュラムツリー
意見対応(3月) 資料5	履修モデル (1)：電池分野を専攻し、自動車製造業や自動車部品製造業等で活躍する人材を目指す者 (2)：モーター・インバータ分野を専攻し、自動車製造業や自動車部品製造業等で活躍する人材を目指す者 (3)：車体分野を専攻し、自動車製造業や自動車車体・付随車製造業等で活躍する人材を目指す者 (4)：自動運転分野を専攻し、既存自動車製造業や新規参入企業等で活躍する人材を目指す者
意見対応(3月) 資料6	時間割
意見対応(3月) 資料7	臨地実務実習巡回指導の計画
意見対応(3月) 資料8	学校法人赤門学院 第3回理事会議事録
意見対応(3月) 資料9	電動モビリティシステム専門職大学（仮称）に関する高校生対象ニーズ調査結果報告書 （高校2年生、高校1年生）
意見対応(3月) 資料10	電動モビリティシステム専門職大学（仮称）に関する企業人材ニーズ・卒業生の採用意向調査結果報告書
意見対応(3月) 資料11	文部科学省「大学への進学者数の将来推計について」

養成する人材像、DP、CP、授業科目の対応表

養成する人材像の 対応する箇所	DP 1 職業的自立を図るための能力	CP 1 基礎科目では、職業的自立を図るために必要な能力を育成するべく、以下のような教育内容で構成する。	対応する科目
物事を論理的・科学的に捉える能力、リテラシー水準のデータ分析・AI活用技法の理解、幅広い社会・利用者ニーズを把握する能力など職業的自立を図るための能力を有し	DP1-1 社会の大きな変化を当事者としてとらえ、物事を論理的・科学的に捉えて対応できるようになる。	CP1-1 社会の大きな変化を当事者としてとらえ、物事を論理的・科学的に捉えて対応できるようになるため、高等教育における基礎水準のSTEAMの基盤となる物理学Ⅰ・Ⅱ、微分積分学、線形代数学、化学基礎(以上、必修科目)、物理学Ⅲ、欧州アート・デザイン論(以上、選択科目)などの内容を学ぶ科目を設置する。	(必修科目) 物理学Ⅰ・Ⅱ、微分積分学、線形代数学、化学基礎 (選択科目) 物理学Ⅲ、欧州アート・デザイン論
	DP1-2 ニーズを起点とした設計・開発を進められるようにするため、地球規模から地域規模まで社会ニーズの考え方、あるいは電気自動車システムの利用者ニーズの考え方を理解できるようになる。	CP1-2 ニーズを起点とした設計・開発を進められるようにするため、地球規模から地域規模まで社会ニーズの考え方を理解するための環境エネルギー論(必修科目)、グローバル社会理解Ⅰ・Ⅱ、社会と科学論(以上、選択科目)、電気自動車システムの利用者ニーズの考え方を理解するためのニーズ理解入門、人間工学入門(以上、選択科目)などの内容を学ぶ科目を設置する。	(必修科目) 環境エネルギー論 (選択科目) グローバル社会理解Ⅰ・Ⅱ、社会と科学論、ニーズ理解入門、人間工学入門
	DP1-3 リテラシー水準のデータ分析・AI活用技法等を理解している。	CP1-3 リテラシー水準のデータ分析・AI活用技法等を理解できるようになるため、高等教育におけるリテラシー水準の数理統計学、データ分析、AI基礎(以上、必修科目)などの内容を学ぶ科目を設置する。	(必修科目) 数理統計学、データ分析、AI基礎

養成する人材像の 対応する箇所	DP2 電気自動車システム分野の設計者に必要な 専門的な能力	CP2 職業専門科目では、電気自動車システム分 野に関する知識・スキルを身につけ、最終製品あるい は部材等の開発に活用できるよう、以下のような教育 内容で構成する。	対応する科目
電気自動車システム 全体および構成要 素(電池、モーター・ インバータ、車体、自 動運転)やシミュレ ーションを用いた開発 手法に関する理論・ 技法と技術者として の倫理観を備え	DP2-1 電気自動車システム開発の背景にある専門 分野の学問体系と、工学の基本的現象を理解したう えで、ものづくりの基本的技法・技術者としての倫理観 を身につけている。	CP2-1 電気自動車システム開発の背景にある専門 分野の学問体系と、工学の基本的現象を理解したう えで、ものづくりの基本的技法・技術者としての倫理観 を身につけるため、ものづくり基礎実習、設計製図実 習、電気回路学、機械基礎Ⅰ、コンピュータ概論、技 術者倫理、プログラミング実習(以上、必修科目)、 計測工学、電子回路工学、機械基礎Ⅱ、情報理論、 工業数学、情報工学、材料工学、振動工学(以上、 選択科目)など工学基礎の内容を学ぶ科目を設置す る。	(必修科目) ものづくり基礎実習、設計製図実習、電気回路学、 機械基礎Ⅰ、コンピュータ概論、技術者倫理、プログ ラミング実習 (選択科目) 計測工学、電子回路工学、機械基礎Ⅱ、情報理論、 工業数学、情報工学、材料工学、振動工学
	DP2-2 電気自動車システム全体および構成要素 (電池、モーター・インバータ、車体、自動運転)やシミュ レーションを用いた開発手法の基礎的・俯瞰的な理解 を有している。	CP2-2 電気自動車システム全体および構成要素 (電池、モーター・インバータ、車体、自動運転)やシミュ レーションを用いた開発手法の基礎的・俯瞰的な理解 を身につけるため、自動車工学基礎実習、次世代モ ビリティ論、自動車工学、電気自動車構造解析実習、 電気機械工学基礎実験、電池システム基礎、モー ター・インバータシステム基礎、車体システム基礎、自 動運転システム基礎、電子制御工学(以上、必修科 目)、電池システム実習Ⅰ、モーター・インバータシス テム実習Ⅰ、車体システム基礎実習、自動運転シス テム実習Ⅰ(以上、選択必修科目)、センサー工学、自 動車通信工学、3DCAD演習、超小型モビリティ開発、 問題解決法、モデルベース開発Ⅰ(以上、選択科目) など専門基礎の内容を学ぶ科目を設置する。	(必修科目) 自動車工学基礎実習、次世代モビリティ論、自動車 工学、電気自動車構造解析実習、電気機械工学 基礎実験、電池システム基礎、モーター・インバータシ ステム基礎、車体システム基礎、自動運転システム基 礎、電子制御工学 (選択必修科目) 電池システム実習Ⅰ、モーター・インバータシス テム実習Ⅰ、車体システム基礎実習、自動運転シス テム実習Ⅰ (選択科目) センサー工学、自動車通信工学、3DCAD演習、超 小型モビリティ開発、問題解決法、モデルベース開発 Ⅰ

<p>電気自動車システム全体および構成要素(電池、モーター・インバータ、車体、自動運転)やシミュレーションを用いた開発手法に関する理論・技法と技術者としての倫理観を備え</p>	<p>DP2-3 電気自動車システムの構成要素(電池、モーター・インバータ、車体、自動運転)いずれかに深化した専門的な理解を有し、シミュレーションを用いた開発手法を駆使するなどして、解決法等を主体的に提案できる知識・スキルを身につけている。</p>	<p>CP2-3 電気自動車システムの構成要素(電池、モーター・インバータ、車体、自動運転)いずれかに深化した専門的な理解を有し、シミュレーションを用いた開発手法を駆使するなどして、解決法等を主体的に提案できる知識・スキルを身につけるため、電池関連科目群(電池化学応用、電池システム実習Ⅱ)、モーター・インバータ関連科目群(パワーエレクトロニクス、モーター・インバータシステム実習Ⅱ)、車体関連科目群(車体構造学、車体システム解析実習Ⅰ)、自動運転関連科目群(自動運転におけるセンシング技術、自動運転システム実習Ⅱ)(以上、選択必修科目)、電池システム設計・試験法基礎、電池システム実習Ⅲ、駆動システム設計製造試験法、モーター・インバータシステム実習Ⅲ、車体システム設計製造試験法、車体システム解析実習Ⅱ、自動運転のための制御技術、自動運転システム実習Ⅲ、モデルベース開発Ⅱ(以上、選択科目)など専門発展の内容を学ぶ科目を設置する。</p>	<p>(選択必修科目) 電池関連科目群(電池化学応用、電池システム実習Ⅱ)、モーター・インバータ関連科目群(パワーエレクトロニクス、モーター・インバータシステム実習Ⅱ)、車体関連科目群(車体構造学、車体システム解析実習Ⅰ)、自動運転関連科目群(自動運転におけるセンシング技術、自動運転システム実習Ⅱ)</p> <p>(選択科目) 電池システム設計・試験法基礎、電池システム実習Ⅲ、駆動システム設計製造試験法、モーター・インバータシステム実習Ⅲ、車体システム設計製造試験法、車体システム解析実習Ⅱ、自動運転のための制御技術、自動運転システム実習Ⅲ、モデルベース開発Ⅱ</p>
	<p>DP2-4 自らのキャリアプランに応じて、以下のいずれかについて知識を身につけている。 ①車体軽量化に必要な車体・部材の多くに用いられている金属材料やプラスチック等の材料特性に関する知識 ②工業デザインの原則や効率化手法・意匠を踏まえた開発を実現する知識 ③電気自動車システムの利用法やその背景にある通信環境等を踏まえた開発を実現する知識 ④権利や品質の観点を踏まえた適切な開発を実現する知識 ⑤電動モビリティシステムにかかる新たなサービスの開発を実現する知識</p>	<p>CP2-4 自らのキャリアプランに応じて、以下の内容から選択して学ぶ科目を設置する(以下、全て選択必修科目)。 ①車体軽量化に必要な車体・部材の多くに用いられている金属材料やプラスチック等の材料特性に関する知識を身につけるための金属材料工学、高分子工学 ②工業デザインの原則や効率化手法・意匠を踏まえた開発を実現する知識・スキルを身につけるためのジョルジェット・ジウジアーロの工業デザイン論、モビリティデザイン論 ③電気自動車システムの利用法やその背景にある通信環境等を踏まえた開発を実現する知識を身につけるためのMaaSを想定した交通政策論、5Gの科学、④権利や品質の観点を踏まえた適切な開発を実現する知識を身につけるための知的財産権概論、品質管理 ⑤電動モビリティシステムにかかる新たなサービスの開発を実現する知識を身につけるためのサービス工学、電動モビリティを想定したサービス論</p>	<p>(選択必修科目) ①金属材料工学、高分子工学 ②ジョルジェット・ジウジアーロの工業デザイン論、モビリティデザイン論 ③MaaSを想定した交通政策論、5Gの科学 ④知的財産権概論、品質管理 ⑤サービス工学、電動モビリティを想定したサービス論</p>

電気自動車システム全体および構成要素(電池、モーター・インバータ、車体、自動運転)やシミュレーションを用いた開発手法に関する理論・技法と技術者としての倫理観を備え	DP2-5 企業の現場での実務的な実習を通して、社会ニーズ・利用者ニーズの理解を深め、自らが将来開発する製品への責任を意識でき、技術開発、製品開発、問題発見・分析・解決策立案に必要な創造力・実践力を身につけている。	CP2-5 企業の現場での実務的な実習を通して、社会ニーズ・利用者ニーズの理解を深めると同時に自らが将来開発する製品への責任を意識するため、また、ものづくりや基礎・専門分野などの学修内容の活用や実践作業を通じて、技術開発、製品開発、問題発見・分析・解決策立案に必要な創造力・実践力を養うための臨地実務実習科目を設置する(必修科目)。	(必修科目) 臨地実務実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
	DP2-6 電気自動車システム全体および構成要素(電池、モーター・インバータ、車体、自動運転)、周辺領域の知識・スキルを有機的に融合し、電気自動車システムに係る総合的な知識・スキルを身につけている。	CP2-6 電気自動車システム全体および構成要素(電池、モーター・インバータ、車体、自動運転)、周辺領域の知識・スキルを有機的に融合し、電気自動車システムに係る総合的な知識・スキルを身につけるための電気自動車システム開発演習(必修科目)を設置する。	(必修科目) 電気自動車システム開発演習

養成する人材像の 対応する箇所	DP3 電気自動車システム分野に関連する応用的・創造的な能力	CP3 展開科目では、電気自動車システム分野に関連する応用的な能力であって、創造的な役割を果たすために必要な能力を育成すべく、以下のような教育内容で構成する。	対応する科目
グローバル産業において求められる適切なコミュニケーション能力やビジネス関連知識等にかかる応用的・創造的な能力を有し	DP3-1 グローバル産業において適切なコミュニケーションを実現するための知識・スキルを身につけている。	CP3-1 グローバル産業において適切なコミュニケーションを実現するための知識・スキルを身につけるため、文書表現法、英語コミュニケーション(以上、必修科目)、ビジネス英語、プレゼンテーション基礎(日英)(以上、選択科目)などの内容を学ぶ科目を設置する。	(必修科目) 文書表現法、英語コミュニケーション (選択科目) ビジネス英語、プレゼンテーション基礎(日英)
	DP3-2 専門職業人としてキャリアの中で、これまでに無い新たな製品や新たなサービスを開発するためのビジネス関連の知識・スキルとして、以下それぞれの内容を身につけている。 ①創造的・俯瞰的な思考力を理解し、新たな企画案を新規構築できる。 ②製造業という業態の特性や密接に関連する科学技術政策を理解できる。 ③電気自動車システムの特性を活かした新たなビジネスを創出し、また世の中に広く取組内容を発信することができる。	CP3-2 専門職業人としてキャリアの中で、これまでに無い新たな製品や新たなサービスを開発するためのビジネス関連の知識・スキルとして、以下それぞれの内容を学ぶ科目を設置する。 ①創造的・俯瞰的な思考方法を理解し、新たな企画案を新規構築できるようになるためのシステム思考論(必修科目)、アイデア思考法(選択科目) ②製造業という業態の特性や密接に関連する科学技術政策を理解できるようになるための製造業経営論(必修科目)、労使関係論、マネジメント論、科学技術政策(以上、選択科目) ③電気自動車システムの特性を活かした新たなビジネスを創出し、また世の中に広く取組内容を発信することができるようになるための製造とデザインのためのビジネス論Ⅰ(必修科目)、製造とデザインのためのビジネス論Ⅱ、製品とその利用に関する起業化論、広報活動論(以上、選択科目)	(必修科目) ①システム思考論 ②製造業経営論 ③製造とデザインのためのビジネス論Ⅰ (選択科目) ①アイデア思考法 ②労使関係論、マネジメント論、科学技術政策 ③製造とデザインのためのビジネス論Ⅱ、製品とその利用に関する起業化論、広報活動論

養成する人材像の 対応する箇所	DP4 電気自動車システム分野の設計者としての 総合力	CP4 総合科目では、修得した知識・スキルを総合し、電気自動車システム分野の設計者としての実践的かつ応用的な能力を総合的に向上させるべく、以下のような教育内容で構成する。	対応する科目
これらを統合させた実践的かつ応用的な総合力を主体的に身に付け、電気自動車関連の企業において、国内にとどまらず世界に向けて、これまでに無い新たな製品や新たなサービスの開発を行う設計者	DP4-1 主体的に課題に取り組む姿勢、身につけた知識・スキルを統合する方法、研究課題の設定や研究計画の立案方法を身につけている。	CP4-1 主体的に課題に取り組む姿勢、身につけた知識・スキルを統合する方法、研究課題の設定や研究計画の立案方法を身につけるため、研究ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲを設置する(以上、必修科目)。	(必修科目) 研究ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ
	DP4-2 電気自動車システム分野の設計者としての実践的かつ応用的な能力を身につけている。	CP4-2 身につけた知識・スキルを統合し、主体的に研究課題に計画的に取り組むことで、電気自動車システム分野の設計者としての実践的かつ応用的な能力を身につけるため、卒業研究Ⅰ・Ⅱを設置する(以上、必修科目)。	(必修科目) 卒業研究Ⅰ・Ⅱ

研究分野	産業界の業務および事業展開・成長に重要な専門知識分野	電気自動車システム工学科設置科目										
大分類	内閣府エビデンスシステム (e-CSTI) + 職種「自動車・機械」において重要な分野 (特に太字)	基礎科目		職業専門科目		専門基礎		専門発展		履修科目		
小分類		基礎	選択	必修	選択	必修	選択	必修・選択必修	選択	選択必修	必修	選択
科目		必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修・選択必修	選択	選択必修	必修	選択
総合理工												
ナノマイクロ科学												
ナノ構造化学	ナノテク<構造・材料・物性> (フラーレン・ナノチューブ・グラフェン、量子ドット・デバイス、分子素子等)											
ナノ構造物理												
ナノ材料化学												
応用物理学												
応用物理学一般	基礎物理 (力、熱、光、波、電磁気等)											
数物系科学												
数学		微積分学				工業数学						
物理学		線形代数										
		AI基礎										
		物理学 I・II	物理学 III									
化学												
基礎化学		化学基礎										
有機化学												
分析化学	分析化学									(電池システム実習 II)	(高分子工学)	
材料化学												
有機・ハイブリッド材料	有機・ハイブリッド材料 (有機半導体等)											
高分子・繊維材料	高分子化学・機能性高分子 (繊維も含む)											高分子工学
デバイス関連化学	エネルギー関連化学						電池システム基礎 電池システム実習 I		電池化学応用 電池システム実習 II	電池システム実習 III		
工学												
機械工学												
機械材料・材料力学	機械材料 材料力学 (構造、破壊など) 機械力学 (振動、騒音等<制御工学を含む>)				機械基礎 I	振動工学		自動車工学基礎実習 電気機械工学基礎実習 電気自動車構造解析実習				
生産工学・加工学	加工学 (機械加工学、工作機械など) 生産工学 (生産モデリング、工程設計等)				ものづくり基礎実習		車体システム基礎 車体システム基礎実習	問題解決法 モデルベース開発 I	車体システム解析実習 I	モデルベース開発 II 車体システム解析実習 II 車体システム設計製造試験法		
設計工学・機械機能要素・トライボロジー	設計工学 (人間工学も含む) 機構学・機械要素 (歯車等) トライボロジー (摩擦、潤滑、潤滑)		人間工学入門	設計製図実習		車体システム基礎 車体システム基礎実習	3DCAD実習	車体システム解析実習 I		車体システム解析実習 II 車体システム設計製造試験法		
流体工学	流体工学、流体機械											
熱工学	燃焼/熱機関 (冷凍・空調、熱力学等) 伝熱・熱物性 (移動速度論など)				機械基礎 II		電池システム基礎 電池システム実習 I			電池システム設計・試験法基礎		
知能機械学・機械システム	メカトロニクス・ロボティクス						車体システム基礎 車体システム基礎実習			車体システム設計製造試験法		
電気電子工学						電子回路工学						
電力工学・電力変換・電気機器	電力工学・電力変換 (送電・配電等) 電気機器・パワーエレクトロニクス 照明 (モータ工学も含む)						次世代モビリティ論 モーター・インバータシステム基礎 モーター・インバータシステム実習 I 自動車工学基礎実習 電気機械工学基礎実習 電気自動車構造解析実習		パワーエレクトロニクス モーター・インバータシステム実習 II 電気自動車システム開発実習	モーター・インバータシステム実習 III 駆動システム設計製造試験法 車体システム設計製造試験法		
電子デバイス・電子機器	アナログ回路 (電源、高周波、超高速、パルス等) デジタル回路、LSI (FPGA等) 電子デバイス (半導体工学等) 電子機器・パッケージ カーエレクトロニクス (A.V.、C.A.N.、電気自動車など)				電気回路学		車体システム基礎 車体システム基礎実習			車体システム設計製造試験法 電池システム設計・試験法基礎		
通信・ネットワーク工学	通信工学 (通信方式/無線、光等)、信号処理、制御等) 情報ネットワーク (インターネット、マルチメディア通信、無線 LAN、センサネットワーク、ホームネットワーク等)						自動運転システム基礎 自動運転システム実習 I	自動運転通信工学	自動運転におけるセンシング技術 自動運転システム実習 II		SGO科学	
計測工学	計測工学 (光計測を含む)				計測工学			センサ工学	自動運転におけるセンシング技術 自動運転システム実習 II			
制御システム工学	制御工学 システム工学					電子制御工学		センサ工学	自動運転のための制御技術 自動運転システム実習 II 電気自動車システム開発実習	電池システム設計・試験法基礎		
材料工学						材料工学						
金属物性・材料	金属物性・材料、無機物性・材料 (金属、セラミクス、)										金属材料工学 (高分子工学)	
無機材料・物性	アモルファス、耐火物、物性、組織制御等)										(金属材料工学) (高分子工学)	
複合材料・表面工学	複合材料 (繊維強化プラスチック、金属・プラスチック・セラミクス系)										金属材料工学 高分子工学	
材料加工・組織制御工学	材料加工・組織制御 (熱処理、塑性加工、鋳物製造、3次元加工等)										高分子工学	
プロセス工学・化学工学												
化工物性・移動操作・単位操作	化学工学<基礎系> (物性、攪拌、分離・精製等)											
総合工学												
(該当する小分類なし)	自動車工学 (水素自動車等)						次世代モビリティ論 自動車工学 自動車工学基礎実習 電気自動車構造解析実習	超小型モビリティ開発	車体構造学 車体システム解析実習 I 電気自動車システム開発実習	モデルベース開発 I モデルベース開発 II 車体システム解析実習 II 車体システム設計製造試験法		
航空宇宙工学	航空宇宙工学											
エネルギー学	エネルギー変換・貯蔵学 (太陽光活用、炭酸ガス活用、燃料電池、バッテリー、ワイヤレス電力伝送等) エネルギー学<電力系> (エネルギーシステム、スマートグリッド等)		環境エネルギー論				次世代モビリティ論 電池システム基礎 電池システム実習 I		電池化学応用 電池システム実習 II 電気自動車システム開発実習	電池システム実習 III 電池システム設計・試験法基礎		
情報学基礎												
情報学基礎理論	アルゴリズム					情報理論 情報工学	自動運転システム基礎			自動運転システム実習 III		
数理情報学							自動運転システム基礎			自動運転システム実習 III		
統計科学		数理統計学 データ分析										
計算基礎												
計算機システム	計算機システム (アーキテクチャ、回線とシステム、LSI設計、組み込みハード等)				コンピュータ概論		自動運転システム基礎			自動運転システム実習 III		
ソフトウェア	基本ソフト (オペレーティングシステム<OS>、組み込みソフト等) ミドルウェア (並列分散、仮想化、クラウド基盤等) 応用ソフトウェア (ネットワーク、ネットアプリ、業務ソフト等) ソフトウェア基礎 (プログラミング、仕様記述、ソフトウェア工学等)		AI基礎	プログラミング実習			自動運転システム基礎			自動運転システム実習 III		
情報ネットワーク	情報ネットワーク (インターネット、マルチメディア通信、無線 LAN、センサネットワーク、ホームネットワーク等)					情報理論 情報工学	自動運転システム基礎			自動運転システム実習 III		
マルチメディア・データベース	データベース・構築					情報理論 情報工学						
情報セキュリティ	セキュリティ (暗号、認証、アクセス制御、マルウェア対策、指紋認証等)					情報理論 情報工学						
人間情報学												
知覚情報処理	画像処理 (CG、画像認識等) 音声処理 (音声認識、合成等) 情報センシング (知覚情報等)		AI基礎							SGO科学		
ヒューマンインターフェース・インタラクション	ヒューマンインターフェース・インタラクション、グループウェア			人間工学入門								
知能情報学	人工知能・機械学習・知識処理 (マルチエージェント、知識探査・発見/マイニング、自然言語処理等)		AI基礎			情報理論 情報工学	自動運転システム基礎			SGO科学		
知能ロボティクス	知能ロボティクス					情報理論 情報工学						
情報学プロトタイプ												
ウェブ情報学・サービス情報学	サービス工学 (サービスマネジメント、知識マネジメント、スマートコミュニティ<医療・福祉…>等)		AI基礎				自動運転システム基礎			SGO科学 サービス工学 電動モビリティを想定したサービス論		
環境学												
環境解析学	環境動態解析 地球温暖化、環境変動・循環モデル・評価 (アセスメント等)				環境エネルギー論							
環境保全学	環境負荷低減、保全修復 (排水・排ガス・廃棄物等発生制御、騒音・振動・地盤対策、汚染除去・修復、生物機能利用等) 環境モニタリング・保全修復技術 資源・リサイクル工学 (資源分離・確保、環境調和/リサイクル等)				環境エネルギー論							
総合領域												
デザイン												
デザイン学	プロダクトデザイン (ユニバーサルデザインも含む) デザイン論、デザイン学			欧州アート・デザイン論						ジョルジュ・ジュリアー-Dの 工業デザイン論 モビリティデザイン論		
科学教育・教育工学												
科学教育					(社会と科学論)	技術者倫理						
科学社会学・科学技術史												
科学社会学・科学技術史					社会と科学論						(科学技術政策)	
社会・安全システム科学												
社会システム工学・安全システム	経営工学 (ロジスティクス、品質管理、プロジェクトマネジメント等も含む) マーケティング・流通、保険 安全工学、信頼性工学 (リスクマネジメント、規制等も含む)			(二一理解入門)			次世代モビリティ論 自動運転システム基礎	電気自動車システム開発実習	車体システム設計製造試験法 電池システム設計・試験法基礎 駆動システム設計製造試験法	SGO科学 MaaSを想定した交通政策論 品質管理	製造とデザインのためのビジネス論 I	製造とデザインのためのビジネス論 II 製品とその利用に関する起業化論 製造業経営論 マネジメント論 科学技術政策 広報活動論
社会科学												
法学												
社会法学	法律 (民法・商法・会社・金融法、医事法、知的財産法、土地法等も含む)									知的財産権概論		
経営学												
経営学	経営組織・戦略、ベンチャー、人的資源管理、技術経営 (MOT)										製造とデザインのためのビジネス論 I	製造とデザインのためのビジネス論 II 製品とその利用に関する起業化論 労務管理論 マネジメント論
商学	マーケティング・流通、保険			二一理解入門								広報活動論
社会学												
社会学	社会学 (家族、地域、産業、メディア等)、ジェンダー研究			グローバル社会学 I グローバル社会学 II						MaaSを想定した交通政策論		(広報活動論)
心理学												
社会心理学	社会心理学 (社会現象、リーダーシップ、消費者行動等)			(二一理解入門)								(広報活動論)

文書表現法
プレゼンテーション基礎
英語コミュニケーション
英語プレゼンテーション基礎
ビジネス英語

アイデア思考法
システム思考論

電動モビリティシステム専門職大学 カリキュラムマップ

養成する人材像物事を論理的・科学的に捉える能力、リテラシー水準のデータ分析・AI活用技法、幅広い社会・利用者ニーズを把握する能力など職業的自立を図るための能力を有し、電気自動車システム全体および構成要素(電池、モーター・インバータ、車体、自動運転)やシミュレーションを用いた開発手法に関する理論・技法と技術者としての倫理観を備え、グローバル産業において求められる適切なコミュニケーション能力やビジネス関連知識等の応用的・創造的な能力を有し、これらを統合させた実践的かつ応用的な総合力を主体的に身に付け、電気自動車関連の企業において、国内にとどまらず世界に向けて、これまでに無い新たな製品や新たなサービスの開発を行う設計者

審査意見対応(3月)
資料3

アドミッションポリシー
AP1 電気自動車システムにかかる専門知識・スキルを学ぶために必要となる高等学校卒業程度の英語、数学、理科(物理または化学)の教科書水準の基礎学力を備えている。
AP2 電気自動車システムに興味があり、その専門知識・スキルを用いて環境・エネルギー問題や地域等の社会課題の解決のため、新たな商品・サービス・ビジネスを生み出したいという意欲がある。
AP3 自分の考えを口頭や文章で他者にわかりやすく説明することができ、また、他者の考えを理解しようとする姿勢を持っている。

カリキュラムポリシー
CP1 基礎科目では、職業的自立を図るために必要な能力を育成すべく、以下のような教育内容で構成する。
CP2 職業専門科目では、電気自動車システム分野に関する知識・スキルを身につけ、最終製品あるいは部材等の開発に活用できるよう、以下のような教育内容で構成する。
CP3 展開科目では、電気自動車システム分野に関連する応用的な能力であって、創造的な役割を果たすために必要な能力を育成すべく、以下のような教育内容で構成する。
CP4 総合科目では、修得した知識・スキルを総合し、電気自動車システム分野の設計者としての実践的かつ応用的な能力を総合的に向上させるべく、以下のような教育内容で構成する。

- 無印 必修科目
- * 選択科目
- 選択必修科目
- 基礎科目職業
- 専門科目
- 展開科目
- 総合科目

1年				2年			
1期	2期	3期	4期	1期	2期	3期	4期
物理学Ⅰ	物理学Ⅱ	物理学Ⅲ*	数理統計学	データ分析		グローバル社会理解Ⅰ*	グローバル社会理解Ⅱ*
化学基礎		欧州アートデザイン論*					
微分積分学		人間工学入門*					
線形代数学		社会と科学論*					
環境エネルギー論	ニーズ理解入門*						
工学基礎科目							
ものづくり基礎実習 設計製図実習		機械基礎Ⅰ コンピュータ概論 電子回路工学*	機械基礎Ⅱ* 情報理論*	技術者倫理 プログラミング実習			
	電気回路学 計測工学*			工業数学*			
専門基礎科目							
自動車工学基礎実習			次世代モビリティ論 センサー工学*	自動車工学 電気自動車構造解析実習 自動車通信工学* 電気機械工学基礎実験 3DCAD演習*	電池システム基礎 モーター・インバータシステム基礎 車体システム基礎 自動運転システム基礎	電池システム実習Ⅰ◦ モーター・インバータシステム実習Ⅰ◦ 車体システム基礎実習◦ 自動運転システム実習Ⅰ◦	
	臨地実務実習 臨地実務実習Ⅰ					問題解決法* 超小型モジュール開発*	臨地実務実習Ⅱ
	文章表現法	プレゼンテーション基礎* 労使関係論*	アイデア思考法*	製造とデザインのためのビジネス論Ⅰ	システム思考論 広報活動論*	英語プレゼンテーション基礎* 製造業経営論 製品とその利用に関する起業化論*	英語コミュニケーション
			研究ゼミナールⅠ	研究ゼミナールⅡ	研究ゼミナールⅢ		

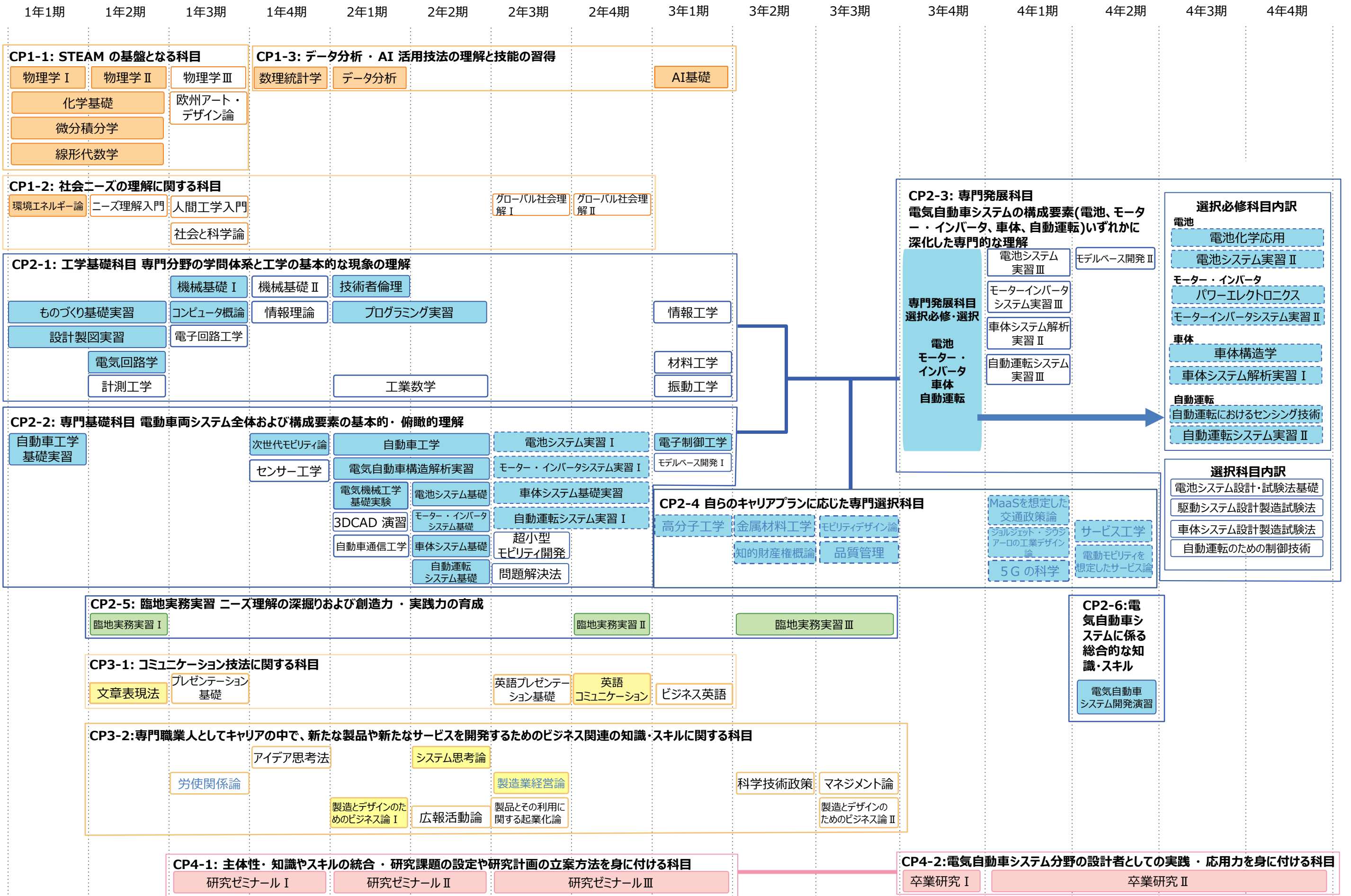
3年				4年			
1期	2期	3期	4期	1期	2期	3期	4期
AI基礎							
工学基礎科目			専門発展科目				
情報工学*			選択必修科目群◦ 電池 モーター・インバータ 車体 自動運転	電池システム実習Ⅲ*	電気自動車システム開発演習	電池 電池化学応用◦ 電池システム設計・試験法基礎* 電池システム実習Ⅱ◦ モーター・インバータ パワーエレクトロニクス◦ 駆動システム設計製造試験法* モーター・インバータシステム実習Ⅱ◦ 車体 車体構造学◦ 車体システム設計製造試験法* 車体システム解析実習Ⅰ◦ 自動運転 自動運転におけるセンシング技術◦ 自動運転のための制御技術* 自動運転システム実習Ⅱ◦	
振動工学*				モーターインバータシステム実習Ⅲ*	モデルベース開発Ⅱ*		
材料工学*				車体システム解析実習Ⅱ*			
専門基礎科目				自動運転システム実習Ⅲ*			
電子制御工学			専門選択科目				
モデルベース開発Ⅰ*			高分子工学◦	金属材料工学◦	モビリティデザイン論◦	MaaSを想定した交通政策論◦	サービス工学◦
				知的財産権概論◦	品質管理◦	ジョリット・ジグザグの工業デザイン論◦	電動モビリティを想定したサービス論◦
				臨地実務実習		5Gの科学◦	
				臨地実務実習Ⅲ			
ビジネス英語*	科学技術政策*	マネジメント論* 製造とデザインのためのビジネス論Ⅱ*					
研究ゼミナールⅢ			卒業研究Ⅰ	卒業研究Ⅱ			

ディプロマポリシー
DP1 職業的自立を図るための能力
DP1-1 社会の大きな変化を当事者としてとらえ、物事を論理的・科学的に捉えて対応できるようになる。
DP1-2 ニーズを起点とした設計・開発を進められるようになるため、地球規模から地域規模まで社会ニーズの考え方、あるいは電気自動車システムの利用者ニーズの考え方を理解できるようになる。
DP1-3 リテラシー水準のデータ分析・AI活用技法等を理解している。
DP2 電気自動車システム分野の設計者に必要な専門的な能力
DP2-1 電気自動車システム開発の背景にある専門分野の学問体系と、工学の基本的現象を理解したうえで、ものづくりの基本的技法・技術者としての倫理観を身につけている。
DP2-2 電気自動車システム全体および構成要素(電池、モーター・インバータ、車体、自動運転)やシミュレーションを用いた開発手法の基礎的・俯瞰的な理解を有している。
DP2-3 電気自動車システムの構成要素(電池、モーター・インバータ、車体、自動運転)いずれかに深化した専門的な理解を有し、シミュレーションを用いた開発手法を駆使するなどして、解決法等を主体的に提案できる知識・スキルを身につけている。
DP2-4 自らのキャリアプランに応じて、以下のいずれかについて知識を身につけている。
①車体軽量化に必要な車体・部材の多くに用いられている金属材料やプラスチック等の材料特性に関する知識
②工業デザインの原則や効率化手法・意匠を踏まえた開発を実現する知識
③電気自動車システムの利用法やその背景にある通信環境等を踏まえた開発を実現する知識
④権利や品質の観点から踏まえた適切な開発を実現する知識
⑤電動モビリティシステムにかかる新たなサービスの開発を実現する知識
DP2-5 企業の現場での実務的な実習を通して、社会ニーズ・利用者ニーズの理解を深め、自らが将来開発する製品への責任を意識でき、技術開発、製品開発、問題発見・分析・解決策立案に必要な創造力・実践力を身につけている。
DP2-6 電気自動車システム全体および構成要素(電池、モーター・インバータ、車体、自動運転)、周辺領域の知識・スキルを有機的に融合し、電気自動車システムに係る総合的な知識・スキルを身につけている。
DP3 電気自動車システム分野に関連する応用的・創造的な能力
DP3-1 グローバル産業において適切なコミュニケーションを実現するための知識・スキルを身につけている。
DP3-2 専門職業人としてキャリアの中で、これまでに無い新たな製品や新たなサービスを開発するためのビジネス関連の知識・スキルとして、以下それぞれの内容を身につけている。
①創造的・俯瞰的な思考力を理解し、新たな企画案を新規構築できる。
②製造業という業態の特性や密接に関連する科学技術政策を理解できる。
③電気自動車システムの特性を活かした新たなビジネスを創出し、また世の中に広く取組内容を発信することができる。
DP4 電気自動車システム分野の設計者としての総合力
DP4-1 主体的に課題に取り組む姿勢、身につけた知識・スキルを統合する方法、研究課題の設定や研究計画の立案方法を身につけている。
DP4-2 電気自動車システム分野の設計者としての実践的かつ応用的な能力を身につけている。

電動モビリティシステム専門職大学
カリキュラムツリー

電気自動車システム工学部

電気自動車システム工学科



- 基礎科目必修
- 基礎科目選択
- 職業専門科目必修
- 職業専門科目選択必修
- 職業専門科目選択
- 展開科目必修
- 展開科目選択
- 総合科目必修

選択必修科目内訳

- 電池
 - 電池化学応用
 - 電池システム実習 II
- モーター・インバータ
 - パワーエレクトロニクス
 - モーターインバータシステム実習 II
- 車体
 - 車体構造学
 - 車体システム解析実習 I
- 自動運転
 - 自動運転におけるセンシング技術
 - 自動運転システム実習 II

選択科目内訳

- 電池システム設計・試験法基礎
- 駆動システム設計製造試験法
- 車体システム設計製造試験法
- 自動運転のための制御技術

履修モデル(1) : 電池分野を専攻し、自動車製造業や自動車部品製造業等で活躍する人材を目指す者

年次	1年次				2年次				
期	1期	2期	3期	4期	1期	2期	3期	4期	
科目区分	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	単位数合計
基礎科目	物理学 I 化学基礎 微分積分学 線形代数学 環境エネルギー論	2 物理学 II 1 化学基礎 1 微分積分学 1 線形代数学 2	2 社会と科学論 1 1 1	2 数理統計学	2 データ分析	2			
	単位数 7	単位数 5	単位数 2	単位数 2	単位数 2	単位数 0	単位数 0	単位数 0	18
職業専門科目		電気回路学	機械基礎 I 2 コンピュータ概 電子回路工学*	2 機械基礎 II* 2 2 次世代モビリティ論	2 技術者倫理 自動車工学 2 自動車通信工学*	2 1 自動車工学 2 電池システム基礎 モーター・インバータシステム基礎 車体システム基礎 自動運転システム基礎	1 2 2 2		
	自動車工学基礎実習 2 ものづくり基礎実習 1 設計製図実習 1	ものづくり基礎実習 1 臨地実務実習 I 1			プログラミング実習 1 電気自動車構造解析実習 1 電気機械工学基礎実験 2	1 プログラミング実習 1 電気自動車構造解析実習	1 電池システム実習 I° 1 モーター・インバータシステム実習 I°	1 電池システム実習 I° 1 モーター・インバータシステム実習 I°	1 1
	単位数 4	単位数 5	単位数 6	単位数 4	単位数 9	単位数 11	単位数 2	単位数 11	52
展開科目		文書表現法	2 プレゼンテーション基礎*	2			英語プレゼンテーション基礎	2 英語コミュニケーション	2
			労使関係論* 2		製造とデザインのためのビジネス論 I 2	2 システム思考論	2 製造業経営論	2	
	単位数 0	単位数 2	単位数 4	単位数 0	単位数 2	単位数 2	単位数 4	単位数 2	16
総合科目			研究ゼミナール I	研究ゼミナール I	1 研究ゼミナール II	研究ゼミナール II	1 研究ゼミナール III		
			単位数 1	単位数 1	単位数 0	単位数 0	単位数 0	単位数 0	2
各期合計	11	12	12	7	13	14	6	13	88
年次	3年次				4年次				
期	1期	2期	3期	4期	1期	2期	3期	4期	
科目区分	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	単位数合計
基礎科目	AI基礎	2							
	単位数 2	単位数 0	単位数 0	単位数 0	単位数 0	単位数 0	単位数 0	単位数 0	2
職業専門科目	情報工学*	2		電池システム設計・試験法基礎*	2	電気自動車システム開発演習	2		
	電子制御工学	2		電池化学応用°	2				
	高分子工学°	2	品質管理°	2 電池システム実習 II°	2				
		臨地実務実習 III	5 臨地実務実習 III	5	電池システム実習 III*	2			
	単位数 6	単位数 5	単位数 7	単位数 6	単位数 2	単位数 2	単位数 0	単位数 0	28
展開科目		科学技術政策*	2 製造とデザインのためのビジネス論 II*	2					
	単位数 0	単位数 2	単位数 2	単位数 0	単位数 0	単位数 0	単位数 0	単位数 0	4
総合科目	研究ゼミナール III	1		卒業研究 I	1 卒業研究 II	1 卒業研究 II	1 卒業研究 II	1 卒業研究 II	1
	単位数 1	単位数 0	単位数 0	単位数 1	単位数 1	単位数 1	単位数 1	単位数 1	6
各期合計	9	7	9	7	3	3	1	1	40
								単位数合計	128

*選択科目 実習科目 ° 選択必修科目

履修モデル（２）：モーター・インバータ分野を専攻し、自動車製造業や自動車部品製造業等で活躍する人材を目指す者

年次	1年次				2年次				
期	1期	2期	3期	4期	1期	2期	3期	4期	
科目区分	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	単位数合計
基礎科目	物理学Ⅰ 化学基礎 微分積分学 線形代数学 環境エネルギー論	2 物理学Ⅱ 1 化学基礎 1 微分積分学 1 線形代数学 2	2 物理学Ⅲ* 1 1 1	2 数理統計学	2 データ分析	2			
	単位数 7	単位数 5	単位数 2	単位数 2	単位数 2	単位数 0	単位数 0	単位数 0	18
職業専門科目		電気回路学 計測工学*	機械基礎Ⅰ 2 コンピュータ概 電子回路工学* 2	2 2 2 次世代モビリティ論	技術者倫理 自動車工学 自動車通信工学*	2 1 自動車工学 2 電池システム基礎 モーター・インバータシステム基礎 車体システム基礎 自動運転システム基礎	2 1 2 2 2	超小型モビリティ開発* 2 1 2 2 2	
	自動車工学基礎実習 2 ものづくり基礎実習 1 設計製図実習 1	ものづくり基礎実習 1 設計製図実習 1 臨地実務実習Ⅰ 1	1 1 1		プログラミング実習 電気自動車構造解析実習 電気機械工学基礎実験	1 プログラミング実習 1 電気自動車構造解析実習 2	1 1 1 1 2	モーター・インバータシステム 1 パータシステム実習Ⅰ 1 車体システム基礎実習 1 車体システム基礎実習	1 1 1 1 9
	単位数 4	単位数 7	単位数 6	単位数 2	単位数 9	単位数 11	単位数 4	単位数 11	54
展開科目		文書表現法	2 プレゼンテーション基礎*	2	製造とデザインのためのビジネス論Ⅰ	2 システム思考論 広報活動論*	2 製造業経営論 製品とその利用に関する起業化論*	2 英語コミュニケーション 2	2
	単位数 0	単位数 2	単位数 2	単位数 0	単位数 2	単位数 4	単位数 4	単位数 2	16
総合科目			研究ゼミナールⅠ	研究ゼミナールⅠ	1 研究ゼミナールⅡ	研究ゼミナールⅡ	1 研究ゼミナールⅢ		2
			単位数 1	単位数 1		単位数 1			2
各期合計	11	14	10	5	13	16	8	13	90

年次	3年次				4年次				
期	1期	2期	3期	4期	1期	2期	3期	4期	
科目区分	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	単位数合計
基礎科目	AI基礎	2							
	単位数 2	単位数 0	単位数 0	単位数 0	単位数 0	単位数 0	単位数 0	単位数 0	2
職業専門科目	情報工学*	2	金属材料工学	2	駆動システム設計 製造試験法* パワーエレクトロニクス モーター・インバータシステム実習Ⅱ	2 2 2	電気自動車システム開発演習	2	
	電子制御工学	2	臨地実務実習	5	臨地実務実習	5	モーター・インバータシステム実習Ⅲ*	2	
	単位数 4	単位数 7	単位数 5	単位数 6	単位数 2	単位数 2	単位数 0	単位数 0	26
展開科目	ビジネス英語*	2	科学技術政策*	2					
	単位数 2	単位数 2	単位数 0	単位数 0	単位数 0	単位数 0	単位数 0	単位数 0	4
総合科目	研究ゼミナールⅢ	1	卒業研究Ⅰ	1	卒業研究Ⅱ	1	卒業研究Ⅱ	1	卒業研究Ⅱ
	単位数 1	単位数 0	単位数 1	単位数 1	単位数 1	単位数 1	単位数 1	単位数 1	6
各期合計	9	9	5	7	3	3	1	1	38

単位数合計 128

*選択科目 実習科目 ◦ 選択必修科目

履修モデル(3) : 車体分野を専攻し、自動車製造業や自動車車体・付随車製造業等で活躍する人材を目指す者

年次	1年次				2年次				
期	1期	2期	3期	4期	1期	2期	3期	4期	
科目区分	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	単位数合計
基礎科目	物理学 I	2 物理学 II	2 人間工学入門*	2 数理統計学	2 データ分析	2			
	化学基礎	1 化学基礎	1						
	微分積分学	1 微分積分学	1						
	線形代数学	1 線形代数学	1						
	環境エネルギー論	2							
	単位数	7	単位数 5	単位数 2	単位数 2	単位数 2	単位数 0	単位数 0	単位数 0
職業専門科目		材料工学*	2 機械基礎 I	2	技術者倫理	2			
		電気回路学	2 コンピュータ概論	2	自動車工学	1 自動車工学	1		
				次世代モビリティ論	2	電池システム基礎	2		
					3DCAD演習*	2	モーター・イン	2	
						2	自動運転システム基礎	2	
						2	問題解決法*	2	
						2	車体システム基礎	2	
						2	自動運転システム基礎	2	
	自動車工学基礎実習	2			プログラミング実習	1	車体システム基礎実習 [○]	1	車体システム基礎実習 [○]
	ものづくり基礎実習	1	ものづくり基礎実習	1	電気自動車構造解析実習	1	自動運転システム実習 I [○]	1	自動運転システム実習 I [○]
	設計製図実習	1	設計製図実習	1	電気機械工学基礎実験	2			
			臨地実務実習 I	1					臨地実務実習 II
									9
	単位数	4	単位数 7	単位数 4	単位数 2	単位数 9	単位数 11	単位数 4	単位数 11
展開科目		文書表現法	2 プレゼンテーション基礎*	2					英語コミュニケーション
			労使関係論*	2	アイデア思考法*	2	製造とデザインのためのビジネス論 I	2	
						2	システム思考論	2	製造業経営論
						2		2	2
	単位数	0	単位数 2	単位数 4	単位数 2	単位数 2	単位数 2	単位数 2	単位数 2
総合科目			研究ゼミナール I	研究ゼミナール I	1 研究ゼミナール II	研究ゼミナール II	1 研究ゼミナール III		
					単位数 1	単位数 1	単位数 0		2
各期合計		11	14	10	7	13	14	6	13

年次	3年次				4年次				
期	1期	2期	3期	4期	1期	2期	3期	4期	
科目区分	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	単位数合計
基礎科目	AI基礎	2							
	単位数	2	単位数 0	単位数 0	単位数 0	単位数 0	単位数 0	単位数 0	2
職業専門科目			モビリティデザイン論 [○]	2	車体システム設計製造試験法*	2	電気自動車システム開発演習	2	
		電子制御工学	2	車体構造学 [○]	2	モデルベース開発 II *	2		
		振動工学*	2						
		モデルベース開発 I *	2						
			臨地実務実習	5	臨地実務実習	5	車体システム解析実習 I [○]	2	
	単位数	6	単位数 5	単位数 7	単位数 6	単位数 0	単位数 4	単位数 0	28
展開科目	ビジネス英語*	2		マネジメント論*	2				
	単位数	2	単位数 0	単位数 2	単位数 0	単位数 0	単位数 0	単位数 0	4
総合科目	研究ゼミナール III	1		卒業研究 I	1	卒業研究 II	1	卒業研究 II	1
	単位数	1	単位数 0	単位数 0	単位数 1	単位数 1	単位数 1	単位数 1	6
各期合計		11	5	9	7	1	5	1	40

単位数合計 128

*選択科目 実習科目 [○] 選択必修科目

電動モビリティシステム専門職大学 1期 時間割

4月1日-6月16日

講義室	時限	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当
1 (土)																
入学式																
			4/3	月	4/4	火	4/5	水	4/6	木	4/7	金				
オリエンテーション																
			4/10	月	4/11	火	4/12	水	4/13	木	4/14	金				
講義室A	1	設計製図実習B	必 1-2	澤瀬 大久保 三浦				設計製図実習A	必 1-2	澤瀬 大久保 三浦						
講義室A	2	設計製図実習B	必 1-2	澤瀬 大久保 三浦				設計製図実習A	必 1-2	澤瀬 大久保 三浦						
講義室A	3															
講義室A	4															
講義室B・C	1				線形代数学	必 1-2	飯倉			物理学 I	必 1-2	飯倉	環境エネルギー論	必 1-2	川端	
講義室B・C	2				化学基礎	必 1-2	中島			物理学 I	必 1-2	飯倉	環境エネルギー論	必 1-2	川端	
講義室B・C	3												微分積分学	必 1	飯倉	
講義室B・C	4															
ものづくり室	1-2	ものづくり基礎実習A	必 1-2	柳原 熊谷 千明 宮下				ものづくり基礎実習B	必 1-2	柳原 熊谷 千明 宮下						
CAD室・講義室A	1-2	設計製図実習B	必 1-2	澤瀬 大久保 三浦				設計製図実習A	必 1-2	澤瀬 大久保 三浦						
リバース棟	3-4	自動車工学基礎実習A	必 1-2	澤瀬 小松 三浦	自動車工学基礎実習A	必 3-4	澤瀬 小松 三浦	自動車工学基礎実習A	必 5-6	澤瀬 小松 三浦	自動車工学基礎実習A	必 7-8	澤瀬 小松 三浦			
講義室D・E	1	製造とデザインの ためのビジネス論 I	必 1-2	小口 小野寺	プログラミング実習A	必 1-2	白田 城ヶ崎	自動車通信工学	選 1-2	城ヶ崎	自動車工学	必 1	澤瀬	技術者倫理	必 1-2	中島
講義室D・E	2	製造とデザインの ためのビジネス論 I	必 1-2	小口 小野寺	プログラミング実習A	必 1-2	白田 城ヶ崎	自動車通信工学	選 1-2	城ヶ崎	工業数学	選 1	飯倉	技術者倫理	必 1-2	中島
講義室D・E	3				プログラミング実習A	必 3-4	白田 城ヶ崎							データ分析	必 1-2	白田
講義室D・E	4				プログラミング実習A	必 3-4	白田 城ヶ崎							データ分析	必 1-2	白田
CAD室	1-2	3 DCAD演習A	選 1-2	大久保							3 DCAD演習B	選 1-2	大久保			
リバース棟	1-2				電気自動車構造解析実習B	必 1-2	吉武 大崎									
リバース棟	3-4				電気自動車構造解析実習B	必 3-4	吉武 大崎									
講義室8	3-4	電気機械工学基礎実験A	必 1-2	高橋 千明				電気機械工学基礎実験B	必 1-2	高橋 千明						
講義室8	5-6	電気機械工学基礎実験A	必 3-4	高橋 千明				電気機械工学基礎実験B	必 3-4	高橋 千明						
講義室F・G	1	AI基礎	必 1-2	白田	ビジネス英語	選 1-2	前田	高分子工学	選 1-2	高村	電子制御工学	必 1-2	高橋 尾形			
講義室F・G	2	AI基礎	必 1-2	白田	ビジネス英語	選 1-2	前田	高分子工学	選 1-2	高村	電子制御工学	必 1-2	高橋 尾形			
講義室F・G	3	情報工学	選 1-2	白田				モデルベース開発 I	選 1-2	尾形	振動工学	選 1-2	尾形	材料工学	選 1-2	川端
講義室F・G	4	情報工学	選 1-2	白田				モデルベース開発 I	選 1-2	尾形	振動工学	選 1-2	尾形	材料工学	選 1-2	川端
講義室9	1										MaaSを想定した交通政策論	選 1-2	福本			
講義室9	2										MaaSを想定した交通政策論	選 1-2	福本			
講義室9	3				ジョルジェット・シウ ジャーロの工業デザイン論	選 1-2	越湖 シウジャーロ	5Gの科学	選 1-2	城ヶ崎						
講義室9	4				ジョルジェット・シウ ジャーロの工業デザイン論	選 1-2	越湖 シウジャーロ	5Gの科学	選 1-2	城ヶ崎						
実習棟 II	1-4													車体システム解析実習 II	選 1-4	熊谷 大崎
実習棟 II	1-4	電池システム実習 III	選 1-2	牛田 松尾 金子				電池システム実習 III	選 3-4	牛田 松尾 金子						
実習棟 II	1-4				モーター・インバー タシステム実習 III	選 1-2	柳原 内山 千明			モーター・インバー タシステム実習 III	選 3-4	柳原 内山 千明				
実習棟 II	1-4				自動運転システム実習 III	選 1-2	古川 大前 橋本							自動運転システム実習 III	選 3-4	古川 大前 橋本

電動モビリティシステム専門職大学 1期 時間割

4月1日-6月16日

講義室	時限	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当
		4/17	月		4/18	火		4/19	水		4/20	木		4/21	金	
講義室A	1	設計製図実習B	必 3-4	澤瀬 大久保 三浦				設計製図実習A	必 3-4	澤瀬 大久保 三浦						
講義室A	2	設計製図実習B	必 3-4	澤瀬 大久保 三浦				設計製図実習A	必 3-4	澤瀬 大久保 三浦						
講義室A	3															
講義室A	4															
講義室B・C	1				線形代数学	必 2	飯倉				物理学 I	必 3-4	飯倉	環境エネルギー論	必 3-4	川端
講義室B・C	2				化学基礎	必 2	中島				物理学 I	必 3-4	飯倉	環境エネルギー論	必 3-4	川端
1年 講義室B・C	3													微積分学	必 2	飯倉
講義室B・C	4															
ものづくり室	1-2	ものづくり基礎実習A	必 3-4	柳原 熊谷 千明 宮下				ものづくり基礎実習B	必 3-4	柳原 熊谷 千明 宮下						
CAD室・講義室A	1-2	設計製図実習B	必 3-4	澤瀬 大久保				設計製図実習A	必 3-4	澤瀬 大久保						
リバー棟	3-4	自動車工学基礎実習A	必 9-10	澤瀬 小松 三浦	自動車工学基礎実習A	必 11-12	澤瀬 小松 三浦	自動車工学基礎実習A	必 13-14	澤瀬 小松 三浦	自動車工学基礎実習A	必 15-16	澤瀬 小松 三浦			
講義室D・E	1	製造とデザインの I ためのビジネス論	必 3-4	小口 小野寺	プログラミング実習A	必 5-6	白田 城ヶ崎	自動車通信工学	選 3-4	城ヶ崎	自動車工学	必 2	澤瀬	技術者倫理	必 3-4	中島
講義室D・E	2	製造とデザインの I ためのビジネス論	必 3-4	小口 小野寺	プログラミング実習A	必 5-6	白田 城ヶ崎	自動車通信工学	選 3-4	城ヶ崎	工業数学	選 2	飯倉	技術者倫理	必 3-4	中島
講義室D・E	3				プログラミング実習A	必 7-8	白田 城ヶ崎							データ分析	必 3-4	白田
2年 講義室D・E	4				プログラミング実習A	必 7-8	白田 城ヶ崎							データ分析	必 3-4	白田
CAD室	1-2	3 DCAD演習A	選 3-4	大久保							3 DCAD演習B	選 3-4	大久保			
リバー棟	1-2				電気自動車構造 解析実習B	必 5-6	吉武 大崎									
リバー棟	3-4				電気自動車構造 解析実習B	必 7-8	吉武 大崎									
講義室8	3-4	電気機械工学基 礎実験A	必 5-6	高橋 千明				電気機械工学基 礎実験B	必 5-6	高橋 千明						
講義室8	5-6	電気機械工学基 礎実験A	必 7-8	高橋 千明				電気機械工学基 礎実験B	必 7-8	高橋 千明						
講義室F・G	1	AI基礎	必 3-4	白田	ビジネス英語	選 3-4	前田	高分子工学	選 3-4	高村	電子制御工学	必 3-4	高橋 尾形			
3年 講義室F・G	2	AI基礎	必 3-4	白田	ビジネス英語	選 3-4	前田	高分子工学	選 3-4	高村	電子制御工学	必 3-4	高橋 尾形			
講義室F・G	3	情報工学	選 3-4	白田				モデルベース開発 I	選 3-4	尾形	振動工学	選 3-4	尾形	材料工学	選 3-4	川端
講義室F・G	4	情報工学	選 3-4	白田				モデルベース開発 I	選 3-4	尾形	振動工学	選 3-4	尾形	材料工学	選 3-4	川端
講義室9	1										MaaSを想定した 交通政策論	選 3-4	福本			
講義室9	2										MaaSを想定した 交通政策論	選 3-4	福本			
講義室9	3				ジョルジェット・ジウ ジャーロの工業デ ザイン論	選 3-4	越湖 ジウジ アーロ	5Gの科学	選 3-4	城ヶ崎						
講義室9	4				ジョルジェット・ジウ ジャーロの工業デ ザイン論	選 3-4	越湖 ジウジ アーロ	5Gの科学	選 3-4	城ヶ崎						
4年 実習棟 II	1-4													車体システム解析実 習 II	選 5-8	熊谷 大崎
実習棟 II	1-4	電池システム実 習 III	選 5-6	牛田 松尾 金子				電池システム実 習 III	選 7-8	牛田 松尾 金子						
実習棟 II	1-4				モーター・インバー タシステム実習 III	選 5-6	柳原 内山 千明				モーター・インバー タシステム実習 III	選 7-8	柳原 内山 千明			
実習棟 II	1-4				自動運転システ ム実習 III	選 5-6	古川 大前 橋本							自動運転システム実 習 III	選 7-8	古川 大前 橋本

電動モビリティシステム専門職大学 1期 時間割

4月1日-6月16日

講義室	時限	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当
		4/24	月		4/25	火		4/26	水		4/27	木		4/28	金	
講義室A	1	設計製図実習B	必 5-6	澤瀬 大久保 三浦				設計製図実習A	必 5-6	澤瀬 大久保 三浦						
講義室A	2	設計製図実習B	必 5-6	澤瀬 大久保 三浦				設計製図実習A	必 5-6	澤瀬 大久保 三浦						
講義室A	3															
講義室A	4															
講義室B・C	1				線形代数学	必 3	飯倉				物理学 I	必 5-6	飯倉	環境エネルギー論	必 5-6	川端
講義室B・C	2				化学基礎	必 3	中島				物理学 I	必 5-6	飯倉	環境エネルギー論	必 5-6	川端
講義室B・C	3													微積分学	必 3	飯倉
講義室B・C	4															
ものづくり室	1-2	ものづくり基礎実習A	必 5-6	柳原 熊谷 千明 宮下				ものづくり基礎実習B	必 5-6	柳原 熊谷 千明 宮下						
CAD室・講義室A	1-2	設計製図実習B	必 5-6	澤瀬 大久保 三浦				設計製図実習A	必 5-6	澤瀬 大久保 三浦						
リバース棟	3-4	自動車工学基礎実習A	必 17-18	澤瀬 小松 三浦	自動車工学基礎実習A	必 19-20	澤瀬 小松 三浦	自動車工学基礎実習A	必 21-22	澤瀬 小松 三浦	自動車工学基礎実習A	必 23-24	澤瀬 小松 三浦			
講義室D・E	1	製造とデザインの ためのビジネス論 I	必 5-6	小口 小野寺	プログラミング実習 A	必 9-10	白田 城ヶ崎	自動車通信工学	選 5-6	城ヶ崎	自動車工学	必 3	澤瀬	技術者倫理	必 5-6	中島
講義室D・E	2	製造とデザインの ためのビジネス論 I	必 5-6	小口 小野寺	プログラミング実習 A	必 9-10	白田 城ヶ崎	自動車通信工学	選 5-6	城ヶ崎	工業数学	選 3	飯倉	技術者倫理	必 5-6	中島
講義室D・E	3				プログラミング実習 A	必 11-12	白田 城ヶ崎							データ分析	必 5-6	白田
講義室D・E	4				プログラミング実習 A	必 11-12	白田 城ヶ崎							データ分析	必 5-6	白田
CAD室	1-2	3 DCAD演習A	選 5-6	大久保							3 DCAD演習B	選 5-6	大久保			
リバース棟	1-2				電気自動車構造 解析実習B	必 9-10	吉武 大崎									
リバース棟	3-4				電気自動車構造 解析実習B	必 11-12	吉武 大崎							材料工学	選 5-6	川端
講義室8	3-4	電気機械工学基 礎実験A	必 9-10	高橋 千明				電気機械工学基 礎実験B	必 9-10	高橋 千明				材料工学	選 5-6	川端
講義室8	5-6	電気機械工学基 礎実験A	必 11-12	高橋 千明				電気機械工学基 礎実験B	必 11-12	高橋 千明				材料工学	選 5-6	川端
講義室F・G	1	AI基礎	必 5-6	白田	ビジネス英語	選 5-6	前田	高分子工学	選 5-6	高村	電子制御工学	選 5-6	高橋 尾形			
講義室F・G	2	AI基礎	必 5-6	白田	ビジネス英語	選 5-6	前田	高分子工学	選 5-6	高村	電子制御工学	選 5-6	高橋 尾形			
講義室F・G	3	情報工学	選 5-6	白田				モデルベース開発 I	選 5-6	尾形	振動工学	選 5-6	尾形			
講義室F・G	4	情報工学	選 5-6	白田				モデルベース開発 I	選 5-6	尾形	振動工学	選 5-6	尾形			
講義室9	1										MaaSを想定した 交通政策論	選 5-6	福本			
講義室9	2										MaaSを想定した 交通政策論	選 5-6	福本			
講義室9	3				ジョルジェット・ジウ ジャーロの工業デ ザイン論	選 5-6	越湖 ジウジ アーロ	5Gの科学	選 5-6	城ヶ崎						
講義室9	4				ジョルジェット・ジウ ジャーロの工業デ ザイン論	選 5-6	越湖 ジウジ アーロ	5Gの科学	選 5-6	城ヶ崎				自動運転システム実 習III	選 11-12	高橋 大前 橋本
実習棟II	1-4													車体システム解析実 習II	選 9-12	熊谷 大崎
実習棟II	1-4	電池システム実 習III	選 9-10	牛田 松尾 金子				電池システム実 習III	選 11-12	牛田 松尾 金子						
実習棟II	1-4				モーター・インバー タシステム実習III	選 9-10	柳原 内山 千明				モーター・インバー タシステム実習III	選 11-12	柳原 内山 千明			
実習棟II	1-4				自動運転システ ム実習III	選 9-10	古川 大前 橋本									

電動モビリティシステム専門職大学 1期 時間割

4月1日-6月16日

講義室	時限	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当
	5/1		月		5/2	火		5/3	水		5/4	木		5/5	金	
講義室A	1															
講義室A	2															
講義室A	3															
講義室A	4															
講義室B・C	1															
講義室B・C	2															
1年	講義室B・C	3														
	講義室B・C	4														
	ものづくり室															
	CAD室・講義室A															
講義室D・E	1															
講義室D・E	2															
講義室D・E	3															
2年	講義室D・E	4														
	CAD室	1-2														
講義室F・G	1															
3年	講義室F・G	2														
	講義室F・G	3														
	講義室F・G	4														
講義室9	1															
講義室9	2															
講義室9	3															
4年	講義室9	4														
	実習棟II	1-4														
	実習棟II	1-4														
	実習棟II	1-4														
	実習棟II	1-4														

電動モビリティシステム専門職大学 1期 時間割

4月1日-6月16日

講義室	時限	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当
		5/8	月		5/9	火		5/10	水		5/11	木		5/12	金	
講義室A	1	設計製図実習B	必 7-8	澤瀬 大久保 三浦				設計製図実習A	必 7-8	澤瀬 大久保 三浦						
講義室A	2	設計製図実習B	必 7-8	澤瀬 大久保 三浦				設計製図実習A	必 7-8	澤瀬 大久保 三浦						
講義室A	3															
講義室A	4															
講義室B・C	1				線形代数学	必 4	飯倉				物理学 I	必 7-8	飯倉	環境エネルギー論	必 7-8	川端
講義室B・C	2				化学基礎	必 4	中島				物理学 I	必 7-8	飯倉	環境エネルギー論	必 7-8	川端
講義室B・C	3													微分積分学	必 4	飯倉
講義室B・C	4															
ものづくり室	1-2	ものづくり基礎実習A	必 7-8	柳原 熊谷 千明 宮下				ものづくり基礎実習B	必 7-8	柳原 熊谷 千明 宮下						
CAD室・講義室A	1-2	設計製図実習B	必 7-8	澤瀬 大久保 三浦				設計製図実習A	必 7-8	澤瀬 大久保 三浦						
リバース棟	3-4	自動車工学基礎実習A	必 25-26	澤瀬 小松 三浦	自動車工学基礎実習A	必 27-28	澤瀬 小松 三浦	自動車工学基礎実習A	必 29-30	澤瀬 小松 三浦	自動車工学基礎実習B	必 1-2	澤瀬 小松 三浦			
講義室D・E	1	製造とデザインの ためのビジネス論 I	必 7-8	小口 小野寺	プログラミング実習 A	必 13-14	白田 城ヶ崎	自動車通信工学	選 7-8	城ヶ崎	自動車工学	必 4	澤瀬	技術者倫理	必 7-8	中島
講義室D・E	2	製造とデザインの ためのビジネス論 I	必 7-8	小口 小野寺	プログラミング実習 A	必 13-14	白田 城ヶ崎	自動車通信工学	選 7-8	城ヶ崎	工業数学	選 4	飯倉	技術者倫理	必 7-8	中島
講義室D・E	3				プログラミング実習 A	必 15-16	白田 城ヶ崎							データ分析	必 7-8	白田
講義室D・E	4				プログラミング実習 A	必 15-16	白田 城ヶ崎							データ分析	必 7-8	白田
CAD室	1-2	3 DCAD演習A	選 7-8	大久保							3 DCAD演習B	選 7-8	大久保			
リバース棟	1-2				電気自動車構造 解析実習B	必 13-14	吉武 大崎									
リバース棟	3-4				電気自動車構造 解析実習B	必 15-16	吉武 大崎									
講義室8	3-4	電気機械工学基 礎実験A	必 13-14	高橋 千明				電気機械工学基 礎実験B	必 13-14	高橋 千明						
講義室8	5-6	電気機械工学基 礎実験A	必 15-16	高橋 千明				電気機械工学基 礎実験B	必 15-16	高橋 千明						
講義室F・G	1	AI基礎	必 7-8	白田	ビジネス英語	選 7-8	前田	高分子工学	選 7-8	高村	電子制御工学	選 7-8	高橋 尾形			
講義室F・G	2	AI基礎	必 7-8	白田	ビジネス英語	選 7-8	前田	高分子工学	選 7-8	高村	電子制御工学	選 7-8	高橋 尾形			
講義室F・G	3	情報工学	選 7-8	白田				モデルベース開発 I	選 7-8	尾形	振動工学	選 7-8	尾形	材料工学	選 7-8	川端
講義室F・G	4	情報工学	選 7-8	白田				モデルベース開発 I	選 7-8	尾形	振動工学	選 7-8	尾形	材料工学	選 7-8	川端
講義室9	1										MaaSを想定した 交通政策論	選 7-8	福本			
講義室9	2										MaaSを想定した 交通政策論	選 7-8	福本			
講義室9	3				ジョルジェット・ジウ ジア-0の工業デ ザイン論	選 7-8	越湖 ジウジ ア-0	5Gの科学	選 7-8	城ヶ崎						
講義室9	4				ジョルジェット・ジウ ジア-0の工業デ ザイン論	選 7-8	越湖 ジウジ ア-0	5Gの科学	選 7-8	城ヶ崎						
実習棟 II	1-4													車体システム解析実 習 II	選 13-16	熊谷 大崎
実習棟 II	1-4	電池システム実 習 III	選 13-14	牛田 松尾 金子				電池システム実 習 III	選 15-16	牛田 松尾 金子						
実習棟 II	1-4				モーター・インバ ータシステム実習 III	選 13-14	柳原 内山 千明				モーター・インバ ータシステム実習 III	選 15-16	柳原 内山 千明			
実習棟 II	1-4				自動運転システ ム実習 III	選 13-14	古川 大前 橋本							自動運転システム実 習 III	選 15-16	古川 大前 橋本

電動モビリティシステム専門職大学 1期 時間割

4月1日-6月16日

講義室	時間	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当					
		5/15	月		5/16	火		5/17	水		5/18	木		5/19	金						
講義室A	1	設計製図実習B	必	9-10	澤瀬 大久保 三浦			設計製図実習A	必	9-10	澤瀬 大久保 三浦										
講義室A	2	設計製図実習B	必	9-10	澤瀬 大久保 三浦			設計製図実習A	必	9-10	澤瀬 大久保 三浦										
講義室A	3																				
講義室A	4																				
講義室B・C	1				線形代数学	必	5	飯倉			物理学 I	必	9-10	飯倉	環境エネルギー論	必	9-10	川端			
講義室B・C	2				化学基礎	必	5	中島			物理学 I	必	9-10	飯倉	環境エネルギー論	必	9-10	川端			
講義室B・C	3														微積分学	必	5	飯倉			
講義室B・C	4																				
ものづくり室	1-2	ものづくり基礎実習A	必	9-10	柳原 熊谷 千明 宮下			ものづくり基礎実習B	必	9-10	柳原 熊谷 千明 宮下										
CAD室・講義室A	1-2	設計製図実習B	必	9-10	澤瀬 大久保			設計製図実習A	必	9-10	澤瀬 大久保										
リバース棟	3-4	自動車工学基礎実習B	必	3-4	澤瀬 小松 三浦	自動車工学基礎実習B	必	5-6	澤瀬 小松 三浦	自動車工学基礎実習B	必	7-8	澤瀬 小松 三浦	自動車工学基礎実習B	必	9-10	澤瀬 小松 三浦				
講義室D・E	1	製造とデザインのためのビジネス論 I	必	9-10	小口 小野寺	プログラミング実習A	必	17-18	白田 城ヶ崎	自動車通信工学	選	9-10	城ヶ崎	自動車工学	必	5	澤瀬	技術者倫理	必	9-10	中島
講義室D・E	2	製造とデザインのためのビジネス論 I	必	9-10	小口 小野寺	プログラミング実習A	必	17-18	白田 城ヶ崎	自動車通信工学	選	9-10	城ヶ崎	工業数学	選	5	飯倉	技術者倫理	必	9-10	中島
講義室D・E	3					プログラミング実習A	必	19-20	白田 城ヶ崎								データ分析	必	9-10	白田	
講義室D・E	4					プログラミング実習A	必	19-20	白田 城ヶ崎								データ分析	必	9-10	白田	
CAD室	1-2	3 DCAD演習A	選	9-10	大久保									3 DCAD演習B	選	9-10	大久保				
リバース棟	1-2					電気自動車構造解析実習B	必	17-18	吉武 大崎												
リバース棟	3-4					電気自動車構造解析実習B	必	19-20	吉武 大崎												
講義室8	3-4	電気機械工学基礎実験A	必	17-18	高橋 千明			電気機械工学基礎実験B	必	17-18	高橋 千明										
講義室8	5-6	電気機械工学基礎実験A	必	19-20	高橋 千明			電気機械工学基礎実験B	必	19-20	高橋 千明										
講義室F・G	1	AI基礎	必	9-10	白田	ビジネス英語	選	9-10	前田	高分子工学	選	9-10	高村	電子制御工学	選	9-10	高橋 尾形				
講義室F・G	2	AI基礎	必	9-10	白田	ビジネス英語	選	9-10	前田	高分子工学	選	9-10	高村	電子制御工学	選	9-10	高橋 尾形				
講義室F・G	3	情報工学	選	9-10	白田			モデルベース開発 I	選	9-10	尾形	振動工学	選	9-10	尾形	材料工学	選	9-10	川端		
講義室F・G	4	情報工学	選	9-10	白田			モデルベース開発 I	選	9-10	尾形	振動工学	選	9-10	尾形	材料工学	選	9-10	川端		
講義室9	1													MaaSを想定した交通政策論	選	9-10	福本				
講義室9	2													MaaSを想定した交通政策論	選	9-10	福本				
講義室9	3				ジョルジェット・ジウ ジア-ロの工業デザイン論	選	9-10	越湖 シウジ ア-ロ	5Gの科学	選	9-10	城ヶ崎									
講義室9	4				ジョルジェット・ジウ ジア-ロの工業デザイン論	選	9-10	越湖 シウジ ア-ロ	5Gの科学	選	9-10	城ヶ崎									
実習棟 II	1-4													車体システム解析実習 II	選	17-20	熊谷 大崎				
実習棟 II	1-4	電池システム実習 III	選	17-18	牛田 松尾 金子			電池システム実習 III	選	19-20	牛田 松尾 金子										
実習棟 II	1-4				モーター・インバータシステム実習 III	選	17-18	柳原 内山 千明			モーター・インバータシステム実習 III	選	19-20	柳原 内山 千明							
実習棟 II	1-4				自動運転システム実習 III	選	17-18	古川 大前 橋本						自動運転システム実習 III	選	19-20	古川 大前 橋本				

電動モビリティシステム専門職大学 1期 時間割

4月1日-6月16日

講義室	時限	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当					
		5/22	月		5/23	火		5/24	水		5/25	木		5/26	金						
講義室A	1	設計製図実習B	必	11-12	澤瀬 大久保 三浦			設計製図実習A	必	11-12	澤瀬 大久保 三浦										
講義室A	2	設計製図実習B	必	11-12	澤瀬 大久保 三浦			設計製図実習A	必	11-12	澤瀬 大久保 三浦										
講義室A	3																				
講義室A	4																				
講義室B・C	1				線形代数学	必	6	飯倉			物理学 I	必	11-12	飯倉	環境エネルギー論	必	11-12	川端			
講義室B・C	2				化学基礎	必	6	中島			物理学 I	必	11-12	飯倉	環境エネルギー論	必	11-12	川端			
1年 講義室B・C	3													微分積分学	必	6	飯倉				
講義室B・C	4																				
ものづくり室	1-2	ものづくり基礎実習A	必	11-12	柳原 熊谷 千明 宮下			ものづくり基礎実習B	必	11-12	柳原 熊谷 千明 宮下										
CAD室・講義室A	1-2	設計製図実習B	必	11-12	澤瀬 大久保			設計製図実習A	必	11-12	澤瀬 大久保										
リバス棟	3-4	自動車工学基礎実習B	必	11-12	澤瀬 小松 三浦	自動車工学基礎実習B	必	13-14	澤瀬 小松 三浦	自動車工学基礎実習B	必	15-16	澤瀬 小松 三浦	自動車工学基礎実習B	必	17-18	澤瀬 小松 三浦				
講義室D・E	1	製造とデザインの ためのビジネス論 I	必	11-12	小口 小野寺	プログラミング実習 A	必	21-22	白田 城ヶ崎	自動車通信工学	選	11-12	城ヶ崎	自動車工学	必	6	澤瀬	技術者倫理	必	11-12	中島
講義室D・E	2	製造とデザインの ためのビジネス論 I	必	11-12	小口 小野寺	プログラミング実習 A	必	21-22	白田 城ヶ崎	自動車通信工学	選	11-12	城ヶ崎	工業数学	選	6	飯倉	技術者倫理	必	11-12	中島
講義室D・E	3				プログラミング実習 A	必	23-24	白田 城ヶ崎									データ分析	必	11-12	白田	
2年 講義室D・E	4				プログラミング実習 A	必	23-24	白田 城ヶ崎									データ分析	必	11-12	白田	
CAD室	1-2	3 DCAD演習A	選	11-12	大久保						3 DCAD演習B	選	11-12	大久保							
リバス棟	1-2				電気自動車構造 解析実習B	必	21-22	吉武 大崎													
リバス棟	3-4				電気自動車構造 解析実習B	必	23-24	吉武 大崎													
講義室8	3-4	電気機械工学基 礎実験A	必	21-22	高橋 千明			電気機械工学基 礎実験B	必	21-22	高橋 千明										
講義室8	5-6	電気機械工学基 礎実験A	必	23-24	高橋 千明			電気機械工学基 礎実験B	必	23-24	高橋 千明										
講義室F・G	1	AI基礎	必	11-12	白田	ビジネス英語	選	11-12	前田	高分子工学	選	11-12	高村	電子制御工学	選	11-12	高橋 尾形				
講義室F・G	2	AI基礎	必	11-12	白田	ビジネス英語	選	11-12	前田	高分子工学	選	11-12	高村	電子制御工学	選	11-12	高橋 尾形				
3年 講義室F・G	3	情報工学	選	11-12	白田			モデルベース開発 I	選	11-12	尾形	振動工学	選	11-12	尾形	材料工学	選	11-12	川端		
講義室F・G	4	情報工学	選	11-12	白田			モデルベース開発 I	選	11-12	尾形	振動工学	選	11-12	尾形	材料工学	選	11-12	川端		
講義室9	1										MaaSを想定した 交通政策論	選	11-12	福本							
講義室9	2										MaaSを想定した 交通政策論	選	11-12	福本							
講義室9	3				ジョルジェット・ジウ ジャーロの工業デ ザイン論	選	11-12	越湖 ジウジ アーロ	5Gの科学	選	11-12	城ヶ崎									
講義室9	4				ジョルジェット・ジウ ジャーロの工業デ ザイン論	選	11-12	越湖 ジウジ アーロ	5Gの科学	選	11-12	城ヶ崎									
4年 実習棟 II	1-4													車体システム解析実 習 II	選	21-24	熊谷 大崎				
実習棟 II	1-4	電池システム実 習 III	選	21-22	牛田 松尾 金子			電池システム実 習 III	選	23-24	牛田 松尾 金子										
実習棟 II	1-4				モーター・インバ ータシステム実習 III	選	21-22	柳原 内山 千明			モーター・インバ ータシステム実習 III	選	23-24	柳原 内山 千明							
実習棟 II	1-4				自動運転システ ム実習 III	選	21-22	古川 大前 橋本						自動運転システム実 習 III	選	23-24	古川 大前 橋本				

電動モビリティシステム専門職大学 1期 時間割

4月1日-6月16日

講義室	時限	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当					
		5/29	月		5/30	火		5/31	水		6/1	木		6/2	金						
講義室A	1	設計製図実習B	必	13-14	澤瀬 大久保 三浦			設計製図実習A	必	13-14	澤瀬 大久保 三浦										
講義室A	2	設計製図実習B	必	13-14	澤瀬 大久保 三浦			設計製図実習A	必	13-14	澤瀬 大久保 三浦										
講義室A	3																				
講義室A	4																				
講義室B・C	1				線形代数学	必	7	飯倉			物理学 I	必	13-14	飯倉	環境エネルギー論	必	13-14	川端			
講義室B・C	2				化学基礎	必	7	中島			物理学 I	必	13-14	飯倉	環境エネルギー論	必	13-14	川端			
講義室B・C	3													微分積分学	必	7	飯倉				
講義室B・C	4																				
ものづくり室	1-2	ものづくり基礎実習A	必	13-14	柳原 熊谷 千明 宮下			ものづくり基礎実習B	必	13-14	柳原 熊谷 千明 宮下										
CAD室・講義室A	1-2	設計製図実習B	必	13-14	澤瀬 大久保 三浦			設計製図実習A	必	13-14	澤瀬 大久保 三浦										
リバース棟	3-4	自動車工学基礎実習B	必	19-20	澤瀬 小松 三浦	自動車工学基礎実習B	必	21-22	澤瀬 小松 三浦	自動車工学基礎実習B	必	23-24	澤瀬 小松 三浦	自動車工学基礎実習B	必	25-26	澤瀬 小松 三浦				
講義室D・E	1	製造とデザインの ためのビジネス論 I	必	13-14	小口 小野寺	プログラミング実習 A	必	25-26	白田 城ヶ崎	自動車通信工学	選	13-14	城ヶ崎	自動車工学	必	7	澤瀬	技術者倫理	必	13-14	中島
講義室D・E	2	製造とデザインの ためのビジネス論 I	必	13-14	小口 小野寺	プログラミング実習 A	必	25-26	白田 城ヶ崎	自動車通信工学	選	13-14	城ヶ崎	工業数学	選	7	飯倉	技術者倫理	必	13-14	中島
講義室D・E	3				プログラミング実習 A	必	27-28	白田 城ヶ崎									データ分析	必	13-14	白田	
講義室D・E	4				プログラミング実習 A	必	27-28	白田 城ヶ崎									データ分析	必	13-14	白田	
CAD室	1-2	3 DCAD演習A	選	13-14	大久保						3 DCAD演習B	選	13-14	大久保							
リバース棟	1-2				電気自動車構造 解析実習B	必	25-26	吉武 大崎													
リバース棟	3-4				電気自動車構造 解析実習B	必	27-28	吉武 大崎													
講義室8	3-4	電気機械工学基 礎実験A	必	25-26	高橋 千明	電気機械工学基 礎実験B	必	25-26	高橋 千明												
講義室8	5-6	電気機械工学基 礎実験A	必	27-28	高橋 千明	電気機械工学基 礎実験B	必	27-28	高橋 千明												
講義室F・G	1	AI基礎	必	13-14	白田	ビジネス英語	選	13-14	前田	高分子工学	選	13-14	高村	電子制御工学	選	13-14	高橋 尾形				
講義室F・G	2	AI基礎	必	13-14	白田	ビジネス英語	選	13-14	前田	高分子工学	選	13-14	高村	電子制御工学	選	13-14	高橋 尾形				
講義室F・G	3	情報工学	選	13-14	白田			モデルベース開発 I	選	13-14	尾形	振動工学	選	13-14	尾形	材料工学	選	13-14	川端		
講義室F・G	4	情報工学	選	13-14	白田			モデルベース開発 I	選	13-14	尾形	振動工学	選	13-14	尾形	材料工学	選	13-14	川端		
講義室9	1										MaaSを想定した 交通政策論	選	13-14	福本							
講義室9	2										MaaSを想定した 交通政策論	選	13-14	福本							
講義室9	3				ジョルジェット・ジウ ジャーロの工業デ ザイン論	選	13-14	越湖 ジウジ アーロ	5Gの科学	選	13-14	城ヶ崎									
講義室9	4				ジョルジェット・ジウ ジャーロの工業デ ザイン論	選	13-14	越湖 ジウジ アーロ	5Gの科学	選	13-14	城ヶ崎									
実習棟 II	1-4													車体システム解析実 習 II	選	25-28	熊谷 大崎				
実習棟 II	1-4	電池システム実 習 III	選	25-26	牛田 松尾 金子			電池システム実 習 III	選	27-28	牛田 松尾 金子										
実習棟 II	1-4				モーター・インパー タシステム実習 III	選	25-26	柳原 内山 千明			モーター・インパー タシステム実習 III	選	27-28	柳原 内山 千明							
実習棟 II	1-4				自動運転システ ム実習 III	選	25-26	古川 大前 橋本						自動運転システム実 習 III	選	27-28	古川 大前 橋本				

電動モビリティシステム専門職大学 1期 時間割

4月1日-6月16日

講義室	時限	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当					
		6/5	月		6/6	火		6/7	水		6/8	木		6/9	金						
講義室A	1	設計製図実習B	必	15-16	澤瀬 大久保 三浦			設計製図実習A	必	15-16	澤瀬 大久保 三浦										
講義室A	2	設計製図実習B	必	15-16	澤瀬 大久保 三浦			設計製図実習A	必	15-16	澤瀬 大久保 三浦										
講義室A	3																				
講義室A	4																				
講義室B・C	1				線形代数学	必	8	飯倉			物理学 I	必	15	飯倉	環境エネルギー論	必	15	川端			
講義室B・C	2				化学基礎	必	8	中島													
1年 講義室B・C	3													微分積分学	必	8	飯倉				
講義室B・C	4																				
ものづくり室	1-2	ものづくり基礎実習A	必	15-16	柳原 熊谷 千明 宮下			ものづくり基礎実習B	必	15-16	柳原 熊谷 千明 宮下										
CAD室・講義室A	1-2	設計製図実習B	必	15-16	澤瀬 大久保			設計製図実習A	必	15-16	澤瀬 大久保										
リバース棟	3-4	自動車工学基礎実習B	必	27-28	澤瀬 小松 三浦			自動車工学基礎実習B	必	29-30	澤瀬 小松 三浦										
講義室D・E	1	製造とデザインの ためのビジネス論 I	必	15	小口 小野寺	プログラミング実習 A	必	29-30	白田 城ヶ崎	自動車通信工学	選	15	城ヶ崎	自動車工学	必	8	澤瀬	技術者倫理	必	15	中島
講義室D・E	2					プログラミング実習 A	必	29-30	白田 城ヶ崎					工業数学	選	8	飯倉				
講義室D・E	3																	データ分析	必	15	白田
講義室D・E	4																				
2年 CAD室	1-2	3 DCAD演習A	選	15	大久保						3 DCAD演習B	選	15	大久保							
リバース棟	1-2					電気自動車構造 解析実習B	必	29-30	吉武 大崎												
リバース棟	3-4																				
講義室8	3-4	電気機械工学基 礎実験A	必	29-30	高橋 千明			電気機械工学基 礎実験B	必	29-30	高橋 千明										
講義室8	5-6																				
講義室F・G	1	AI基礎	必	15	白田	ビジネス英語	選	15	前田	高分子工学	選	15	高村	電子制御工学	選	15	高橋 尾形				
講義室F・G	2																				
講義室F・G	3	情報工学	選	15	白田			モデルベース開発 I	選	15	尾形	振動工学	選	15	尾形	材料工学	選	15	川端		
講義室F・G	4																				
講義室9	1										MaaSを想定した 交通政策論	選	15	福本							
講義室9	2																				
講義室9	3					ジョルジェット・ジウ ジア-ロの工業デ ザイン論	選	15	越湖 吉川	5Gの科学	選	15	城ヶ崎								
講義室9	4																				
4年 実習棟 II	1-4																	車体システム解析実 習 II	選	29-30	熊谷 大崎
実習棟 II	1-4	電池システム実 習 III	選	29-30	牛田 松尾 金子																
実習棟 II	1-4					モーター・インバー タシステム実習 III	選	29-30	柳原 内山 千明												
実習棟 II	1-4					自動運転システ ム実習 III	選	29-30	古川 大前 橋本												
		6/12	月		6/13	火		6/14	水		6/15	木		6/16	金						
		テスト期間																			

電動モビリティシステム専門職大学 2期 時間割

6月19日-9月29日

講義室	時限	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当					
		6/19	月		6/20	火		6/21	水		6/22	木		6/23	金						
講義室A	1	設計製図実習B	必	17-18	澤瀬 大久保 三浦			設計製図実習A	必	17-18	澤瀬 大久保 三浦										
講義室A	2	設計製図実習B	必	17-18	澤瀬 大久保 三浦			設計製図実習A	必	17-18	澤瀬 大久保 三浦										
講義室A	3																				
講義室A	4																				
講義室B・C	1				線形代数学	必	9	飯倉			物理学Ⅱ	必	1-2	新井	電気回路学	必	1-2	高橋千明			
講義室B・C	2				化学基礎	必	9	中島			物理学Ⅱ	必	1-2	新井	電気回路学	必	1-2	高橋千明			
講義室B・C	3	材料工学	選	1-2	川端	二一理解入門	選	1-2	唐鎌	計測工学	選	1-2	尾形	文書表現法	必	1-2	清水小野寺	微積分学	必	9	飯倉
講義室B・C	4	材料工学	選	1-2	川端	二一理解入門	選	1-2	唐鎌	計測工学	選	1-2	尾形	文書表現法	必	1-2	清水小野寺				
ものづくり室	1-2	ものづくり基礎実習A	必	17-18	柳原 熊谷 千明 宮下			ものづくり基礎実習B	必	17-18	柳原 熊谷 千明 宮下										
CAD室・講義室A	1-2	設計製図実習B	必	17-18	澤瀬 大久保 三浦			設計製図実習A	必	17-18	澤瀬 大久保 三浦										
講義室D・E	1	電池システム基礎	必	1-2	吉武 金子	プログラミング実習B	必	1-2	白田 城ヶ崎	自動運転システム基礎	必	1-2	古川	自動車工学	必	9	澤瀬	広報活動論	選	1-2	館内
講義室D・E	2	電池システム基礎	必	1-2	吉武 金子	プログラミング実習B	必	1-2	白田 城ヶ崎	自動運転システム基礎	必	1-2	古川	工業数学	選	9	飯倉	広報活動論	選	1-2	館内
講義室D・E	3	車体システム基礎	必	1-2	大崎 江本	プログラミング実習B	必	3-4	白田 城ヶ崎	モーター・インバータシステム基礎	必	1-2	新井	システム思考論	必	1-2	狼				
講義室D・E	4	車体システム基礎	必	1-2	大崎 江本	プログラミング実習B	必	3-4	白田 城ヶ崎	モーター・インバータシステム基礎	必	1-2	新井	システム思考論	必	1-2	狼				
リバーズ棟	1-2				電気自動車構造解析実習A	必	1-2	吉武 大崎													
リバーズ棟	3-4				電気自動車構造解析実習A	必	3-4	吉武 大崎													
臨地実務実習Ⅲ 実施期間																					
講義室F	1													科学技術政策	選	1-2	唐鎌				
講義室F	2													科学技術政策	選	1-2	唐鎌				
講義室F	3	金属材料工学	選 必 選 必	1-2	小松	知的財産権概論	選 必 選 必	1-2	岡田												
講義室F	4	金属材料工学	選 必 選 必	1-2	小松	知的財産権概論	選 必 選 必	1-2	岡田												
講義室9	1										サービス工学	選 必 選 必	1-2	川端	電気自動車システム開発演習	必	1-2	尾形内山			
講義室9	2										サービス工学	選 必 選 必	1-2	川端	電気自動車システム開発演習	必	1-2	尾形内山			
講義室9	3							モデルベース開発Ⅱ	選	1-2	近藤	電動モビリティを想定したサービス論	選 必 選 必	1-2	Markus Schaedlich	電気自動車システム開発演習	必	3-4	尾形内山		
講義室9	4							モデルベース開発Ⅱ	選	1-2	近藤	電動モビリティを想定したサービス論	選 必 選 必	1-2	Markus Schaedlich	電気自動車システム開発演習	必	3-4	尾形内山		

電動モビリティシステム専門職大学 2期 時間割

6月19日-9月29日

講義室	時限	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当					
		6/26	月		6/27	火		6/28	水		6/29	木		6/30	金						
講義室A	1	設計製図実習B	必	19-20	澤瀬 大久保 三浦			設計製図実習A	必	19-20	澤瀬 大久保 三浦										
講義室A	2	設計製図実習B	必	19-20	澤瀬 大久保 三浦			設計製図実習A	必	19-20	澤瀬 大久保 三浦										
講義室A	3																				
講義室A	4																				
講義室B・C	1				線形代数学	必	10	飯倉			物理学Ⅱ	必	3-4	新井	電気回路学	必	3-4	高橋 千明			
講義室B・C	2				化学基礎	必	10	中島			物理学Ⅱ	必	3-4	新井	電気回路学	必	3-4	高橋 千明			
講義室B・C	3	材料工学	選	3-4	川端	二-ズ理解入門	選	3-4	唐鎌	計測工学	選	3-4	尾形	文書表現法	必	3-4	清水 小野寺	微分積分学	必	10	飯倉
講義室B・C	4	材料工学	選	3-4	川端	二-ズ理解入門	選	3-4	唐鎌	計測工学	選	3-4	尾形	文書表現法	必	3-4	清水 小野寺				
ものづくり室	1-2	ものづくり基礎実習A	必	19-20	柳原 熊谷 千明 宮下 澤瀬			ものづくり基礎実習B	必	19-20	柳原 熊谷 千明 宮下 澤瀬										
CAD室・講義室A	1-2	設計製図実習B	必	19-20	大久保 三浦			設計製図実習A	必	19-20	大久保 三浦										
講義室D・E	1	電池システム基礎	必	3-4	吉武 金子	プログラミング実習B	必	5-6	白田 城ヶ崎	自動運転システム基礎	必	3-4	古川	自動車工学	必	10	澤瀬	広報活動論	選	3-4	館内
講義室D・E	2	電池システム基礎	必	3-4	吉武 金子	プログラミング実習B	必	5-6	白田 城ヶ崎	自動運転システム基礎	必	3-4	古川	工業数学	選	10	飯倉	広報活動論	選	3-4	館内
講義室D・E	3	車体システム基礎	必	3-4	大崎 江本	プログラミング実習B	必	7-8	白田 城ヶ崎	モーター・インバータシステム基礎	必	3-4	新井	システム思考論	必	3-4	狼				
講義室D・E	4	車体システム基礎	必	3-4	大崎 江本	プログラミング実習B	必	7-8	白田 城ヶ崎	モーター・インバータシステム基礎	必	3-4	新井	システム思考論	必	3-4	狼				
リバース棟	1-2				電気自動車構造解析実習A	必	5-6	吉武 大崎													
リバース棟	3-4				電気自動車構造解析実習A	必	7-8	吉武 大崎													
臨地実務実習Ⅲ 実施期間																					
講義室F	1													科学技術政策	選	3-4	唐鎌				
講義室F	2													科学技術政策	選	3-4	唐鎌				
講義室F	3	金属材料工学	選 必	3-4	小松	知的財産権概論	選 必	3-4	岡田												
講義室F	4	金属材料工学	選 必	3-4	小松	知的財産権概論	選 必	3-4	岡田												
講義室9	1										サービス工学	選 必	3-4	川端	電気自動車システム開発演習	必	5-6	尾形 内山			
講義室9	2										サービス工学	選 必	3-4	川端	電気自動車システム開発演習	必	5-6	尾形 内山			
講義室9	3							モデルベース開発Ⅱ	選	3-4	近藤	電動モビリティを想定したサービス論	選 必	3-4	Markus Schaedlich	電気自動車システム開発演習	必	7-8	尾形 内山		
講義室9	4							モデルベース開発Ⅱ	選	3-4	近藤	電動モビリティを想定したサービス論	選 必	3-4	Markus Schaedlich	電気自動車システム開発演習	必	7-8	尾形 内山		

電動モビリティシステム専門職大学 2期 時間割

6月19日-9月29日

講義室	時限	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当					
	7/3		月		7/4	火		7/5	水		7/6	木		7/7	金						
講義室A	1	設計製図実習B	必	21-22	澤瀬 大久保 三浦			設計製図実習A	必	21-22	澤瀬 大久保 三浦										
講義室A	2	設計製図実習B	必	21-22	澤瀬 大久保 三浦			設計製図実習A	必	21-22	澤瀬 大久保 三浦										
講義室A	3																				
講義室A	4																				
講義室B・C	1				線形代数学	必	11	飯倉			物理学Ⅱ	必	5-6	新井	電気回路学	必	5-6	高橋千明			
講義室B・C	2				化学基礎	必	11	中島			物理学Ⅱ	必	5-6	新井	電気回路学	必	5-6	高橋千明			
講義室B・C	3	材料工学	選	5-6	川端	二一理解入門	選	5-6	唐鎌	計測工学	選	5-6	尾形	文書表現法	必	5-6	清水小野寺	微分積分学	必	11	飯倉
講義室B・C	4	材料工学	選	5-6	川端	二一理解入門	選	5-6	唐鎌	計測工学	選	5-6	尾形	文書表現法	必	5-6	清水小野寺				
ものづくり室	1-2	ものづくり基礎実習A	必	21-22	柳原 熊谷 千明 宮下 澤瀬			ものづくり基礎実習B	必	21-22	柳原 熊谷 千明 宮下 澤瀬										
CAD室・講義室A	1-2	設計製図実習B	必	21-22	大久保 三浦			設計製図実習A	必	21-22	大久保 三浦										
講義室D・E	1	電池システム基礎	必	5-6	吉武 金子	プログラミング実習B	必	9-10	白田 城ヶ崎	自動運転システム基礎	必	5-6	古川	自動車工学	必	11	澤瀬	広報活動論	選	5-6	館内
講義室D・E	2	電池システム基礎	必	5-6	吉武 金子	プログラミング実習B	必	9-10	白田 城ヶ崎	自動運転システム基礎	必	5-6	古川	工業数学	選	11	飯倉	広報活動論	選	5-6	館内
講義室D・E	3	車体システム基礎	必	5-6	大崎 江本	プログラミング実習B	必	11-12	白田 城ヶ崎	モーター・インバータシステム基礎	必	5-6	新井	システム思考論	必	5-6	狼				
講義室D・E	4	車体システム基礎	必	5-6	大崎 江本	プログラミング実習B	必	11-12	白田 城ヶ崎	モーター・インバータシステム基礎	必	5-6	新井	システム思考論	必	5-6	狼				
リバース棟	1-2				電気自動車構造解析実習A	必	9-10	吉武 大崎													
リバース棟	3-4				電気自動車構造解析実習A	必	11-12	吉武 大崎													
臨地実務実習Ⅲ 実施期間																					
講義室F	1													科学技術政策	選	5-6	唐鎌				
講義室F	2													科学技術政策	選	5-6	唐鎌				
講義室F	3	金属材料工学	選	5-6	小松	知的財産権概論	選	5-6	岡田												
講義室F	4	金属材料工学	選	5-6	小松	知的財産権概論	選	5-6	岡田												
講義室9	1										サービス工学	選	5-6	川端	電気自動車システム開発演習	必	9-10	尾形内山			
講義室9	2										サービス工学	選	5-6	川端	電気自動車システム開発演習	必	9-10	尾形内山			
講義室9	3							モデルベース開発Ⅱ	選	5-6	近藤	電動モビリティを想定したサービス論	選	5-6	Markus Schaedlich	電気自動車システム開発演習	必	11-12	尾形内山		
講義室9	4							モデルベース開発Ⅱ	選	5-6	近藤	電動モビリティを想定したサービス論	選	5-6	Markus Schaedlich	電気自動車システム開発演習	必	11-12	尾形内山		

電動モビリティシステム専門職大学 2期 時間割

6月19日-9月29日

講義室	時限	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当					
	7/10		月		7/11	火		7/12	水		7/13	木		7/14	金						
講義室A	1	設計製図実習B	必	23-24	澤瀬 大久保 三浦			設計製図実習A	必	23-24	澤瀬 大久保 三浦										
講義室A	2	設計製図実習B	必	23-24	澤瀬 大久保 三浦			設計製図実習A	必	23-24	澤瀬 大久保 三浦										
講義室A	3																				
講義室A	4																				
講義室B・C	1				線形代数学	必	12	飯倉			物理学Ⅱ	必	7-8	新井	電気回路学	必	7-8	高橋千明			
講義室B・C	2				化学基礎	必	12	中島			物理学Ⅱ	必	7-8	新井	電気回路学	必	7-8	高橋千明			
講義室B・C	3	材料工学	選	7-8	川端	二一理解入門	選	7-8	唐鎌	計測工学	選	7-8	尾形	文書表現法	必	7-8	清水小野寺	微分積分学	必	12	飯倉
講義室B・C	4	材料工学	選	7-8	川端	二一理解入門	選	7-8	唐鎌	計測工学	選	7-8	尾形	文書表現法	必	7-8	清水小野寺				
ものづくり室	1-2	ものづくり基礎実習A	必	23-24	柳原 熊谷 千明 宮下 澤瀬			ものづくり基礎実習B	必	23-24	柳原 熊谷 千明 宮下 澤瀬										
CAD室・講義室A	1-2	設計製図実習B	必	23-24	大久保 三浦			設計製図実習A	必	23-24	大久保 三浦										
講義室D・E	1	電池システム基礎	必	7-8	吉武 金子	プログラミング実習B	必	13-14	白田 城ヶ崎	自動車工学	必	4	澤瀬	自動運転システム基礎	必	7-8	古川	広報活動論	選	7-8	館内
講義室D・E	2	電池システム基礎	必	7-8	吉武 金子	プログラミング実習B	必	13-14	白田 城ヶ崎	工業数学	選	4	飯倉	自動運転システム基礎	必	7-8	古川	広報活動論	選	7-8	館内
講義室D・E	3	車体システム基礎	必	7-8	大崎 江本	プログラミング実習B	必	15-16	白田 城ヶ崎	システム思考論	必	7-8	狼	モーター・インバータシステム基礎	必	7-8	新井				
講義室D・E	4	車体システム基礎	必	7-8	大崎 江本	プログラミング実習B	必	15-16	白田 城ヶ崎	システム思考論	必	7-8	狼	モーター・インバータシステム基礎	必	7-8	新井				
リバース棟	1-2				電気自動車構造解析実習A	必	13-14	吉武 大崎													
リバース棟	3-4				電気自動車構造解析実習A	必	15-16	吉武 大崎													
臨地実務実習Ⅲ 実施期間																					
講義室F	1													科学技術政策	選	7-8	唐鎌				
講義室F	2													科学技術政策	選	7-8	唐鎌				
講義室F	3	金属材料工学	選	7-8	小松	知的財産権概論	選	7-8	岡田												
講義室F	4	金属材料工学	選	7-8	小松	知的財産権概論	選	7-8	岡田												
講義室9	1										サービス工学	選	7-8	川端	電気自動車システム開発演習	必	13-14	尾形内山			
講義室9	2										サービス工学	選	7-8	川端	電気自動車システム開発演習	必	13-14	尾形内山			
講義室9	3							モデルベース開発Ⅱ	選	7-8	近藤	電動モビリティを想定したサービス論	選	7-8	Markus Schaedlich	電気自動車システム開発演習	必	15-16	尾形内山		
講義室9	4							モデルベース開発Ⅱ	選	7-8	近藤	電動モビリティを想定したサービス論	選	7-8	Markus Schaedlich	電気自動車システム開発演習	必	15-16	尾形内山		

電動モビリティシステム専門職大学 2期 時間割

6月19日-9月29日

講義室	時限	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	
	7/17		月		7/18	火		7/19	水		7/20	木		7/21	金		
講義室A	1				線形代数学	必 13	飯倉				物理学Ⅱ	必 9-10	新井	電気回路学	必 9-10	高橋千明	
講義室A	2				化学基礎	必 13	中島				物理学Ⅱ	必 9-10	新井	電気回路学	必 9-10	高橋千明	
講義室A	3																
講義室A	4				二一理解入門	選 9-10	唐鎌	計測工学	選 9-10	尾形	文書表現法	必 9-10		清水小野寺			
1年	講義室B・C	1			線形代数学	必 13	飯倉				物理学Ⅱ	必 9-10	新井	電気回路学	必 9-10	高橋千明	
	講義室B・C	2			化学基礎	必 13	中島				物理学Ⅱ	必 9-10	新井	電気回路学	必 9-10	高橋千明	
	講義室B・C	3			二一理解入門	選 9-10	唐鎌	計測工学	選 9-10	尾形	文書表現法	必 9-10		清水小野寺	微分積分学	必 13	飯倉
	講義室B・C	4			二一理解入門	選 9-10	唐鎌	計測工学	選 9-10	尾形	文書表現法	必 9-10		清水小野寺			
ものづくり室	1-2																
CAD室・講義室A	1-2																
2年	講義室D・E	1			プログラミング実習B	必 17-18	白田城ヶ崎	自動運転システム基礎	必 9-10	古川	自動車工学	必 12	澤瀬	広報活動論	選 9-10	館内	
	講義室D・E	2			プログラミング実習B	必 17-18	白田城ヶ崎	自動運転システム基礎	必 9-10	古川	工業数学	選 12	飯倉	広報活動論	選 9-10	館内	
	講義室D・E	3			プログラミング実習B	必 19-20	白田城ヶ崎	モーター・インバータシステム基礎	必 9-10	新井	システム思考論	必 9-10	狼				
	講義室D・E	4			プログラミング実習B	必 19-20	白田城ヶ崎	モーター・インバータシステム基礎	必 9-10	新井	システム思考論	必 9-10	狼				
リバース棟	1-2			電気自動車構造解析実習A	必 17-18	吉武大崎											
リバース棟	3-4			電気自動車構造解析実習A	必 19-20	吉武大崎											
臨地実務実習Ⅲ 実施期間																	
3年	講義室F	1															
	講義室F	2															
	講義室F	3			知的財産権概論	選 9-10	岡田							科学技術政策	選 9-10	唐鎌	
	講義室F	4			知的財産権概論	選 9-10	岡田							科学技術政策	選 9-10	唐鎌	
4年	講義室9	1									サービス工学	選 9-10	川端	電気自動車システム開発演習	必 17-18	尾形内山	
	講義室9	2									サービス工学	選 9-10	川端	電気自動車システム開発演習	必 17-18	尾形内山	
	講義室9	3					モデルベース開発Ⅱ	選 9-10	近藤		電動モビリティを想定したサービス論	選 9-10		Markus Schaedlich	電気自動車システム開発演習	必 19-20	尾形内山
	講義室9	4					モデルベース開発Ⅱ	選 9-10	近藤		電動モビリティを想定したサービス論	選 9-10		Markus Schaedlich	電気自動車システム開発演習	必 19-20	尾形内山

電動モビリティシステム専門職大学 2期 時間割

6月19日-9月29日

講義室	時限	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当					
7月	7/24	月			7/25	火		7/26	水		7/27	木		7/28	金						
講義室A	1	設計製図実習B	必	25-26	澤瀬 大久保 三浦			設計製図実習A	必	25-26	澤瀬 大久保 三浦										
講義室A	2	設計製図実習B	必	25-26	澤瀬 大久保 三浦			設計製図実習A	必	25-26	澤瀬 大久保 三浦										
講義室A	3																				
講義室A	4																				
講義室B・C	1				線形代数学	必	14	飯倉	設計製図実習A	必	25-26	澤瀬 大久保 三浦	物理学Ⅱ	必	11-12	新井	電気回路学	必	11-12	高橋 千明	
1年 講義室B・C	2				化学基礎	必	14	中島	設計製図実習A	必	25-26	澤瀬 大久保 三浦	物理学Ⅱ	必	11-12	新井	電気回路学	必	11-12	高橋 千明	
講義室B・C	3	材料工学	選	9-10	川端	二-ズ理解入門	選	11-12	唐鎌	計測工学	選	11-12	尾形	文書表現法	必	11-12	清水 小野寺	微分積分学	必	14	飯倉
講義室B・C	4	材料工学	選	9-10	川端	二-ズ理解入門	選	11-12	唐鎌	計測工学	選	11-12	尾形	文書表現法	必	11-12	清水 小野寺				
ものづくり室	1-2	ものづくり基礎実習A	必	25-26	柳原 熊谷 千明 宮下 澤瀬			ものづくり基礎実習B	必	25-26	柳原 熊谷 千明 宮下 澤瀬										
CAD室・講義室A	1-2	設計製図実習B	必	25-26	澤瀬 大久保 三浦			設計製図実習A	必	25-26	澤瀬 大久保 三浦										
講義室D・E	1	電池システム基礎	必	9-10	吉武 金子	プログラミング実習B	必	21-22	白田 城ヶ崎	自動運転システム基礎	必	11-12	古川	自動車工学	必	13	澤瀬	広報活動論	選	11-12	館内
講義室D・E	2	電池システム基礎	必	9-10	吉武 金子	プログラミング実習B	必	21-22	白田 城ヶ崎	自動運転システム基礎	必	11-12	古川	工業数学	選	13	飯倉	広報活動論	選	11-12	館内
講義室D・E	3	車体システム基礎	必	9-10	大崎 江本	プログラミング実習B	必	23-24	白田 城ヶ崎	モーター・インバータシステム基礎	必	11-12	新井	システム思考論	必	11-12	狼				
講義室D・E	4	車体システム基礎	必	9-10	大崎 江本	プログラミング実習B	必	23-24	白田 城ヶ崎	モーター・インバータシステム基礎	必	11-12	新井	システム思考論	必	11-12	狼				
リバース棟	1-2				電気自動車構造解析実習A	必	21-22	吉武 大崎													
リバース棟	3-4				電気自動車構造解析実習A	必	23-24	吉武 大崎													
臨地実務実習Ⅲ 実施期間																					
講義室F	1													科学技術政策	選	11-12	唐鎌				
講義室F	2													科学技術政策	選	11-12	唐鎌				
3年 講義室F	3	金属材料工学	選 必	9-10	小松	知的財産権概論	選 必	11-12	岡田												
講義室F	4	金属材料工学	選 必	9-10	小松	知的財産権概論	選 必	11-12	岡田												
講義室9	1												サービス工学	選 必	11-12	川端	電気自動車システム開発演習	必	21-22	尾形 内山	
講義室9	2												サービス工学	選 必	11-12	川端	電気自動車システム開発演習	必	21-22	尾形 内山	
講義室9	3							モデルベース開発Ⅱ	選	11-12	近藤	電動モビリティを想定したサービス論	選 必	11-12	Markus Schaedlich	電気自動車システム開発演習	必	23-24	尾形 内山		
講義室9	4							モデルベース開発Ⅱ	選	11-12	近藤	電動モビリティを想定したサービス論	選 必	11-12	Markus Schaedlich	電気自動車システム開発演習	必	23-24	尾形 内山		

電動モビリティシステム専門職大学 2期 時間割

6月19日-9月29日

講義室	時限	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当					
夏季休暇 (8/1-9/1)																					
			9/4	月				9/5	火				9/6	水							
講義室A	1	設計製図実習B	必	27-28	澤瀬 大久保 三浦				設計製図実習A	必	27-28	澤瀬 大久保 三浦									
講義室A	2	設計製図実習B	必	27-28	澤瀬 大久保 三浦				設計製図実習A	必	27-28	澤瀬 大久保 三浦									
講義室A	3																				
講義室A	4																				
講義室B・C	1				線形代数学	必	15	飯倉				物理学Ⅱ	必	13-14	新井	電気回路学	必	13-14	高橋千明		
講義室B・C	2				化学基礎	必	15	中島				物理学Ⅱ	必	13-14	新井	電気回路学	必	13-14	高橋千明		
講義室B・C	3	材料工学	選	11-12	川端	二-ズ理解入門	選	13-14	唐鎌	計測工学	選	13-14	尾形	文書表現法	必	13-14	清水 小野寺	微分積分学	必	15	飯倉
講義室B・C	4	材料工学	選	11-12	川端	二-ズ理解入門	選	13-14	唐鎌	計測工学	選	13-14	尾形	文書表現法	必	13-14	清水 小野寺				
ものづくり室	1-2	ものづくり基礎実習A	必	27-28	柳原 熊谷 千明 宮下				ものづくり基礎実習B	必	27-28	柳原 熊谷 千明 宮下									
CAD室・講義室A	1-2	設計製図実習B	必	27-28	澤瀬 大久保 三浦				設計製図実習A	必	27-28	澤瀬 大久保 三浦									
講義室D・E	1	電池システム基礎	必	11-12	吉武 金子	プログラミング実習B	必	25-26	白田 城ヶ崎	自動運転システム基礎	必	13-14	古川	自動車工学	必	14	澤瀬	広報活動論	選	13-14	館内
講義室D・E	2	電池システム基礎	必	11-12	吉武 金子	プログラミング実習B	必	25-26	白田 城ヶ崎	自動運転システム基礎	必	13-14	古川	工業数学	選	14	飯倉	広報活動論	選	13-14	館内
講義室D・E	3	車体システム基礎	必	11-12	大崎 江本	プログラミング実習B	必	27-28	白田 城ヶ崎	モーター・インバータシステム基礎	必	13-14	新井	システム思考論	必	13-14	狼				
講義室D・E	4	車体システム基礎	必	11-12	大崎 江本	プログラミング実習B	必	27-28	白田 城ヶ崎	モーター・インバータシステム基礎	必	13-14	新井	システム思考論	必	13-14	狼				
リバス棟	1-2				電気自動車構造解析実習A	必	25-26	吉武 大崎													
リバス棟	3-4				電気自動車構造解析実習A	必	27-28	吉武 大崎													
臨地実務実習Ⅲ 実施期間																					
講義室F	1													科学技術政策	選	13-14	唐鎌				
講義室F	2													科学技術政策	選	13-14	唐鎌				
講義室F	3	金属材料工学	選	11-12	小松	知的財産権概論	選	13-14	岡田												
講義室F	4	金属材料工学	選	11-12	小松	知的財産権概論	選	13-14	岡田												
講義室9	1											サービス工学	選	13-14	川端	電気自動車システム開発演習	必	25-26	尾形内山		
講義室9	2											サービス工学	選	13-14	川端	電気自動車システム開発演習	必	25-26	尾形内山		
講義室9	3								モデルベース開発Ⅱ	選	13-14	近藤	電動モビリティを想定したサービス論	選	13-14	Markus Schaedlich	電気自動車システム開発演習	必	27-28	尾形内山	
講義室9	4								モデルベース開発Ⅱ	選	13-14	近藤	電動モビリティを想定したサービス論	選	13-14	Markus Schaedlich	電気自動車システム開発演習	必	27-28	尾形内山	

電動モビリティシステム専門職大学 2期 時間割

6月19日-9月29日

講義室	時限	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当					
	9/11	月			9/12	火		9/13	水		9/14	木		9/15	金						
講義室A	1	設計製図実習B	必	29-30	澤瀬 大久保 三浦			設計製図実習A	必	29-30	澤瀬 大久保 三浦										
講義室A	2	設計製図実習B	必	29-30	澤瀬 大久保 三浦			設計製図実習A	必	29-30	澤瀬 大久保 三浦										
講義室A	3																				
講義室A	4																				
講義室B・C	1							物理学Ⅱ	必	15	新井	電気回路学	必	15	高橋 千明						
1年	講義室B・C	2																			
講義室B・C	3	材料工学	選	13-14	川端	二ノズ理解入門	選	15	唐鎌	計測工学	選	15	尾形	文書表現法	必	15	清水 小野寺				
講義室B・C	4	材料工学	選	13-14	川端	材料工学	選	15	川端												
ものづくり室	1-2	ものづくり基礎実習A	必	29-30	柳原 熊谷 千明 宮下 澤瀬			ものづくり基礎実習B	必	29-30	柳原 熊谷 千明 宮下 澤瀬										
CAD室・講義室A	1-2	設計製図実習B	必	29-30	大久保 三浦			設計製図実習A	必	29-30	大久保 三浦										
講義室D・E	1	電池システム基礎	必	13-14	吉武 金子	プログラミング実習B	必	29-30	白田 城ヶ崎	自動運転システム基礎	必	15	古川	自動車工学	必	15	澤瀬	広報活動論	選	15	館内
講義室D・E	2	電池システム基礎	必	13-14	吉武 金子	プログラミング実習B	必	29-30	白田 城ヶ崎					工業数学	選	15	飯倉				
2年	講義室D・E	3	車体システム基礎	必	13-14	大崎 江本	電池システム基礎	必	15	吉武 金子	モーター・インバータシステム基礎	必	15	新井	システム思考論	必	15	狼			
講義室D・E	4	車体システム基礎	必	13-14	大崎 江本	車体システム基礎	必	15	大崎 江本												
リバス棟	1-2					電気自動車構造解析実習A	必	29-30	吉武 大崎												
リバス棟	3-4																				
		臨地実務実習Ⅲ 実施期間																			
講義室F	1													科学技術政策	選	15	唐鎌				
講義室F	2																				
3年	講義室F	3	金属材料工学	選 必	13-14	小松	知的財産権概論	選 必	15	岡田											
講義室F	4	金属材料工学	選 必	13-14	小松																
講義室F	5	金属材料工学	選 必	15	小松																
講義室9	1										サービス工学	選 必	15	川端	電気自動車システム開発演習	必	29-30	尾形 内山			
講義室9	2														電気自動車システム開発演習	必	29-30	尾形 内山			
4年	講義室9	3						モデルベース開発Ⅱ	選	15	近藤	電動モビリティを想定したサービス論	選 必	15	Markus Schaedlich						
講義室9	4																				

電動モビリティシステム専門職大学 2期 時間割

6月19日-9月29日

講義室	時限	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当
		9/18	月		9/19	火		9/20	水		9/21	木		9/22	金	
講義室A	1															
講義室A	2															
講義室A	3															
講義室A	4															
講義室B・C	1															
1年 講義室B・C	2															
講義室B・C	3															
講義室B・C	4															
ものづくり室	1-2															
CAD室・講義室A	1-2															
講義室D・E	1															
講義室D・E	2															
2年 講義室D・E	3															
講義室D・E	4															
リバス棟	1-2															
リバス棟	3-4															
		臨地実務実習Ⅲ 実施期間														
3年 講義室F	1															
講義室F	2															
講義室F	3															
講義室F	4															
4年 講義室9	1															
講義室9	2															
講義室9	3															
講義室9	4															
9月		9/25	月		9/26	火		9/27	水		9/28	木		9/29	金	
		テスト期間														

電動モビリティシステム専門職大学 3期 時間割

10月2日-12月15日

講義室	時限	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当					
		10/2	月		10/3	火		10/4	水		10/5	木		10/6	金						
講義室B・C	1	労使関係論	選	1-2	音部	機械基礎 I	必	1-2	澤瀬三浦	コンピュータ概論	必	1-2	飯倉千明	物理学Ⅲ	選	1-2	飯倉	人間工学入門	選	1-2	赤間
講義室B・C	2	労使関係論	選	1-2	音部	機械基礎 I	必	1-2	澤瀬三浦	コンピュータ概論	必	1-2	飯倉千明	物理学Ⅲ	選	1-2	飯倉	人間工学入門	選	1-2	赤間
講義室B・C	3	社会と科学論	選	1-2	館内	電子回路工学	選	1-2	高橋千明	プレゼンテーション基礎	選	1-2	清水小野寺	欧州アート・デザイン論	選	1-2		越湖ジウジア-0			
1年																		越湖ジウジア-0			
講義室B・C	4	社会と科学論	選	1-2	館内	電子回路工学	選	1-2	高橋千明	プレゼンテーション基礎	選	1-2	清水小野寺	欧州アート・デザイン論	選	1-2		越湖ジウジア-0			
ものづくり室																					
CAD室・講義室A																					
リバース棟																					
講義室D・E	1	超小型モビリティ開発	選	1-2	館内	グローバル社会理解 I	選	1-2	唐鎌	製造業経営論	必	1-2	高橋(良)	製品とその利用に関する起業化論	選	1-2	小口小野寺	英語プレゼンテーション基礎	選	1-2	清水前田
講義室D・E	2	超小型モビリティ開発	選	1-2	館内	グローバル社会理解 I	選	1-2	唐鎌	製造業経営論	必	1-2	高橋(良)	製品とその利用に関する起業化論	選	1-2	小口小野寺	英語プレゼンテーション基礎	選	1-2	清水前田
講義室D・E	3																	問題解決法	選	1-2	川端
講義室D・E	4																	問題解決法	選	1-2	川端
2年																					
リバース棟	3-4	モーター・インバータシステム実習 I A	選	1-2	柳原内山千明	車体システム基礎実習 A	選	1-2	熊谷新井小松	モーター・インバータシステム実習 I B	選	1-2	柳原内山千明	車体システム基礎実習 B	選	1-2	熊谷新井小松				
リバース棟	3-4	自動運転システム実習 I B	選	1-2	古川橋本大前	電池システム実習 I B	選	1-2	吉武松尾	自動運転システム実習 I A	選	1-2	古川橋本大前	電池システム実習 I A	選	1-2	吉武松尾				
臨地実務実習Ⅲ 実施期間																					
講義室F	1																				
講義室F	2																				
3年																					
講義室F	3	品質管理	選	1-2	大崎	製造とデザインのためのビジネス論 II	選	1-2	小口小野寺	マネジメント論	選	1-2	高村	モビリティデザイン論	選	1-2	江本				
講義室F	4	品質管理	選	1-2	大崎	製造とデザインのためのビジネス論 II	選	1-2	小口小野寺	マネジメント論	選	1-2	高村	モビリティデザイン論	選	1-2	江本				
4年																					

電動モビリティシステム専門職大学 3期 時間割 10月2日-12月15日

講義室	時限	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当
		10/9			10/10	火		10/11	水		10/12	木		10/13	金	
講義室B・C	1				機械基礎 I	必 3-4	澤瀬三浦	コンピュータ概論	必 3-4	飯倉千明	物理学Ⅲ	選 3-4	飯倉	人間工学入門	選 3-4	赤間
講義室B・C	2				機械基礎 I	必 3-4	澤瀬三浦	コンピュータ概論	必 3-4	飯倉千明	物理学Ⅲ	選 3-4	飯倉	人間工学入門	選 3-4	赤間
講義室B・C	3				電子回路工学	選 3-4	高橋千明	プレゼンテーション基礎	選 3-4	清水小野寺	欧州アート・デザイン論	選 3-4	越湖	シウジア-0		
1年																
講義室B・C	4				電子回路工学	選 3-4	高橋千明	プレゼンテーション基礎	選 3-4	清水小野寺	欧州アート・デザイン論	選 3-4	越湖	シウジア-0		
ものづくり室 CAD室・講義室A リバーズ棟																
講義室D・E	1				グローバル社会理解 I	選 3-4	唐鎌	製造業経営論	必 3-4	高橋(良)	製品とその利用に関する起業化論	選 3-4	小口小野寺	英語プレゼンテーション基礎	選 3-4	清水前田
講義室D・E	2				グローバル社会理解 I	選 3-4	唐鎌	製造業経営論	必 3-4	高橋(良)	製品とその利用に関する起業化論	選 3-4	小口小野寺	英語プレゼンテーション基礎	選 3-4	清水前田
講義室D・E	3													問題解決法	選 3-4	川端
講義室D・E	4													問題解決法	選 3-4	川端
2年																
リバーズ棟	3-4				車体システム基礎実習A	選必 3-4	熊谷新井小松	モータ・インバータシステム実習 I B	選必 3-4	柳原内山千明	車体システム基礎実習B	選必 3-4	熊谷新井小松			
リバーズ棟	3-4				電池システム実習 I B	選必 3-4	吉武松尾	自動運転システム実習 I A	選必 3-4	高橋橋本大前	電池システム実習 I A	選必 3-4	吉武松尾			
臨地実務実習Ⅲ 実施期間																
講義室F	1															
講義室F	2															
3年																
講義室F	3				製造とデザインのためのビジネス論 II	選 3-4	小口小野寺	マネジメント論	選 3-4	高村	モビリティデザイン論	選必 3-4	江本			
講義室F	4				製造とデザインのためのビジネス論 II	選 3-4	小口小野寺	マネジメント論	選 3-4	高村	モビリティデザイン論	選必 3-4	江本			
4年																

電動モビリティシステム専門職大学 3期 時間割 10月2日-12月15日

講義室	時限	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	
		10/16	月		10/17	火		10/18	水		10/19	木		10/20	金		
講義室B・C	1	労使関係論	選	3-4 音部	機械基礎 I	必	5-6 澤瀬三浦	コンピュータ概論	必	5-6 飯倉千明	物理学Ⅲ	選	5-6 飯倉	人間工学入門	選	5-6 赤間	
講義室B・C	2	労使関係論	選	3-4 音部	機械基礎 I	必	5-6 澤瀬三浦	コンピュータ概論	必	5-6 飯倉千明	物理学Ⅲ	選	5-6 飯倉	人間工学入門	選	5-6 赤間	
1年	講義室B・C	3	社会と科学論	選	3-4 館内	電子回路工学	選	5-6 高橋千明	プレゼンテーション基礎	選	5-6 清水小野寺	欧州アート・デザイン論	選	5-6 越湖シウジア-ロ			
	講義室B・C	4	社会と科学論	選	3-4 館内	電子回路工学	選	5-6 高橋千明	プレゼンテーション基礎	選	5-6 清水小野寺	欧州アート・デザイン論	選	5-6 越湖シウジア-ロ			
	ものづくり室 CAD室・講義室A リバーズ棟																
	講義室D・E	1	超小型モビリティ開発	選	3-4 館内	グローバル社会理解 I	選	5-6 唐鎌	製造業経営論	必	5-6 高橋(良)	製品とその利用に関する起業化論	選	5-6 小口小野寺	英語プレゼンテーション基礎	選	5-6 清水前田
	講義室D・E	2	超小型モビリティ開発	選	3-4 館内	グローバル社会理解 I	選	5-6 唐鎌	製造業経営論	必	5-6 高橋(良)	製品とその利用に関する起業化論	選	5-6 小口小野寺	英語プレゼンテーション基礎	選	5-6 清水前田
2年	講義室D・E	3												問題解決法	選	5-6 川端	
	講義室D・E	4												問題解決法	選	5-6 川端	
	リバーズ棟	3-4	モータ・インバータシステム実習 I A	選必	3-4 柳原内山千明	車体システム基礎実習 A	選必	5-6 熊谷新井小松	モータ・インバータシステム実習 I B	選必	5-6 柳原内山千明	車体システム基礎実習 B	選必	5-6 熊谷新井小松			
	リバーズ棟	3-4	自動運転システム実習 I B	選必	3-4 古川橋本大前	電池システム実習 I B	選必	5-6 吉武松尾	自動運転システム実習 I A	選必	5-6 古川橋本大前	電池システム実習 I A	選必	5-6 吉武松尾			
	臨地実務実習Ⅲ 実施期間																
	講義室F	1															
	講義室F	2															
3年	講義室F	3	品質管理	選必	3-4 大崎	製造とデザインのためのビジネス論 II	選	5-6 小口小野寺	マネジメント論	選	5-6 高村	モビリティデザイン論	選必	5-6 江本			
	講義室F	4	品質管理	選必	3-4 大崎	製造とデザインのためのビジネス論 II	選	5-6 小口小野寺	マネジメント論	選	5-6 高村	モビリティデザイン論	選必	5-6 江本			
4年																	

電動モビリティシステム専門職大学 3期 時間割 10月2日-12月15日

講義室	時限	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当
		10/23	月		10/24	火		10/25	水		10/26	木		10/27	金	
講義室B・C	1	労使関係論	選	音部	機械基礎 I	必	澤瀬三浦	コンピュータ概論	必	飯倉千明	物理学Ⅲ	選	飯倉	人間工学入門	選	赤間
講義室B・C	2	労使関係論	選	音部	機械基礎 I	必	澤瀬三浦	コンピュータ概論	必	飯倉千明	物理学Ⅲ	選	飯倉	人間工学入門	選	赤間
1年																
講義室B・C	3	社会と科学論	選	館内	電子回路工学	選	高橋千明	プレゼンテーション基礎	選	清水小野寺	欧州アート・デザイン論	選	越湖	シウジア-0		
講義室B・C	4	社会と科学論	選	館内	電子回路工学	選	高橋千明	プレゼンテーション基礎	選	清水小野寺	欧州アート・デザイン論	選	越湖	シウジア-0		
		ものづくり室														
		CAD室・講義室A														
		リバース棟														
講義室D・E	1	超小型モビリティ開発	選	館内	グローバル社会理解 I	選	唐鎌	製造業経営論	必	高橋(良)	製品とその利用に関する起業化論	選	小口小野寺	英語プレゼンテーション基礎	選	清水前田
講義室D・E	2	超小型モビリティ開発	選	館内	グローバル社会理解 I	選	唐鎌	製造業経営論	必	高橋(良)	製品とその利用に関する起業化論	選	小口小野寺	英語プレゼンテーション基礎	選	清水前田
2年																
講義室D・E	3													問題解決法	選	川端
講義室D・E	4													問題解決法	選	川端
リバース棟	3-4	モータ・インバータシステム実習 I A	選必	柳原内山千明	車体システム基礎実習 A	選必	熊谷新井小松	モータ・インバータシステム実習 I B	選必	柳原内山千明	車体システム基礎実習 B	選必	熊谷新井小松			
リバース棟	3-4	自動運転システム実習 I B	選必	古川橋本大前	電池システム実習 I B	選必	吉武松尾	自動運転システム実習 I A	選必	古川橋本大前	電池システム実習 I A	選必	吉武松尾			
		臨地実務実習Ⅲ		実施期間												
講義室F	1															
講義室F	2															
3年																
講義室F	3	品質管理	選必	大崎	製造とデザインのためのビジネス論 II	選	小口小野寺	マネジメント論	選	高村	モビリティデザイン論	選必	江本			
講義室F	4	品質管理	選必	大崎	製造とデザインのためのビジネス論 II	選	小口小野寺	マネジメント論	選	高村	モビリティデザイン論	選必	江本			
4年																

電動モビリティシステム専門職大学 3期 時間割 10月2日-12月15日

講義室	時限	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当
		10/30			10/31	火		11/1	水		11/2			11/3	金	
講義室B・C	1	労使関係論	選	7-8 音部	機械基礎 I	必	9-10 澤瀬三浦	コンピュータ概論	必	9-10 飯倉千明	物理学Ⅲ	選	9-10 飯倉			
講義室B・C	2	労使関係論	選	7-8 音部	機械基礎 I	必	9-10 澤瀬三浦	コンピュータ概論	必	9-10 飯倉千明	物理学Ⅲ	選	9-10 飯倉			
講義室B・C	3	社会と科学論	選	7-8 館内	電子回路工学	選	9-10 高橋千明	プレゼンテーション基礎	選	9-10 清水小野寺	欧州アート・デザイン論	選	9-10 越湖シウジア-口			
講義室B・C	4	社会と科学論	選	7-8 館内	電子回路工学	選	9-10 高橋千明	プレゼンテーション基礎	選	9-10 清水小野寺	欧州アート・デザイン論	選	9-10 越湖シウジア-口			
1年																
ものづくり室 CAD室・講義室A リバース棟																
講義室D・E	1	超小型モビリティ開発	選	7-8 館内	グローバル社会理解 I	選	9-10 唐鎌	製造業経営論	必	9-10 高橋(良)	製品とその利用に関する起業化論	選	9-10 小口小野寺			
講義室D・E	2	超小型モビリティ開発	選	7-8 館内	グローバル社会理解 I	選	9-10 唐鎌	製造業経営論	必	9-10 高橋(良)	製品とその利用に関する起業化論	選	9-10 小口小野寺			
講義室D・E	3															
講義室D・E	4															
2年																
リバース棟	3-4	モータ・インバータシステム実習 I A	選必	7-8 柳原内山千明	車体システム基礎実習 A	選必	9-10 熊谷新井小松	モータ・インバータシステム実習 I B	選必	9-10 柳原内山千明	車体システム基礎実習 B	選必	9-10 熊谷新井小松			
リバース棟	3-4	自動運転システム実習 I B	選必	7-8 古川橋本大前	電池システム実習 I B	選必	9-10 吉武松尾	自動運転システム実習 I A	選必	9-10 古川橋本大前	電池システム実習 I A	選必	9-10 吉武松尾			
臨地実務実習Ⅲ 実施期間																
講義室F	1															
講義室F	2															
講義室F	3	品質管理	選必	7-8 大崎	製造とデザインのためのビジネス論 II	選	9-10 小口小野寺	マネジメント論	選	9-10 高村	モビリティデザイン論	選必	9-10 江本			
講義室F	4	品質管理	選必	7-8 大崎	製造とデザインのためのビジネス論 II	選	9-10 小口小野寺	マネジメント論	選	9-10 高村	モビリティデザイン論	選必	9-10 江本			
3年																
4年																

電動モビリティシステム専門職大学 3期 時間割 10月2日-12月15日

講義室	時限	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当
		11/6	月		11/7	火		11/8	水		11/9	木		11/10	金	
講義室B・C	1	労使関係論	選	9-10 音部	機械基礎 I	必	11-12 澤瀬三浦	コンピュータ概論	必	11-12 飯倉千明	物理学Ⅲ	選	11-12 飯倉	人間工学入門	選	9-10 赤間
講義室B・C	2	労使関係論	選	9-10 音部	機械基礎 I	必	11-12 澤瀬三浦	コンピュータ概論	必	11-12 飯倉千明	物理学Ⅲ	選	11-12 飯倉	人間工学入門	選	9-10 赤間
講義室B・C	3	社会と科学論	選	9-10 館内	電子回路工学	選	11-12 高橋千明	プレゼンテーション基礎	選	11-12 清水小野寺	欧州アート・デザイン論	選	11-12 越湖シウジ	越湖シウジ		
講義室B・C	4	社会と科学論	選	9-10 館内	電子回路工学	選	11-12 高橋千明	プレゼンテーション基礎	選	11-12 清水小野寺	欧州アート・デザイン論	選	11-12 越湖シウジ	越湖シウジ		
1年																
ものづくり室																
CAD室・講義室A																
リバース棟																
講義室D・E	1	超小型モビリティ開発	選	9-10 館内	グローバル社会理解 I	選	11-12 唐鎌	製造業経営論	必	11-12 高橋(良)	製品とその利用に関する起業化論	選	11-12 小口小野寺	英語プレゼンテーション基礎	選	9-10 清水前田
講義室D・E	2	超小型モビリティ開発	選	9-10 館内	グローバル社会理解 I	選	11-12 唐鎌	製造業経営論	必	11-12 高橋(良)	製品とその利用に関する起業化論	選	11-12 小口小野寺	英語プレゼンテーション基礎	選	9-10 清水前田
講義室D・E	3													問題解決法	選	9-10 川端
講義室D・E	4													問題解決法	選	9-10 川端
リバース棟	3-4	モータ・インバータシステム実習 I A	選必	9-10 柳原内山千明	車体システム基礎実習A	選必	11-12 熊谷新井小松	モータ・インバータシステム実習 I B	選必	11-12 柳原内山千明	車体システム基礎実習B	選必	11-12 熊谷新井小松			
リバース棟	3-4	自動運転システム実習 I B	選必	9-10 古川橋本大前	電池システム実習 I B	選必	11-12 吉武松尾	自動運転システム実習 I A	選必	11-12 古川橋本大前	電池システム実習 I A	選必	11-12 吉武松尾			
臨地実務実習Ⅲ 実施期間																
講義室F	1															
講義室F	2															
講義室F	3	品質管理	選必	9-10 大崎	製造とデザインのためのビジネス論 II	選	11-12 小口小野寺	マネジメント論	選	11-12 高村	モビリティデザイン論	選必	11-12 江本			
講義室F	4	品質管理	選必	9-10 大崎	製造とデザインのためのビジネス論 II	選	11-12 小口小野寺	マネジメント論	選	11-12 高村	モビリティデザイン論	選必	11-12 江本			
3年																
4年																

電動モビリティシステム専門職大学 3期 時間割 10月2日-12月15日

講義室	時限	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	
		11/13			11/14	火		11/15	水		11/16	木		11/17	金		
講義室B・C	1	労使関係論	選	音部	機械基礎 I	必	澤瀬三浦	コンピュータ概論	必	飯倉千明	物理学Ⅲ	選	飯倉	人間工学入門	選	赤間	
講義室B・C	2	労使関係論	選	音部	機械基礎 I	必	澤瀬三浦	コンピュータ概論	必	飯倉千明	物理学Ⅲ	選	飯倉	人間工学入門	選	赤間	
1年	講義室B・C	3	社会と科学論	選	館内	電子回路工学	選	高橋千明	プレゼンテーション基礎	選	清水小野寺	欧州アート・デザイン論	選	越湖ジウジ	ア-ロ		
	講義室B・C	4	社会と科学論	選	館内	電子回路工学	選	高橋千明	プレゼンテーション基礎	選	清水小野寺	欧州アート・デザイン論	選	越湖ジウジ	ア-ロ		
ものづくり室 CAD室・講義室A リバース棟																	
2年	講義室D・E	1	超小型モビリティ開発	選	館内	グローバル社会理解 I	選	唐鎌	製造業経営論	必	高橋(良)	製品とその利用に関する起業化論	選	小口小野寺	英語プレゼンテーション基礎	選	清水前田
	講義室D・E	2	超小型モビリティ開発	選	館内	グローバル社会理解 I	選	唐鎌	製造業経営論	必	高橋(良)	製品とその利用に関する起業化論	選	小口小野寺	英語プレゼンテーション基礎	選	清水前田
	講義室D・E	3												問題解決法	選	川端	
	講義室D・E	4												問題解決法	選	川端	
リバース棟	3-4	モータ・インバータシステム実習 I A	選必	柳原内山千明	車体システム基礎実習A	選必	熊谷新井小松	モータ・インバータシステム実習 I B	選必	柳原内山千明	車体システム基礎実習B	選必	熊谷新井小松				
	3-4	自動運転システム実習 I B	選必	古川橋本大前	電池システム実習 I B	選必	吉武松尾	自動運転システム実習 I A	選必	古川橋本大前	電池システム実習 I A	選必	吉武松尾				
臨地実務実習Ⅲ 実施期間																	
講義室F	1																
講義室F	2																
3年	講義室F	3	品質管理	選必	大崎	製造とデザインのためのビジネス論 II	選	小口小野寺	マネジメント論	選	高村	モビリティデザイン論	選必	江本			
	講義室F	4	品質管理	選必	大崎	製造とデザインのためのビジネス論 II	選	小口小野寺	マネジメント論	選	高村	モビリティデザイン論	選必	江本			
4年																	

電動モビリティシステム専門職大学 3期 時間割 10月2日-12月15日

講義室	時限	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	
		11/20			11/21	火		11/22	水		11/23	木		11/24	金		
講義室B・C	1	労使関係論	選	音部	機械基礎 I	必	15	澤瀬三浦			人間工学入門	選	13-14	赤間			
講義室B・C	2	労使関係論	選	音部							人間工学入門	選	13-14	赤間			
1年		講義室B・C	3	社会と科学論	選	13-14	館内	電子回路工学	選	15	高橋千明						
		講義室B・C	4	社会と科学論	選	13-14	館内										
		ものづくり室 CAD室・講義室A リバース棟															
		講義室D・E	1	超小型モビリティ開発	選	13-14	館内	グローバル社会理解 I	選	15	唐鎌			英語プレゼンテーション基礎	選	13-14	清水前田
		講義室D・E	2	超小型モビリティ開発	選	13-14	館内	グローバル社会理解 I	選					英語プレゼンテーション基礎	選	13-14	清水前田
		講義室D・E	3											問題解決法	選	13-14	川端
2年		講義室D・E	4											問題解決法	選	13-14	川端
		リバース棟	3-4	モーターインバータシステム実習 I A	選	13-14	柳原内山千明										
		リバース棟	3-4	自動運転システム実習 I B	選	13-14	古川橋本大前										
		臨地実務実習Ⅲ 実施期間															
		講義室F	1														
		講義室F	2														
3年		講義室F	3	品質管理	選必	13-14	大崎	製造とデザインのためのビジネス論 II	選必	15	小口小野寺						
		講義室F	4	品質管理	選必	13-14	大崎										
4年																	

電動モビリティシステム専門職大学 3期 時間割 10月2日-12月15日

講義室	時限	科目名	履修回数	担当	科目名	履修回数	担当	科目名	履修回数	担当	科目名	履修回数	担当	科目名	履修回数	担当
		11/27	月		11/28	火		11/29	水		11/30	木		12/1	金	
講義室B・C	1	労使関係論	選 15	音部				コンピュータ概論	必 15	飯倉千明	物理学Ⅲ	選 15	飯倉	人間工学入門	選 15	赤間
講義室B・C	2															
講義室B・C	3	社会と科学論	選 15	館内				プレゼンテーション基礎	選 15	清水小野寺	欧州アート・デザイン論	選 15	越湖	シウジアール		
講義室B・C	4															
講義室A																
講義室D・E	1	超小型モビリティ開発	選 15	館内				製造業経営論	必 15	高橋(良)	製品とその利用に関する起業化論	選 15	小口小野寺	英語プレゼンテーション基礎	選 15	清水前田
講義室D・E	2															
講義室D・E	3													問題解決法	選 15	川端
講義室D・E	4															
リバース棟	3-4	モータ・インバータシステム実習ⅠA	選 15- 必 16	柳原内山千明	車体システム基礎実習A	選 15- 必 16	熊谷新井小松	モータ・インバータシステム実習ⅠB	選 15- 必 16	柳原内山千明	車体システム基礎実習B	選 15- 必 16	熊谷新井小松			
リバース棟	3-4	自動運転システム実習ⅠB	選 15- 必 16	古川橋本大前	電池システム実習ⅠB	選 15- 必 16	吉武松尾	自動運転システム実習ⅠA	選 15- 必 16	古川橋本大前	電池システム実習ⅠA	選 15- 必 16	吉武松尾			
講義室F	1															
講義室F	2															
講義室F	3	品質管理	選 15	大崎	製造とデザインのためのビジネス論Ⅱ	選 15	小口小野寺	マネジメント論	選 15	高村	モビリティデザイン論	選 15	江本			
講義室F	4															
講義室F	1															
講義室F	2															
講義室F	3															
講義室F	4															

電動モビリティシステム専門職大学 3期 時間割 10月2日-12月15日

講義室	時限	科目名	履修回数	担当	科目名	履修回数	担当	科目名	履修回数	担当	科目名	履修回数	担当	
		12/4	月		12/5	火		12/6	水		12/7	木		
		12/8	金											
1年		講義室B・C 1												
		講義室B・C 2												
		講義室B・C 3												
		講義室B・C 4												
		ものづくり室												
		CAD室・講義室A												
		リバース棟												
		講義室D・E 1												
		講義室D・E 2												
		講義室D・E 3												
		講義室D・E 4												
2年		リバース棟 1-4	モータ・インバータシステム実習 I A	選 必 17-20	柳原内山千明	車体システム基礎実習A	選 必 17-20	熊谷新井小松	モータ・インバータシステム実習 I B	選 必 17-20	柳原内山千明	車体システム基礎実習B	選 必 17-20	熊谷新井小松
		リバース棟 1-4	自動運転システム実習 I B	選 必 17-20	古川橋本大前	電池システム実習 I B	選 必 17-20	吉武松尾	自動運転システム実習 I A	選 必 17-20	古川橋本大前	電池システム実習 I A	選 必 17-20	吉武松尾
			臨地実務実習Ⅲ 実施期間											
3年		講義室F 1												
		講義室F 2												
		講義室F 3												
		講義室F 4												
4年														
		12/11	月		12/12	火		12/13	水		12/14	木		
		12/15	金											
		テスト期間												

電動モビリティシステム専門職大学 4期 時間割

12月19日-3月31日

科目名		履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当
12月		12/18	月	12/19	火		12/20	水		12/21	木		12/22	金	
講義室B・C	1			機械基礎Ⅱ	選	1-2 大崎	情報理論	選	1-2 白田	アイデア思考法	選	1-2 江本	講義室B・C	2	
講義室B・C	2			機械基礎Ⅱ	選	1-2 大崎	情報理論	選	1-2 白田	アイデア思考法	選	1-2 江本	講義室B・C	3	
1年	講義室B・C	3		次世代モビリティ論	必	1-2 川端	数理統計学	必	1-2 白田	センサー工学	選	1-2 尾形	講義室B・C	4	
	講義室B・C	4		次世代モビリティ論	必	1-2 川端	数理統計学	必	1-2 白田	センサー工学	選	1-2 尾形	講義室D・E	1	
	講義室D・E	1		英語コミュニケーション	必	1-2 前田	グローバル社会理解Ⅱ	選	1-2 高村	英語コミュニケーション	必	3-4 前田	グローバル社会理解Ⅱ	選	3-4 高村
	講義室D・E	2		英語コミュニケーション	必	1-2 前田	グローバル社会理解Ⅱ	選	1-2 高村	英語コミュニケーション	必	3-4 前田	グローバル社会理解Ⅱ	選	3-4 高村
	講義室D・E	3													
	講義室D・E	4													
2年	リバース棟	3-4		自動運転システム実習ⅠB	選	21-22 古川橋本大前	車体システム基礎実習A	選	21-22 熊谷新井小松	自動運転システム実習ⅠA	選	21-22 古川橋本大前	車体システム基礎実習B	選	21-22 熊谷新井小松
	リバース棟	3-4		モーター・インバータシステム実習ⅠA	選	21-22 柳原内山千明	電池システム実習ⅠB	選	21-22 吉武松尾	モーター・インバータシステム実習ⅠB	選	21-22 柳原内山千明	電池システム実習ⅠA	選	21-22 吉武松尾
	講義室F	1		駆動システム設計製造試験法	選	1-2 尾形	車体構造学	選	1-2 大崎	パワーエレクトロニクス	選	1-2 新井	車体システム設計製造試験法	選	1-2 熊谷小松江本
	講義室F	2		駆動システム設計製造試験法	選	1-2 尾形	車体構造学	選	1-2 大崎	パワーエレクトロニクス	選	1-2 新井	車体システム設計製造試験法	選	1-2 熊谷小松江本
	講義室F	3													
	講義室F	4													
	講義室G	1		自動運転におけるセンシング技術	選	1-2 古川大前	電池システム設計・試験法基礎	選	1-2 吉武	自動運転のための制御技術	選	1-2 古川大前	電池化学応用	選	1-2 中島金子
	講義室G	2		自動運転におけるセンシング技術	選	1-2 古川大前	電池システム設計・試験法基礎	選	1-2 吉武	自動運転のための制御技術	選	1-2 古川大前	電池化学応用	選	1-2 中島金子
	講義室G	3													
	講義室G	4													
3年	リバース棟・CAD室	1-4		車体システム解析実習Ⅰ	選	1-4 熊谷大崎									
	実習棟Ⅱ	1-4					電池システム実習Ⅱ	選	1-4 牛田松尾金子						
	実習棟Ⅱ	1-4								モーター・インバータシステム実習Ⅱ	選	1-4 柳原内山千明			
	実習棟Ⅱ	1-4					自動運転システム実習Ⅱ	選	1-4 古川大前橋本						
4年	冬季休暇 (12/22-1/8)														
		1/8	月	1/9	火		1/10	水		1/11	木		1/12	金	
	講義室B・C	1		機械基礎Ⅱ	選	3-4 大崎	情報理論	選	3-4 白田	アイデア思考法	選	3-4 江本	講義室B・C	2	
	講義室B・C	2		機械基礎Ⅱ	選	3-4 大崎	情報理論	選	3-4 白田	アイデア思考法	選	3-4 江本	講義室B・C	3	
1年	講義室B・C	3		次世代モビリティ論	必	3-4 川端	数理統計学	必	3-4 白田	センサー工学	選	3-4 尾形	講義室B・C	4	
	講義室B・C	4		次世代モビリティ論	必	3-4 川端	数理統計学	必	3-4 白田	センサー工学	選	3-4 尾形	講義室D・E	1	
	講義室D・E	1		グローバル社会理解Ⅱ	選	5-6 高村	英語コミュニケーション	必	5-6 前田	グローバル社会理解Ⅱ	選	7-8 高村	講義室D・E	2	
	講義室D・E	2		グローバル社会理解Ⅱ	選	5-6 高村	英語コミュニケーション	必	5-6 前田	グローバル社会理解Ⅱ	選	7-8 高村	講義室D・E	3	
	講義室D・E	3											講義室D・E	4	
	リバース棟	3-4											リバース棟	3-4	
	リバース棟	3-4											講義室F	1	
	講義室F	1		駆動システム設計製造試験法	選	3-4 尾形	車体構造学	選	3-4 大崎	パワーエレクトロニクス	選	3-4 新井	車体システム設計製造試験法	選	3-4 熊谷小松江本
	講義室F	2		駆動システム設計製造試験法	選	3-4 尾形	車体構造学	選	3-4 大崎	パワーエレクトロニクス	選	3-4 新井	車体システム設計製造試験法	選	3-4 熊谷小松江本
	講義室F	3													
	講義室F	4													
	講義室G	1		自動運転におけるセンシング技術	選	3-4 古川大前	電池システム設計・試験法基礎	選	3-4 吉武	自動運転のための制御技術	選	3-4 古川大前	電池化学応用	選	3-4 中島金子
	講義室G	2		自動運転におけるセンシング技術	選	3-4 古川大前	電池システム設計・試験法基礎	選	3-4 吉武	自動運転のための制御技術	選	3-4 古川大前	電池化学応用	選	3-4 中島金子
	講義室G	3													
	講義室G	4													
3年	リバース棟・CAD室	1-4		車体システム解析実習Ⅰ	選	5-8 熊谷大崎									
	実習棟Ⅱ	1-4					電池システム実習Ⅱ	選	5-8 牛田松尾金子						
	実習棟Ⅱ	1-4								モーター・インバータシステム実習Ⅱ	選	5-8 柳原内山千明			
	実習棟Ⅱ	1-4					自動運転システム実習Ⅱ	選	5-8 古川大前橋本						
4年															

電動モビリティシステム専門職大学

4期 時間割

12月19日-3月31日

科目名		履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当			
1/15		月		1/16		火	1/17		水	1/18		木	1/19		金			
講義室B・C	1			機械基礎Ⅱ	選	5-6 大崎	情報理論	選	5-6 白田	アイデア思考法	選	5-6 江本						
講義室B・C	2			機械基礎Ⅱ	選	5-6 大崎	情報理論	選	5-6 白田	アイデア思考法	選	5-6 江本						
1年	講義室B・C	3		次世代モビリティ論	必	5-6 川端	数理統計学	必	5-6 白田	センサー工学	選	5-6 尾形						
	講義室B・C	4		次世代モビリティ論	必	5-6 川端	数理統計学	必	5-6 白田	センサー工学	選	5-6 尾形						
	講義室D・E	1	英語コミュニケーション	必	7-8 前田	グローバル社会理解Ⅱ	選	9-10 高村	英語コミュニケーション	必	9-10 前田	グローバル社会理解Ⅱ	選	11-12 高村				
	講義室D・E	2	英語コミュニケーション	必	7-8 前田	グローバル社会理解Ⅱ	選	9-10 高村	英語コミュニケーション	必	9-10 前田	グローバル社会理解Ⅱ	選	11-12 高村				
	講義室D・E	3																
	講義室D・E	4																
2年	リバース棟	3-4	自動運転システム実習ⅠB	選	25-26 必	古川 橋本 大前	車体システム基礎実習A	選	25-26 必	熊谷 新井 小松	自動運転システム実習ⅠA	選	25-26 必	古川 橋本 大前	車体システム基礎実習B	選	25-26 必	熊谷 新井 小松
	リバース棟	3-4	モーター・インバータシステム実習ⅠA	選	25-26 必	柳原 内山 千明	電池システム実習ⅠB	選	25-26 必	吉武 松尾	モーター・インバータシステム実習ⅠB	選	25-26 必	柳原 内山 千明	電池システム実習ⅠA	選	25-26 必	吉武 松尾
	講義室F	1	駆動システム設計製造試験法	選	5-6 尾形	車体構造学	選	5-6 必	大崎	パワーエレクトロニクス	選	5-6 必	新井	車体システム設計製造試験法	選	5-6 熊谷 小松 江本		
	講義室F	2	駆動システム設計製造試験法	選	5-6 尾形	車体構造学	選	5-6 必	大崎	パワーエレクトロニクス	選	5-6 必	新井	車体システム設計製造試験法	選	5-6 熊谷 小松 江本		
	講義室F	3																
	講義室F	4																
	講義室G	1	自動運転におけるセンシング技術	選	5-6 必	古川 大前	電池システム設計・試験法基礎	選	5-6 吉武	自動運転のための制御技術	選	5-6 古川 大前	電池化学応用	選	5-6 必	中島 金子		
	講義室G	2	自動運転におけるセンシング技術	選	5-6 必	古川 大前	電池システム設計・試験法基礎	選	5-6 吉武	自動運転のための制御技術	選	5-6 古川 大前	電池化学応用	選	5-6 必	中島 金子		
	講義室G	3																
	講義室G	4																
3年	リバース棟・CAD室	1-4	車体システム解析実習Ⅰ	選	9-12 必	熊谷 大崎												
	実習棟Ⅱ	1-4					電池システム実習Ⅱ	選	9-12 必	牛田 松尾 金子								
	実習棟Ⅱ	1-4									モーター・インバータシステム実習Ⅱ	選	9-12 必	柳原 内山 千明				
	実習棟Ⅱ	1-4					自動運転システム実習Ⅱ	選	9-12 必	古川 大前 橋本								
4年																		

電動モビリティシステム専門職大学

4期 時間割

12月19日-3月31日

科目名			履修回	担当	科目名			履修回	担当	科目名			履修回	担当				
1/22			月		1/23			火		1/24			水					
1/25			木		1/26			金										
1年	講義室B・C	1			機械基礎Ⅱ	選	7-8	大崎		情報理論	選	7-8	白田	アイデア思考法	選	7-8	江本	
	講義室B・C	2			機械基礎Ⅱ	選	7-8	大崎		情報理論	選	7-8	白田	アイデア思考法	選	7-8	江本	
	講義室B・C	3			次世代モビリティ論	必	7-8	川端		数理統計学	必	7-8	白田	センサー工学	選	7-8	尾形	
	講義室B・C	4			次世代モビリティ論	必	7-8	川端		数理統計学	必	7-8	白田	センサー工学	選	7-8	尾形	
2年	講義室D・E	1	英語コミュニケーション	必	11-12	前田	グローバル社会理解Ⅱ	選	13-14	高村	英語コミュニケーション	必	13-14	前田	グローバル社会理解Ⅱ	選	15	高村
	講義室D・E	2	英語コミュニケーション	必	11-12	前田	グローバル社会理解Ⅱ	選	13-14	高村	英語コミュニケーション	必	13-14	前田				
	講義室D・E	3																
	講義室D・E	4																
	リバース棟	3-4	自動運転システム実習ⅠB	選	27-28	古川橋本大前	車体システム基礎実習A	選	27-28	熊谷新井小松	自動運転システム実習ⅠA	選	27-28	古川橋本大前	車体システム基礎実習B	選	27-28	熊谷新井小松
	リバース棟	3-4	モーター・インバータシステム実習ⅠA	選	27-28	柳原内山千明	電池システム実習ⅠB	選	27-28	吉武松尾	モーター・インバータシステム実習ⅠB	選	27-28	柳原内山千明	電池システム実習ⅠA	選	27-28	吉武松尾
	講義室F	1	駆動システム設計製造試験法	選	7-8	尾形	車体構造学	選	7-8	大崎	パワーエレクトロニクス	選	7-8	新井	車体システム設計製造試験法	選	7-8	熊谷小松江本
	講義室F	2	駆動システム設計製造試験法	選	7-8	尾形	車体構造学	選	7-8	大崎	パワーエレクトロニクス	選	7-8	新井	車体システム設計製造試験法	選	7-8	熊谷小松江本
講義室F	3																	
講義室F	4																	
3年	講義室G	1	自動運転におけるセンシング技術	選	7-8	古川大前	電池システム設計・試験法基礎	選	7-8	吉武	自動運転のための制御技術	選	7-8	古川大前	電池化学応用	選	7-8	中島金子
	講義室G	2	自動運転におけるセンシング技術	選	7-8	古川大前	電池システム設計・試験法基礎	選	7-8	吉武	自動運転のための制御技術	選	7-8	古川大前	電池化学応用	選	7-8	中島金子
	講義室G	3																
	講義室G	4																
	リバース棟・CAD室	1-4	車体システム解析実習Ⅰ	選	13-16	熊谷大崎												
	実習棟Ⅱ	1-4								電池システム実習Ⅱ	選	13-16	牛田松尾金子					
実習棟Ⅱ	1-4												モーター・インバータシステム実習Ⅱ	選	13-16	柳原内山千明		
実習棟Ⅱ	1-4				自動運転システム実習Ⅱ	選	13-16	古川大前橋本										
4年																		

電動モビリティシステム専門職大学

4期 時間割

12月19日-3月31日

	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	
	1/29	月		1/30	火		1/31	水		2/1	木		2/2	金		
1年	講義室B・C 1			機械基礎Ⅱ	選 9-10	大崎	情報理論	選 9-10	白田	アイデア思考法	選 9-10	江本	情報理論	選 9-10	白田	
	講義室B・C 2			機械基礎Ⅱ	選 9-10	大崎	情報理論	選 9-10	白田	アイデア思考法	選 9-10	江本	情報理論	選 9-10	白田	
	講義室B・C 3			次世代モビリティ論	必 9-10	川端	数理統計学	必 9-10	白田	センサー工学	選 9-10	尾形	数理統計学	必 9-10	白田	
	講義室B・C 4			次世代モビリティ論	必 9-10	川端	数理統計学	必 9-10	白田	センサー工学	選 9-10	尾形	数理統計学	必 9-10	白田	
2年	講義室D・E 1	英語コミュニケーション	必 15	前田	テスト期間											
	講義室D・E 2															
	講義室D・E 3															
	講義室D・E 4															
	リバース棟 3-4	自動運転システム実習ⅠB	選 29-必 30	古川橋本大前	車体システム基礎実習A	選 29-必 30	熊谷新井小松	自動運転システム実習ⅠA	選 29-必 30	古川橋本大前	車体システム基礎実習B	選 29-必 30	熊谷新井小松	自動運転システム実習ⅠA	選 29-必 30	古川橋本大前
	リバース棟 3-4	モーター・インバータシステム実習ⅠA	選 29-必 30	柳原内山千明	電池システム実習ⅠB	選 29-必 30	吉武松尾	モーター・インバータシステム実習ⅠB	選 29-必 30	柳原内山千明	電池システム実習ⅠA	選 29-必 30	吉武松尾	モーター・インバータシステム実習ⅠA	選 29-必 30	柳原内山千明
	講義室F 1	駆動システム設計製造試験法	選 9-10	尾形	車体構造学	選 9-10	大崎	パワーエレクトロニクス	選 9-10	新井	車体システム設計製造試験法	選 9-10	熊谷小松江本	パワーエレクトロニクス	選 9-10	新井
	講義室F 2	駆動システム設計製造試験法	選 9-10	尾形	車体構造学	選 9-10	大崎	パワーエレクトロニクス	選 9-10	新井	車体システム設計製造試験法	選 9-10	熊谷小松江本	パワーエレクトロニクス	選 9-10	新井
	講義室F 3															
	講義室F 4															
3年	講義室G 1	自動運転におけるセンシング技術	選 9-10	古川大前	電池システム設計・試験法基礎	選 9-10	吉武	自動運転のための制御技術	選 9-10	古川大前	電池化学応用	選 9-10	中島金子	自動運転のための制御技術	選 9-10	古川大前
	講義室G 2	自動運転におけるセンシング技術	選 9-10	古川大前	電池システム設計・試験法基礎	選 9-10	吉武	自動運転のための制御技術	選 9-10	古川大前	電池化学応用	選 9-10	中島金子	自動運転のための制御技術	選 9-10	古川大前
	講義室G 3															
	講義室G 4															
	リバース棟・CAD室 1-4	車体システム解析実習Ⅰ	選 17-必 20	熊谷大崎												
	実習棟Ⅱ 1-4				電池システム実習Ⅱ	選 17-必 20	牛田松尾金子									
	実習棟Ⅱ 1-4										モーター・インバータシステム実習Ⅱ	選 17-必 20	柳原内山千明			
実習棟Ⅱ 1-4				自動運転システム実習Ⅱ	選 17-必 20	古川大前橋本										
4年																

電動モビリティシステム専門職大学

4期 時間割

12月19日-3月31日

科目名		履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当
2/5		月		2/6	火		2/7	水		2/8	木		2/9	金	
1年	講義室B・C	1		機械基礎Ⅱ	選 11- 12	大崎				情報理論	選 11- 12	白田	アイデア思考法	選 11- 12	江本
	講義室B・C	2		機械基礎Ⅱ	選 11- 12	大崎				情報理論	選 11- 12	白田	アイデア思考法	選 11- 12	江本
	講義室B・C	3		次世代モビリティ論	必 11- 12	川端				数理統計学	必 11- 12	白田	センサー工学	選 11- 12	尾形
	講義室B・C	4		次世代モビリティ論	必 11- 12	川端				数理統計学	必 11- 12	白田	センサー工学	選 11- 12	尾形
臨地実務実習Ⅱ 実施期間															
2年	講義室D・E	1													
	講義室D・E	2													
	講義室D・E	3													
	講義室D・E	4													
3年	講義室F	1	駆動システム設計製造試験法	選 11- 12	尾形	車体構造学	選 11- 12	大崎	パワーエレクトロニクス	選 11- 12	新井	車体システム設計製造試験法	選 11- 12	熊谷 小松 江本	
	講義室F	2	駆動システム設計製造試験法	選 11- 12	尾形	車体構造学	選 11- 12	大崎	パワーエレクトロニクス	選 11- 12	新井	車体システム設計製造試験法	選 11- 12	熊谷 小松 江本	
	講義室F	3													
	講義室F	4													
	講義室G	1	自動運転におけるセンシング技術	選 11- 12	古川 大前	電池システム設計・試験法基礎	選 11- 12	吉武	自動運転のための制御技術	選 11- 12	古川 大前	電池化学応用	選 11- 12	中島 金子	
	講義室G	2	自動運転におけるセンシング技術	選 11- 12	古川 大前	電池システム設計・試験法基礎	選 11- 12	吉武	自動運転のための制御技術	選 11- 12	古川 大前	電池化学応用	選 11- 12	中島 金子	
	講義室G	3													
	講義室G	4													
	リバース棟・CAD室	1-4	車体システム解析実習Ⅰ	選 21- 24	熊谷 大崎										
	実習棟Ⅱ	1-4						電池システム実習Ⅱ	選 21- 24	必	牛田 松尾 金子				
実習棟Ⅱ	1-4										モーター・インバータシステム実習Ⅱ	選 21- 24	必	柳原 内山 千明	
実習棟Ⅱ	1-4					自動運転システム実習Ⅱ	選 21- 24	必	古川 大前 橋本						
4年															

電動モビリティシステム専門職大学

4期 時間割

12月19日-3月31日

科目名	履修回数	担当	科目名	履修回数	担当	科目名	履修回数	担当	科目名	履修回数	担当	科目名	履修回数	担当
2/12	月		2/13	火		2/14	水		2/15	木		2/16	金	
講義室B・C	1		機械基礎Ⅱ	選 13-14	大崎				情報理論	選 13-14	白田	アイデア思考法	選 13-14	江本
講義室B・C	2		機械基礎Ⅱ	選 13-14	大崎				情報理論	選 13-14	白田	アイデア思考法	選 13-14	江本
1年			次世代モビリティ論	必 13-14	川端				数理統計学	必 13-14	白田	センサー工学	選 13-14	尾形
講義室B・C	4		次世代モビリティ論	必 13-14	川端				数理統計学	必 13-14	白田	センサー工学	選 13-14	尾形
臨地実務実習Ⅱ 実施期間														
2年														
講義室D・E	1													
講義室D・E	2													
講義室D・E	3													
講義室D・E	4													
講義室F	1		車体構造学	選 13-14	大崎	パワーエレクトロニクス	選 13-14	新井	車体システム設計製造試験法	選 13-14		熊谷 小松 江本		
講義室F	2		車体構造学	選 13-14	大崎	パワーエレクトロニクス	選 13-14	新井	車体システム設計製造試験法	選 13-14		熊谷 小松 江本		
講義室F	3													
講義室F	4													
講義室G	1		電池システム設計・試験法基礎	選 13-14	吉武	自動運転のための制御技術	選 13-14	高橋 大前	電池化学応用	選 13-14		中島 金子		
講義室G	2		電池システム設計・試験法基礎	選 13-14	吉武	自動運転のための制御技術	選 13-14	高橋 大前	電池化学応用	選 13-14		中島 金子		
3年														
講義室G	3													
講義室G	4													
リバース棟・CAD室	1-4													
実習棟Ⅱ	1-4					電池システム実習Ⅱ	選 25-28	牛田 松尾 金子						
実習棟Ⅱ	1-4								モーター・インバータシステム実習Ⅱ	選 25-28		柳原 内山 千明		
実習棟Ⅱ	1-4		自動運転システム実習Ⅱ	選 25-28	古川 大前 橋本									
4年														

電動モビリティシステム専門職大学

4期 時間割

12月19日-3月31日

	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当
	2/19	月		2/20	火		2/21	水		2/22	木		2/23	金	
1年	講義室B・C 1			機械基礎Ⅱ	選 15	大崎				情報理論	選 15	白田	アイデア思考法	選 15	江本
	講義室B・C 2														
	講義室B・C 3			次世代モビリティ論	必 15	川端				数理統計学	必 15	白田	センサー工学	選 15	尾形
	講義室B・C 4														
臨地実務実習Ⅱ 実施期間															
2年	講義室D・E 1														
	講義室D・E 2														
	講義室D・E 3														
	講義室D・E 4														
3年	講義室F 1	駆動システム設計製造試験法	選 13-14	尾形	車体構造学	選 13-14	15	パワーエレクトロニクス	選 15	新井	車体システム設計製造試験法	選 15	熊谷 小松 江本		
	講義室F 2	駆動システム設計製造試験法	選 13-14	尾形											
	講義室F 3														
	講義室F 4														
	講義室G 1	自動運転におけるセンシング技術	選 13-14	古川 大前	電池システム設計・試験法基礎	選 15	吉武	自動運転のための制御技術	選 15	古川 大前	電池化学応用	選 15	中島 金子		
	講義室G 2	自動運転におけるセンシング技術	選 13-14	古川 大前											
	講義室G 3														
	講義室G 4														
	リバース棟・CAD室 1-4	車体システム解析実習Ⅰ	選 25-28	熊谷 大崎											
	実習棟Ⅱ 1-4							電池システム実習Ⅱ	選 29-30	牛田 松尾 金子					
	実習棟Ⅱ 1-4										モーター・インバータシステム実習Ⅱ	選 29-30	柳原 内山 千明		
	実習棟Ⅱ 1-4				自動運転システム実習Ⅱ	選 29-30	古川 大前 橋本								
4年															

電動モビリティシステム専門職大学 4期 時間割

12月19日-3月31日

	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	科目名	履修回	担当	
	2/26	月		2/27	火		2/28	水		2/29	木		3/1	金		
1年	講義室B・C	1											アイデア思考法	選 15	江本	
	講義室B・C	2														
	講義室B・C	3											センサー工学	選 15	尾形	
	講義室B・C	4														
	臨地実務実習Ⅱ 実施期間															
2年	講義室D・E	1														
	講義室D・E	2														
	講義室D・E	3														
	講義室D・E	4														
3年	講義室F	1	駆動システム設計製造試験法	選 15	尾形											
	講義室F	2														
	講義室F	3														
	講義室F	4														
	講義室G	1	自動運転におけるセンシング技術	選 15	古川大前											
	講義室G	2														
	講義室G	3														
	講義室G	4														
	リバーズ棟・CAD室	1-4	車体システム解析実習Ⅰ	選 29- 必 30	熊谷大崎											
	実習棟Ⅱ	1-4														
	実習棟Ⅱ	1-4														
	実習棟Ⅱ	1-4														
4年																
	3/4	月		3/5	火		3/6	水		3/7	木		3/8	金		
1年	テスト期間															
2年	臨地実務実習Ⅱ 実施期間															
3年	テスト期間															
	3/11	月	春季休暇													
2年	臨地実務実習Ⅱ 実施期間															

臨地実務実習 I 巡回計画 (5日間)

施設 番号	施設の名称	学生数	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	巡回数
22	株式会社東北マツダ 山形本店	4			訪問先都合に合わせて 3日目に実施			1
23	株式会社東北マツダ 米沢店	4			訪問先都合に合わせて 3日目に実施			1
24	山形日産自動車株式会社 本社店	4			訪問先都合に合わせて 3日目に実施			1
25	山形日産自動車株式会社 米沢店	4			訪問先都合に合わせて 3日目に実施			1
26	株式会社カーサービス山形 山形店	4			訪問先都合に合わせて 3日目に実施			1
27	株式会社ホンダ四輪販売 南・東北 米沢北店	4			訪問先都合に合わせて 3日目に実施			1
28	山形トヨタ自動車株式会社 長井店	4			訪問先都合に合わせて 3日目に実施			1
29	株式会社スズキ自販山形 スズキアリーナおきたま営業所	4			訪問先都合に合わせて 3日目に実施			1
30	ネットトヨタ山形株式会社 米沢店	4			訪問先都合に合わせて 3日目に実施			1
31	山形スバル株式会社 米沢店	4			訪問先都合に合わせて 3日目に実施			1

臨地実務実習 I 巡回担当教員

全体統括	高橋	金子		
電池	吉武	中島	牛田	松尾
モーター・インバータ	内山	尾形	千明	柳原
車体	新井	舘内	熊谷	
自動運転	古川	城ヶ崎	大崎	澤瀬

臨地実務実習Ⅱ巡回計画 (35日間)

施設番号	施設の名称	学生数	1週目					2週目					3週目					4週目					巡回数
			2/5	2/6	2/7	2/8	2/9	2/12	2/13	2/14	2/15	2/16	2/19	2/20	2/21	2/22	2/23	2/26	2/27	2/28	2/29	3/1	
			月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	
1	株式会社デンソー山形	2~5						電池															1
2	株式会社飯豊電池研究所	2~5								電池													1
3	有限会社芳尾電気化学研究所	2~5									電池												1
4	サンリット工業株式会社 飯豊鍛造工場	2~5										電池											1
5	サンリット工業株式会社 時庭切削工場	2~5											電池										1
6	サンリット工業株式会社 飯豊P C工場	2~5							モーター														1
7	セバレータデザイン株式会社 飯豊工場	2~5								モーター													1
8	株式会社サニックス	2~5									モーター												1
9	株式会社いそのポデー	2~5											モーター										1
10	明司ゴム株式会社 山形工場	2~5												モーター									1
11	株式会社愛和ライト	2~5							車体														1
12	株式会社吉田製作所	2~5								車体													1
14	株式会社クニアサヒ	2~5									車体												1
15	エーシーテクノロジー株式会社	2~5										車体											1
16	NECパーソナルコンピュータ株式会社	2~5											車体										1
17	ケミコン山形株式会社 長井工場	2~5							自動														1
18	ケミコン山形株式会社 米沢工場	2~5								自動													1
19	黒川プレス工業株式会社	2~5									自動												1
20	株式会社昌和製作所	2~5										自動											1
21	朝日金属工業株式会社	2~5											自動										1
32	クアーズテック株式会社 小国事業所	2~5								電池													1
33	株式会社大岸製作所山形工場 飯豊製造部	2~5									電池												1
34	株式会社コーワークス	2~5										電池											1
35	AZAPA株式会社	2~5											電池										1
36	東レ・カーボンマジック株式会社 本社工場	2~5												電池									1
37	株式会社堀場製作所 びわこ工場	2~5								モーター													1
42	株式会社木村鋳造所 先端プロセスセンター	2~5									モーター												1

施設番号	施設の名称	学生数	5週目					6週目					7週目					巡回数					
			3/4	3/5	3/6	3/7	3/8	3/11	3/12	3/13	3/14	3/15	3/18	3/19	3/20	3/21	3/22						
			月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金						
1	株式会社デンソー山形	2~5									モーター												1
2	株式会社飯豊電池研究所	2~5											モーター										1
3	有限会社芳尾電気化学研究所	2~5												モーター									1
4	サンリット工業株式会社 飯豊鍛造工場	2~5								車体													1
5	サンリット工業株式会社 時庭切削工場	2~5									車体												1
6	サンリット工業株式会社 飯豊P C工場	2~5										車体											1
7	セバレータデザイン株式会社 飯豊工場	2~5											車体										1
8	株式会社サニックス	2~5												車体									1
9	株式会社いそのポデー	2~5								自動													1
10	明司ゴム株式会社 山形工場	2~5									自動												1
11	株式会社愛和ライト	2~5										自動											1
12	株式会社吉田製作所	2~5											自動										1
14	株式会社クニアサヒ	2~5												自動									1
15	エーシーテクノロジー株式会社	2~5									モーター												1
16	NECパーソナルコンピュータ株式会社	2~5										モーター											1
17	ケミコン山形株式会社 長井工場	2~5											モーター										1
18	ケミコン山形株式会社 米沢工場	2~5												モーター									1
19	黒川プレス工業株式会社	2~5													モーター								1
20	株式会社昌和製作所	2~5									車体												1
21	朝日金属工業株式会社	2~5										車体											1
32	クアーズテック株式会社 小国事業所	2~5											車体										1
33	株式会社大岸製作所山形工場 飯豊製造部	2~5												車体									1
34	株式会社コーワークス	2~5													車体								1
35	AZAPA株式会社	2~5									自動												1
36	東レ・カーボンマジック株式会社 本社工場	2~5										自動											1
37	株式会社堀場製作所 びわこ工場	2~5												自動									1
42	株式会社木村鋳造所 先端プロセスセンター	2~5														自動							1

臨地実務実習Ⅱ 巡回担当教員

全体統括	高橋	金子
電池	吉武	中島 牛田 松尾
モーター・インバータ	内山	尾形 千明 柳原
車体	新井	舘内 熊谷
自動運転	古川	城ヶ崎 大崎 澤瀬

臨地実務実習Ⅲ巡回計画 (40日間)

施設 番号	施設の名称	学生数	1週目		2週目				3週目				4週目				巡回数										
			1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目	11日目	12日目	13日目	14日目		15日目	16日目	17日目	18日目	19日目	20日目				
1	株式会社デンソー山形	山形県西置賜郡飯豊町	1~2						モーター																	1	
2	株式会社飯豊電池研究所	山形県西置賜郡飯豊町	1~2						電池																		1
3	有限会社芳尾電気化学研究所	山形県米沢市	1~2							電池																	1
4	サンリット工業株式会社 飯豊鍛造工場	山形県西置賜郡飯豊町	1~2							車体																	1
5	サンリット工業株式会社 時庭切削工場	山形県長井市	1~2								車体																1
6	サンリット工業株式会社 飯豊P C工場	山形県西置賜郡飯豊町	1~2									車体															1
7	セパレーターデザイン株式会社 飯豊工場	山形県西置賜郡飯豊町	1~2									電池															1
8	株式会社サニックス	山形県山形市	1~2										車体														1
9	株式会社いそのポデー	山形県山形市	1~2											車体													1
10	明司ゴム株式会社 山形工場	山形県西村山郡河北町	1~2							車体																	1
11	株式会社愛和ライト	愛知県春日井市	1~2								車体																1
12	株式会社吉田製作所	山形県長井市	1~2								自動																1
13	シンフォニアテクノロジー株式会社 伊勢製作所開発本部	三重県伊勢市	1~2									自動															1
14	株式会社ニクシアサヒ	山形県西村山郡朝日町	1~2									モーター															1
15	エーシーテクノロジーズ株式会社	神奈川県横浜市	1~2										モーター														1
17	ケミコン山形株式会社 長井工場	山形県長井市	1~2											モーター													1
18	ケミコン山形株式会社 米沢工場	山形県東置賜郡川西町	1~2								モーター																1
19	黒川プレス工業株式会社	山形県米沢市	1~2										車体														1
20	株式会社昌和製作所	山形県長井市	1~2										自動														1
21	朝日金属工業株式会社	山形県長井市	1~2												車体												1
32	クアーズテック株式会社 小国事業所	山形県東置賜郡小国町	1~2									モーター															1
33	株式会社大岸製作所山形工場 飯豊製造部	山形県西置賜郡飯豊町	1~2													車体											1
34	株式会社コー・ワークス	宮城県仙台市	1~2											自動													1
35	AZAPA株式会社	愛知県名古屋	1~2														モーター										1
36	東レ・カーボンマジック株式会社 本社工場	滋賀県米原市	1~2										車体														1
37	株式会社堀場製作所 びわこ工場	滋賀県大津市	1~2														自動										1
38	鈴木製機株式会社	静岡県掛川市	1~2																								1
39	アポロ電気株式会社	静岡県磐田市	1~2										モーター														1
40	株式会社エヌエステー	静岡県浜松市	1~2															自動									1
41	株式会社テクニカルサポート 本社工場・第2工場・第3工場	静岡県浜松市	1~2											モーター													1
42	株式会社木村鋳造所 先端プロセスセンター	静岡県伊豆の国市	1~2												車体												1
43	株式会社ナカニシ 本社R&Dセンター、A1工場	栃木県鹿沼市	1~2																								1

施設 番号	施設の名称	学生数	5週目		6週目				7週目				8週目				巡回数										
			21日目	22日目	23日目	24日目	25日目	26日目	27日目	28日目	29日目	30日目	31日目	32日目	33日目	34日目		35日目	36日目	37日目	38日目	39日目	40日目				
1	株式会社デンソー山形	山形県西置賜郡飯豊町	1~2												モーター												1
2	株式会社飯豊電池研究所	山形県西置賜郡飯豊町	1~2												電池												1
3	有限会社芳尾電気化学研究所	山形県米沢市	1~2													電池											1
4	サンリット工業株式会社 飯豊鍛造工場	山形県西置賜郡飯豊町	1~2													車体											1
5	サンリット工業株式会社 時庭切削工場	山形県長井市	1~2													車体											1
6	サンリット工業株式会社 飯豊P C工場	山形県西置賜郡飯豊町	1~2															車体									1
7	セパレーターデザイン株式会社 飯豊工場	山形県西置賜郡飯豊町	1~2															電池									1
8	株式会社サニックス	山形県山形市	1~2																								1
9	株式会社いそのポデー	山形県山形市	1~2																								1
10	明司ゴム株式会社 山形工場	山形県西村山郡河北町	1~2													車体											1
11	株式会社愛和ライト	愛知県春日井市	1~2														車体										1
12	株式会社吉田製作所	山形県長井市	1~2														自動										1
13	シンフォニアテクノロジー株式会社 伊勢製作所開発本部	三重県伊勢市	1~2															自動									1
14	株式会社ニクシアサヒ	山形県西村山郡朝日町	1~2																								1
15	エーシーテクノロジーズ株式会社	神奈川県横浜市	1~2																								1
17	ケミコン山形株式会社 長井工場	山形県長井市	1~2																								1
18	ケミコン山形株式会社 米沢工場	山形県東置賜郡川西町	1~2																								1
19	黒川プレス工業株式会社	山形県米沢市	1~2																								1
20	株式会社昌和製作所	山形県長井市	1~2																								1
21	朝日金属工業株式会社	山形県長井市	1~2																								1
32	クアーズテック株式会社 小国事業所	山形県東置賜郡小国町	1~2																								1
33	株式会社大岸製作所山形工場 飯豊製造部	山形県西置賜郡飯豊町	1~2																								1
34	株式会社コー・ワークス	宮城県仙台市	1~2																								1
35	AZAPA株式会社	愛知県名古屋	1~2																								1
36	東レ・カーボンマジック株式会社 本社工場	滋賀県米原市	1~2																								1
37	株式会社堀場製作所 びわこ工場	滋賀県大津市	1~2																								1
38	鈴木製機株式会社	静岡県掛川市	1~2																								1
39	アポロ電気株式会社	静岡県磐田市	1~2																								1
40	株式会社エヌエステー	静岡県浜松市	1~2																								1
41	株式会社テクニカルサポート 本社工場・第2工場・第3工場	静岡県浜松市	1~2																								1
42	株式会社木村鋳造所 先端プロセスセンター	静岡県伊豆の国市	1~2																								1
43	株式会社ナカニシ 本社R&Dセンター、A1工場	栃木県鹿沼市	1~2																								1

臨地実務実習Ⅲ 巡回担当教員		
全体統括	高橋	金子
電池	吉武	中島 牛田 松尾
モーター・インバータ	内山	尾形 千明 柳原
車体	新井	館内 熊谷
自動運転	古川	城ヶ崎 大崎 澤瀬

審査意見対応（3月）

資料 8

学校法人赤門学院 第3回臨時理事会（書面審議）議事録

非公表とします

宮城県仙台市青葉区川内川前丁61
学校法人赤門学院
電動モビリティシステム専門職大学
理事長 國分活妙 様

電動モビリティシステム専門職大学に関する進学意向アンケート 調査報告書

① 「電動モビリティ専門職大学に関する感心度及び進学意向並びに入学」に関する アンケート調査

・アンケート実施方法

2021年9月実施分については14の都県にある高等学校502校のうち、事前依頼で承諾を得た高校47校へ、1,2年生を対象に郵送でアンケート用紙を配布し実施。アンケート結果を2021年9月21日締め切りで郵送回収。

2022年1月実施分については、13の都県にある高等学校54校のうち、事前依頼で承諾を得た高校40校へ、1,2年生を対象に郵送でアンケート用紙を配布し実施。アンケート結果を2022年1月14日締め切りで郵送回収。

2022年2月実施分については、14の都県にある高等学校31校のうち、事前依頼で承諾を得た高校19校へ、1,2年生を対象に郵送でアンケート用紙を配布し実施。アンケート結果を2022年2月14日締め切りで郵送回収。

アンケート項目 : 9件
アンケート回収数 : 105校(1校について、2実施回で回答あり)
アンケート回収率 : 17.9%

- ① について1年生、2年生別にまとめたアンケート調査結果報告書(11ページ)及び調査項目を別紙添付にて、ご報告申し上げます。

令和4年3月4日

〒105-0001
東京都港区虎ノ門四丁目1-40江戸見坂森ビル
株式会社バルク
代表取締役 石原 紀彦



担当 MR事業部 企画営業部 藤田 圭介

調査項目

「電動モビリティシステム専門職大学（仮称、設置構想中）に関するアンケート」

・アンケート調査項目

- Q1. あなたご自身についてお聞きします。当てはまる項目に記入の上、該当する口に✓を付けてください。（性別・学年・在籍高校所在地）
- Q2. あなたの高等学校卒業後の進路について、現時点の考えを教えてください。（いくつでも）
- Q3. あなたは、将来は社会の一線で活躍し、社会のリーダーになれる人材を養成するために2019年度から新設された高等教育機関であり、大学の学位（学士）が授与される専門職大学を知っていますか。（1つだけ）
- Q4. あなたは、どの分野に興味がありますか。興味のある分野をすべてお選びください。（いくつでも）
- Q5. 電動モビリティシステム専門職大学（仮称）には、以下のような特徴があります。それぞれの項目について、あなたはどの程度魅力を感じますか。それぞれの項目で、当てはまるものを1つだけ選択してください。
- Q6. 電動モビリティシステム専門職大学（仮称）を受験したいですか。（1つだけ）
- Q7. 電動モビリティシステム専門職大学（仮称）に合格した場合、入学したいですか。（1つだけ）
- Q8. 「受験したい」又は「検討したい」と回答された方にお聞きします。そう思う理由をすべてお選びください。（いくつでも）
- Q9. 「受験しない」と回答された方にお聞きします。そう思う理由をすべてお選びください。（いくつでも）

・ ご回答いただいた高校名一覧

白石工業高等学校、名取北高等学校、新潟産業大学付属高等学校、釜石高等学校、
新発田中央高等学校、花北青雲高等学校、酒田東高等学校、仙台東高等学校、
村山産業高等学校、筑波大学附属高等学校、気仙沼高等学校、新庄北高等学校、
山形城北高等学校、八戸学院光星高等学校、黒川高等学校、城北学園高等学校、
大東高等学校、坂下高等学校、水沢工業高等学校、真岡工業高等学校、羽黒高等学校、
鶴岡工業高等学校、中条高等学校、小国高等学校、村上高等学校、佐沼高等学校、
専修大学北上高等学校、黒沢尻工業高等学校、新発田南高等学校、
聖ウルスラ学院英智高等学校、聖和学園高等学校、久慈工業高等学校、弘前東高等学校、
古川工業高等学校、総合工科高等学校、府中工業高等学校、盛岡工業高等学校、
湯沢翔北高等学校、上山明新館高等学校、米沢工業高等学校、村田高等学校、
長井工業高等学校、市川高等学校、天童高等学校、渋谷教育学園幕張高等学校、
渋谷教育学園渋谷高等学校、山形東高等学校

長井高等学校、米沢興讓館高等学校、山形南高等学校、都立新宿高等学校、東海大山形高等学校、
静岡県立科学技術高等学校、宮城第一高等学校、左沢高等学校、新庄南高等学校、勿来工業高等
学校、仙台青陵中等教育学校、荒砥高等学校、新庄北高等学校、新庄東高等学校、新津工業高等
学校、横浜翠嵐高等学校、東京学芸大学附属高等学校、都立科学技術高等学校、白河高等学校、
浜松工業高等学校、山本学園高等学校、鶴岡南高等学校、磐城高等学校、浜松城北工業高等学校、
高畠高等学校、谷地高等学校、福島高等学校、都立西高等学校、鶴岡東高等学校、燕中等教育学
校、酒田西高等学校、名古屋市立工業高等学校、宮城県仙台二華高等学校、二本松工業高等学校、
鶴岡北高等学校、豊田工科高等学校、山形工業高等学校、酒田南高等学校、寒河江工業高等学校、
遠江総合高等学校

山形学院高等学校、創学館高等学校、飛龍高等学校、東京都市大学附属高等学校、宮城県仙台第
三高等学校、宮城県石巻西高等学校、東京工業大学附属科学技術高等学校、宮城県志津川高等学
校、宮城県築館高等学校、宮城県仙台第二高等学校、宮城県仙台向山高等学校、宮城県角田高等
学校、宮城県名取高等学校、宮城県石巻好文館高等学校、岩手県立盛岡第四高等学校、宮城県仙
台第一高等学校、聖光学院高等学校、宮城県迫桜高等学校、埼玉県立大宮高等学校

**電動モビリティシステム専門職大学(仮称)に関する
高校生対象ニーズ調査
結果報告書**

**令和4年3月
株式会社バルク**

I 調査目的

本調査は、学校法人赤門学院が2023年4月に設置計画をしている「電動モビリティシステム専門職大学(仮称)」に対する高校生のニーズを把握することを目的としている。

II 調査概要

調査期間	第1回:令和3年8月2日～令和3年9月21日 第2回:令和3年12月9日～令和4年1月14日 第3回:令和4年1月27日～令和4年2月14日
調査の対象	高校1,2年生
調査対象エリア	青森、岩手、秋田、山形、宮城、福島、新潟、栃木、埼玉、東京、千葉、神奈川、静岡、愛知 の各高校へ事前依頼を行い、調査の承諾を得た高校へ調査用紙を送付し実施した。
調査数・回収状況	第1回:依頼校502校(回収校数47校、回答7,345件) 第2回:依頼校54校(回収校数40校、回答6,470件) 第3回:依頼校31校(回収校数19校、回答3,674件) 計17,489件(1年生:8,429件、2年生:9,060件)
調査の方法	アンケート用紙を高校へ郵送、各クラス担任から手渡して配布、その場で記入いただき、クラス担任が回収し、弊社へ郵送
調査実施部署	MR事業部 企画営業部

III 調査項目

- ・性別、学年、在籍高校所在地
- ・高校卒業後の進路希望
- ・専門職大学の認知
- ・「電動モビリティシステム専門職大学(仮称)」に関連する興味分野
- ・「電動モビリティシステム専門職大学(仮称)」の教育内容に関する魅力度
- ・「電動モビリティシステム専門職大学(仮称)」への受験・入学意向
- ・「電動モビリティシステム専門職大学(仮称)」を「受験したい」「検討したい」/「受験しない」理由

(2) 高校2年生に対するアンケート結果(資料 14)

① 高校卒業後の進路希望

「あなたの高等学校卒業後の進路について、現時点の考えを教えてください。(いくつでも)」という問いに対して、本学を含めた「4年制大学(専門職大学を含む)に進学」と回答した者は5,851人であった。

表 5: 高校卒業後の進路希望

Q2	あなたの高等学校卒業後の進路について、現時点の考えを教えてください。(いくつでも)	人
1	4年制大学(専門職大学を含む)に進学	5851
2	短期大学に進学	529
3	専門学校・専修学校に進学	1566
4	就職	2137
5	その他	117
	無回答	35
	全体	9060

② 本学への受験意向

高校卒業後の進路希望と受験意向のクロス集計を行い、調査時に回答者が想定する進路と本学への受験意向との関係を調べた。

「4年制大学(専門職大学を含む)に進学」と回答した者 5,851 人のうち、「電動モビリティシステム専門職大学(仮称)を受験したいですか。」という問いに対して、本学への受験意向を示したものは「受験したい(55人)」「検討したい(620人)」の計 675 人であった。この回答者 675 人が直接的に受験に対する期待度が比較的高いと考えられる母数となる。

一方で、専門学校進学希望者 1,566 人のうち、7 人が「受験したい」、191 人が「検討したい」と回答した(計 198 人)。また、就職希望者 2,137 人のうち、9 人が「受験したい」、315 人が「検討したい」と回答した(計 324 人)。このように、4年制大学への進学を想定していなかった者で、「受験したい」「検討したい」と回答する者が一定程度存在した。

表 6: 高校卒業後の進路希望別の本学への受験意向(クロス集計結果)

		全体	受験したい	検討したい	受験しない	無回答	(%)	受験したい	検討したい	受験しない	無回答	(人)
高等学校卒業後の進路	全体	9025	0.8	11.1	87.0	1.2		69	1002	7850	104	
	4年制大学(専門職大学を含む)に進学	5851	0.9	10.6	87.4	1.1		55	620	5114	62	
	短期大学に進学	529	0.9	14.6	83.6	0.9		5	77	442	5	
	専門学校・専修学校に進学	1566	0.4	12.2	86.3	1.1		7	191	1351	17	
	就職	2137	0.4	14.7	83.3	1.5		9	315	1780	33	
	その他	117	2.6	12.8	84.6	0.0		3	15	99	0	

※無回答者除く

③本学への入学意向

高校卒業後の進路希望と入学意向とのクロス集計を行い、調査時に回答者が想定する進路と本学への受験意向との関係を調べた。

「4年制大学(専門職大学を含む)に進学」と回答した者 5,851 人のうち、「電動モビリティシステム専門職大学(仮称)に合格した場合、入学したいですか。」という問いに対して、本学への入学意向を示したものは「入学したい(109 人)」「併願先の結果によっては入学したい(1,179 人)」の計 1,288 人であった。この回答者 1,288 人が直接的に入学に対する期待度が比較的高いと考えられる母数となる。

一方で、専門学校進学希望者 1,566 人のうち、32 人が「入学したい」、314 人が「検討したい」と回答した(計 346 人)。また、就職希望者 2,137 人のうち、122 人が「入学したい」、485 人が「併願先の結果によっては入学したい」と回答した(計 607 人)。このように、4年制大学への進学を想定していなかった者で、「入学したい」「併願先の結果によっては入学したい」と回答する者が一定程度存在した。

表 7: 高校卒業後の進路希望別の本学への入学意向(クロス集計結果)

高等学校卒業後の進路	全体	入学意向 (%)				人数 (人)			
		入学したい	併願先の結果によっては入学したい	入学しない	無回答	入学したい	併願先の結果によっては入学したい	入学しない	無回答
全体	9025	2.8	19.9	75.9	1.4	249	1798	6849	129
4年制大学(専門職大学を含む)に進学	5851	1.9	20.2	76.6	1.4	109	1179	4479	84
短期大学に進学	529	3.2	20.8	74.5	1.5	17	110	394	8
専門学校・専修学校に進学	1566	2.0	20.1	76.6	1.3	32	314	1199	21
就職	2137	5.7	22.7	70.0	1.6	122	485	1495	35
その他	117	3.4	21.4	75.2	0.0	4	25	88	0

※無回答者除く

④本学への受験・入学意向

高校卒業後の進路希望と受験意向、入学意向とのクロス集計を行い、調査時に回答者が想定する進路と本学への受験意向、入学意向との関係を調べた。

前述の通り、「4年制大学(専門職大学を含む)に進学」と回答した者のうち、本学への受験意向を示したものは「受験したい(55 人)」「検討したい(620 人)」の計 675 人であった。このうち、「電動モビリティシステム専門職大学(仮称)に合格した場合、入学したいですか。」という問いに対して、本学への入学意向を示した者は「入学したい(77 人)」「併願先の結果によっては入学したい(527 人)」の計 604 人であった。

表 8: 「4年制大学(専門職大学を含む)に進学」と回答した者、かつ本学への受験意向を示した者の本学への入学意向(クロス集計結果)

Q7	電動モビリティシステム専門職大学(仮称)に合格した場合、入学したいですか。(1つだけ)	人
1	入学したい	77
2	併願先の結果によっては入学したい	527
3	入学しない	68
	無回答	3
	全体	675

この回答者 604 人が直接的に入学に対する期待度が最も高いと考えられる母数となる。入学定員 40 名の 15 倍以上の入学意向が確認できており、十分に学生確保の見通しがあると考えられる。

⑤本学で学べる分野に興味がある学生の進路、受験・入学意向

「あなたは、どの分野に興味がありますか。興味のある分野をすべてお選びください。(いくつでも)」という問いに対して、1.「電気自動車」～8.「交通システム(自動運転移動サービス)」のいずれか1つでも選択をした学生を対象に、高校卒業後の進路希望と、本学への受験・入学意向を調べた。

表 9:興味がある分野(1.「電気自動車」～8.「交通システム(自動運転移動サービス)」のいずれか1つでも選択をした者)

Q4	あなたは、どの分野に興味がありますか。興味のある分野をすべてお選びください。(いくつでも)	人
1	電気自動車	1511
2	自動運転	1839
3	電池などの化学分野	647
4	電気電子分野	894
5	機械分野	1764
6	AI等の情報分野	2218
7	電気自動車デザイン	713
8	交通システム(自動運転移動サービス)	459
9	社会システム	527
10	マーケティング	494
11	起業化	470
12	SDGs	808
13	カーボンニュートラル	413
	全体	5430

本学で学べる分野に興味がある学生 5,430 人のうち、本学を含めた「4年制大学(専門職大学を含む)に進学」と回答した者は 3,312 人であった。

表 10:本学で学べる分野に興味がある学生の、高校卒業後の進路希望

Q2	あなたの高等学校卒業後の進路について、現時点の考えを教えてください。(いくつでも)	人
1	4年制大学(専門職大学を含む)に進学	3312
2	短期大学に進学	290
3	専門学校・専修学校に進学	846
4	就職	1604
5	その他	63
	無回答	14
	全体	5430

「4年制大学(専門職大学を含む)に進学」と回答した3,312人から、本学で学べる分野に興味がある学生の中で、本学への受験意向を示したものは「受験したい(46人)」「検討したい(544人)」の計590人であった。

電動モビリティシステム専門職大学(仮称)に受験したいと回答した46人のうち、「電動モビリティシステム専門職大学(仮称)に合格した場合、入学したいですか。」という問いに対して、本学への入学意向を示した者は「入学したい(33人)」「併願先の結果によっては入学したい(9人)」の計42人であった。

表 11: 本学への受験意向(母数は「4年生大学(専門職大学を含む)へ進学」を選択かつ、本学で学べる分野に興味がある学生)

Q6	電動モビリティシステム専門職大学(仮称)を受験したいですか。(1つだけ)	人
1	受験したい	46
2	検討したい	544
3	受験しない	2687
	無回答	35
	全体	3312

表 12: 本学への入学意向(母数は「4年生大学(専門職大学を含む)へ進学」を選択かつ、本学で学べる分野に興味があるかつ、本学を「受験したい」を選択した学生)

Q7	電動モビリティシステム専門職大学(仮称)に合格した場合、入学したいですか。(1つだけ)	人
1	入学したい	33
2	併願先の結果によっては入学したい	9
3	入学しない	4
	全体	46

(3) 高校1年生に対するアンケート結果(資料 15)

① 高校卒業後の進路希望

「あなたの高等学校卒業後の進路について、現時点の考えを教えてください。(いくつでも)」という問いに対して、本学を含めた「4年制大学(専門職大学を含む)に進学」と回答した者は5,697人であった。

表 13: 高校卒業後の進路希望

Q2	あなたの高等学校卒業後の進路について、現時点の考えを教えてください。(いくつでも)	人
1	4年制大学(専門職大学を含む)に進学	5697
2	短期大学に進学	609
3	専門学校・専修学校に進学	1535
4	就職	1985
5	その他	163
	無回答	83
	全体	8429

② 本学への受験意向

高校卒業後の進路希望と受験意向のクロス集計を行い、調査時に回答者が想定する進路と本学への受験意向との関係を調べた。

「4年制大学(専門職大学を含む)に進学」と回答した者 5,697 人のうち、「電動モビリティシステム専門職大学(仮称)を受験したいですか。」という問いに対して、本学への受験意向を示したものは「受験したい(45人)」「検討したい(829人)」の計 874 人であった。この回答者 874 人が直接的に受験に対する期待度が比較的高いと考えられる母数となる。

一方で、専門学校進学希望者 1,535 人のうち、13 人が「受験したい」、280 人が「検討したい」と回答した(計 293 人)。また、就職希望者 1,985 人のうち、12 人が「受験したい」、393 人が「検討したい」と回答した(計 405 人)。このように、4年制大学への進学を想定していなかった者で、「受験したい」「検討したい」と回答する者が一定程度存在した。

表 14: 高校卒業後の進路希望別の本学への受験意向(クロス集計結果)

		全体	受験したい	検討したい	受験しない	無回答	(%)	受験したい	検討したい	受験しない	無回答	(人)
高等学校卒業後の進路	全体	8346	0.7	15.1	83.0	1.2		57	1263	6924	102	
	4年制大学(専門職大学を含む)に進学	5697	0.8	14.6	83.6	1.1		45	829	4760	63	
	短期大学に進学	609	1.0	20.2	77.8	1.0		6	123	474	6	
	専門学校・専修学校に進学	1535	0.8	18.2	79.7	1.2		13	280	1223	19	
	就職	1985	0.6	19.8	78.1	1.5		12	393	1551	29	
	その他	163	0.6	17.2	79.8	2.5		1	28	130	4	

※無回答者除く

③ 本学への入学意向

高校卒業後の進路希望と入学意向とのクロス集計を行い、調査時に回答者が想定する進路と本学への受験意向との関係を調べた。

「4年制大学(専門職大学を含む)に進学」と回答した者 5,697 人のうち、「電動モビリティシステム専門職大学(仮称)に合格した場合、入学したいですか。」という問いに対して、本学への入学意向を示したものは「入学したい(120人)」「併願先の結果によっては入学したい(1,539人)」の計 1,659 人であった。この回答者 1,659 人が直接的に入学に対する期待度が比較的高いと考えられ

る母数となる。

一方で、専門学校進学希望者 1,535 人のうち、56 人が「入学したい」、387 人が「検討したい」と回答した(計 443 人)。また、就職希望者 1,985 人のうち、119 人が「入学したい」、571 人が「併願先の結果によっては入学したい」と回答した(計 690 人)。このように、4 年制大学への進学を想定していなかった者で、「入学したい」「併願先の結果によっては入学したい」と回答する者が一定程度存在した。

表 15: 高校卒業後の進路希望別の本学への入学意向(クロス集計結果)

		全体	入学意向 (%)				入学意向 (人)			
			入学したい	併願先の結果によっては入学したい	入学しない	無回答	入学したい	併願先の結果によっては入学したい	入学しない	無回答
高等学校卒業後の進路	全体	8346	2.9	26.1	69.5	1.5	245	2178	5797	126
	4年制大学(専門職大学を含む)に進学	5697	2.1	27.0	69.5	1.4	120	1539	3959	79
	短期大学に進学	609	3.9	28.6	66.2	1.3	24	174	403	8
	専門学校・専修学校に進学	1535	3.6	25.2	69.5	1.6	56	387	1067	25
	就職	1985	6.0	28.8	63.6	1.6	119	571	1263	32
	その他	163	4.3	22.7	69.9	3.1	7	37	114	5

※無回答者除く

④本学への受験・入学意向

高校卒業後の進路希望と受験意向、入学意向とのクロス集計を行い、調査時に回答者が想定する進路と本学への受験意向、入学意向との関係を調べた。

前述の通り、「4 年制大学(専門職大学を含む)に進学」と回答した者のうち、本学への受験意向を示したものは「受験したい(45 人)」「検討したい(829 人)」の計 874 人であった。このうち、「電動モビリティシステム専門職大学(仮称)に合格した場合、入学したいですか。」という問いに対して、本学への入学意向を示した者は「入学したい(88 人)」「併願先の結果によっては入学したい(707 人)」の計 795 人であった。

表 16: 「4 年制大学(専門職大学を含む)に進学」と回答した者、かつ本学への受験意向を示した者の本学への入学意向(クロス集計結果)

Q7	電動モビリティシステム専門職大学(仮称)に合格した場合、入学したいですか。(1つだけ)	人
1	入学したい	88
2	併願先の結果によっては入学したい	707
3	入学しない	78
	無回答	1
	全体	874

この回答者 795 人が直接的に入学に対する期待度が最も高いと考えられる母数となる。入学定員 40 名の 19 倍以上の入学意向が確認できており、開学 2 年度目においても十分に学生確保の見通しがあると考えられる。

⑤本学で学べる分野に興味がある学生の進路、受験・入学意向

「あなたは、どの分野に興味がありますか。興味のある分野をすべてお選びください。(いくつでも)」という問いに対して、1.「電気自動車」～8.「交通システム(自動運転移動サービス)」のいずれか1つでも選択をした学生を対象に、高校卒業後の進路希望と、本学への受験・入学意向を調べた。

表 17: 興味がある分野(1.「電気自動車」～8.「交通システム(自動運転移動サービス)」のいずれか1つでも選択をした者)

Q4	あなたは、どの分野に興味がありますか。興味のある分野をすべてお選びください。(いくつでも)	人
1	電気自動車	1530
2	自動運転	1974
3	電池などの化学分野	717
4	電気電子分野	924
5	機械分野	1740
6	AI等の情報分野	2224
7	電気自動車デザイン	864
8	交通システム(自動運転移動サービス)	510
9	社会システム	626
10	マーケティング	435
11	起業化	519
12	SDGs	1030
13	カーボンニュートラル	416
	全体	5418

本学で学べる分野に興味がある学生 5,418 人のうち、本学を含めた「4年制大学(専門職大学を含む)に進学」と回答した者は 3,519 人であった。

表 18: 本学で学べる分野に興味がある学生の、高校卒業後の進路希望

Q2	あなたの高等学校卒業後の進路について、現時点の考えを教えてください。(いくつでも)	人
1	4年制大学(専門職大学を含む)に進学	3519
2	短期大学に進学	374
3	専門学校・専修学校に進学	975
4	就職	1524
5	その他	95
	無回答	50
	全体	5418

「4年制大学(専門職大学を含む)に進学」と回答した3,519人から、本学で学べる分野に興味がある学生の中で、本学への受験意向を示したものは「受験したい(37人)」「検討したい(719人)」の計756人であった。

電動モビリティシステム専門職大学(仮称)に受験したいと回答した37人のうち、「電動モビリティシステム専門職大学(仮称)に合格した場合、入学したいですか。」という問いに対して、本学への入学意向を示した者は「入学したい(28人)」「併願先の結果によっては入学したい(4人)」の計32人であった。

表 19: 本学への受験意向(母数は「4年生大学(専門職大学を含む)へ進学」を選択かつ、本学で学べる分野に興味がある学生)

Q6	電動モビリティシステム専門職大学(仮称)を受験したいですか。(1つだけ)	人
1	受験したい	37
2	検討したい	719
3	受験しない	2721
	無回答	42
	全体	3519

表 20: 本学への入学意向(母数は「4年生大学(専門職大学を含む)へ進学」を選択かつ、本学で学べる分野に興味があるかつ、本学を「受験したい」を選択した学生)

Q7	電動モビリティシステム専門職大学(仮称)に合格した場合、入学したいですか。(1つだけ)	人
1	入学したい	28
2	併願先の結果によっては入学したい	4
3	入学しない	5
	全体	37

(3) 学生確保の見通し

①4 年生大学への進学を想定している層の状況

調査結果をまとめると、前述した高校 2 年生アンケートおよび高校 1 年生のアンケート結果から、調査時点で 4 年制大学への進学を想定している層においては、高校 2 年生において本学への受験意向を示した者は、「受験したい(55 人)」「検討したい(620 人)」の計 675 人であった(入学定員 40 人の 16 倍以上)。高校 1 年生において本学への受験意向を示した者は「受験したい(45 人)」「検討したい(829 人)」の計 874 人であった(入学定員 40 人の 21 倍以上)。

また、4 年制大学への進学を想定している層において本学への受験意向を示した者であって、本学に合格した場合の入学意向を示した者は、高校 2 年生において本学への受験意向を示した者は「入学したい(77 人)」「併願先の結果によっては入学したい(527 人)」の計 604 人であった。(入学定員 40 人の 15 倍以上)。高校 1 年生において本学への入学意向を示した者は「入学したい(88 人)」「併願先の結果によっては入学したい(707 人)」の計 795 人であった。(入学定員 40 人の 19 倍以上)。

このように、高校 2 年生・1 年生いずれにおいても、受験意向・入学意向の回答者数は入学定員 40 人を大きく上回っており、十分に学生を確保できるものと考えられる。

②4 年生大学への進学を想定しなかった層の状況

他方、前述の通り、調査時点で 4 年制大学への進学を想定していなかった層にも、受験意向を持つ者が多いことがわかった。

専門学校進学希望者でも本学への受験意向を示した者は多く、高校 2 年生では専門学校進学希望者 1,566 人のうち、7 人が「受験したい」、191 人が「検討したい」と回答した(計 198 人)。また、就職希望者 2,137 人のうち、9 人が「受験したい」、315 人が「検討したい」と回答した(計 324 人)。

高校 1 年生では、専門学校進学希望者 1,535 人のうち、13 人が「受験したい」、280 人が「検討したい」と回答した(計 293 人)。また、就職希望者 1,985 人のうち、12 人が「受験したい」、393 人が「検討したい」と回答した(計 405 人)。

この結果は、調査時点では他の進路を検討していたが、4 年制大学である本学への受験について「検討したい」と回答した者が多かったことと見受けられる。

アンケート調査では、アンケート用紙と本学を紹介するリーフレットを同時に渡し、その場で回答を得る形式で行われた。この実施方式と上記分析結果から推察されることは、調査時に配布したリーフレットによって本学の学修内容を知り、本学への興味が高まり、進路変更の検討を視野に入れたことである。

そのため、今回の調査で「受験したい」の回答数が少なかったのは、調査対象の高校生が本学に関する予備情報なくその場でリーフレットを見て、アンケートに回答したことに起因し、保護者との相談や他大学・進路との十分な比較・検討無しに明確な答えを出すことができにくかったためであると考える。

宮城県仙台市青葉区川内川前丁61
学校法人赤門学院
電動モビリティシステム専門職大学
理事長 國分活妙 様

電気自動車(パワートレイン含む)、自動運転時代の

人材ニーズに関するアンケート

調査報告書

- ① 企業等から「電気自動車(パワートレイン含む)、自動運転時代の人材ニーズに関するアンケート」調査を実施した。

アンケート実施方法：24の都府県にある企業1000社へ、郵送でアンケート用紙を配布し実施。調査期間を2020年9月9日～9月25日(第1回目)、2021年1月18日～2月17日(第2回目)、2021年12月1日～2022年1月17日(第3回目)で郵送回収。

アンケート項目： 11件
アンケート回収数： 168社
アンケート回収率： 16.8%

- ① についてアンケート調査結果計11ページ及び調査項目を別紙添付にて、ご報告申し上げます。

令和4年1月26日

〒105-0001
東京都港区虎ノ門四丁目1-40江戸見坂森
ビル

株式会社バルク

代表取締役

石原 紀彦



担当 MR事業部 企画営業部 藤田 圭介

調査項目

Q2.社員数（〇はひとつ）

Q3.業種（あてはまるもの全てに〇）

Q4.直近3年間の4年生大学出身者の新卒採用者のおよその年平均人数を教えてください。
（研究開発・製造部門に限る。総務、事務は含まない）。採用していない場合は〇とご記入
ください。

Q5.2020年度の新卒の新規採用数（2021年4月～の就業者）の予定について、当ては
まる数字に〇をつけてください。（〇はひとつ）

Q6.新卒の採用を行わない、または減らす場合、その理由について、当てはまる数字に〇を
つけてください（〇はひとつ）

Q7.モビリティシステム専門職大学の学生は以下の特長があります。それぞれの特長の魅力
度について、当てはまる数字に〇をつけてください。（〇はひとつずつ）

Q8.貴社は、モビリティシステム専門職大学の卒業生を採用したいですか。今年度の採用枠
のあるなしに関わらず、このような学生が採用したいか否かの観点でお答えください。（ひ
とつだけ）

Q9.採用枠の何割程度、採用（検討）の余地がございますか。当てはまるものをお答えくだ
さい。（ひとつだけ）

Q10.本学の教育に取り入れたら貴社の採用により結びつきそうな事項がございましたら、
ご自由にお書きください。

Q11.ご回答者のお子さんやお孫さんに対して、将来、モビリティシステム専門職大学に入
学することを勧めますか。当てはまる数字に〇をつけてください。

※第2回より聴取

Q12.その他、お気づきの点等がございましたら、ご自由にお書きください。

※Q1は回答者情報のため省略

・ ご回答いただいた企業名一覧（順不同、152社※）

朝日金属工業株式会社、飛鳥車体株式会社、マルエヌ株式会社、エイケン工業株式会社、エーモン工業株式会社、臼井国際産業株式会社、有限会社芳尾電気化学研究所、(株)シー・エス・シー、ネットヨタ山形株式会社、本所自動車工業株式会社、山形日産自動車株式会社、株式会社 愛和ライト、日本トレクス株式会社、武蔵精密工業株式会社、富士車体工業株式会社、株式会社城南製作所、ジェイ・バス株式会社、エーシーテクノロジーズ株式会社、いすゞ自動車首都圏株式会社、株式会社いそのボデー、(株)サニックス、明司ゴム株式会社、株式会社エフテック、株式会社高木製作所、シグマ(株)、東亜自動車工業株式会社、愛宕自動車工業株式会社、ウシオ電機株式会社、東京計器株式会社、株式会社コスモス・コーポレーション、京成自動車工業(株)、アート金属工業株式会社、ゴールドキング株式会社、彌榮精機株式会社、株式会社東北マツダ、株式会社トヨタカスタマイジング&ディベロップメント、サンリット工業株式会社、SGモータース株式会社、IGPI、マレリ(株)、シェフラー・ジャパン株式会社、日産自動車(株)、スズキ株式会社、日立オートモティブシステムズ株式会社、シンフォニアテクノロジー(株)、(株)ユニバンス、(株)東京アールアンドデー、ムーンクラフト(株)、東レ・カーボンマジック(株)、(株)アネブル、(株)アクレーテック・パワトロシステム、(株)ティラド、(株)陣内工業所、三菱ふそうトラック・バス(株)、(株)明電舎、ダイハツ工業(株)、(株)木村鋳造所、(株)IDY、日本ピストンリング(株)、(株)デンソー山形、(株)三技協、(株)皆藤製作所、JFEエンジニアリング(株)、(株)エイチワン、(株)アド・ソアー、大日本印刷(株)、(株)三五、(株)エヌエスティー、アポロ電気(株)、(株)テクニカルサポート、日産トレーディング(株)、(株)京三製作所、ヨコキ(株)、城山工業(株)、(株)キリウ、鈴木製機(株)、サイエンスパーク(株)、ASTI(株)、コマツ、(株)NDIAS、(株)日南、(株)ミツバ、三菱重工(株)、(株)タマディック、(株)小野測器、イビデン(株)、矢崎総業(株)、矢崎エナジーシステム(株)、ラピステクノロジー(株)、トヨタ自動車(株)、(株)モビテック、マクセル(株)、JMUディフェンスシステムズ(株)、(株)アーク、いすゞ自動車(株)、日新電機(株)、(株)ナカニシ、NTN(株)、(株)ジェイテクト、ミドリオートレザー(株)、(株)所沢軽合金、(株)デンソーFA山形、スズキハイテック(株)、(株)テクノ、アイ・エム・マムロ(株)、高島産業(株)、ティーピーアール(株)、(株)桜本製作所、スリーエムジャパンプロダクツ(株) 山形事業所、スズモト(株)、(株)マスコエンジニアリング、金山コネクタ(株)、宮坂ゴム(株)、(株)YCC情報システム、ワタナベ自動車機器開発、東日部品工業(株)、(株)石澤製作所、三洋工業(株)、後藤電子(株)、(株)カナック、山形航空電子(株)、(株)最上世紀、(株)佐竹成型、(株)アーレスティ山形、テュフズードジャパン(株)、(株)相田商会、(株)マイスター、(株)三協製作所、東北パイオニア(株)、エフ・エム・ピー・カンノ(株)、東北部品(株)、中村電機工業(株) 山形工場、伊藤電子工業(株)、ジャスト(株)、最上電機(株)、(株)丸江製作所、クアーズテック販売(株)、(株)鷺宮製作所、(株)ミカミ、山形精密鋳造(株)、(株)斎藤農機製作所、日本アバカス(株)、黒川プレス工業(株)、(株)アイ・ティー・オー、フジクラ電装(株)、(株)タカハタ電子、ナショナル鍛工(株)、イーグル工業(株)、(株)原田製作所、(株)丸秀、高松精機(株)、日本ジー・ティー(株)

※回答件数は168件。企業名記載なしが13社、同一企業からの回答が2社(3件)。

**電動モビリティシステム専門職大学(仮称)に関する
企業人材ニーズ・卒業生の採用意向調査
結果報告書**

**令和4年1月
株式会社バルク**

I 調査目的

本調査は、学校法人赤門学院が2023年4月に設置計画をしている「モビリティシステム専門職大学(仮称)」に対する人材ニーズ及び卒業生の採用意向について、企業からのアンケート結果に基づいて把握することを目的とする。

II 調査概要

調査期間	2020年9月9日～9月25日(第1回目) 2021年1月18日～2月17日(第2回目) 2021年12月1日～2022年1月17日(第3回目)
調査の対象	電動モビリティシステム専門職大学(仮称)卒業生の就職が見込まれる企業等(主に自動車産業や部品産業)を対象とした
調査対象エリア (企業等の所在地)	山形県、宮城県、福島県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、石川県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、広島県、山口県、福岡県、熊本県、大分県
調査数・回収状況	依頼数 1,000 件 回収数(168 件) 回収率 16.8%
調査の方法	第1回目:企業等へアンケート協力依頼を郵送し、WEB 回答による調査を実施した。 第2,3 回目:第1回目実施で回答を得られなかった企業等へ再度アンケート協力依頼を電話で行い、承諾を得た企業等へメールで調査用紙送付し、メール回答による調査を実施した。
調査結果の掲載について	回収数全数(168 社)から、ディーラーなど卒業後の進路と合致しない7社を除いた161社で集計したグラフを掲載している。
調査実施機関	MR 事業部 企画営業部

III 調査項目

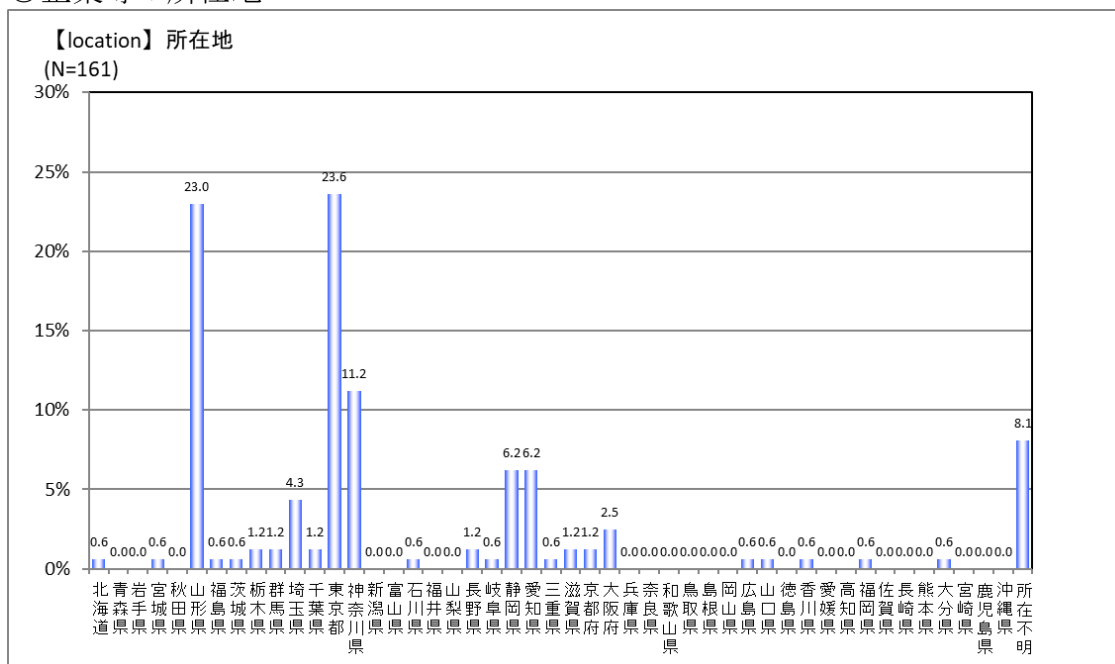
- ・企業所在地
- ・社員数
- ・業種
- ・4年生大学新卒者の平均採用人数
- ・2022年度(2022年4月からの就業者)の新卒者採用予定人数、採用理由
- ・「モビリティシステム専門職大学(仮称)」の魅力度
- ・「モビリティシステム専門職大学(仮称)」への採用の意向・採用枠
- ・「モビリティシステム専門職大学(仮称)」への入学推奨度

IV 調査結果

1 質問項目の集計結果

企業等の属性別

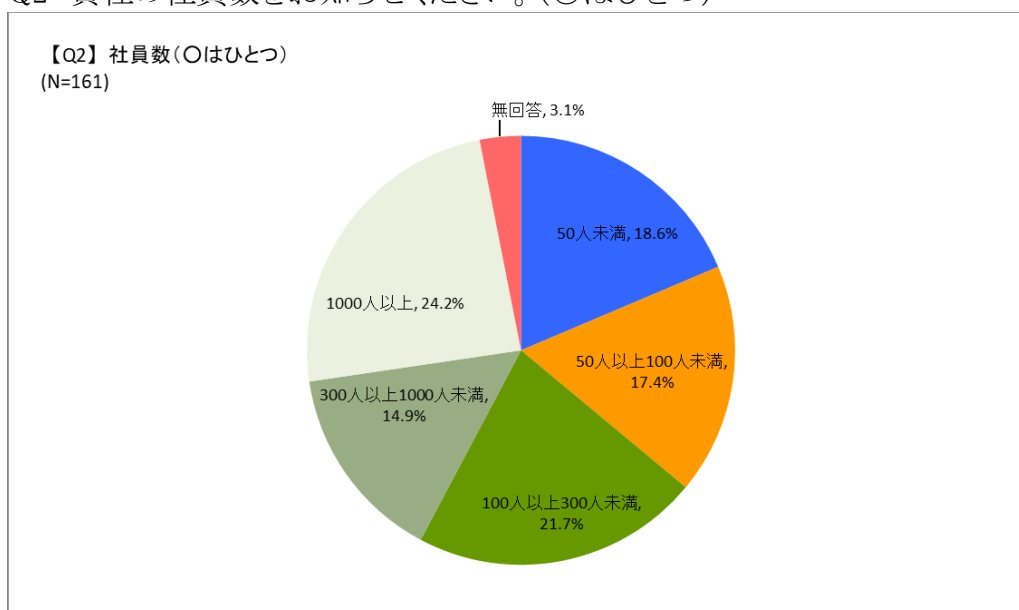
○企業等の所在地



各設問別

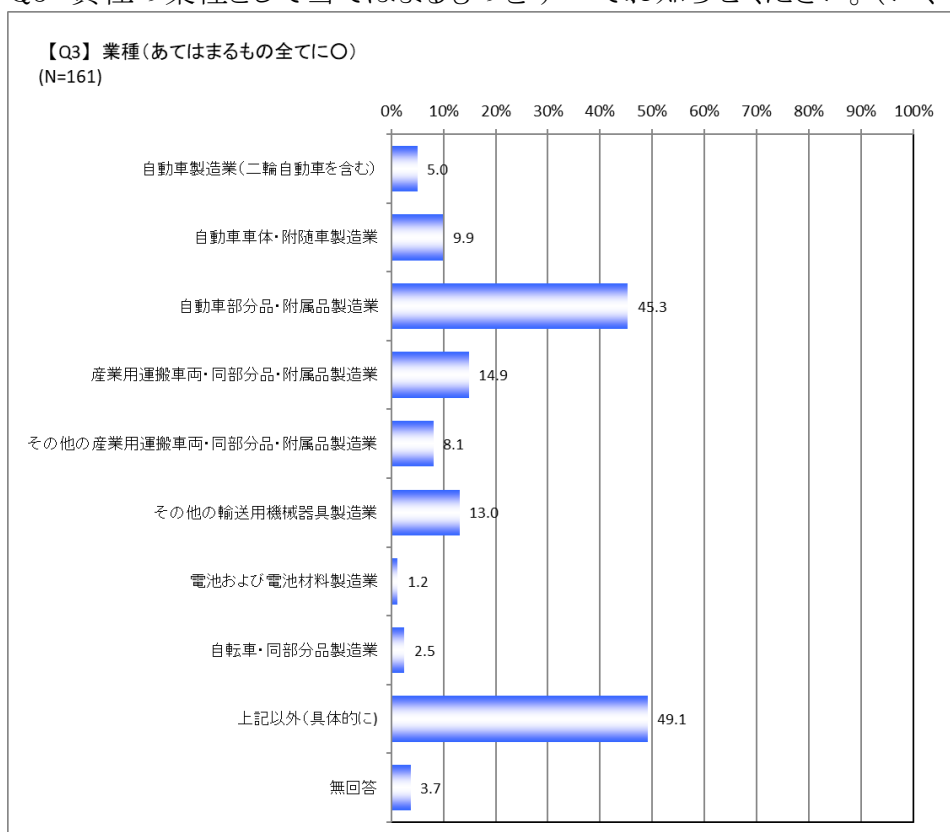
○社員数

Q2 貴社の社員数をお知らせください。(○はひとつ)



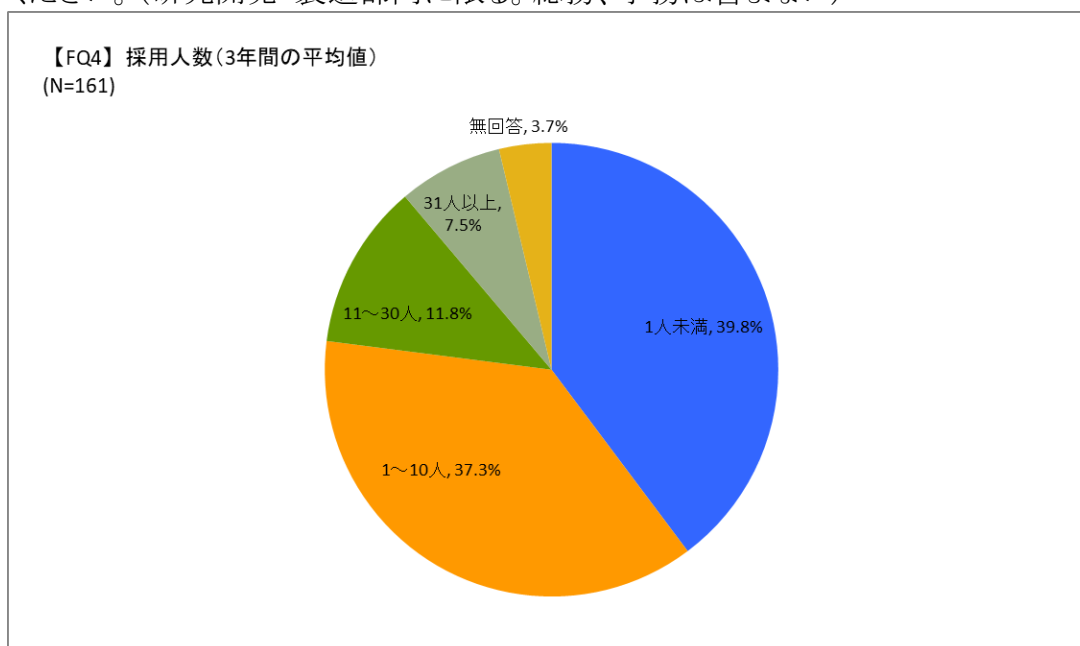
○業種

Q3 貴社の業種として当てはまるものをすべてお知らせください。(いくつでも)



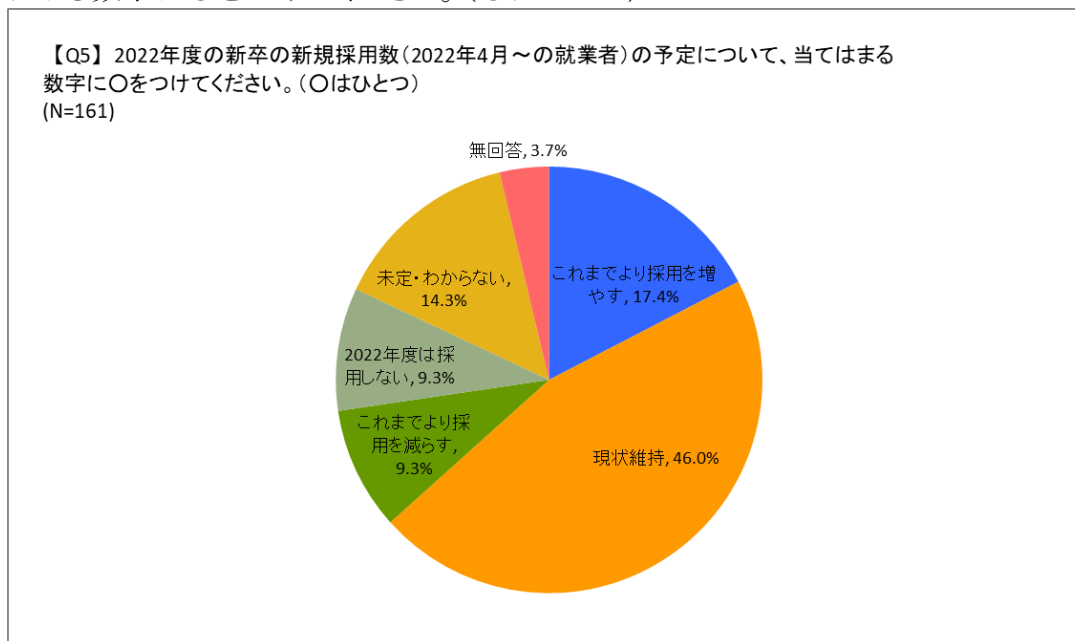
○新卒者の平均採用数

Q4 直近3年間の4年生大学出身者の新卒採用者のおよその年平均人数を教えてください。(研究開発・製造部門に限る。総務、事務は含まない)

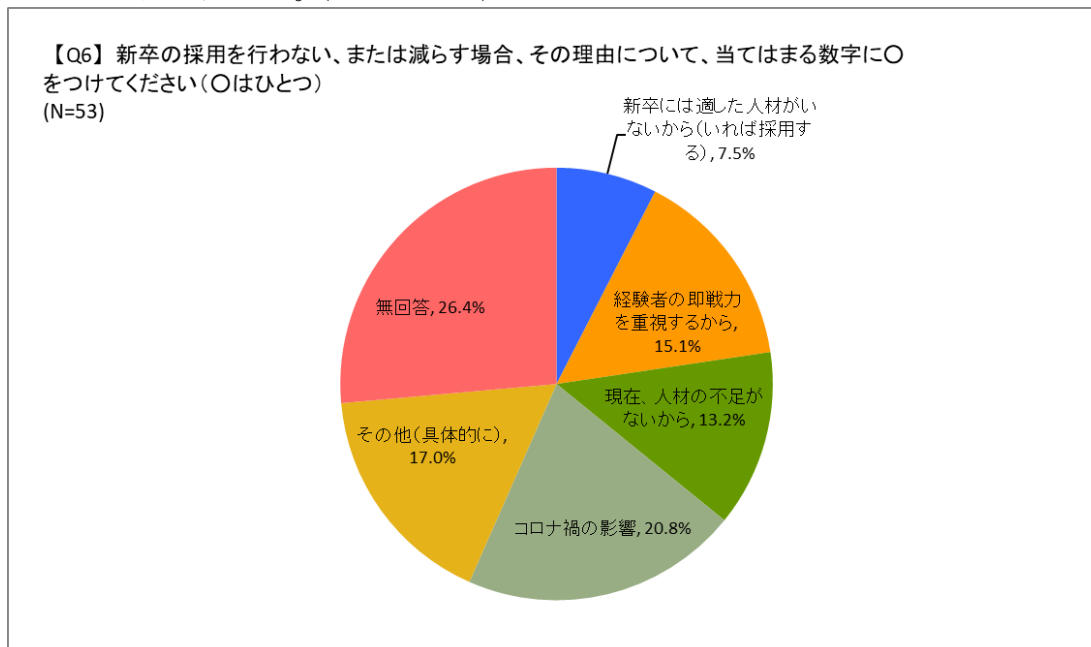


○新卒者の新規採用予定

Q5 2022年度の新卒の新規採用数(2022年4月～の就業者)の予定について、当てはまる数字に○をつけてください。(○はひとつ)



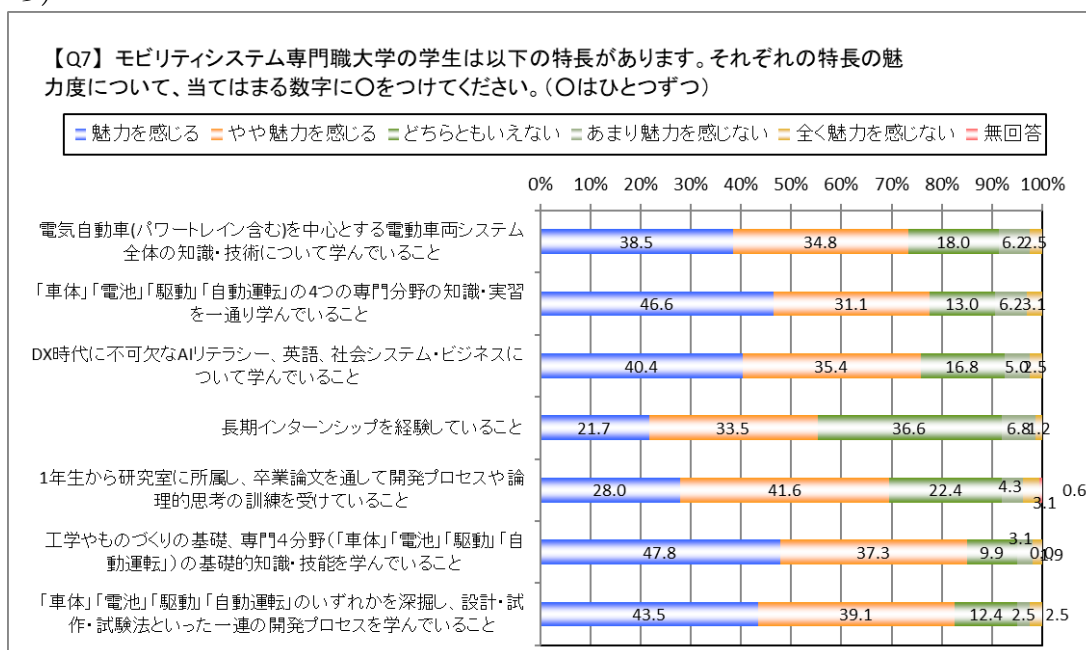
Q6 新卒の採用を行わない、または減らす場合、その理由について、当てはまる数字に○をつけてください。(○はひとつ)



○「モビリティシステム専門職大学(仮称)」の魅力度

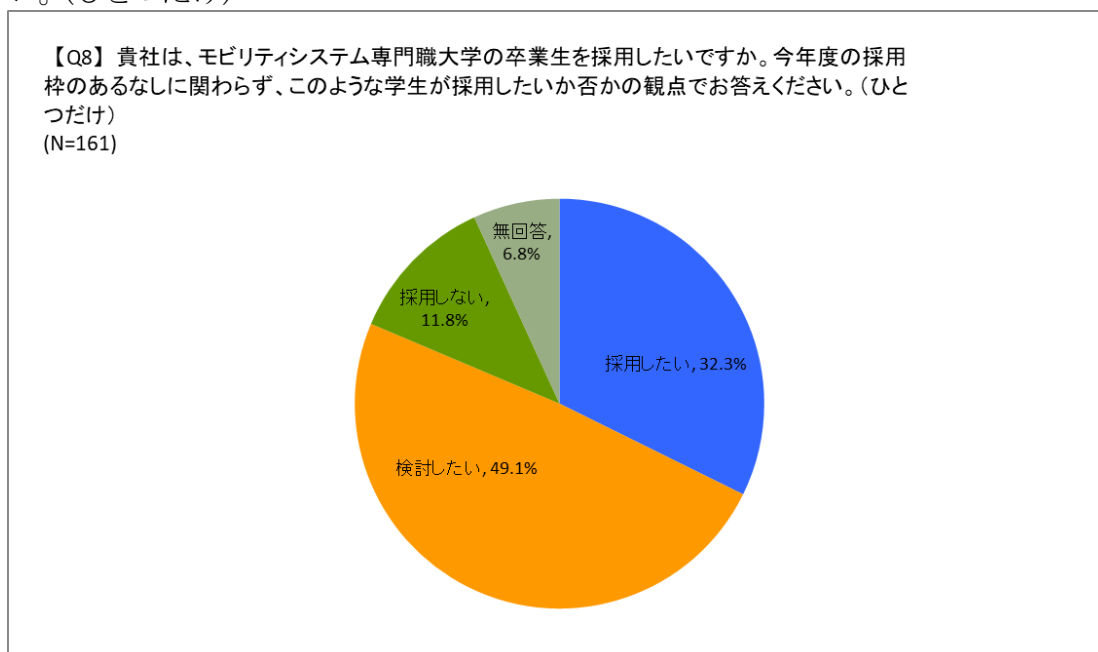
Q7 モビリティシステム専門職大学(仮称)の学生は以下の特徴があります。

それぞれの特徴の魅力度について、当てはまるものをお選びください。(○はひとつずつ)

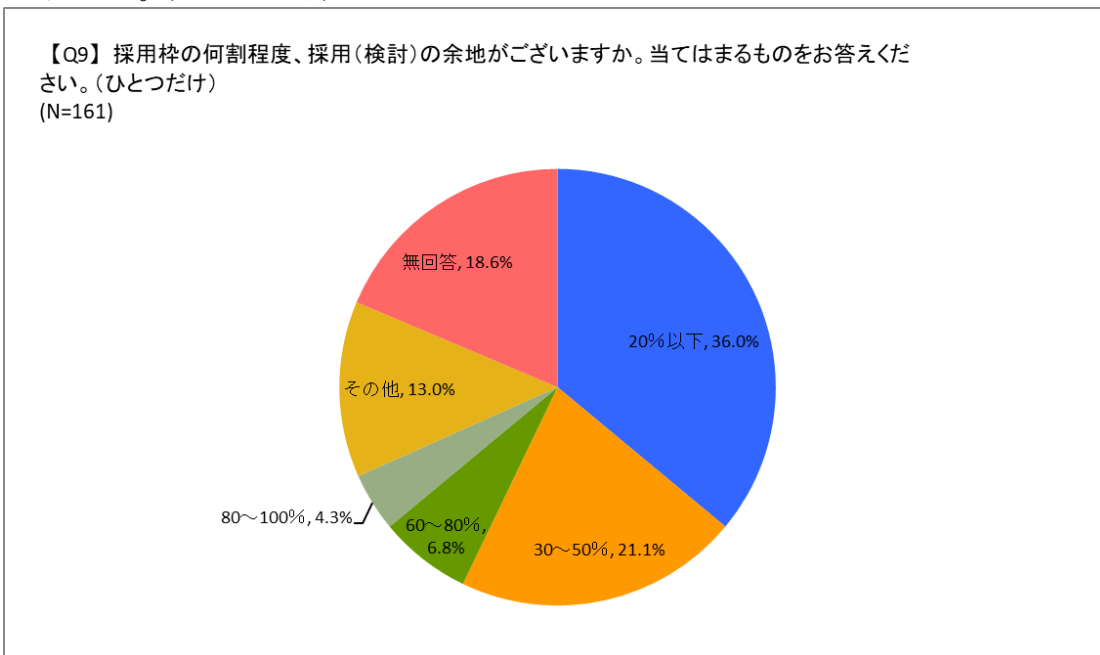


○「モビリティシステム専門職大学(仮称)」への採用傾向

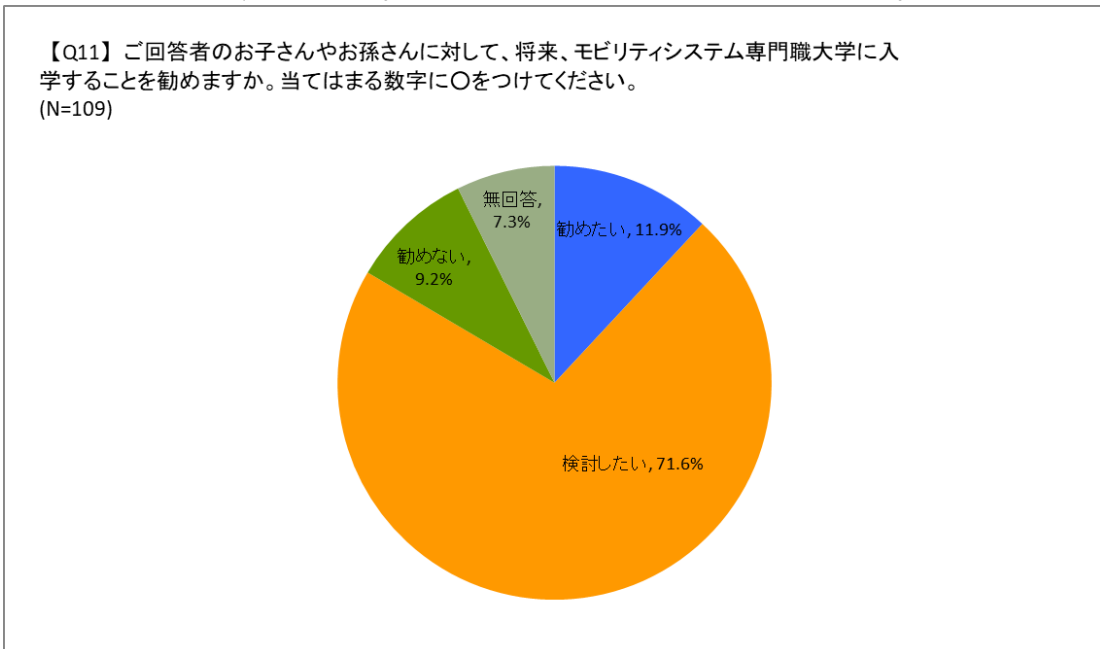
Q8 貴社は、モビリティシステム専門職大学の卒業生を採用したいですか。今年度の採用枠あるなしに関わらず、このような学生が採用したいか否かの観点でお答えください。(ひとつだけ)



Q9 採用枠の何割程度、採用(検討)の余地がございますか。当てはまるものをお答えください。(ひとつだけ)



Q11 ご回答者のお子さんやお孫さんに対して、将来、モビリティシステム専門職大学に入学することを勧めますか。当てはまる数字に○をつけてください。



※本設問は、第2回調査より聴取した。

2 企業ニーズ・採用意向に関する分析

① 企業等の属性

企業等の所在地は、回答のあった企業等 161 件のうち、「東京都」38 件(23.6%)で最も多く、次いで、「電動モビリティシステム専門職大学(仮称)」設置予定地である「山形県」が、37 件(23.0%)で続いている。

② 企業等の社員数

企業等の社員数は、「1000 人以上」が 24.2%で最も多く、「100 人以上 300 人未満」が 21.7%で続いている。

③ 企業等の業種

企業等の業種は、「上記以外(その他)」が 49.1%で最も多い。具体的な業種としては、エンジニアリング業、設計開発業などが挙げられる。次いで、「自動車部分品・附属品製造業」が 45.3%で続いている。

④ 過去3年間の新卒者採用人数

企業等における過去3年間の4年生大学新卒者の採用数は、「1 人未満」が 64 件(39.8%)と、最も多い。次いで「1~10 人」が 60 件(37.3%)で続いている。今回回答があった企業等の採用人数を平均すると、13.2 人となっている。

⑤ 新卒者の新規採用予定

2022年度(2022 年 4 月入社予定)の採用予定人数は、「現状維持」が 46.0%で最も多く、次いで「これまでより採用を増やす」が 17.4%、「未定・わからない」が 14.3%であった。

⑥ 「モビリティシステム専門職大学(仮称)」の魅力度

・「モビリティシステム専門職大学(仮称)」の特徴に対する魅力度※については、全7項目のうち、「工学やものづくりの基礎、専門4分野(『車体』『電池』『駆動』『自動運転』)の基礎的知識・技能を学んでいること」が 85.1%、「『車体』『電池』『駆動』『自動運転』のいずれかを深掘し、設計・試作・試験法といった一連の開発プロセスを学んでいること」が 82.6%で、他の項目に比べて高い。

企業等においては、基礎・専門知識・ものづくりの基礎を学びかつ、一連の開発プロセスを学んでいることに魅力を感じている結果となった。

※専門職大学の特徴に対する魅力度＝「魅力を感じる」「やや魅力を感じる」と回答した人数/全体の回答数で割合を算出

⑦ 「モビリティシステム専門職大学(仮称)」への採用傾向

・採用意向について「採用したい」と回答した企業等は 52 件(32.3%)となっており、1 学年の在籍予定学生数(40 人)を超える採用意向を示す結果が得られた。以上のことから、モビリティシステム専門職大学(仮称)が養成する人材において、一定の需要があることが推測される。

Q8	貴社は、モビリティシステム専門職大学の卒業生を採用したいですか。今年度の採用枠のあるなしに関わらず、このような学生が採用したいか否かの観点でお答えください。(ひとつだけ)		
		人	%
1	採用したい	52	32.3
2	検討したい	79	49.1
3	採用しない	19	11.8
	無回答	11	6.8
	全体	161	100.0

・企業等の全体の採用枠のうち、採用(検討)の余地が何割程度あるか調査したところ、回答のあった企業等のうち「20%以下」が 36.0%で最も多く、次いで「30~50%」が 21.1%となった。

Q9	採用枠の何割程度、採用(検討)の余地がごございますか。当てはまるものをお答えください。(ひとつだけ)		
		人	%
1	20%以下	58	36.0
2	30~50%	34	21.1
3	60~80%	11	6.8
4	80~100%	7	4.3
5	その他	21	13.0
	無回答	30	18.6
	全体	161	100.0

⑧採用意欲に関する属性別の傾向について 企業の所在地別

所在地別にみると、「電動モビリティシステム専門職大学(仮称)」の設置予定場所である、山形県から「採用したい」割合は29.7%(11社)、「検討したい」51.4%(19社)となっており、採用に興味がある企業は、山形県内で81.1%であった。

所在地	※各所在地を母数として計算 (%)					※採用意向を母数として計算 (%)				
	回答者数	採用したい	検討したい	採用しない	無回答	回答者数	採用したい	検討したい	採用しない	無回答
	161	32.3	49.1	11.8	6.8	161	52	79	19	11
北海道	1	0.0	0.0	100.0	0.0	1	0	0	1	0
宮城県	1	0.0	100.0	0.0	0.0	1	0	1	0	0
山形県	37	29.7	51.4	16.2	2.7	37	11	19	6	1
福島県	1	100.0	0.0	0.0	0.0	1	1	0	0	0
茨城県	1	0.0	0.0	100.0	0.0	1	0	0	1	0
栃木県	2	0.0	100.0	0.0	0.0	2	0	2	0	0
群馬県	2	0.0	100.0	0.0	0.0	2	0	2	0	0
埼玉県	7	42.9	14.3	14.3	28.6	7	3	1	1	2
千葉県	2	50.0	50.0	0.0	0.0	2	1	1	0	0
東京都	38	36.8	44.7	7.9	10.5	38	14	17	3	4
神奈川県	18	33.3	38.9	11.1	16.7	18	6	7	2	3
石川県	1	0.0	100.0	0.0	0.0	1	0	1	0	0
長野県	2	100.0	0.0	0.0	0.0	2	2	0	0	0
岐阜県	1	0.0	100.0	0.0	0.0	1	0	1	0	0
静岡県	10	60.0	30.0	0.0	10.0	10	6	3	0	1
愛知県	10	40.0	60.0	0.0	0.0	10	4	6	0	0
三重県	1	0.0	100.0	0.0	0.0	1	0	1	0	0
滋賀県	2	50.0	50.0	0.0	0.0	2	1	1	0	0
京都府	2	0.0	100.0	0.0	0.0	2	0	2	0	0
大阪府	4	25.0	75.0	0.0	0.0	4	1	3	0	0
広島県	1	0.0	100.0	0.0	0.0	1	0	1	0	0
山口県	1	0.0	100.0	0.0	0.0	1	0	1	0	0
香川県	1	0.0	100.0	0.0	0.0	1	0	1	0	0
福岡県	1	0.0	100.0	0.0	0.0	1	0	1	0	0
大分県	1	100.0	0.0	0.0	0.0	1	1	0	0	0
所在不明	13	7.7	53.8	38.5	0.0	13	1	7	5	0

所在地	※採用意向を母数として計算 (%)			
	採用したい	検討したい	採用しない	無回答
	52	82	20	11
北海道	0.0%	0.0%	5.3%	0.0%
宮城県	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%
山形県	21.2%	24.1%	31.6%	9.1%
福島県	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%
茨城県	0.0%	0.0%	5.3%	0.0%
栃木県	0.0%	2.5%	0.0%	0.0%
群馬県	0.0%	2.5%	0.0%	0.0%
埼玉県	5.8%	1.3%	5.3%	18.2%
千葉県	1.9%	1.3%	0.0%	0.0%
東京都	26.9%	21.5%	15.8%	36.4%
神奈川県	11.5%	8.9%	10.5%	27.3%
石川県	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%
長野県	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%
岐阜県	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%
静岡県	11.5%	3.8%	0.0%	9.1%
愛知県	7.7%	7.6%	0.0%	0.0%
三重県	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%
滋賀県	1.9%	1.3%	0.0%	0.0%
京都府	0.0%	2.5%	0.0%	0.0%
大阪府	1.9%	3.8%	0.0%	0.0%
広島県	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%
山口県	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%
香川県	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%
福岡県	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%
大分県	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%
所在不明	1.9%	8.9%	26.3%	0.0%

魅力度と採用傾向別

FQ7S6 工学やものづくりの基礎、専門4分野(「車体」「電池」「駆動」「自動運転)」の基礎的知識・技能を学んでいること 魅力度

		全体	魅力を感じる計	どちらともいえない	あまり魅力を感じない	全く魅力を感じない	(%)	魅力を感じる計	どちらともいえない	あまり魅力を感じない	全く魅力を感じない	(人)
基礎的知識・技能を学んでいること	全体	150	85.3	9.3	3.3	2.0		128	14	5	3	
	採用したい	52	94.2	5.8	0.0	0.0		49	3	0	0	
	検討したい	79	88.6	7.6	2.5	1.3		70	6	2	1	
	採用しない	19	47.4	26.3	15.8	10.5		9	5	3	2	

※無回答は除く

FQ7S7 「車体」「電池」「駆動」「自動運転」のいずれかを深掘し、設計・試作・試験法といった一連の開発プロセスを学んでいること 魅力度

		全体	魅力を感じる計	どちらともいえない	あまり魅力を感じない	全く魅力を感じない	(%)	魅力を感じる計	どちらともいえない	あまり魅力を感じない	全く魅力を感じない	(人)
一連の開発プロセスを学んでいること	全体	150	83.3	11.3	2.7	2.7		125	17	4	4	
	採用したい	52	98.1	1.9	0.0	0.0		51	1	0	0	
	検討したい	79	84.8	11.4	2.5	1.3		67	9	2	1	
	採用しない	19	36.8	36.8	10.5	15.8		7	7	2	3	

※無回答は除く

魅力度と採用傾向別にみると、『採用したい』と答えた 52 社のうち、49 社が「工学やものづくりの基礎、専門4分野(「車体」「電池」「駆動」「自動運転)」の基礎的知識・技能を学んでいること」に対して魅力を感じており、51 社が「車体」「電池」「駆動」「自動運転」のいずれかを深掘し、設計・試作・試験法といった一連の開発プロセスを学んでいること」に対して魅力を感じている結果が得られた。

※専門職大学の特徴に対する魅力度＝「魅力を感じる」「やや魅力を感じる」と回答した人数/全体の回答数で割合を算出

大学への進学者数の将来推計について

過去の進学率の伸び率を参考に、将来の進学率及び進学者数を推計。進学率については、都道府県別、男女別に推計。

推計の考え方

2014年度～2017年度における都道府県別、男女別の大学進学率の伸び率によって、今後2040年度まで大学進学率が上昇したと仮定して推計

- 男性の進学率が2017年度と比較して5 p t 以上上回った場合、+5 p t を上限として以降据え置き [12 県]
- 女性の進学率が男性の進学率を上回った場合、以降を男性の進学率と同値と仮定 [25 県]
- 進学率伸び率がマイナスの場合、2017年度の大学進学率が今後維持されると仮定 [26 県]

<進学率及び進学者数の推計>

	進学率(男女計)			進学者数(男女計)	
		男子	女子		増減
2017年	52.6%	55.9%	49.1%	629,733人	
2033年	56.7%	57.8%	55.5%	569,789人	▲59,944人
2040年	57.4%	58.4%	56.3%	506,005人	▲123,728人

推計の考え方

■大学進学者数推計

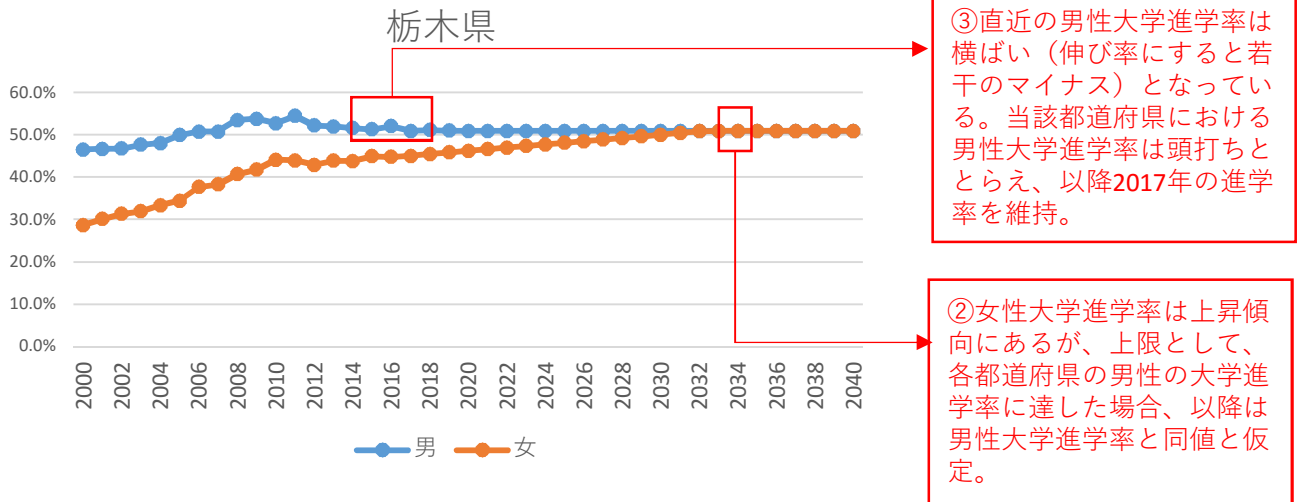
2040年度までの推計大学進学率 × 推計18歳人口

■進学率推計

2014年度～2017年度における都道府県別、男女別の大学進学率の伸び率によって今後2040年まで大学進学率が上昇したと仮定して推計。

※例外

- ①男性の進学率が2017年度と比較して5pt以上上回った場合、+5ptを上限として以降据置き。
- ②女性の進学率が男性の進学率を上回った場合、以降を男性の進学率と同値と仮定。
- ③進学率伸び率がマイナスの場合、2017年度の大学進学率が今後維持されると仮定。



■18歳人口推計（2018～2040年）

①2018～2029年・・・文部科学省「学校基本統計」を元に推計

- 2018年：2015年度 中学校卒業生数及び中等教育学校前期課程修了者数
- 2019年：2016年度 中学校卒業生数及び中等教育学校前期課程修了者数
- 2020年：2017年度 中学校及び義務教育学校卒業生数並びに中等教育学校前期課程修了者数
- 2021年：2017年度 中学校及び中等教育学校前期課程の3年生並びに義務教育学校の9学年の数
- 2022年：2017年度 中学校及び中等教育学校前期課程の2年生並びに義務教育学校の8学年の数
- 2023年：2017年度 中学校及び中等教育学校前期課程の1年生並びに義務教育学校の7学年の数
- 2024年：2017年度 小学校及び義務教育学校の6年生の数
- 2025年：2017年度 小学校及び義務教育学校の5年生の数
- 2026年：2017年度 小学校及び義務教育学校の4年生の数
- 2027年：2017年度 小学校及び義務教育学校の3年生の数
- 2028年：2017年度 小学校及び義務教育学校の2年生の数
- 2029年：2017年度 小学校及び義務教育学校の1年生の数

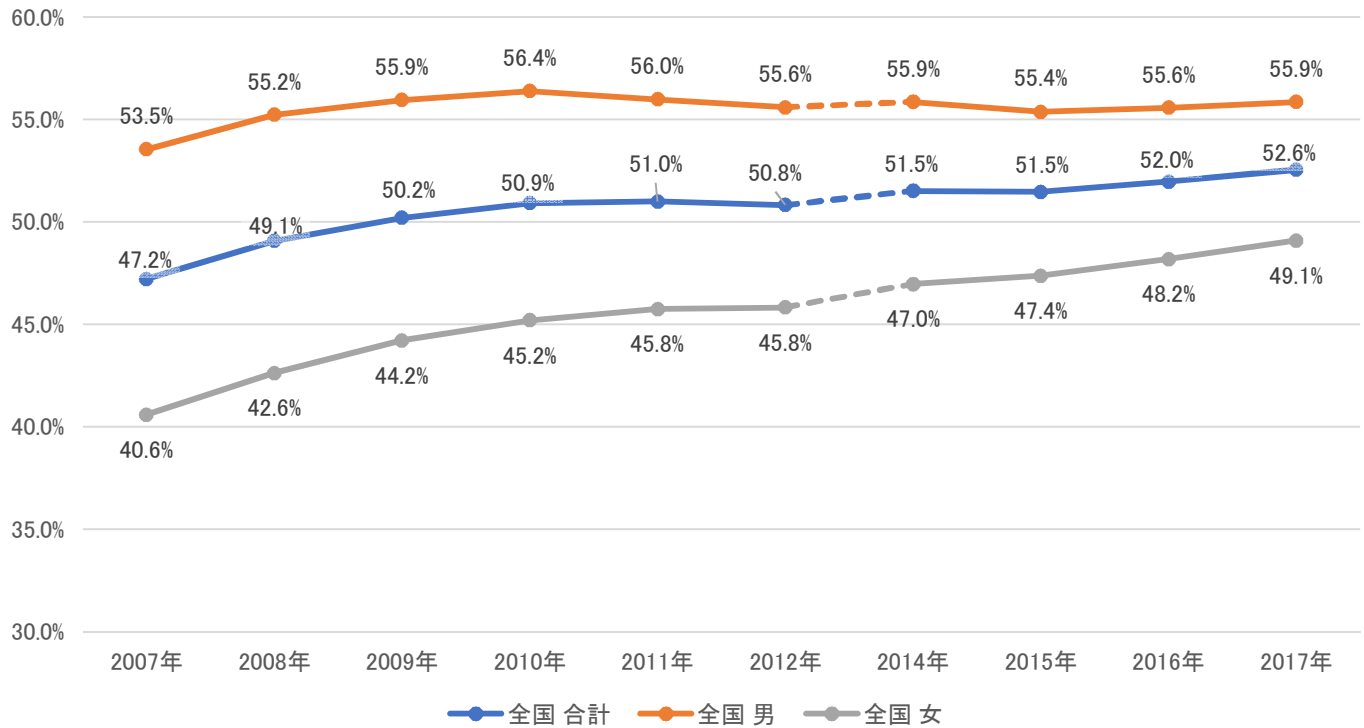
②2030～2034年・・・厚生労働省「人口動態統計」の出生数に生存率を乗じて推計

- 2030年：2011年度に生まれた者の数に生存率を乗じた数
- 2031年：2012年度に生まれた者の数に生存率を乗じた数
- 2032年：2013年度に生まれた者の数に生存率を乗じた数
- 2033年：2014年度に生まれた者の数に生存率を乗じた数
- 2034年：2015年度に生まれた者の数に生存率を乗じた数

③2035～2040年・・・国立社会保障・人口問題研究所による日本の将来推計人口
(2034年の都道府県比率で案分)

直近の大学進学率の推移（男女別）

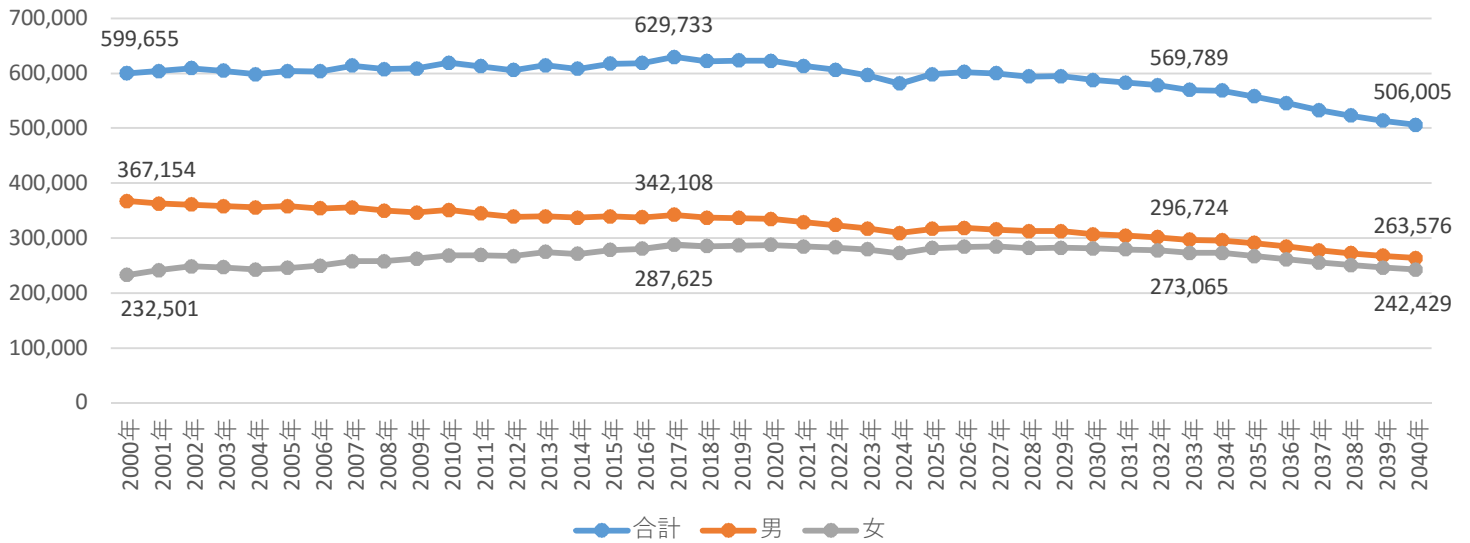
大学進学率推移(男女別)



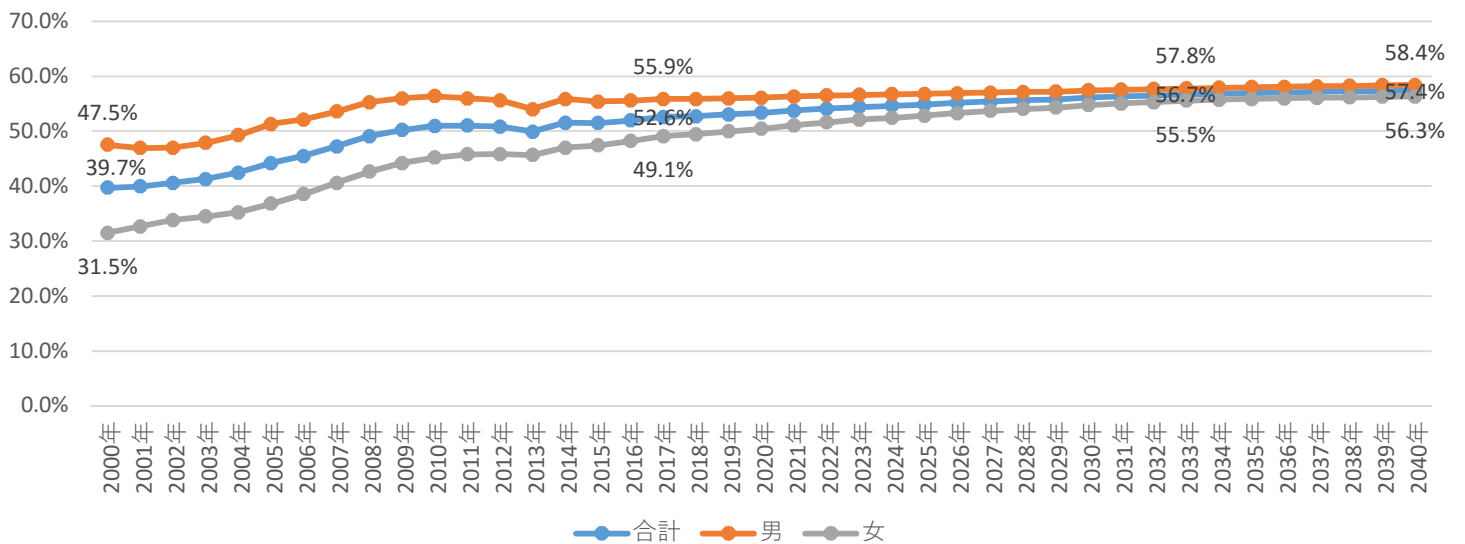
2000年度～2040年度の進学者数・進学率・18歳人口

※2018年度以降は推計値

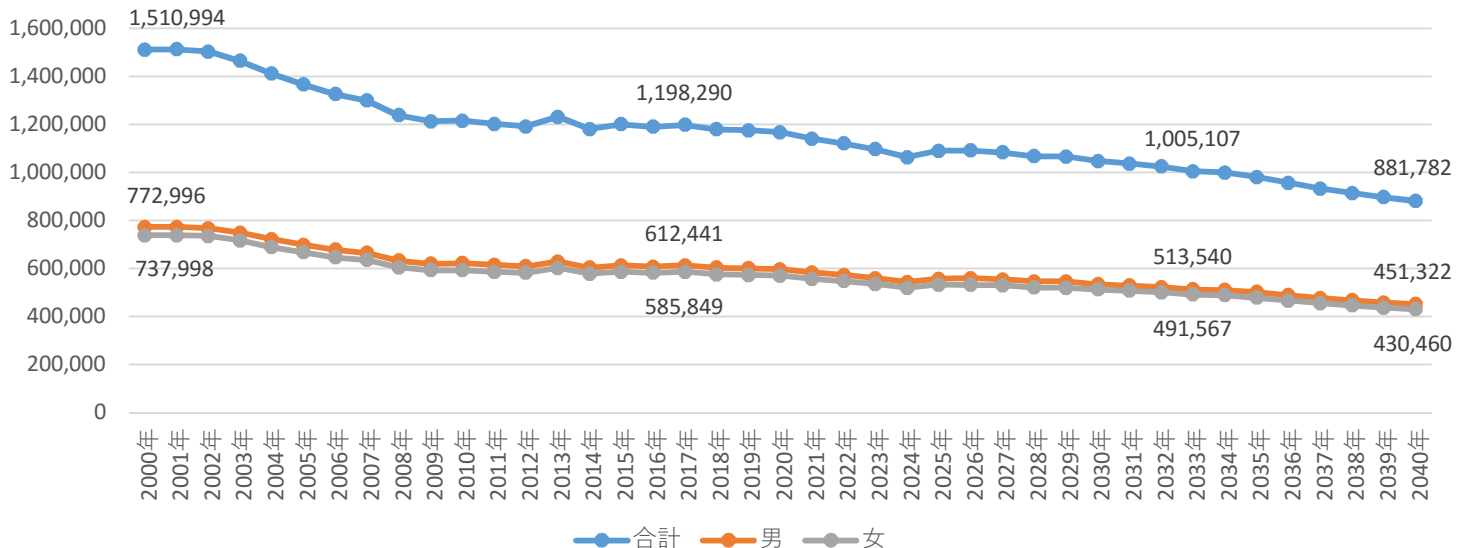
■進学者数



■進学率



■18歳人口

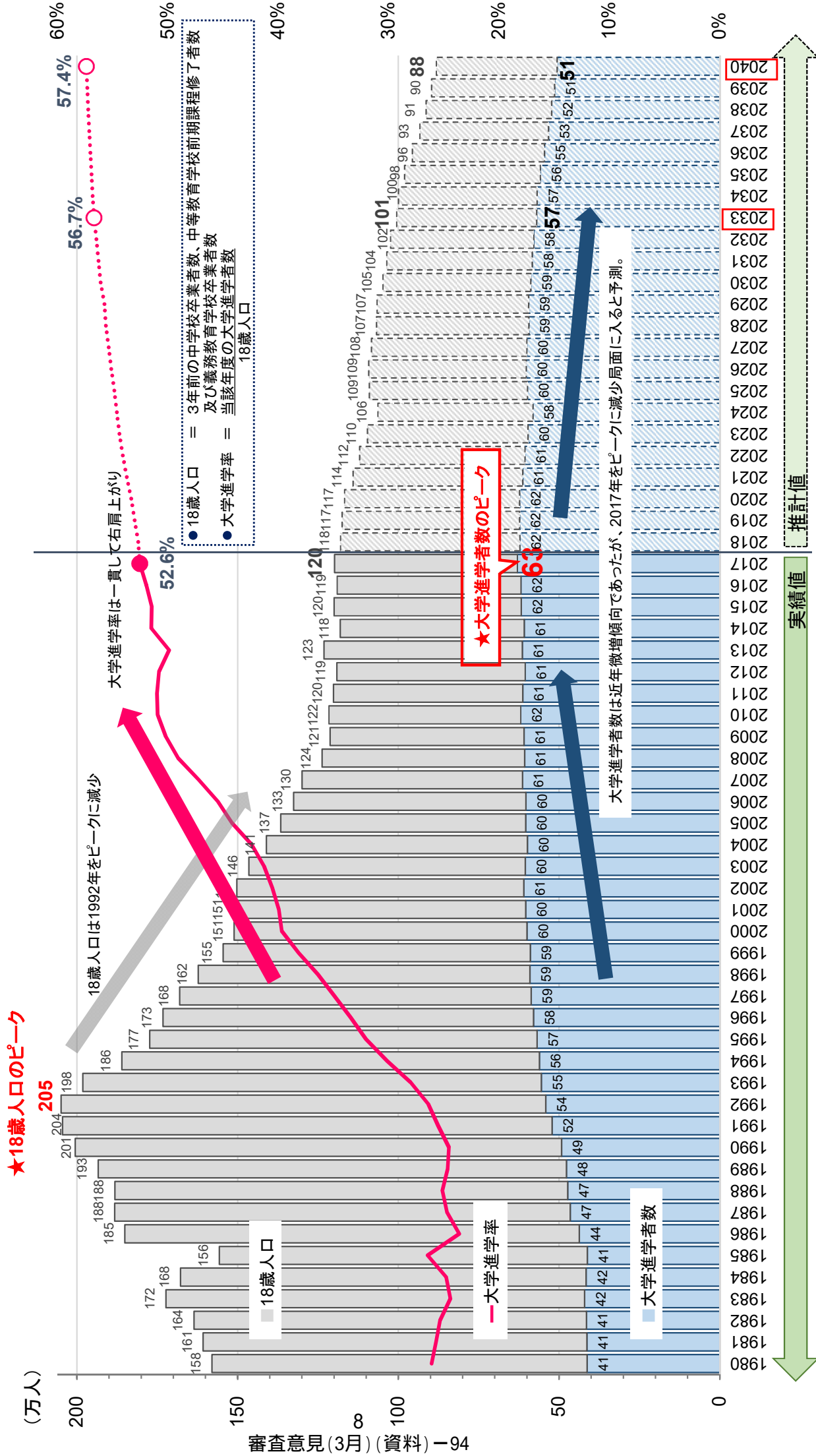


	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	2035年	2036年	2037年	2038年	2039年	2040年													
全国	49.2%	48.4%	45.6%	47.4%	48.2%	49.1%	49.4%	50.0%	50.4%	51.0%	51.6%	52.1%	52.8%	53.3%	53.7%	54.1%	54.4%	54.6%	54.8%	55.0%	55.2%	55.4%	55.6%	55.8%	56.0%	56.2%	56.4%	56.6%	56.8%	57.0%	57.2%	57.4%	57.6%	57.8%	58.0%	58.2%	58.4%							
北海道	39.1%	39.4%	39.6%	41.4%	41.6%	43.9%	44.7%	44.9%	49.6%	51.8%	53.0%	53.9%	53.9%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%					
青森	30.5%	31.9%	32.9%	32.7%	34.6%	34.5%	36.8%	38.2%	39.3%	40.8%	42.3%	43.8%	45.4%	47.1%	48.8%	50.6%	52.5%	53.0%	53.9%	53.9%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%				
岩手	34.8%	34.4%	34.0%	34.3%	36.2%	36.3%	37.2%	38.1%	38.7%	39.4%	40.1%	40.9%	41.6%	42.3%	43.1%	43.8%	44.2%	44.7%	44.7%	45.1%	45.3%	45.3%	45.3%	45.3%	45.3%	45.3%	45.3%	45.3%	45.3%	45.3%	45.3%	45.3%	45.3%	45.3%	45.3%	45.3%	45.3%	45.3%	45.3%	45.3%	45.3%			
宮城	30.6%	31.0%	31.3%	30.9%	34.2%	34.2%	35.1%	35.9%	36.6%	37.3%	38.1%	38.9%	39.7%	40.5%	41.4%	42.2%	43.1%	44.0%	44.8%	45.3%	45.3%	45.3%	45.3%	45.3%	45.3%	45.3%	45.3%	45.3%	45.3%	45.3%	45.3%	45.3%	45.3%	45.3%	45.3%	45.3%	45.3%	45.3%	45.3%	45.3%	45.3%			
秋田	37.0%	37.5%	36.7%	35.4%	38.5%	37.9%	38.8%	38.9%	39.1%	39.3%	39.3%	39.8%	40.0%	40.3%	40.3%	40.7%	41.0%	41.0%	41.2%	41.5%	41.7%	42.0%	42.2%	42.5%	42.7%	43.0%	43.2%	43.5%	43.8%	43.9%	43.9%	43.9%	43.9%	43.9%	43.9%	43.9%	43.9%	43.9%	43.9%	43.9%	43.9%			
山形	29.7%	31.1%	31.7%	32.4%	33.8%	33.1%	35.7%	36.6%	37.6%	38.8%	39.5%	39.8%	40.0%	40.3%	40.5%	40.7%	41.0%	41.0%	41.2%	41.5%	41.7%	42.0%	42.2%	42.5%	42.7%	43.0%	43.2%	43.5%	43.8%	43.9%	43.9%	43.9%	43.9%	43.9%	43.9%	43.9%	43.9%	43.9%	43.9%	43.9%	43.9%	43.9%		
福島	45.7%	43.4%	45.3%	45.1%	46.3%	46.0%	46.6%	46.0%	46.2%	46.2%	46.3%	46.3%	46.4%	46.5%	46.5%	46.6%	46.6%	46.6%	46.7%	46.7%	46.8%	46.8%	46.9%	47.0%	47.1%	47.1%	47.1%	47.2%	47.2%	47.2%	47.2%	47.2%	47.2%	47.2%	47.2%	47.2%	47.2%	47.2%	47.2%	47.2%	47.2%			
茨城	49.2%	46.4%	47.7%	48.2%	49.2%	48.6%	49.1%	48.4%	48.4%	48.4%	48.4%	48.4%	48.4%	48.4%	48.4%	48.4%	48.4%	48.4%	48.4%	48.4%	48.4%	48.4%	48.4%	48.4%	48.4%	48.4%	48.4%	48.4%	48.4%	48.4%	48.4%	48.4%	48.4%	48.4%	48.4%	48.4%	48.4%	48.4%	48.4%	48.4%	48.4%	48.4%		
栃木	42.1%	40.3%	42.7%	42.0%	43.3%	43.3%	43.9%	43.5%	43.8%	43.9%	44.0%	44.2%	44.4%	44.3%	44.4%	44.5%	44.7%	44.8%	44.9%	45.0%	45.1%	45.3%	45.4%	45.5%	45.6%	45.8%	45.9%	46.0%	46.2%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%
群馬	41.8%	40.7%	41.0%	39.4%	40.5%	40.7%	43.1%	42.5%	43.8%	44.7%	45.6%	46.5%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%		
埼玉	32.4%	31.2%	32.6%	33.1%	34.7%	35.0%	35.7%	36.1%	36.6%	37.1%	37.6%	38.1%	38.6%	39.2%	39.7%	40.2%	40.8%	41.3%	41.9%	42.5%	43.1%	43.6%	44.2%	44.8%	45.4%	46.1%	46.7%	47.3%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%	47.5%	
栃木	51.2%	51.5%	51.2%	49.4%	51.7%	51.2%	51.3%	51.6%	51.7%	51.8%	51.9%	52.0%	52.0%	52.1%	52.2%	52.3%	52.4%	52.5%	52.5%	52.5%	52.6%	52.7%	52.8%	52.9%	53.0%	53.1%	53.2%	53.3%	53.3%	53.3%	53.3%	53.3%	53.3%	53.3%	53.3%	53.3%	53.3%	53.3%	53.3%	53.3%	53.3%	53.3%	53.3%	
群馬	48.4%	49.3%	47.6%	48.0%	47.8%	48.2%	48.4%	47.4%	47.7%	47.9%	48.0%	48.2%	48.4%	48.5%	48.5%	48.7%	48.9%	49.0%	49.2%	49.4%	49.5%	49.7%	49.9%	49.9%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%		
千葉	52.7%	54.4%	52.2%	52.0%	51.6%	51.3%	52.0%	50.9%	51.1%	51.0%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%		
群馬	44.1%	43.9%	42.9%	43.9%	43.7%	44.9%	44.8%	45.0%	45.5%	45.8%	46.2%	46.6%	47.3%	47.7%	48.1%	48.4%	48.8%	49.2%	49.6%	49.9%	50.0%	50.4%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	
埼玉	47.3%	46.0%	46.8%	44.5%	45.8%	46.0%	47.0%	46.8%	47.4%	47.8%	48.3%	48.7%	49.1%	49.1%	49.1%	49.1%	49.1%	49.1%	49.1%	49.1%	49.1%	49.1%	49.1%	49.1%	49.1%	49.1%	49.1%	49.1%	49.1%	49.1%	49.1%	49.1%	49.1%	49.1%	49.1%	49.1%	49.1%	49.1%	49.1%	49.1%	49.1%	49.1%		
千葉	56.8%	58.4%	57.9%	55.9%	58.0%	57.6%	57.0%	58.5%	58.5%	58.5%	58.5%	58.5%	58.5%	58.5%	58.5%	58.5%	58.5%	58.5%	58.5%	58.5%	58.5%	58.5%	58.5%	58.5%	58.5%	58.5%	58.5%	58.5%	58.5%	58.5%	58.5%	58.5%	58.5%	58.5%	58.5%	58.5%	58.5%	58.5%	58.5%	58.5%	58.5%	58.5%		
群馬	42.2%	42.9%	43.1%	43.0%	44.3%	44.2%	45.3%	46.3%	46.9%	47.6%	48.4%	49.1%	49.9%	50.7%	51.5%	52.4%	53.2%	54.0%	54.8%	55.8%	56.7%	57.6%	58.5%	59.3%	59.3%	59.3%	59.3%	59.3%	59.3%	59.3%	59.3%	59.3%	59.3%	59.3%	59.3%	59.3%	59.3%	59.3%	59.3%	59.3%	59.3%	59.3%	59.3%	
東京都	51.2%	51.7%	51.5%	50.6%	52.3%	52.6%	53.2%	53.1%	53.6%	54.0%	54.4%	54.9%	55.3%	55.8%	56.3%	56.8%	57.3%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	
東京都	58.3%	58.1%	58.1%	56.3%	58.3%	58.5%	58.3%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%		
東京都	43.6%	45.1%	44.7%	44.7%	46.2%	46.4%	47.8%	48.5%	49.4%	50.3%	51.2%	52.1%	53.0%	54.0%	55.0%	56.0%	57.0%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%	57.6%		
東京都	73.1%	73.1%	73.1%	71.3%	73.1%	72.8%	72.7%	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%		
東京都	66.6%	70.3%	70.3%	69.7%	70.8%	72.1%	71.7%	73.2%	73.2%	73.2%	73.2%	73.2%	73.2%	73.2%	73.2%	73.2%	73.2%	73.2%	73.2%	73.2%	73.2%	73.2%	73.2%	73.2%	73.2%	73.2%	73.2%	73.2%	73.2%	73.2%	73.2%	73.2%	73.2%	73.2%	73.2%	73.2%	73.2%	73.2%	73.2%	73.2%	73.2%	73.2%		
東京都	53.8%	53.1%	53.7%	52.8%	54.6%	54.9%	54.4%	54.8%	54.4%	54.8%	54.4%	54.8%	54.4%	54.8%	54.4%	54.8%	54.4%	54.8%	54.4%	54.8%	54.4%	54.8%	54.4%	54.8%	54.4%	54.8%	54.4%	54.8%	54.4%	54.8%	54.4%	54.8%	54.4%	54.8%	54.4%	54.8%	54.4%	54.8%	54.4%	54.8%	54.4%			
東京都	59.3%	58.3%	59.3%	57.0%	59.1%	59.2%	58.4%	58.1%	58.1%	58.1%	58.1%	58.1%	58.1%	58.1%	58.1%	58.1%	58.1%	58.1%	58.1%	58.1%	58.1%	58.1%	58.1%	58.1%	58.1%	58.1%	58.1%	58.1%	58.1%	58.1%	58.1%	58.1%	58.1%	58.1%	58.1%	58.1%	58.1%	58.1%	58.1%	58.1%	58.1%	58.1%		
東京都	47.8%	47.6%	47.8%	48.3%	49.7%	50.4%	50.0%	50.4%	50.6%	50.7%	51.1%	51.6%	52.1%	52.4%	52.8%	53.1%	53.5%	53.8%	54.1%	54.4%	54.7%	55.0%	55.3%	55.6%	55.9%	56.2%	56.5%	56.8%	57.1%	57.4%	57.7%	58.0%	58.3%	58.6%	58.9%	59.2%	59.5%	59.8%	60.0%	60.0%	60.0%	60.0%		
東京都	42.8%	42.7%	42.0%	40.9%	43.2%	41.8%	42.3%	41.2%	41.4%	41.2%	41.3%	41.1%	41.3%	41.2%	41.2%	41.2%	41.2%	41.2%	41.3%																									

Table with columns for Prefecture (e.g., 福井, 山梨, 長野, etc.) and rows for years from 2010 to 2040. Each cell contains a percentage value representing the university enrollment rate.

大学進学者数等の将来推計について

- 18歳人口が減少し続ける中でも、大学進学者数は一貫して上昇し、大学進学者数も増加傾向にあったが、2018年以降は18歳人口の減少に伴い、大学進学者数が上昇しても大学進学者数は減少局面に突入すると予測される。



【出典】○18歳人口：①1980年～2017年…文部科学省「学校基本統計」、②2018年～2029年…文部科学省「学校基本統計」を元に推計、③2030～2034年…厚生労働省「人口動態統計」の出生数に生存率を乗じて推計、④2035～2040年については国立社会保険・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）（出生中位・死亡中位）」を元に作成（2034年の都道府県比率で案分）
●大学進学者数及び大学進学率：①1980～2017年…文部科学省「学校基本統計」、②2018年～2040年…文部科学省による推計

高等教育に関する基礎データ(2017年基準+2040年推計)①

	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉
18歳人口【2017】	47,624	13,256	12,530	22,026	9,303	10,850	19,782	28,661	18,920	19,530	65,774	55,647
高校等卒業者数【2017】	42,484	12,094	11,558	19,806	8,524	10,073	17,607	25,284	17,493	17,056	57,262	49,330
大学進学者数【2017】	20,912	5,056	4,735	10,132	3,592	4,240	7,785	14,793	9,085	9,139	34,585	29,574
大学進学率【2017】	43.9%	38.1%	37.8%	46.0%	38.6%	39.1%	39.4%	51.6%	48.0%	46.8%	52.6%	53.1%
(国公私別)【2017】	9.8% 2.6% 31.5%	10.4% 4.3% 23.4%	10.4% 5.1% 22.3%	8.5% 2.4% 35.1%	12.6% 4.1% 21.9%	10.6% 2.8% 25.7%	7.5% 2.4% 29.5%	8.1% 1.8% 41.7%	8.1% 1.8% 38.1%	7.6% 3.7% 35.5%	3.8% 0.8% 48.0%	4.3% 0.5% 48.3%
短大進学率【2017】	5.3%	5.6%	4.5%	3.8%	6.5%	5.9%	5.4%	3.3%	4.6%	4.9%	4.1%	3.5%
専門学校進学率(現役)【2017】	21.9%	15.1%	17.4%	15.7%	17.0%	18.5%	18.8%	17.9%	17.3%	18.4%	16.7%	17.8%
大学数【2017】	38	10	6	14	7	6	8	9	9	13	28	27
(国公私別)【2017】	7 5 26	1 2 7	1 1 4	2 1 11	1 3 3	1 2 3	1 2 5	3 1 5	1 0 8	1 4 8	1 1 26	1 1 25
入学定員【2017】	18,917	3,472	2,826	11,374	2,090	2,624	3,389	6,948	4,703	6,381	29,340	26,060
入学定員(国公私別)【2017】	5,617 1,095 12,205	1,322 510 1,640	1,030 440 1,356	2,741 415 8,218	955 665 470	1,675 143 806	945 454 1,990	3,737 170 3,041	910 0 3,793	1,098 1,482 3,801	1,535 395 27,410	2,598 180 23,282
大学入学者数【2017】	19,053	3,421	2,625	11,845	2,059	2,794	3,351	7,261	4,597	6,720	30,804	26,505
(国公私別)【2017】	5,846 1,157 12,050	1,352 548 1,521	1,091 463 1,071	2,825 438 8,582	1,000 666 393	1,731 151 912	993 461 1,897	3,901 170 3,190	951 0 3,646	1,141 1,696 3,883	1,594 405 28,805	2,701 183 23,621
県外から流入【2017】	5,000	1,473	1,266	5,957	1,195	1,906	1,774	4,298	2,543	4,086	20,387	16,772
県内から流出【2017】	6,859	3,108	3,376	4,244	2,728	3,352	6,208	11,830	7,031	6,505	24,168	19,841
流出入差(流入-流出)【2017】	-1,859	-1,635	-2,110	1,713	-1,533	-1,446	-4,434	-7,532	-4,488	-2,419	-3,781	-3,069
自県進学率【2017】	67.2%	38.5%	28.7%	58.1%	24.1%	20.9%	20.3%	20.0%	22.6%	28.8%	30.1%	32.9%
18歳人口推計【2040】	31,499	7,499	7,607	15,601	5,135	6,755	11,794	19,251	13,491	12,581	47,985	41,481
大学進学者数推計【2040】	17,121	3,397	3,340	7,409	2,098	2,639	5,598	10,305	6,868	6,172	28,770	23,873
大学進学率推計【2040】	54.4%	45.3%	43.9%	47.5%	40.9%	39.1%	47.5%	53.5%	50.9%	49.1%	60.0%	57.6%
大学入学者数推計【2040】	15,389	2,408	1,866	8,533	1,391	1,947	2,422	5,507	3,432	4,951	25,630	21,767
(国公私別)【2040】(※注)	4,722 935 9,733	952 386 1,071	775 329 761	2,035 316 6,182	675 450 265	1,206 105 636	718 333 1,371	2,959 129 2,420	710 0 2,722	841 1,250 2,861	1,326 337 23,966	2,218 150 19,398
入学定員充足率推計【2040】	81.4%	69.4%	66.0%	75.0%	66.5%	74.2%	71.5%	79.3%	73.0%	77.6%	87.4%	83.5%
(国公私別)【2040】(※注)	84.1% 85.3% 79.7%	72.0% 75.6% 65.3%	75.3% 74.8% 56.1%	74.2% 76.0% 75.2%	70.7% 67.6% 56.5%	72.0% 73.6% 78.9%	75.9% 73.4% 68.9%	79.2% 75.8% 79.6%	78.0%	71.8% 76.6% 84.3%	75.3% 86.4% 85.3%	87.4% 85.4% 83.5%

(※注)2017年の国公私の割合(実績値)のまま機械的に試算したもの。

高等教育に関する基礎データ(2017年基準+2040年推計)②

	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重
18歳人口【2017】	105,971	80,472	22,252	10,063	11,393	8,156	8,325	21,297	20,795	35,989	74,550	18,382
高校等卒業者数【2017】	102,326	66,400	19,427	9,115	10,550	7,564	8,229	18,898	18,379	32,825	65,204	16,212
大学進学者数【2017】	77,103	43,758	9,169	4,559	5,658	4,092	5,041	8,980	9,725	17,323	38,905	8,299
大学進学率【2017】	72.8%	54.4%	41.2%	45.3%	49.7%	50.2%	60.6%	42.2%	46.8%	48.1%	52.2%	45.1%
(国公私別)【2017】	6.2% 0.9% 65.7%	3.4% 1.1% 49.9%	8.6% 3.0% 29.7%	14.9% 4.1% 26.3%	13.8% 3.6% 32.3%	13.1% 5.6% 31.4%	8.9% 5.0% 46.7%	8.2% 3.3% 30.7%	9.1% 2.8% 34.9%	7.8% 3.5% 36.8%	9.1% 2.8% 40.3%	8.6% 2.3% 34.2%
短大進学率【2017】	2.5%	3.5%	4.3%	6.7%	6.9%	5.3%	5.6%	8.7%	6.9%	4.1%	3.8%	4.9%
専門学校進学率(現役)【2017】	11.7%	15.7%	26.0%	17.0%	13.5%	14.8%	17.5%	20.8%	13.2%	17.2%	12.6%	15.0%
大学数【2017】	138	32	18	5	12	6	7	9	12	12	51	7
(国公私別)【2017】	12 2 124	2 2 28	3 3 12	1 1 3	2 3 7	1 2 3	1 2 4	1 2 6	1 3 8	2 2 8	4 4 43	1 1 5
入学定員【2017】	142,722	45,971	5,907	2,450	5,901	2,275	3,835	3,428	4,820	8,001	40,877	3,110
入学定員(国公私別)【2017】	9,740 1,570 131,412	1,662 1,070 43,239	2,482 585 2,840	1,800 330 320	1,726 350 3,825	855 425 995	825 990 2,020	1,978 380 1,070	1,240 200 3,380	2,145 890 4,966	3,982 1,708 35,187	1,310 100 1,700
大学入学者数【2017】	153,113	49,011	5,972	2,480	6,063	2,418	3,829	3,621	4,649	8,157	43,163	3,299
(国公私別)【2017】	10,180 1,641 141,292	1,713 1,188 46,110	2,588 620 2,764	1,853 356 271	1,779 376 3,908	875 476 1,067	854 1,148 1,827	2,074 448 1,099	1,271 212 3,166	2,193 988 4,976	4,177 1,787 37,199	1,370 100 1,829
県外から流入【2017】	102,137	31,242	2,711	1,547	3,534	1,135	2,622	2,173	2,730	3,255	15,170	1,595
県内から流出【2017】	26,127	25,989	5,908	3,626	3,129	2,809	3,834	7,532	7,806	12,421	10,912	6,595
流出入差(流入-流出)【2017】	76,010	5,253	-3,197	-2,079	405	-1,674	-1,212	-5,359	-5,076	-9,166	4,258	-5,000
自県進学率【2017】	66.1%	40.6%	35.6%	20.5%	44.7%	31.4%	23.9%	16.1%	19.7%	28.3%	72.0%	20.5%
18歳人口推計【2040】	106,569	61,879	14,216	6,610	7,819	5,414	5,195	13,687	13,839	24,828	57,157	12,497
大学進学者数推計【2040】	77,539	34,848	5,863	3,157	4,179	3,255	3,721	5,770	6,949	12,762	31,099	5,804
大学進学率推計【2040】	72.8%	56.3%	41.2%	47.8%	53.4%	60.1%	71.6%	42.2%	50.2%	51.4%	54.4%	46.4%
大学入学者数推計【2040】	131,389	40,573	4,032	1,804	4,469	1,883	2,942	2,610	3,516	6,168	33,550	2,442
(国公私別)【2040】(※注)	8,736 1,408 121,246	1,418 983 38,171	1,747 419 1,866	1,348 259 197	1,311 277 2,881	681 371 831	656 882 1,404	1,495 323 792	961 160 2,395	1,658 747 3,762	3,247 1,389 28,914	1,014 74 1,354
入学定員充足率推計【2040】	92.1%	88.3%	68.3%	73.6%	75.7%	82.8%	76.7%	76.2%	73.0%	77.1%	82.1%	78.5%
(国公私別)【2040】(※注)	89.7% 89.7% 92.3%	85.3% 91.9% 88.3%	70.4% 71.6% 65.7%	74.9% 78.5% 61.6%	76.0% 79.2% 75.3%	79.7% 87.2% 83.5%	79.5% 89.1% 69.5%	75.6% 85.0% 74.0%	77.5% 80.2% 70.8%	77.3% 83.9% 75.8%	81.5% 81.3% 82.2%	77.4% 74.0% 79.6%

(※注)2017年の国公私の割合(実績値)のまま機械的に試算したもの。

高等教育に関する基礎データ(2017年基準+2040年推計)③

	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島
18歳人口【2017】	14,537	24,543	85,687	54,774	14,072	9,998	5,427	6,517	19,189	27,297	13,098	7,159
高校等卒業者数【2017】	12,884	23,480	75,858	47,201	12,061	8,986	4,881	6,045	17,762	23,780	11,321	6,443
大学進学者数【2017】	7,182	15,884	47,347	30,147	8,016	4,324	2,115	2,650	9,183	14,995	5,069	3,318
大学進学率【2017】	49.4%	64.7%	55.3%	55.0%	57.0%	43.2%	39.0%	40.7%	47.9%	54.9%	38.7%	46.3%
(国公私別)【2017】	7.1% 2.9% 39.4%	8.4% 3.9% 52.4%	5.4% 2.7% 47.2%	8.5% 3.8% 42.7%	9.6% 3.9% 43.4%	9.5% 4.0% 29.7%	13.3% 3.1% 22.6%	13.9% 4.3% 22.5%	12.7% 3.4% 31.8%	11.6% 5.1% 38.2%	9.9% 4.1% 24.7%	14.5% 2.7% 29.1%
短大進学率【2017】	5.7%	5.4%	5.5%	4.4%	5.4%	5.6%	7.3%	6.9%	4.1%	3.8%	5.0%	4.9%
専門学校進学率(現役)【2017】	16.9%	13.7%	15.0%	13.9%	14.1%	16.7%	19.3%	22.0%	17.1%	11.8%	16.5%	16.6%
大学数【2017】	8	34	55	37	11	3	3	2	17	20	10	4
(国公私別)【2017】	2 1 5	3 4 27	2 2 51	2 3 32	3 2 6	1 1 1	1 1 1	1 1 0	1 2 14	1 4 15	1 3 6	2 0 2
入学定員【2017】	7,098	32,736	51,582	26,955	4,813	1,605	1,496	1,457	9,670	13,531	4,226	2,983
入学定員(国公私別)【2017】	950 600 5,548	3,706 920 28,110	4,155 2,776 44,651	2,690 1,792 22,473	730 348 3,735	890 180 535	1,140 276 80	1,157 300 0	2,198 430 7,042	2,338 1,515 9,678	1,917 959 1,350	1,388 0 1,595
大学入学者数【2017】	7,498	33,783	54,891	28,060	4,993	1,640	1,591	1,516	9,330	13,547	4,290	2,769
(国公私別)【2017】	1,023 641 5,834	3,837 979 28,967	4,276 2,916 47,699	2,792 1,873 23,395	786 362 3,845	936 181 523	1,181 320 90	1,195 321 0	2,278 472 6,580	2,466 1,689 9,392	1,997 1,019 1,274	1,447 0 1,322
県外から流入【2017】	5,968	25,789	27,862	14,270	3,799	1,148	1,275	1,125	5,279	5,726	3,098	1,506
県内から流出【2017】	5,652	7,890	20,318	16,357	6,822	3,832	1,799	2,259	5,132	7,174	3,877	2,055
流出入差(流入-流出)【2017】	316	17,899	7,544	-2,087	-3,023	-2,684	-524	-1,134	147	-1,448	-779	-549
自県進学率【2017】	21.3%	50.3%	57.1%	45.7%	14.9%	11.4%	14.9%	14.8%	44.1%	52.2%	23.5%	38.1%
18歳人口推計【2040】	11,375	17,431	58,280	39,050	8,874	6,224	3,994	4,887	13,744	20,268	8,972	4,789
大学進学者数推計【2040】	6,233	12,868	34,683	22,294	5,452	2,914	1,821	2,127	7,436	11,564	3,623	2,216
大学進学率推計【2040】	54.8%	73.8%	59.5%	57.1%	61.4%	46.8%	45.6%	43.5%	54.1%	57.1%	40.4%	46.3%
大学入学者数推計【2040】	5,919	26,287	41,083	21,098	3,691	1,186	1,256	1,201	7,358	10,519	3,419	1,997
(国公私別)【2040】(※注)	808 506 4,606	2,986 762 22,540	3,200 2,182 35,700	2,099 1,408 17,590	581 268 2,842	677 131 378	932 253 71	946 254 0	1,796 372 5,189	1,915 1,312 7,293	1,592 812 1,015	1,044 0 953
入学定員充足率推計【2040】	83.4%	80.3%	79.6%	78.3%	76.7%	73.9%	84.0%	82.4%	76.1%	77.7%	80.9%	66.9%
(国公私別)【2040】(※注)	85.0% 84.3% 83.0%	80.6% 82.8% 80.2%	77.0% 78.6% 80.0%	78.0% 78.6% 78.3%	79.6% 76.9% 76.1%	76.1% 72.7% 70.7%	81.8% 91.5% 88.8%	81.8% 84.7%	81.7% 86.6% 73.7%	81.9% 86.6% 75.4%	83.0% 84.7% 75.2%	75.2% 59.8%

(※注)2017年の国公私の割合(実績値)のまま機械的に試算したもの。

高等教育に関する基礎データ(2017年基準+2040年推計)④

	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	その他
18歳人口【2017】	9,652	13,586	6,626	48,031	9,058	14,269	17,635	10,921	11,299	16,389	16,978	
高校等卒業生数【2017】	8,662	11,480	6,081	42,435	8,106	12,977	15,622	10,102	10,329	14,765	14,607	
大学進学者数【2017】	4,733	6,373	2,685	23,157	3,566	5,471	7,453	4,029	4,267	6,184	6,304	19,041
大学進学率【2017】	49.0%	46.9%	40.5%	48.2%	39.4%	38.3%	42.3%	36.9%	37.8%	37.7%	37.1%	
(国公私別)【2017】	12.5% 3.0% 33.5%	13.9% 3.6% 29.5%	8.7% 5.7% 26.1%	10.0% 3.0% 35.2%	12.5% 2.4% 24.5%	13.1% 4.5% 20.8%	9.6% 3.8% 28.9%	12.5% 3.7% 20.7%	12.0% 3.9% 21.9%	12.1% 2.7% 22.9%	9.7% 3.0% 24.5%	
短大進学率【2017】	5.2%	5.7%	6.0%	5.1%	5.2%	4.6%	3.5%	7.9%	5.6%	7.8%	3.8%	
専門学校進学率(現役)【2017】	15.5%	18.5%	17.6%	16.2%	15.1%	17.2%	17.7%	20.5%	16.0%	20.1%	25.0%	※「その他」とは、「外国において、学校教育における12年の課程を修了した者」「専修学校高等課程の修了者」及び「高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)により文部科学大臣が行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者」等である。(学校教育法施行規則第150条)
大学数【2017】	4	5	3	35	2	8	9	5	7	6	8	
(国公私別)【2017】	1 1 2	1 1 3	1 2 0	3 4 28	1 0 1	1 1 6	1 1 7	1 1 3	1 2 4	2 0 4	1 3 4	
入学定員【2017】	2,184	3,630	1,935	24,675	1,741	4,021	5,902	3,520	2,510	3,700	3,912	
入学定員(国公私別)【2017】	1,239 90 855	1,770 100 1,760	1,075 860 0	4,111 1,970 18,594	1,291 0 450	1,641 690 1,690	1,672 480 3,750	1,070 80 2,370	1,035 300 1,175	2,075 0 1,625	1,547 640 1,725	
大学入学者数【2017】	2,077	3,789	2,045	26,320	1,772	3,921	5,851	3,097	2,329	3,570	4,244	
(国公私別)【2017】	1,279 90 708	1,866 100 1,823	1,131 914 0	4,234 2,083 20,003	1,339 0 433	1,687 747 1,487	1,737 525 3,589	1,105 83 1,909	1,064 310 955	2,164 0 1,406	1,589 676 1,979	
県外から流入【2017】	1,256	1,694	1,501	11,191	1,230	2,064	2,503	2,100	1,217	1,490	817	
県内から流出【2017】	3,912	4,278	2,141	8,028	3,024	3,614	4,105	3,032	3,155	4,104	2,877	
流出入差(流入-流出)【2017】	-2,656	-2,584	-640	3,163	-1,794	-1,550	-1,602	-932	-1,938	-2,614	-2,060	
自県進学率【2017】	17.3%	32.9%	20.3%	65.3%	15.2%	33.9%	44.9%	24.7%	26.1%	33.6%	54.4%	
18歳人口推計【2040】	6,712	8,981	4,366	39,997	6,371	9,514	13,828	8,020	8,133	12,605	14,974	
大学進学者数推計【2040】	3,330	4,901	2,049	21,390	2,978	3,907	6,743	3,013	3,414	6,010	5,778	16,724
大学進学率推計【2040】	49.6%	54.6%	46.9%	53.5%	46.7%	41.1%	48.8%	37.6%	42.0%	47.7%	38.6%	
大学入学者数推計【2040】	1,549	2,907	1,562	23,092	1,519	3,088	5,149	2,512	1,917	3,268	3,807	
(国公私別)【2040】(※注)	954 67 528	1,432 77 1,399	864 698 0	3,715 1,827 17,549	1,148 0 371	1,329 588 1,171	1,529 462 3,158	896 67 1,548	876 255 786	1,981 0 1,287	1,425 606 1,775	
入学定員充足率推計【2040】	70.9%	80.1%	80.7%	93.6%	87.3%	76.8%	87.2%	71.4%	76.4%	88.3%	97.3%	
(国公私別)【2040】(※注)	77.0% 74.6% 61.7%	80.9% 76.7% 79.5%	80.4% 81.2%	90.4% 92.8% 94.4%	88.9%	82.5% 81.0% 85.3%	69.3% 91.4% 96.3%	84.2% 83.8% 84.2%	65.3% 84.6% 85.0%	66.9% 95.5%	79.2% 92.1% 94.8%	102.9%

(※注)2017年の国公私の割合(実績値)のまま機械的に試算したもの。

高等教育に関する基礎データ(2017年基準+2040年推計)について

《注》

- 本資料では、これまで基準としていた2016年を最新の2017年に更新するとともに、国立教育政策研究所による推計(2015年の大学進学率が一定のまま推移すると仮定した場合の2033年の大学進学者数等の推計)ではなく、過去3年間の都道府県別・男女別の進学率の伸び率等を勘案した大学進学率の新たな推計に基づく2040年の大学進学者数等の推計を示している。

- **18歳人口**:各県における3年前の中学校卒業者及び中等教育学校前期課程修了者
- **高校等卒業者数**:各県における当該年度の高等学校卒業者数及び中等教育学校後期課程修了者数
- **大学進学者数**:各県に所在する高校等を卒業した者で当該年度に全国いずれかの大学に進学した者の数(過年度卒業者等を含む)
- **大学進学率**:各県における18歳人口に占める大学進学者数の割合(過年度卒業者等を含む)
- **大学進学率(国公私別)**:各県における国公私別の「大学進学率」
- **短大進学率**:各県における18歳人口に占める短大進学者数の割合(過年度卒業者等を含む)
- **専門学校進学率(現役)**:各県における高校等卒業者数のうち、直ちに専門学校へ進学した者の割合(現役進学者のみ)
- **大学数**:各県に所在する大学の数(※大学本部の所在地による。大学院大学を含む。)
- **大学数(国公私別)**:各県に所在する国公私別の「大学数」
- **入学定員★**:各県に所在する大学(学部)の入学定員(※入学時の学部の所在地による。学部内の学科が複数の県にまたがる場合は、入学定員数が最も多い県に集計するなど補正している。)
【例:北里大学獣医学部の所在地は青森県十和田市であるが、1年次(入学時)は神奈川県相模原市のキャンパスで学ぶため、獣医学部の定員340名は青森県ではなく、神奈川県にカウントしている。】
- **入学定員(国公私別)★**:各県に所在する国公私別の大学(学部)の「入学定員」
- **大学入学者数★**:当該年度に、各県に所在する大学(※入学時の学部の所在地による。)に入学した者の数(過年度卒業者等を含む)
- **大学入学者数(国公私別)★**:各県に所在する国公私別の「大学入学者数」
- **県外から流入★**:当該大学の所在する県以外の高専等卒業者で当該大学へ入学した者(過年度卒業者等を含む)
- **県内から流出★**:当該大学の所在する県内の高専等卒業者で当該県(自県)以外の大学へ入学した者(過年度卒業者等を含む)
- **流出入差(流入-流出)★**:「県外から流入」-「県内から流出」
- **自県進学率★**:各県における「大学進学者数」のうち、自県に所在する大学に進学した者の数(過年度卒業者数を含む)
- **18歳人口推計【2040】**:国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)(出生中位・死亡中位)」を元に都道府県別18歳人口比率で案分
- **大学進学者数推計【2040】**:2040年の都道府県別18歳人口推計×都道府県別大学進学率推計
- **大学進学率推計【2040】**:過去3年間(2014~2017年度)の都道府県別の大学進学率の伸び率を延長(※男性は進学率の上昇が著しい県は+5ptを上限とし、女性は同県の男性の進学率の同値を上限)して推計。
- **大学入学者数推計【2040】★**:2040年の都道府県別大学進学者数推計を2017年現在の都道府県別大学入学者比率で案分
- **大学入学者数推計(国公私別)【2040】★**:2040年の都道府県別大学進学者数推計を2017年現在の都道府県別・国公私別大学入学者比率で案分
- **入学定員充足率推計【2040】★**:大学入学者数推計【2040】÷入学定員【2017】×100(入学定員が2017年と同じと仮定した場合の2040年の入学定員充足率推計)
- **入学定員充足率推計(国公私別)【2040】★**:各県に所在する国公私別の大学入学定員充足率推計(2040年)

審査意見(3月)(資料)-99

《出典》上記のうち、入学定員以外:文部科学省「学校基本統計(平成29年度)」を元に作成、★印は二次利用により得たデータを元に作成。
入学定員:文部科学省調べ(※「学校基本統計」二次利用により得たデータに合わせ、入学時の学部の所在地に再集計。)

外国人留学生の状況について

1 「留学生 30 万人計画」について

○ 「留学生 30 万人計画」は平成 20 年 1 月 8 日の第 169 回国会における福田内閣総理大臣の施政方針演説において発表された。

平成 25 年 6 月 14 日に閣議決定された「日本再興戦略」及び「第 2 期教育振興基本計画」において、平成 32 (2020) 年までに受け入れる外国人留学生を 30 万人に倍増することが明記された。

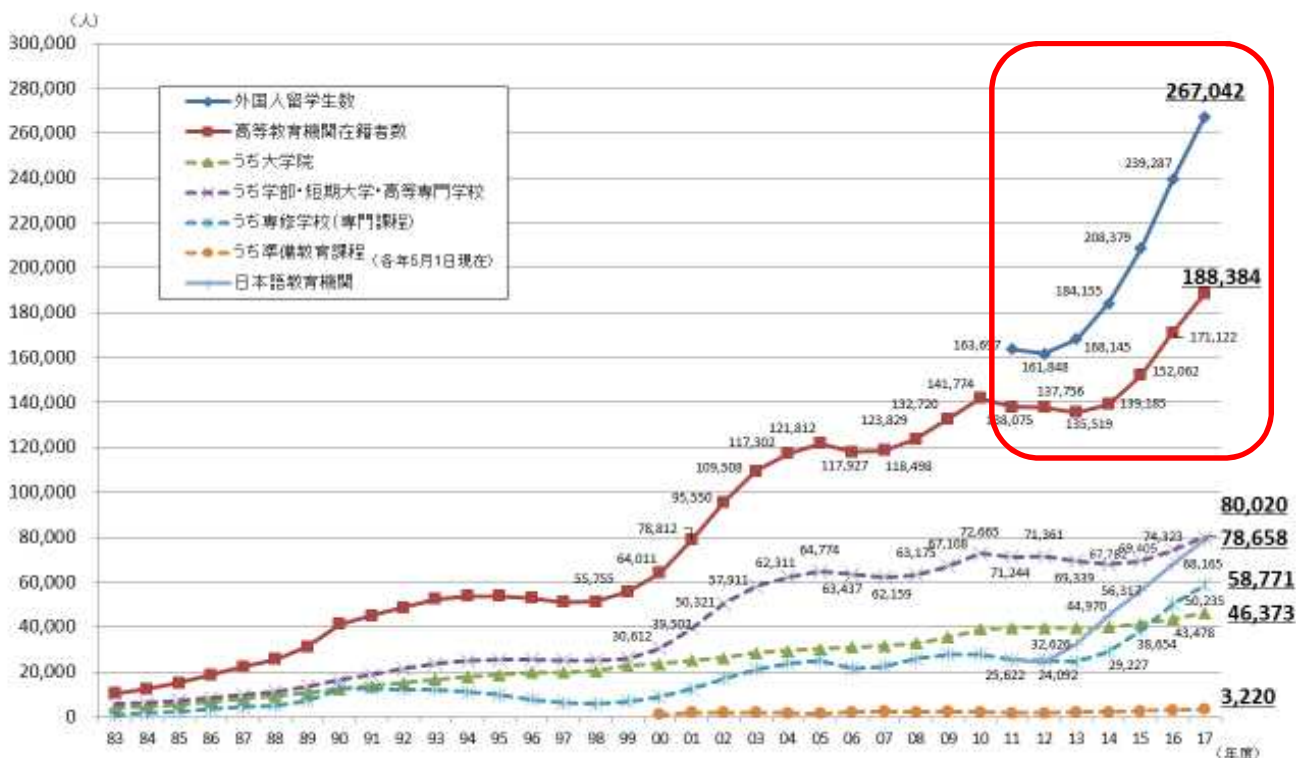
2 外国人留学生について

(1) 現状

平成 25 年度に約 16 万 8 千人であった外国人留学生は、平成 29 年度には 26 万人に達している。そのうち学部の正規生 1 年は 16,445 人である。

日本語教育機関だけでなく、学部生や専修学校（専門課程）でも着実に外国人留学生が増加しているところである。

○学校種別・外国人留学生在籍者数の推移



【出典】(独) 日本学生支援機構「外国人留学生在籍状況調査」

「出入国管理及び難民認定法」別表第 1 に定める「留学」の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)、我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設及び日本語教育機関において教育を受ける外国人学生数(各年 5 月 1 日現在)

出入国管理及び難民認定法の改正(平成 21 年 7 月 15 日公布)により、平成 22 年 7 月 1 日付けで在留資格「留学」「就学」が一本化されたことから、平成 23 年 5 月以降は日本語教育機関に在籍する留学生も含めた留学生数も計上

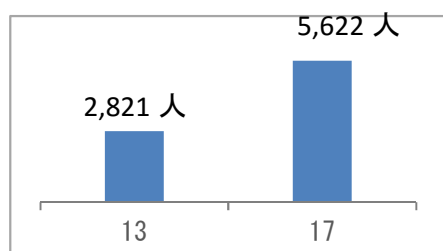
○外国人留学生正規生（1年生、高専のみ4年）（平成25～29年度）（単位：人）

	H25	H26	H27	H28	H29
大学院	14,227	14,445	15,390	16,210	17,578
学部	11,437	11,338	12,040	13,960	16,445
短期大学	560	511	577	664	907
高等専門学校（4年）	113	112	164	162	166
専修学校（専門課程）	12,512	17,514	23,805	28,452	34,069

【出典】(独)日本学生支援機構「留学生調査」の結果による。

留学コーディネーターを配置し、日本留学の魅力に関する情報発信の強化を図っている。

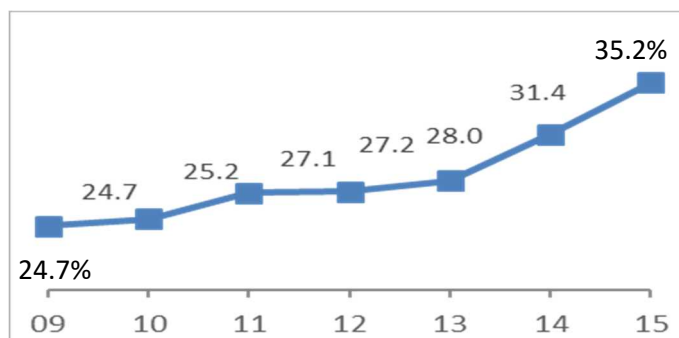
○留学コーディネーター配置国・地域からの外国人留学生数（高等教育機関）



内訳	2013年度	2017年度
インド	560人	964人
ミャンマー	1,193人	2,686人
サブサハラ	793人	1,587人
ブラジル	275人	385人

「留学生就職促進プログラム」による外国人留学生の国内企業への就職促進や奨学金等の支援など、受入環境の充実により、日本留学の魅力向上を図っている。

○外国人留学生の日本国内での就職率



(2) 外国人留学生に係る試算 ※ (独)日本学生支援機構「留学生調査」の結果に基づき試算

<2020年に外国人留学生が30万人となると仮定した場合>

外国人留学生における学部正規生1年生は

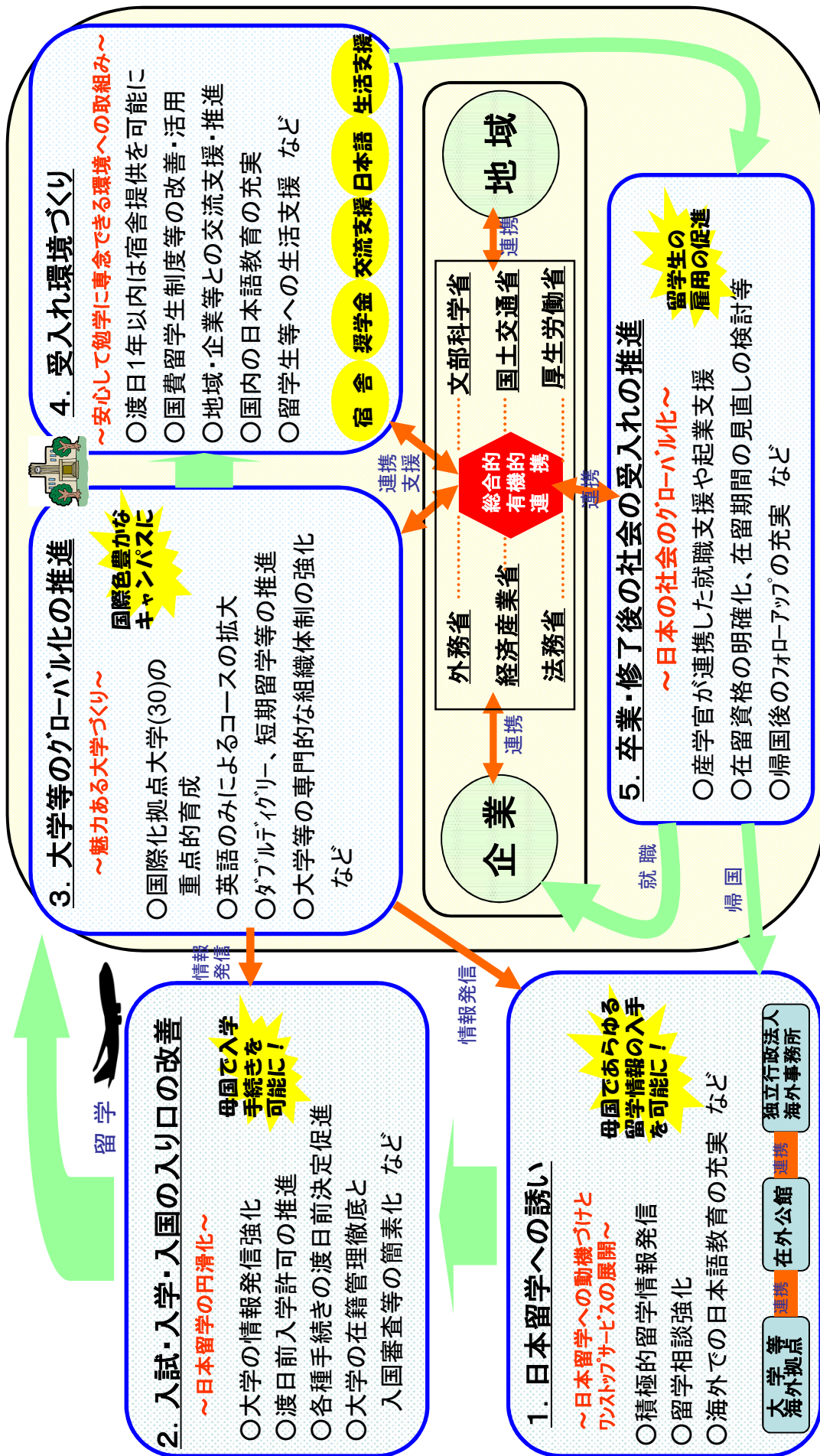
(2017年) 16,445人 → (2020年) 18,475人

【2,030人増加】

「留学生30万人計画」骨子の概要

- ☆ 「グローバル戦略」展開の一環として**2020年**を目途に留学生受入れ**30万人**を目指す。
- ☆ 大学等の教育研究の国際競争力を高め、優れた留学生を戦略的に獲得。
- ☆ 関係省庁・機関等が総合的・有機的に連携して計画を推進

ポイント



社会人受講者・大学入学者の状況について

1 大学・専門学校等の社会人受講者数に係る KPI について

未来投資戦略 2017（平成 29 年 6 月 9 日閣議決定）において、2022 年までに大学・専門学校等の社会人受講者数を約 49 万人から 100 万人にするとの KPI が設定されている。

○「未来投資戦略 2017 II-A-3. 人材の育成・活用力の強化」（抜粋）

＜KPI＞2022 年までに大学・専門学校等の社会人受講者数*を約 49 万人から 100 万人にする。⇒2015 年：約 49 万人

※ 正規課程と短期プログラムの受講者数を合計した値。

正規課程 約 30 万人（61.7%）		短期プログラム 約 19 万人（38.3%）	
短期大学	受講者数 （通学・通信を含む）	短期大学	履修証明制度 科目等履修生制度 聴講生 の受講者数 （通学・通信を含む）
大学		大学	
大学院		大学院	
専修学校	受講者数	専修学校	科目等履修生制度 附帯事業 の受講者数

* 一部推計値を含む。

2 社会人入学者数について

(1) 現状（平成 27～29 年度）

（単位：人）

	H27	H28	H29
短期大学（通学）入学者（25 歳以上）	1,358	1,185	1,166
大学（通学）入学者（25 歳以上）	3,999	3,876	3,888
大学院（通学）入学者（30 歳以上）	15,554	15,878	15,740
専修学校（専門課程）	11,139	10,319	9,760

【出典】学校基本調査

(2) 未来投資戦略 2017 の KPI に係る試算

＜2022 年に社会人受講者数が 100 万人となると仮定した場合＞

大学（通学）における 25 歳以上の入学者数は

(2017 年) 3,888 人 → (2022 年) 8,196 人

【4,308 人増加】

出典 文部科学省「大学への進学者数の将来推計について」資料
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/042/siryo/_icsFiles/afieldfile/2018/03/08/1401754_03.pdf